

昭和44年 (1969)

1. 安部 浩: 温湯浸法によるボタンの芽寄生線虫 *Aphelenchoides lilium* の防除について. 応動昆大会講要 昭44: 12. [講要. No. 69-2 を参照。]
2. 安部 浩・門脇義行: ボタン芽寄生線虫に関する研究 第1報 *Aphelenchoides lilium* の温湯中での致死温度並びに温湯処理がボタンの芽葉伸長に及ぼす影響. 島根病害虫研報 3: 27-30. [46°C50分、48°C20-50分、50°C5-10分等の処理で防除可能。]
3. 阿部定夫: 施設園芸における病害虫防除と微気象制御. 農及園 44(1) 254-258. [土壤消毒(薬剤・蒸気)を含む。]
4. 荒木浩一・北山登喜男・草水 崇・福田幸雄・野口純隆・吉野 実: 甘しょ裂開の実態とその原因推定に関する試験. 鹿児島農試鹿屋支研報 6: 1-13, 2 pls. [線虫が関与。]
5. 嵐 嘉一: 暖地におけるてん菜育種事業の回顧(1). 農業技術 24(8) 382-385. [ネマトーダの被害が大きく、栽培は土壤消毒が前提となる。]
6. 有吉 亮: 作物病害虫の防除機械. 農及園 44(1) 188-194. [土壤消毒機を含む。]
7. Bains, R. C., 宮川経邦・Cameron, J. W.・Small, R. H.: Infectivity of two biotypes of the citrus nematode on citrus and on some other hosts. J. Nematol. 1(2) 150-159. [カルフォルニアと徳島のミカンネセンチュウのミカン類に対する寄生性は異なった。]
8. 千葉陸雄・柿崎泰彦・横山十三男: 桑の根瘤線虫防除と収量推移について. 日蚕東北講要 23: 8. [講要]
9. 近岡一郎・水沢芳名: ダイコンのキタネグサレセンチュウについて 第6報 ネコブセンチュウとの薬剤感受性比較. 関東病虫研報 16: 140. [キタネグサレはネコブセンチュウよりD-D、EDB剤に対し感受性が低い。]
10. 藤本 清: クリに寄生する土壤線虫の種類とワセンチュウの分離方法についての知見. 関西病虫研報 11: 88-89. [講要. 7属を記録. ベルマン法のフィルター、遠沈浮遊法の比重液の検討。]
11. 藤本 清・山口福男・古川紀彦: 遠沈浮遊法による土壤線虫分離についての知見. 兵庫農試研報 17: 45-49. [比重液の種類、比重、回転数、回転時間、土性と検出数を検討。]
12. 福留信明・田中 勇: サツマイモネコブセンチュウの生活環境に及ぼす土壤温度の影響. Delphax 12: 4. [講要]
13. 後藤 昭: 牧野等本邦未耕地の植物寄生性線虫属. 九病虫研会報 15: 180-186. [全国50ヵ所 120地点の調査結果。]
14. 後藤 昭: リュウキュウイシユクセンチュウの分布. 応動昆大会講要 昭44: 8-9. [講要]
15. 後藤和夫: 土壤消毒の多面的効果. 農及園 44(1) 171-175. [土壤消毒の方法の種類、消毒効果、増収と土壤微生物についての研究のまとめ。]
16. 後藤三千代: 庄内地方におけるイネネモグリセンチュウ *Hirschmanneilla imamuri* S.A.Sherの生態学的研究. 山形農林学報 26: 43-49. [上記種と *H. oryzae* の体長の比較、*H. imamuri* の生殖原基の発達過程、根への侵入他。]
17. 浜島直巳: 高冷地そ菜の栽培 [23]. 農及園 44(12) 1905-1908. [D-D剤によるネコブセンチュウ防除を含む。]
18. 橋本平一: 林業苗畑の土壤線虫被害解析(I) とくにカラマツ稚苗について. 日林北海道支講 17: 91-95. [キタネグサレセンチュウ. 季節的消長、根への侵入、苗木の成長。]

19. 林 宏：台木用カボチャ（フシホリア）の特性。農及園 44(12) 1851-1855. [ネマトーダに比較的強い。]
20. 引地直至：桃のセンチュウ類とその防除について。今月の農業 13巻2: 56-59. [ネコブ、キタネグサレ、クルミネグサレ、ニセシストセンチュウの被害、DBCP施用。]
21. 日野隆之：ボタン苗木の芽に寄生するハセンチュウの温湯消毒法。農及園 44(3) 539-541. [*Aphelenchoides fragariae*は25°C30分浸後、48°C30分浸漬。施設の概要。]
22. 菱沼 勇：連作障害対策：植木生産に問題のネマトーダとその被害。農耕と園芸 24巻3: 145-146. [ツツジ、ツゲ、マツ、モミジ、ツバキ等の線虫害とDBCP剤施用。]
23. 一戸 稔：殺線虫剤の薬害。植物防疫 23(10) 415-416. [DBCP剤によるミカン、ブドウの薬害。]
24. 一戸 稔：果樹園のセンチュウ害と防除対策。農及園 44(6) 945-949. [果樹と忌地、センチュウの検診（症状等）、防除対策。]
25. 一戸 稔：土壌センチュウ [11] センチュウの耕種的・物理的防除。今月の農業 13巻1: 89-94. [輪作、有機質肥料施用、圃場衛生、温湯処理、土壌の熱処理、休閑、湛水他。]
26. 一戸 稔：土壌センチュウ [12] センチュウの化学的防除。今月の農業 13巻2: 80-86. [主に燻蒸剤の使用法。]
27. 今泉 寛：温室メロンの周年栽培。農及園 44(12) 1841-1846. [湛水（60日、120日）、蒸気（80、100°C）によるネコブセンチュウ防除を含む。]
28. 稲垣春郎：イチゴの線虫に対する数種浸透性殺虫剤の効果。北日本病虫研報 20: 113. [ハガレ、イチゴ、キタネコブセンチュウにメソミル、DEP、エチルチオメトン、5121粒剤。]
29. 稲垣春郎：ハッカから分離されるピンセンチュウの種名について。応動昆大会講要 昭44: 8. [講要。 *Paratylenchus curvatus* van den Linde, 1938]
30. 稲垣春郎・古山三郎・笠野秀雄：ハッカ品種の耐線虫性。北農 36巻2: 60-63. [ピンセンチュウ抵抗性。]
31. 稲垣春郎・Powell, N. T. : Influence of the root-lision nematode on black shank symptom development in flue-cured tobacco. *Phytopathology* 59(10) 1350-1355. [*Pratylenchus brachyurus* と *Phytophthora parasitica* を同時に、又は時期をずらして接種した場合の病徴の進展を比較。]
32. 稲生 稔・谷 芳明：ゴボウの「ヤケ症状」およびネグサレセンチュウ防除について。関東病虫研報 16: 141. [クロルピクリン、D-D、EDB、NCS剤でキタネコブセンチュウを防除。線虫以外に菌の関与の可能性。]
33. 石橋信義：ヘテロデラ科線虫における蛋白電気泳動パターン of 发育ステージならびに環境条件による変動について。応動昆大会講要 昭44: 11-12. [講要]
34. 石橋信義・清水 啓：ネコブセンチュウの寄生による磷酸の異常代謝。応動昆大会講要 昭44: 11. [講要]
35. 石倉秀次：植物防疫の展開と今後の課題。農業技術 24(8) 354-360. [ミカンネモグリセンチュウに言及。]
36. 伊藤敏一・横地大次郎：殺線虫剤による土壌処理が水稻の生育および収量に及ぼす影響について。三重農試研報 4: 21-26. [D-D、クロルピクリン剤の副次作用。]
37. 伊藤喜隆・大島康臣・一戸 稔：A root-knot nematode, *Meloidogyne mali* n.sp. on apple tree from Japan (Tylenchida: Heteroderidae). *Appl. Ent. Zool.* 4(4) 194-202. [リンゴネコブセンチュウの新種記載。模式産地は長野県上水内郡豊野村。寄主はリンゴ、サクランボ、バラ、ブドウ、クリ、クワ、カエデ、シロクロバー。]

38. 金沢幸三：野菜の耐虫性品種育成の現状。農及園 44(3) 499-503. [トマトの線虫抵抗性を含む。]
39. 金子 武：茶園の害虫防除あの手この手。農業技術研究 23巻5: 84-88. [チャネグサレセンチュウ、チャノネカイガラムシ、モグラの同時防除としての殺線虫剤施用にふれる。]
40. 嘉藤省吾：モモいや地園における殺線虫剤処理効果。富山農試研報 3: 37-40. [D-D、EDB、DBCP剤施用。クルミネグサレ、ネコブ、ピンセンチュウの季節的発生消長も調査。]
41. 河村貞之助・平野和弥・中山敬一・青木正則・菅原軍二：畑水稻の連作とイネシストセンチュウの消長。応動昆大会講要 昭44: 10. [講要]
42. 川島嘉内：イネネモグリセンチュウの生態と防除。農及園 44(6) 987-990. [生態(生活史、発生消長)、被害、防除(D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン)。]
43. 川島嘉内：イネネモグリセンチュウに関する研究 X. 圃場での被害解析調査。応動昆大会講要 昭44: 10. [講要]
44. 川島嘉内：イネシストセンチュウの防除法について。今月の農薬 13巻10: 21-23. [症状、発生条件、防除法(ビニルマルチ栽培、薬剤施用)。]
45. 川島嘉内・酒井 豊：コンニャクに対するネコブセンチュウ類の寄生性と被害。福島農試研報 6: 69-74. [球茎にはジャワネコブセンチュウのみ寄生。被害球を種とすると減収。貯蔵中腐敗しやすい。品種の比較試験(備中種がやや強)。]
46. 菊川誠士・坂井健吉：甘しょにおける線虫抵抗性品種の育成方法に関する研究。九州農試彙報 14(3) 365-397. [ネコブ、ネグサレセンチュウ抵抗性品種の検定法、交配母本の選抜効果、栄養系の選抜効果、育種方法。]
47. 桐谷圭治・松崎征美：ベルマン法による線虫の抽出効率について。高知農林研報 2: 25-30. [サツマイモネコブセンチュウ第2期幼虫を供試。経過時間と游出数(1週間で10%内外)、累積游出数と総個体数の関係。]
48. 北沢右三：志賀山亜寒帯針葉樹林生態系の土壌線虫、ヒメミミズ、双翅目幼虫の調査。In: 亜寒帯および温帯林生態系の生物生産力(志賀山特別研究地域)。(北沢右三編)、昭和43年度研究報告(JIBP-PI)、p. 105-109. [未見]
49. 小林義明：菊の連作障害：ネグサレセンチュウの害と防除。農業技術研究 26巻6: 50-52. [キタネグサレセンチュウ対策。]
50. 小林義明・深沢永光：Aphelenchoides属線虫の寄生による葉組織の形態的变化について。応動昆大会講要 昭44: 10. [講要]
51. 小林義明・杉野多万司：静岡県におけるイネネモグリセンチュウの発生消長について。関東病虫研報 16: 138. [密度・令構成の変化。]
52. 小泊重洋・大場正明：チャのさし木床消毒について。関西病虫研報 11: 70-71. [3種線虫と苗根腐病。ガスバ、グランド乳剤、NCS剤が実用化可能。]
53. 小室康雄・吉野正義・一戸 稔：Tobacco rattle virusのTrichodorus minor による伝搬。日植病報 35(2) 124. [講要]
54. 駒井功一郎：DBCPの作物搾汁液成分特に糖類に及ぼす影響。応動昆中国支報 11: 35-38. [薬害感受性作物の汁液中に還元糖が増加、非還元糖が減少。]
55. 小菅喜久弥：トリカブトのネグサレセンチュウに対する種いもおよび土壌消毒の効果。関東病虫研報 16: 143. [テラクアP粒剤の土壌消毒効果が高い。]
56. 熊倉喜八郎・石川元一：連作落花生に対する土壌くん蒸剤の効果。農業技術 24(3) 127-128. [深耕、増肥、D-D剤施用の効果の比較。]
57. 桑原雅彦・西沢 務：イネネモグリセンチュウの発生消長について。応動昆大会講

- 要 昭44: 10. [講要]
58. 真宮靖治: 各種針葉樹のキタネグサレセンチュウにたいする寄主反応. 日林誌 51 (7) 199-200. [スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ、エゾマツ、トドマツで増殖。]
59. 真宮靖治: 国有林苗畑における植物寄生線虫の分布: 東日本の苗畑について. 林試研報 219: 95-119. [下記の11種を図示・記載。分布・寄主植物・生息密度等を調査。Pratylenchus penetrans, P. vulnus, P. coffeae, Trichodorus cedrus, T. porosus, Tylenchorynchus claytoni, Helicotylenchus dihystra, Rotylenchus pini, Scutellonema brachyurus, Xiphinema americanum。植物防疫 23(4) 174, 1969に抄録。]
60. 真宮靖治: 苗畑における各種殺線虫剤施用効果の一例. 林試研報 220: 121-132, 1 pl. [D-D、EDB、DBCP、TS-10剤の効果。スギのキタネグサレセンチュウとTrichodorus sedarusを対象。]
61. 真宮靖治: キタネグサレセンチュウの寄生を受けたスギ稚苗の根の組織解剖学的観察. 応動昆大会講要 昭44: 10-11. [講要]
62. 真宮靖治・末永 健: スギ苗に寄生するキタネコブセンチュウについて. 森林防疫 18(2) 21-22. [岩手県石鳥谷町。被害状況。]
63. 増田安弘: 蔬菜の生理に及ぼすネマトーダの影響 (第3報) 地温および土壤水分の組合わせと寄生及び被害について. 園芸学会昭46秋研究要旨: 164-165. [講要]
64. 松田 明・下長根 鴻・尾崎克己: キュウリつる割病、トマト萎ちょう病発生とネコブセンチュウ寄生との関係. 日植病報 35(2) 104. [講要]
65. 松田 明・下長根 鴻・尾崎克己: NET (ガスバ) のキュウリつる割病防除効果について (第2報). 関東病虫研報 16: 50-51. [ネコブセンチュウ寄生度と発生率に正の相関。]
66. 松枝 章: 苗畑土壤線虫防除試験. 石川林試業報 6: 126-127. [謄写。スギにD-D剤施用。施肥(N、K)と効果の関係。]
67. 松井弘之: ネコブセンチュウにより形成されたゴールの肥大促進物質ならびに肥大抑制物質. 応動昆大会講要 昭44: 11. [講要]
68. 松実成忠: 連作障害: いわゆる "いや地" 問題について. 農及園 44(2) 309-312. [休耕年限、原因・対策の概説。]
69. 松濤美文・末次哲雄: 侵入を警戒すべき重要病害とその防除. 植物防疫 23(5) 202-206. [線虫媒介の三種のウイルス (Grapevine fan leaf virus, Arabis mosaic virus, Tobacco ring spot virus)を解説。]
70. 峰尾一彦・紺谷修治: 苗木掘取跡地の残留根内のネグサレセンチュウについて. 日林関西支講 19: 84-86. [講要。スギ、ヒノキ。線虫は残留。]
71. 三井 康・岡本好一: キタネコブセンチュウの増殖に及ぼす線虫捕食菌の影響. 応動昆大会講要 昭44: 12. [講要]
72. 宮沢数雄・西宗 昭・小梁川忠士・吉岡真一: 十勝地方における畑地の地力と豆類生産について (その1). 北農 36巻3: 1-9. [沖積土や粒径の細かい土では線虫が寄生していない例あり。]
73. 森田 儔: 花卉に対する農薬の葉害. 植物防疫 23(10) 435-437. [EDB剤 (カーネーション)、DBCP剤 (キク) を含む。]
74. 内藤 篤: 飼料作物の害虫とその防除. 農及園 44(1) 287-290. [ラジノクローバーの線虫害に言及。]
75. 中西 勇・上林 譲・天野 隆: 生育期を主体としたイネシガラセンチュウの防除について. 関西病虫研報 11: 89-90. [講要。種粒消毒、苗代・分蘖期・出穂期の薬剤防除。]

76. 中國和年: *Aphelenchoides* 属線虫の個体数の消長と形態的変異, 応動昆大会講要 昭44: 9. [講要]
77. 中里肇二・只木正之: 水田土壌に対するクロルピクリン剤処理効果、乾土効果との関連, 関東病虫研報 16: 139. [乾土効果と似た状態となる。]
78. 西村正陽・林 真二・千代西尾伊彦・奥田純一郎・佐藤一郎・田辺賢二: Relation of soil toxins to the occurrence of a new black scurf of Chinese yam in the Tottori sand dune field. 日植病報 35(4) 286-293. [ナガイモの表皮の黒変。誘因として殺線虫剤の使用の可能性もあるとする。]
79. 西沢 務: 寄生性を異にするサツマイモネコブセンチュウの系統について, 応動昆大会講要 昭44: 9. [講要]
80. 西沢 務・弥富喜三・伊沢房雄: ミカン畑におけるミカンネセンチュウの被害査定の一例, 関西病虫研報 11: 88. [講要, 線虫寄生区では苗の成長が抑制された。]
81. 落合憲光・井上 巖: ハリガネムシ (*Chordodes* 線形虫類) の幼虫の器官形成について 1. 幼虫の宿主内着生部位と発生との関係, 動雑 78(1) 60. [講要]
82. 岡田利承: ダイズ加害におけるダイズシストセンチュウと根粒菌の関係, 応動昆 13(4) 167-173. [線虫寄生と根粒菌接種、根粒着生と線虫接種、ダイズの生育と線虫・根粒接種。]
83. 岡山 勇・鍵渡徳次・近岡一郎・水沢芳名: ヤマトイモの褐色腐敗病とネコブセンチュウの同時防除について, 関東病虫研報 16: 142. [ドジョウビクリンが有効, ED B剤単独使用では効果劣る。]
84. 大羽克明・西沢 務: 線虫捕食菌に対する殺線虫剤の影響, 応動昆大会講要 昭44: 12. [講要]
85. 大橋雄司・佐藤昌良・村井高伯: 線虫抵抗性黄色種BN2およびHN2の育成, 磐田たばこ試報 2: 1-10. [育成過程及び特性, NC95、PD611 が抵抗性母本。]
86. 大川 清: アカカノコユリの球根養成, 農及園 44(1) 71-76. [D-D剤による連作障害対策 (ネグダが主因) を含む。]
87. 大津貞夫: 土壌線虫防除試験, 茨城林試業報 昭43: 63-67. [謄写。スギのネグサレセンチュウにDSP (5121)、ダイシストン、DBCP、EDB、NCS剤。]
88. 長田 巖・矢野 龍: おどうにおけるDBCP剤の薬害について, 山梨果試報 1: 21-29. [処理1年後に花穂、葉に薬害。台木の種類、品種、施用法により薬害に差。]
89. 尾崎 薫: 北海道畑作中心地帯における輪作、特に前後作組合せ様式に関する研究, 北海道農試場報 74: 1-158. [ダイズシストセンチュウ p. 96-111.]
90. 領家武房: ミカンの土壌線虫検診方法について (1), 中国農業研究 37: 61-62. [採土深度、位置、調査樹数等を検討。]
91. 三枝敏郎: 輸出植物栽培地におけるアレナリアネコブセンチュウとジャワネコブセンチュウの寄主植物, 植防研報 7: 75-78. [前者の寄主植物37科77種、後者は37科67種を記録。]
92. 三枝敏郎: 小笠原諸島における有害線虫発生の現状, 応動昆大会講要 昭44: 8. [講要]
93. 斉藤正隆・赤井 純: 北海道における豆類の保護対策, 農及園 44(2) 325-331. [ダイズシストセンチュウ対策を含む。]
94. 酒瀬川義一・佐々木 壮: 土壌消毒剤の効果範囲, 九病虫研会報 15: 28-30. [菌類について調査。クロルピクリン、アイオピクリン、ガスバ、NCSの比較。]
95. 佐藤昭美・大森秀雄: ダイズシストセンチュウの防除に関する研究, 岩手農試研報 13: 1-47. [線虫の密度消長 (季節的消長、水平・垂直分布、作付体系と密度)、抵抗

- 性品種（線虫の侵入、発育、線虫密度への影響、抵抗性の検定法）、薬剤防除（処理による線虫密度の変化、効果範囲、ネコブセンチュウとの薬剤感受性比較、種類・薬量と効果、寄生持続期間、低温時処理、大豆生育中処理）。]
96. Seinhorst, J. W.・国安克人: *Rotylenchus uniformis* (Thorne) on carrots. *Neth. J. Pl. Path.* 75(3) 205-223. [ニンジンに対するラセンセンチュウの1種の被害水準。17°Cの時土壌5 g当たり30頭、5-10°Cの時2頭以上で被害。他の試験データの検討も含む。]
 97. 四方俊一・湯之上 忠・安藤隆夫・小野敏忠・丸峯正吉・広崎昭太・坂井健吉: 甘しょ育種における外国品種の利用と効果。九州農試年報 昭42: 25-29. [ネコブ、ネグサレ線虫抵抗性遺伝子の集積にふれる。]
 98. 下川利之: 苗畑線虫防除試験 (V)。岡山林試報 9: 176-186. [謄写。スギのキタネグサレセンチュウと *Fusarium* 菌に NCS、DCIP、DBCP、5121 粒剤、同剤+MZ 剤施用。]
 99. 新庄五郎・井上 巖: *Gordius* 属ハリガネムシの幼虫の構造について。動雑 78 (10/11) 426. [講要]
 100. 庄司次男・佐藤邦彦: 春まきスギ苗のネグサレセンチュウの薬剤防除試験。林試東北支場年報 10(昭43) 106-111. [NCS 乳剤、5121 粒剤、ネマナックス粒剤。]
 101. 周藤靖雄: 苗畑線虫防除試験。島根林試研報 20: 105-134. [苗床の土壌消毒 (スギ苗のネグサレ、イシュク、ユミハリ、オオガタハリ、ハリセンチュウ、その他の線虫に EDB、DBCP、5121 粒剤)。苗木の根部薬剤浸漬 (パラチオン、スミチオン、ディブテレックス、バイジット、シメトエート)。]
 102. 末永 健: 土壌線虫の薬剤による防除試験。日林東北支誌 21: 131-133. [スギ苗のネグサレセンチュウに NCS、TS-40、DBCP 剤。]
 103. 杉山信太郎・広間勝巳: 大豆品種のダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究 第4報 抵抗性の遺伝について (3)。育種 19(別1) 141-142. [講要]
 104. 多川 閃・都丸敬一: くん蒸剤による土壌消毒に関する研究 第1報 電子捕獲ガスクロマトグラフィーによる土壌中のくん蒸剤の定量。秦野たばこ試報 65: 77-83. [D-D、EDB、クロルピクリン剤の分析法。]
 105. 多川 閃・都丸敬一: くん蒸剤による土壌消毒に関する研究 第2報 クロルピクリンの残留におよぼす土壌環境要因の影響。秦野たばこ試報 65: 85-91. [残留は土壌水分40%前後を極小値にもつ二次曲線を示す。低温で多く残留、土性との関係も検討。]
 106. 高木一夫: Nematode confronts tea plantation in Japan. *JARQ* 4巻3: 27-29. [チャネグサレ、カナヤサヤワセンチュウの解説、防除法。]
 107. 高木一夫: 土壌線虫の改植期における防除法。技術と普及 6巻2: 53-54. [茶園のEDB、DBCP 剤処理。]
 108. 高木信一: 昭和43年度に試験された害虫防除薬剤。植物防疫 23(2) 52-54. [線虫については以下の薬剤を試験: D-D 乳剤、ランネート粒剤、同水和剤、N-34、アイオピクリン、NCS、IC-101、EDB 粒剤、パダグ水和剤。]
 109. 竹島彊二: 温室バラの連作障害について。滋賀農試研報 12: 61-67. [ネグサレセンチュウが原因。]
 110. 竹下晴彦: 苗畑土壌線虫実態調査: 線虫相に関する要因分析。日林九支講 22: 195-197. [優先種は寒冷地ではネグサレセンチュウ、西南暖地では特になし。施業種によるネグサレセンチュウ検出頻度に差なし。]
 111. 竹内重之: Breeding of the peanut in Japan. *JARQ* 4巻4: 11-14. [キタネコブセンチュウ抵抗性に言及。]

112. 照屋林宏：植物寄生性線虫の防除に関する研究 第2報 そ菜畑におけるサツマイモネコブセンチュウ幼虫の発生と被害の季節的消長。琉球農試研報 5: 23-28. [4毛作畑(キュウリ・ピーマン・サントウサイ・トマト)、2毛作畑(ニガウリ・ニンジン)における発生消長。線虫寄生とキュウリのゴール指数の関係。]
113. 照屋林宏・島仲常吉：石垣島のパインアップル畑における植物寄生性線虫類の分布。琉球農試研報 5: 29-37. [11属15種を記録。島内の分布、密度、検出率。]
114. 手塚 浩：畑作におけるキタネコブセンチュウの秋季薬剤防除。今月の農業 13巻10: 32-35. [加害作物、輪作、薬剤防除(D-D、EDB、DBCP剤)。]
115. 徳重陽山・清原友也：マツ枯死木中に生息する線虫 *Bursaphelenchus* sp. 日林誌 51(7) 193-195. [マツノザイセンチュウに関する正式な第1報。熊本県から記録。]
116. 堤 正明：無寄主状態におけるダイズシストセンチュウ幼虫の生存期間について。北日本病虫研報 20: 110. [2ヵ月程度と推定。]
117. 堤 正明：ダイズシストセンチュウふ化幼虫の寄主におよぼす諸要因。応動昆大会講要 昭44: 9-10. [講要]
118. 津谷武樹：イネシガラセンチュウの新しい防除薬剤。今月の農業 13巻4: 32. [REE(サッセン)、DSP(カヤエース)、低毒性有機燐剤(スミチオン、バイジット、ディプテックス)、カルタップ剤の施用効果。]
119. 宇田川隆敏・西沢 務：キュウリ幼苗に対するキタネグサレセンチュウとキュウリ蔓割病菌による複合病について。応動昆大会講要 昭44: 11. [講要]
120. 上林 譲・今村三郎：イネシガラセンチュウの伝播に関する圃場調査。応動昆大会講要 昭44: 12. [講要]
121. 上田 進・橋田信行・松本益美：種粒消毒によるイネ心枯線虫病の防除について(第3報)。農及園 44(6) 993-994. [カルタップ、MEP乳剤の効果。]
122. 上住 泰・森岡寛治：奈良県下のイネシガラセンチュウの分布と発生条件に関する一考察。関西病虫研報 11: 90-91. [講要。温度と発病の関係を検討。分布との関わりも。]
123. 牛山欽司：温州ミカン園の忌地に関する研究 第2報。神奈川園試研報 17: 27-38. [ミカンネセンチュウと土性の関係を含む。]
124. 鷲尾貞夫：畑作物と土壌線虫：影響と防除について。青森農業 20巻7: 44-47. [ダイズシストセンチュウ、ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウの防除(輪作、抵抗性品種、薬剤施用)。]
125. 鷲尾貞夫・豊川菊裕：リンゴ樹における線虫被害について 4. ネグサレセンチュウ寄生樹根系の症状と収量。北日本病虫研報 20: 112. [寄生指数と収量(生産重量、生産個数)との間に負の相関関係。]
126. 渡辺弘之：大型土壌動物 macro faunaの範囲。Edaphologia 3: 7-9. [線虫を含む土壌動物の大きさによる区分法の解説。]
127. 山田英一：北海道のリンゴ園におけるネグサレセンチュウの種類と苗木の被害。北日本病虫研報 20: 111. [5種類検出。キタネグサレセンチュウ接種株は成長が劣る傾向。]
128. 山本鉄司：畑作水稻の栽培法と問題点。農及園 44(1) 33-36. [線虫害に言及。「連作害は陸稲より大きい」]
129. 山本敏夫：大型トラクタによる殺線虫剤の簡易処理法。関西病虫研報 11: 45-47. [EDB剤を表面散布後ロータリー攪拌。ネコブセンチュウ防除に実用化可能。]
130. 山本敏夫・近藤鶴彦：温室のネコブセンチュウ発生源としての基礎土。関西病虫研報 11: 91. [講要。今後の対策を提唱。]

131. 家城洋之・糸井節美：DBCP剤の白紋羽病防除効果について。日蚕中部講要 25: 13. [講要]
132. 横木清太郎：施設園芸の展望と経営のあり方(5)。農及園 44(11) 1709-1712. [培養土、床土殺菌設備。]
133. 横尾多美男・森光和子：土壤調整剤(HSC)施用の水田線虫相に及ぼす影響について 第II報。佐賀大農彙 28: 95-106. [珪酸を主体としたもの。イネネモグリセンチュウ減少。]
134. 吉田桂輔・吉村大三郎・横山佐太正：イネ心枯線虫病に対するダイアジノン粒剤の苗床施用条件と効果との関係。九病虫研会報 15: 7-10. [「畑苗代、とくに焼もみからの播種前使用、催芽種子では効果が劣る」]
135. 吉田光男：苗畑土壤線虫防除試験。栃木林セ業報 5: 117-122. [スギ、ヒノキ、アカマツのネグサレセンチュウに5121、DCIP剤。]
136. 葭原敏夫：寄主の生育期とダイズシストセンチュウの侵入。応動昆大会講要 昭44: 9. [講要]
137. 葭原敏夫：土壤水分含量とダイズシストセンチュウのシスト内卵、幼虫数の推移。北日本病虫研報 20: 109. [土壤水分60%前後が生存に最適。]
138. 葭原敏夫：球根・苗木類に寄生する線虫の温湯浸漬防除に関する一考察。十勝病虫研会報 3: 3-4. [講要]
139. 吉岡真一・小梁川忠士・沢田泰男：畑地の地力と小豆の生育について(その2)。北農 36巻4: 1-10. [ラシノクローバー跡はネコブセンチュウの被害多。]
140. 湯原 巖：クロタリアおよびマリーゴールドのキタネコブセンチュウに対する影響。北日本病虫研報 20: 108. [土壤中の幼虫密度低下。]
141. 湯原 巖：大規模草地における線虫生息相についての知見。応動昆大会講要 昭44: 8. [講要]
142. Anon. (北海道農試畑作部虫害研究室)：寄主の生育と線虫の侵入寄生。北海道農試年報 昭44: 49-52. [ダイズシストセンチュウ：大豆の生育期における2令幼虫の侵入、侵入時期によるダイズシストセンチュウの繁殖。]
143. Anon. (名古屋植防)：ミカンネモグリセンチュウ愛知県下で防除。植物防疫 23(1) 39. [半田市内の温室のアンズリウム。]

昭和45年 (1970)

1. 安部 浩 : ボタンの芽寄生線虫とその対策, 島根の植物防疫 11(3) 81. [苗の温湯浸漬、成虫はディプテレックス水溶液 (80%) 200-400 倍液散布。]
2. 安部 浩・広沢敬之: 島根県におけるブドウ寄生線虫の種類と分布, 応動昆虫中国支報 12: 14-16. [14種を記録。ネコブセンチュウが最多。]
3. 天野 隆・尾崎典光・岩瀬茂基: Studies on the nematode, *Aphelenchus avenae* Bastian, 1865. I. Injury to sweet potatoes caused by nematodes. Rev. Plant Protect. Res. 3: 137-139. [No. 65-1, 66-3, 4の英文抄訳。]
4. 新井邦夫: 採種ニンジン (短根) の病害虫と防除, 農及園 45(4) 671-675. [ネコブセンチュウの薬剤防除を含む。]
5. 千葉陸雄・横山十三男: 桑のネコブセンチュウに関する試験 第2報 DBCP剤による桑の根癌線虫防除について, 宮城蚕試要報 9: 62-78. [粒剤、乳剤、灌注により2年目から増収、線虫寄生減少。]
6. 千葉 修: マツ類の衰弱に関与する微生物: 松くい虫加害と病原微生物, 森林防疫 19(6) 138-140. [*Bursaphelenchus* 属線虫の発見を含む。]
7. 近岡一郎: イチゴを加害するクルミネグサレセンチュウ (*Pratylenchus vulnus*) の防除に関する研究, 神奈川総農研報 109: 61-77. [県内分布、イチゴのネグサレセンチュウの種類、形態、被害 (根、地上部の症状)、寄主植物、イチゴ畑の発生消長、イチゴ苗の線虫寄生、土壌菌類との関係、薬剤防除 (薬剤感受性、D-D、EDB、DBCP剤の効果)、その他の寄生性線虫 (キタネコブ、ジャワネコブセンチュウ他)。]
8. 近岡一郎: Studies on the root lesion nematode, *Pratylenchus penetrans*, on Japanese daikom, *Raphanus sativus* L. var. *acathiformis* Makino. Rev. Pl. Protect. Res. 3: 135-137. [No. 66-11, 13; 67-7; 68-8, 9; 69-7 の英文抄訳。]
9. 知識敬道: Potato breeding in Japan: Breeding for adaptability to warm region. JARQ 5(2) 10-14. [キタネコブ、ミナミネグサレセンチュウ抵抗性にふれる。]
10. 遠田暢男・野淵 輝: マツ類の穿孔虫に関する研究: 卵巣の成熟と寄生性線虫 (予報), 81回日林講: 274-276. [ゾウムシ、キクイムシ、カミキリのほとんどの種に線虫が寄生。]
11. 藤川 隆・富来 務・佐藤俊次: キュウリ根こぶ線虫病の薬剤防除 (1), 日植病報 36(5) 345-346. [講要]
12. 藤本 清・山口福男・古川紀彦: 遠心分離法による土壌線虫の分離についての知見, 兵庫農試報 17: 45-50. [キタネグサレ、ワセンチュウを供試。分離条件 (比重液の種類、比重、回転数、回転時間、土壌の量)、適する土性の検討。]
13. 深沢永光: イチゴのセンチュウ類と防除, 農薬研究 17巻1: 34-37. [ディプテレックス、メチルホリドール、バイジット散布他。]
14. 深沢永光: 農作物の病害虫防除 [3]: 1. 果菜類の病害虫とその防除, 農及園 45(3) 577-580. [ウリ類のネコブセンチュウ、イチゴのネグサレ、ネコブセンチュウ防除を解説。]
15. 深沢永光: イチゴのメセンチュウ類とその防ぎ方, 今月の農薬 14巻9: 79-81. [症状、被害、寄生部位、伝播のしかた、防除 (耕種的、薬剤: ディプテレックス、ホリドール)。]
16. 福留信明: 異なる土壌条件で育てたタバコ幼苗でのサツマイモネコブセンチュウの発育について, 応動昆虫大会講要 昭44: 47-48. [講要]
17. 福留信明・福田睦男: ネコブセンチュウと他の病害との関係 1. タバコ赤星病と

の関係。日植病報 36(5) 345. [講要]

18. 五味美知男・中里肇二：稲心枯線虫病の防除に関する研究。群馬農試報 10:73-90。
[県内分布、伝染経路（苗代・本田）、施肥量と発病・被害、薬剤防除（有機水銀剤、ホリドール、有機燐剤による種粒浸漬、浸透移行性殺菌病との混用、カヤエースの土壌施用、スミチオン、バイジットの散布）。]
19. 五味美知男・賛田裕行：群馬県におけるコンニャク根腐病とその対策。関東病虫研報 17: 135-138. [病原菌とミナミネグサレセンチュウの相互作用は認めず。]
20. 後藤 昭：牧野等本邦未耕地のネグサレセンチュウ。九病虫研会報 16: 34-37。
[種名未確定の3種の形態を記載。その他の6種の検出地及び植性。]
21. 後藤 昭・佐野善一：九州の山岳地における線虫調査例。応動昆大会講要 昭44: 45. [講要]
22. 後藤三千代：庄内地方におけるイネネモグリセンチュウ *Hirschmanniella imamura* S.A.Sherと *H. oryzae* S.A.Sher の生態学的研究 第2報 両種の令期の区別と卵の発生について。山形農林学会報 27: 22-28. [口針長と生殖器（原基）による発育ステージの区別。温度と卵発生の関係も調査。]
23. 後藤美明・市川友彦：温風暖房機利用による土壌消毒の実際。農及園 45(5) 743-749. [線虫記述なし。キュウリつる割病菌に対する効果。]
24. 浜田喜樹・松岡英子・林 真守：化学療法剤の研究（第5報）アゾおよびジフェニールエーテル類などの殺線虫作用について。薬誌 90(5) 644-646. [NCS化合物の殺虫力等を検討。]
25. 原沢興子：志賀山亜高山帯針葉樹林生態系の土壌線虫調査報告。In: 亜寒帯および温帯林生態系の生物生産力（志賀山特別研究地域）。昭和44年度研究報告(JIBP-PT): 158-161. [未見]
26. 橋本平一：北海道における国有林苗畑の線虫実態調査。北方林業 22(2) 53-56。
[6種を記録。キタネグサレセンチュウの検出密度、樹種と線虫。]
27. 橋本平一：トドマツ稚苗床のキタネグサレセンチュウ密度の季節的消長。北方林業 22(6) 182-186. [根の伸長期に線虫増殖。苗令によって線虫密度変化が違ふ。]
28. 橋本平一：北海道におけるカラマツ稚苗床の根腐型立枯病（線虫複合病害）の被害例。北方林業 22(8) 241-245. [キタネグサレセンチュウの関与の可能性大。]
29. 平野和弥：イネシストセンチュウのふ化ならびに幼虫游出に關する要因。応動昆大会講要 昭45: 46. [講要]
30. 平田明由：桑園の土壌線虫相とくにドリライムス目について。日蚕講要 40: 19. [講要]
31. 平田明由：桑園における植物寄生線虫とその発消長。日蚕関東講要 21:13. [講要]
32. 久永 勝・牧野秋雄・大沢高志：イネ目黒米の発生生態。関東病虫研報 17: 121。
[静岡県内の分布、病徴、発生経過、被害、被害残渣による伝染。]
33. 細田隆治：マツノマダラカミキリより分離したマツノザイセンチュウ幼虫のマツ苗への接種試験。日林関西支講 22: 135-137. [講要。全供試木が枯損。]
34. 一戸 稔：稲作転換をめぐる農業技術上の諸問題（2）土壌線虫の立場から。農業技術 25(4)151-156. [畑地の連作障害（ビート、大豆、陸稲、野菜）、主要産地形成を阻むもの、休耕年数とハウス栽培、湛水（水田化）による土壌対策、「輪作」の原理。]
35. 一戸 稔：連作障害と線虫：総合的な土壌対策の必要性。化学と生物 8(12) 737-738. [研究史と今後の問題等。]
36. 五十嵐清治・佐々木正三：土壌線虫の実態調査と防除に関する試験。秋田林試報 23: 62-66. [謄写。スギのネグサレ、イシユクセンチュウの検出。5121粒剤、NCSの

施用と苗の生育。]

37. 飯田文彌・椎津和夫：D-Dの処理期間がまき付苗の発芽と成長に及ぼす影響について、*業研報*（東京営林局）2：94-100。[スギ、ヒノキにガス抜きなしでも無被害。]
38. 池田 豊・荒武義信：DBCP剤が土壤線虫の発生活長および桑の発育に及ぼす影響、*九州蚕糸* 1：34。[粉剤・粒剤で同等効果。]
39. 稲垣春郎：いちごのセンチュウ類と浸透性線虫剤による防除、*今月の農薬* 14巻6：29-31。[症状、被害、防除（ディブテレックス、エチルチオメトン）。]
40. 稲垣春郎：はっかのピンセンチュウとその防除、*今月の農薬* 14巻9：86-88。[生態、被害、黒腐病との関係、防除（DBCP、EDB、クロルピクリン、PCNB剤）。]
41. 井上 巖：*Gordius* 属ハリガネムシ（線形虫類）の1種について、*動雑* 79(11/12) 391。[講要]
42. 井上 徹・菅原信夫：マリーゴールドの混植によるネグサレセンチュウ防除試験Ⅰ、スギ苗畑における混植の効果、*応動昆大会講要* 昭45：48-49。[講要]
43. 石橋信義：Variations of the electrophoretic protein patterns of Heteroderidae (Nematoda: Tylenchida) depending on the developmental stages of the nematode and on the growing conditions of the host plants. *Appl. Ent. Zool.* 5(1) 23-32。[6種線虫（ダイズシスト、イネシスト、キタネコブ、サツマイモネコブ、リンゴネコブ、*Hypsoperine* sp.）の水溶性蛋白の電気泳動パターンの比較。同一種でも寄主植物、発育ステージにより大きく変化。]
44. 石橋信義：肥培管理がサツマイモネコブセンチュウの発生活長ならびに殺線虫剤の防除効果におよぼす影響、*応動昆* 14(3) 127-133。[無施肥、堆肥、化成肥料施用時の線虫の発生活長。EDB剤処理時期と施肥との関係他。]
45. 石橋信義・清水 啓：Gall formation by root-knot nematode, *Meloidogyne incognita* (Kofoid et White, 1919) Chitwood, 1949, in the grafted tomato plants, and accumulation of phosphates on the gall tissues. *Appl. Ent. Zool.* 5(2) 105-111。[ゴール形成と磷酸代謝の関係をトマト（線虫抵抗性及び感受性品種）で検討。ゴールに磷酸の集積。]
46. 石橋信義・清水 啓：肥培管理がネコブセンチュウの発生活長、殺線虫剤の防除効果等におよぼす影響、*応動昆大会講要* 昭45：49-50。[講要]
47. 石原正義：桃の連作障害園の実態調査から、*今月の農薬* 14巻10：52-54。[アンケート調査。線虫害を含む。]
48. 石川元一・長島 稔・水谷義清：キクのネグサレセンチュウ防除、*関東病虫研報* 17：120。[キタネグサレセンチュウ。NCS、クロルピクリン、EDB、ソイルメート、テラクアーP粒剤を施用。]
49. 伊戸泰博：堆肥肥上に発生する中気門ダニ類の線虫捕食性と繁殖、*応動昆大会講要* 昭45：27-28。[講要]
50. 伊藤一雄：特別研究「まつくいむしによるマツ類の枯損防止に関する研究」（中間報告 概要）、*森林防疫* 19(6) 135-136。[林試九州支場における線虫の一種の検出に言及。]
51. 伊藤武夫・泉水義明・峰尾一彦：数種の農薬による土壤消毒試験（上）、*みやま* 173：68-71。[スギ、ヒノキにクロルピクリン、D-D、EDB剤施用効果。]
52. 伊藤武夫・泉水義明・峰尾一彦：数種の農薬による土壤消毒試験（中）、*みやま* 174：85-96。[処理による分離線虫数の変化。]
53. 伊藤武夫・泉水義明・峰尾一彦：数種の農薬による土壤消毒試験（下）、*みやま* 175：87-96。[苗木の生育。]

54. 伊藤喜隆：果樹のネコブセンチュウの検診と防除，農業技術 25(3) 108-113. [種類、被害、検診方法、移動伝播、抵抗性台木、発生回数、防除方法。昭和44年度農業技術功労賞受賞記。]
55. 岩橋哲彦・後藤重喜：早掘り甘藷に対するDBCP剤の施用時期について，九州農業研究 32: 104-105. [早春季施用で「つるぼけ現象」発生。]
56. 岩木満朗：スイセンから分離されるウイルス，植物防疫 24(9) 378-382. [Tri-chodorus属線虫によって伝播されるTobacco rattle virusの解説を含む。]
57. 岩木満朗・小室康雄：スイセンから分離されたTomato ringspot virus とそのXiphinema americanumによる伝播について，日植病報 36(5) 371. [講要]
58. 弥富喜三・西沢 務：Growth response of rice to soil fumigation. In: Root Diseases and Soil-Born Pathogens (Toussoun, T.A., et al., eds.). Univ. Calif. Press, Berkeley, p. 226-228. [Hirschmanniella oryzae, H. imamuraiに対するD-E、EDB、DBCP剤の防除効果と稲の生育。]
59. 柿崎泰彦・千葉陸雄・横山十三男・小野 昭：桑のネコブセンチュウに関する試験（第3報）タギテス・ミヌタによる桑の根癌線虫防除について，宮城蚕試要報 9: 79-88. [根癌数へは影響なし、桑は増収。]
60. 金指信夫・河森 武：そ業栽培における土壌蒸気消毒法とその効果，農及園 45(3) 517-524. [線虫記述なし。消毒機械、方法、効果（収量・品質）、土壌の物理性・化学性の変化。]
61. 川畑克己・古城元夫：松くい虫被害の伝播について，日林九支論 25: 198-200. [鹿児島県内。]
62. 川田惣平：茨城県におけるダイズおよびナンキンマメの線虫防除の一方法，植物防疫 24(2) 55-58. [二作物のEDB剤生育中処理の効果。処理時期によっては無葉害。]
63. 気賀沢和男：牧草あと地における小豆のネコブセンチュウの寄生，北日本病虫研報 21: 50. [線虫被害は、意外に大きい。]
64. 気賀沢和男：耐虫性品種による虫害防除：ダイズシストセンチュウの耐虫性を中心に：研究の現状と利用，北農 37巻7: 36-44. [育種、耐虫性の要因、利用、問題点。]
65. 北沢右三：志賀山亜寒帯針葉林帯生態系のBaermann法による土壌動物の調査（1969年度報告），In: 亜寒帯および温帯林生態系の生物生産力（志賀山特別研究地域）（北沢右三編），昭和44年度研究報告（JIBP-PT），p. 148-150. [未見]
66. 清原友也：九州の国有林苗畑における植物寄生線虫の分布，林試研報 232: 1-12, 2 pls. [線虫の種類と樹種、生息密度、季節的消長、被害。]
67. 清原友也：マツ材線虫の侵入と繁殖，81回日林講：255-256. [マツ丸太中で増殖。]
68. 清原友也：クロマツ生立木に対するマツ材線虫の接種，日林九支論 24: 243-244. [線虫が強い病原性を示した。]
69. 清原友也：マツ材線虫の侵入と繁殖，林試九州支年報 12（昭44）：8-10. [マツ異常木からBursaphelenchus sp. を分離。まつくいむしの体表面からごく小數発見。]
70. 小林富士雄・細田隆治・奥田素男・竹谷昭彦：各種穿孔虫からのマツ材線虫の分離，日林関西支講 22: 137-139. [マツノマダラカミキリに最も多い。]
71. 小林 裕・山本敏夫：大型トラクターによる殺線虫剤の省力施用法：技術開発の動機とその成果の紹介，E. D. B. 普及会、東京、8 pp., 1 pl. [No. 69-129を参照。]
72. 小林義明：イネネモグリセンチュウに寄生する胞子虫類について，応動昆大会講要 昭45: 47. [講要]
73. 小島 暁：温湯処理による桑苗木の病害虫防除について，日蚕関東講要 21: 8. [講要。ネコブセンチュウを含む。]

74. 小室康雄：土壤伝染性ウイルスの検診法。植物防疫 24(8) 336-339. [線虫媒介ウイルスを含む。]
75. 小室康雄・吉野正義・一戸 稔：アスターの黄色輪紋症状株のタバコ・ラットル・ウイルスの分離とその *Trichodorus minor* Colbran による伝搬。日植病報 36(1)17-26. [ウイルスの同定（アスターにおける病徴と病株の発生状況、他植物への病原性、ウイルス粒子の形態・耐熱性）、伝搬試験（アブラムシ、種子伝染、土壌伝染、線虫の検出）、TRV-AとTRV-HSNの病原性の差異、TRVの *I. minor* による伝搬試験、TRVの指標植物。]
76. 昆野昭晨：Soybean cultivation in Japan. JARQ 5巻2: 21-27. [ダイズシストセンチュウ防除にふれる。]
77. 小菅喜久弥：切花用のトリカブトのネグサレセンチュウと防除。今月の農薬 14巻10: 36-38. [テラクアP、スミチオン、オイルシン、サッセン、ネマモール、温湯カヤエースによる種いも消毒、NCS、クロロピクリンによる土壌消毒。]
78. 小谷 晃：わが国におけるイチゴの育種の現状と今後の問題点 [2]。農及園 45(9) 1343-1347. [ネコブ、ネグサレ、クキ、メセンチュウ耐虫性素材未発見。]
79. 久保田 勝：畑水稻の連作障害に関する研究 第1報 連作障害の実態とその原因。新潟農試研報 20: 41-50. [原因は線虫ではないと結論。]
80. 工藤 馨：茶園における *Pratylenchus loosi* の季節的消長と降雨量の関係について。応動昆大会講要 昭45: 49. [講要]
81. 熊沢喜八郎・石川元一：連作落花生に対する輪作とマルチ栽培の効果。農業技術 25(9) 431-432. [連作2年が限度、D-D剤施用時は3年。EDB剤施用とポリマルチ栽培で増殖。]
82. 桑原雅彦・弥富喜三：イネネモグリセンチュウの生態、とくに生活史と発生消長について。応動昆 14(3) 117-121. [*H. imamuri* と *H. oryzae* の比較。前者は年1世代、後者は2世代を経過。]
83. 桑原雅彦・弥富喜三：イネネモグリセンチュウの産卵、ふ化に及ぼす温度の影響について。応動昆大会講要 昭45: 46-47. [講要]
84. 牧野秋雄：農作物の病害虫防除 [5] : 2. イネの病害虫とその防除。農及園 45(6) 1021-1024. [イネシンガレセンチュウ防除を解説。]
85. 真宮靖治：キタネグサレセンチュウ (*Pratylenchus penetrans*) のスギ苗にたいする寄生性および加害性。日林誌 52(2) 41-50. [線虫の消長（根、土壌）、寄生部位、苗木の生育。]
86. 真宮靖治：スギの根組織内におけるキタネグサレセンチュウの生活史。応動昆大会講要 昭45: 48. [講要]
87. 真宮靖治：林業苗畑における殺線虫剤の効果。今月の農薬 14巻3: 25-27. [スギのキタネグサレセンチュウ。D-D、EDB、DBCP剤による防除。]
88. 真宮靖治：苗木に寄生するネグサレセンチュウの生態。林業と薬剤 34: 1-5. [スギ苗のキタネグサレセンチュウの種類、生態、被害。]
89. 松田 明・下長根 鴻・尾崎克己：作物の連輪作とフザリウム病発生との関係：各種作物跡地におけるキュウリつる割病とトマト萎ちょう病の発生。日植病報 36(3) 163-164. [講要]
90. 松井弘之：ネコブセンチュウによるホーセンカ茎のゴール肥大に伴う糖および有機酸の変化。応動昆大会講要 昭45: 49. [講要]
91. 水沢芳名：ヤマイモの褐色腐敗病とネコブセンチュウの同時防除。今月の農薬 14巻10: 64-66. [クロロピクリンとEDBまたはD-Dの混合剤使用例。]

92. 百田洋二・大島康臣：水田から検出されるワセンチュウについて，応動昆大会講要 昭45：45. [講要]
93. 森 喜作：蒸気土壌消毒機実用化の経過と使用方針，農業技術研究 24巻4：68-71. [線虫記述なし.]
94. 森本勇馬：土壌線虫防除に関する研究（I）各種殺線虫剤の効力比較ならびに対抗植物の輪作が線虫におよぼす影響，日林中部支講 19：83-87. [スギ、ヒノキのキタネグサレセンチュウにEDB、DBCP、NCS、DCIP、5121粒剤、マリーゴールド作付の影響.]
95. 森本勇馬：岐阜県下における林業苗畑土壌線虫実態調査，岐阜林試報 12：1-20. [スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ、シラベ、トウヒ他の検出線虫の地理的分布、密度、樹種、土性、経歴年数、経営規模、前作とネグサレセンチュウ密度.]
96. 森田 儔：農作物の病害虫 [10]：4. 花の病害虫防除（2），農及園 45(12) 1895-1898. [スイセン球根のクキセンチュウ防除のための温湯浸漬法を含む.]
97. 中込輝雄：フキのネグサレセンチュウの生態と防除，今月の農薬 14巻8：31-33. [被害、生態、防除（DBCP、UC-21149粒剤）.]
98. 中込輝雄・尾崎典光：愛知県知多地方のフキ畑におけるキタネグサレセンチュウ *Pratylenchus penetrans* (Cobb, 1917) Chitwood & Otiefa, 1952 の季節的消長と根への寄生状況，愛知農総試報（B） 2：50-54. [10月下旬から11月上旬にピーク。病斑太根、細根、褐変太根、白色太根の順に分離虫数が多い.]
99. 中込輝雄・尾崎典光・都築 仁・西沢 務：フキのネグサレセンチュウの発生消長と防除，応動昆大会講要 昭45：49. [講要]
100. 中村好男・藤川徳子・山内克典・田村弘忠：北海道の天然林と人工林における土壌動物相，日林誌 52(3) 80-88. [天然林、トドマツ人工林、ドイツトウヒ人工林の比較。落葉層と土壌層の線虫相、線虫数を含む.]
101. 西沢 務・百田洋二：イネネモグリセンチュウ2種の生態について，応動昆大会講要 昭45：46. [講要]
102. 西沢 務・大島康臣：連作障害に関連する2、3の線虫問題，関東病虫研報 17：118. [陸稻、カンショ、ラッカセイ、サトイモ連作区の各種線虫の分離虫数他.]
103. 野尻悦司：粒剤による白紋羽病発病跡地の消毒効果について，日蚕関西講要 36：33. [講要。DBCP剤を含む.]
104. 小笠原隆一：苗畑の病害虫防除についての研究，青森林試報 昭44：60-61. [アカマツ、スギからの検出線虫.]
105. 小河誠司・蓮尾久光：マツの材線虫に関する試験（I）県内分布と接種試験，日林九支論 25：161-164. [福岡県.]
106. 岡田利承：ダイズシストセンチュウのふ化条件の季節的な差，応動昆大会講要 昭45：47. [講要]
107. 岡田利承：ダイズシストセンチュウのふ化におよぼす温度の影響，農薬検報 10：73-75. [25>20>15>30>35°Cの順に多く孵化。5°Cでは孵化せず.]
108. 岡本康博・藤井新太郎：イチゴ萎黄病の症状とその対策，農業技術 25(10) 464-467. [クロルピクリンの効果がD-D、EDB剤にまさった.]
109. 岡本康博・藤井新太郎・加藤喜重郎・芳岡昭夫：イチゴの新病害「萎黄病」，植物防疫 24(6) 231-235. [*Fusarium oxysporum*が病原。D-D、DBCP剤の発芽抑制を認める.]
110. 大部和夫：土壌くん蒸剤（D-D）のタバコ立枯病に対する防除効果について，日植病報 36(3) 196. [講要]

111. 大島康臣・西沢 務：日本産イネシストセンチュウの種名の検討。応動昆大会講要 昭45: 45-46. [講要]
112. 大谷広之・日岡登治：イネネモグリセンチュウの生態と被害について。滋賀農試研報 13: 79. [講要。発消生長、被害解析（ポット試験）。]
113. 長田 巖：モモの病虫防除法。農及園 45(4) 651-655. [忌地対策を含む。DBCP剤処理で7年間増収。]
114. ラッセル、E. J. (高井康雄・西尾道徳訳)：土壌の世界。講談社、東京、8 + 286 pp. [E.J.Russell (1957) The World of the Soilの訳。線虫 p.116-126。]
115. 三枝敏郎：小笠原諸島における植物寄生性線虫の調査。植防研報 8: 65-66. [未同定を含め36種を記録。]
116. 三枝敏郎・山本洋祐：Additional hosts of four species of root-knot nematode (*Meloidogyne*) in Japan. 植防研報 8: 63-64. [アレナリア、キタ、サツマイモ、ジャワネコブセンチュウの寄主として、それぞれ7, 3, 20, 3 種を追加。]
117. 三枝敏郎・山本洋祐：*Xiphinema insigne* Loosの分類と生態についての1、2の知見。応動昆大会講要 昭45: 45. [講要]
118. 三枝敏郎・葭原敏夫：スイセン球根のクキセンチュウ *Ditylenchus dipsaci* (Kuhn) Filipjev に対する温湯防除の試み。植防研報 8: 21-29. [第4期幼虫を供試。47°C70分間浸漬が効果。]
119. 坂本 敏：Utilization of related species on breeding of sweet potato in Japan. JARQ 5巻4: 1-4. [*Ipomoea trifida* を用いたネグサレ、ネコブセンチュウ抵抗性育種に言及。]
120. 作山 健：キタネコブセンチュウのスギ苗にたいする寄生性。81回日林講：253-254. [主根の先端部のみに寄生。産卵は認めず。]
121. 佐々木 壮・田中 勇：ネコブセンチュウとタバコ疫病菌とによる混合感染の影響 1. ネコブセンチュウが疫病菌の発病におよぼす影響。鹿児島たばこ試報 16:37-43. [線虫接種後14日の菌接種で著しい発病。線虫寄生により疫病抵抗性消失。]
122. 佐々木 壮・田中 勇：ネコブセンチュウとタバコ疫病菌とによる混合感染の影響 2. ネコブセンチュウ感染根に対する疫病菌の反応。鹿児島たばこ試報 16:45-55. [遊走子の根への誘引、組織汁液中における疫病菌の成長。]
123. 佐藤昭美：ミキサ法（仮称）による根部寄生線虫類の定量。北日本病虫研報 21: 78. [講要。イネネモグリセンチュウ、大豆のネコブ、ネグサレセンチュウ。]
124. 佐藤仁彦・諏訪内正名：EDBの拡散に関する基礎的観察。応動昆大会講要 昭45: 33. [講要]
125. 佐藤テイ・湖山利篤・腰原達雄：イネネモグリセンチュウの寄生と水稻の栽培条件との関係。東北農試研報 39: 207-219. [田植時期と *H. oryzae* と *H. imamura* の発消生長、栽培密度、品種間差を検討。]
126. 清家義明：愛媛県における野菜類の栽培と線虫。植物防疫 24(7) 279-282. [15属22種を記録。結球ハクサイと線虫防除（D-D、EDB、DBCP剤）、ゴボウの紫紋羽病と殺線虫剤処理、作物の生育との関係。]
127. 清水 啓：イネシストセンチュウ寄生水稻における光合成産物の動態。応動昆大会講要 昭45: 46. [講要]
128. 下川利之：林業苗畑根腐病の防除試験（I）。岡山林試報 10: 194-206. [線虫生息密度による被害解析（スギのキタネグサレセンチュウ）、線虫と土壌病原菌との複合被害解析。]
129. 下川利之・井上悦甫：林業苗畑の土壌線虫防除に関する研究 II. 殺線虫剤の消

- 毒効果。岡山林試研報 2: 1-24. [キタ、ミナミネグサレセンチュウ。苗床の5121粒剤、D-D、EDB、DBCP剤処理。]
130. 塩原右治: 苗畑線虫防除試験。群馬林試報 8/9: 105-116. [NCS、5121、DBCP剤、堆肥のスギ苗に対する線虫防除効果。]
131. 末永 健: 土壤線虫の薬剤による防除試験。岩手林試成果報 1: 51-59. [スギのネグサレ、ユミハリセンチュウにD-D、EDB、DBCP、DCIP、ドジョウビクリン。]
132. 末永 健: 殺線虫剤処理したスギ苗の秋伸び防止試験。岩手林試成果報 1: 60-62. [根切り、窒素欠除、ニップ(除草剤)散布の効果。]
133. 菅原祐幸: トマト耐虫性品種の育成とその利用。植物防疫 24(4) 135-140. [萎凋病・ネコブセンチュウ複合病抵抗性系統の育成を含む。]
134. 諏訪内正名・石橋定己: くん蒸剤(メチルプロマイド・ホストキシン・クロルピクリン)の塩化ビニール膜に対する透過性。農業生産技術 22(補) 52-53. [講要]
135. 多川 閃: 土壌内におけるクロルピクリンの分解。日植病報 36(5) 339. [講要]
136. 高木一夫: 二層遠沈浮游法による土壤線虫の分離。応動昆 14(2) 108-110. [分離操作、同法と遠沈浮游法のカナヤサヤワセンチュウ成虫、幼虫、卵の分離結果の比較。超音波による攪拌効果。ふるい分け法のパイプレーター使用による改良例。]
137. 高倉重義: イネネモグリセンチュウに関する研究 第2報 イネネモグリセンチュウ寄生の品種間差異。北日本病虫研報 21: 49. [2種の本属線虫の侵入虫数等を18品種で比較。]
138. 高倉重義・山本忠志: イネネモグリセンチュウに関する研究 第2報 北海道における発生消長。北日本病虫研報 21: 27-31. [*H. imamura*, *H. oryzae* は単独に生息する場合が多い。両種の季節的消長、令構成を比較。]
139. 竹下晴彦: 林業苗畑における土壤線虫に関する研究(2) 苗畑線虫防除試験(ヒノキ播種床における殺線虫剤施用効果)。佐賀林試研報 70: 1-43. [D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン剤を施用。ネグサレ、イシユク、ラセン、ユミハリ、ネコブ、オオハリセンチュウ、捕食性線虫、自由生活種に対する殺線虫効果およびヒノキ苗木の生育。薬害も調査。]
140. 竹下晴彦: 薬剤の線虫相に及ぼす影響について: 2、3の事例。日林九支研論 23: 228-229. [ヒノキにクロルピクリン、EDB、DBCP剤。ネグサレ、ネコブセンチュウで密度回復過程に違い。]
141. 竹沢淳二: 桑苗圃の連作障害。蚕糸科学と技術 9巻11: 68-70. [DBCP、D-D剤による線虫防除を含む。]
142. 滝沢幸雄: シミルトンによるマツ稚苗の薬害について。森林防疫 19(4) 94-98. [立枯病防除薬剤。D-D剤等と比較。]
143. 田中 勇: 九州地方におけるサツマイモネコブセンチュウ *Meloidogyne incognita* Chitwoodの越冬形態調査。鹿児島たばこ試報 16: 17-25. [9地点で調査。全发育段階が検出された。]
144. 田中 勇・福留信明: サツマイモネコブセンチュウ *Meloidogyne incognita* Chitwoodおよび他の土壤線虫の消長に及ぼす土壌消毒の影響。鹿児島たばこ試報 16: 27-35. [クロルピクリン、EDB剤処理後の線虫密度の回復。被覆の有無と効果。]
145. 田中 勇・福留信明・木原宮子: 寄主植物の存在しない状態におけるサツマイモネコブセンチュウ (*Meloidogyne incognita*) の寄生性の存続。鹿児島たばこ試報 16: 1-15. [水、砂、土壌中の幼虫を保存。幼虫の内部形態の変化・温度と寄生性の関係。]
146. 田上義也・竹内昭士郎: コンニャク根腐病に関する連絡試験の経過の概要。関東

- 病虫研報 17: 149-151. [殺線虫剤施用の効果を含む。植物防疫 24(9) 369-372, 1970 も参照。]
147. 徳重陽山: 九州地方におけるマツの衰弱と根系との関係について。森林防疫 19(6) 146-149. [*Bursaphelenchus* 属線虫の発見を含む。健全なマツを直接衰弱されるような病原微生物は見つかっていないとする。]
148. 豊田久蔵: 種子粉衣による病害虫防除に関する研究 第2報 種子粉衣の数種病害虫防除効果。福岡農試研報 8: 1-8. [MIPC、PHC、MEP、カルタップ剤によるイネシנגアレセンチュウ防除を含む。]
149. 豊田久蔵・吉村清一郎: 水稻病害虫の省力防除とその問題点。九州農業研究 32: 25-28. [タイアシノン粒剤による苗代の心枯線虫病・キリウシガガンボの同時防除を含む。]
150. 堤 正明: インゲン根磨砕汁の土壌施用がダイズシストセンチュウの密度におよぼす影響。応動昆大会講要 昭45: 48. [講要]
151. 宇田川 晃・都丸敬一: タバコ茎えそ病について。葉たばこ研究 55: 25-29. [*Trichodorus minor* カウウイルスを伝搬。]
152. 上林 譲: イネシングアレセンチュウと黒変米。今月の農薬 14巻8: 64-66. [症状と対策、発生要因、線虫の害、防止対策(種籾消毒)。]
153. 上林 譲・天野 隆・中西 勇: 黒変米(仮称)に関する研究 II. イネシングアレセンチュウとの関係。応動昆大会講要 昭45: 47. [講要]
154. 牛山欽司: ミカンネセンチュウのカンキツ実生苗での発育。応動昆 14(2) 95-100. [夏橙>ユズ>カラタチの順に寄生数が多い。増殖適温は 20-30°C、1世代は20-26°Cで5~6週間。]
155. 牛山欽司・大垣智昭: 温州ミカン園の忌地に関する研究(第3報): 1. ミカンネセンチュウおよびチャネグサレセンチュウがミカン樹に及ぼす影響。2. 休閒草生および殺線虫剤処理による忌地打破効果。神奈川園試研報 18: 46-56. [ミカン園内の線虫調査、カラタチでの接種試験・三要素施肥の影響。ミカン樹におよぼす影響(収量・糖度)。ルーピン、プロムグラス、チモシー、ケンタキー31、フェスク輪作でカラタチ、ミカンの生育良好。D-D、EDB、DBCP剤処理。]
156. 鷲尾貞夫: 秋やさいの病害虫の防ぎ方。青森農業 21巻9: 31-32. イチゴメセンチュウ、ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウの薬剤防除を含む。]
157. 渡辺政善: 苗畑土壌線虫防除試験。福島林試報 1: 71-75. [踏写。スギのネグサレセンチュウに5121粒剤。]
158. 八木田秀幸: 桑根周囲の土壌から分離されるDorylaimida (目) センチュウ(予報)。埼玉蚕試要報 42: 78-84. [*Longidorus*, *Xiphinema* 属線虫を検出。土壌中の水平・垂直分布、季節的発生消長。]
159. 八木田秀幸: 桑根周囲の土壌から分離されるトリライムス科センチュウについて(予報)。日蚕講要 40: 19. [講要]
160. 八木田秀幸・小室康雄: クワモザイク株からの1ウイルスの土壌線虫(*Longidorus martini*)による伝播。日植病報 36(5) 371. [講要]
161. 山田俊雄・酒井久夫・吉鹿正三: 田畑輪換によるネコブセンチュウの抑制防除に関する試験。福岡農試研報 8: 37-42. [水田化1年で線虫密度半減、2-3年で1/6に減少。]
162. 山本敏夫: ヘルマン漏斗法における土壌量が線虫の分離効果におよぼす影響。三重農試研報 5: 29-40. [ミカンネ、ネコブ、ミナミネグサレ、ラセン、ニセネグサレ、自活性線虫を供試。土壌量、分離時間、温度、篩の直径等を検討。土壌10-20gを4-6日

分離の好成績。]

163. 山本敏夫：ミカンの根におけるチャネグサレセンチュウの寄生部位。関西病虫研報 12: 87. [講要。細根にのみ寄生。防除は樹冠下外周に重点。]
164. 家城洋之・米山光郎：PCNB・DBCP混合剤の白紋羽病防除効果について。日蚕中部講要 26: 9. [講要]
165. 横川登代司：殺線虫剤処理と根切作業の併用が苗木生育に及ぼす影響。応動昆大会講要 昭45: 43. [講要]
166. 横川登代司：殺線虫剤処理と根切作業を併用した苗木の生育。森林防疫 19(7) 166-169. [EDB、クロルピクリン施用時の徒長防止に根切が有効。]
167. 横尾多美男：桑園土壌の線虫相に関する調査研究 1. Xiphinema と Paratylenchus 属の線虫について。応動昆大会講要 昭45: 45. [講要]
168. 横尾多美男：土壌線虫調査覚書 その2. 佐賀大農彙 29: 15-28. [バーク堆肥埋め立て地の土壌線虫相 (Cephalobus sp., Brachorchulus sp., Mylenchulus sp.)、異常生育を示したタバコ苗発生の苗床土壌の線虫相 (Rhabditis spp., Aphelenchoides sp.(?), Achromadora sp.)とそれらの計測値及び図。]
169. 横尾多美男：Studies on the nemic-fauna of soil of the mulberry plant field in Kyushu. II. On the occurrence of two pin nematodes, Paratylenchus aciculus Brown, 1959 and P. morius n.sp. 佐賀大農彙 30: 1-10. [2種のピンセンチュウ (内1種は新種として記載) 及び自活性線虫の桑園における垂直分布、季節的消長。P. aciculusとして記録された種は、後に別種であるとしてGracilacus yokooiと命名された (No. 83-175)。]
170. 横尾多美男・仲 冽：佐賀県下におけるHirschmanniella spp. (イネネモグリセンチュウ類) の分布状況について。佐賀大農彙 30: 45-61. [2種の標高別の分布状況。]
171. 横山 正・井上 巖：Gordius 属ハリガネムシ成虫の体内構造について。動維 79(11/12) 366-367. [講要]
172. 葭原敏夫：ダイズシストセンチュウの接種時期と線虫の繁殖・ダイズの被害。応動昆大会講要 昭45: 47. [講要]
173. 葭原敏夫：植物寄生線虫の土壌別分布調査。十勝病虫研会報 4: 3. [講要]
174. 葭原敏夫・気賀沢和男・岡田利承：十勝地方における火山灰土壌と線虫の分布。北農 37巻7: 29-35. [シスト、ネコブ、ネグサレ、ピンセンチュウと土壌水分含量、作物との関係。]
175. 吉岡真一：小豆枯れ上り現象の原因と対策。農及園 45(9) 1381-1387. [EDB剤によるネコブセンチュウ防除効果を含む。]
176. 吉岡真一・小梁川忠士：畑地の地力と小豆の生育について その4 小豆の登熟阻害現象について。北農 37巻5: 1-12. [作付体系とシスト、ネコブセンチュウの関係。EDB剤処理効果を検討。]
177. 湯原 巖：クロタラリアの根、茎葉粉末施用によるキタネコブセンチュウの影響。応動昆大会講要 昭45: 48. [講要]
178. 湯原 巖：造成草地および未墾地における線虫生息相。北海道草地研報 4: 41. [それぞれの草地の線虫相の特徴および相違点。]
179. Anon. (東北農試栽培第2部作物第3研)：放射線照射によって育成された大豆新品種「ライデン」および「ライコウ」育成報告。東北農試研報 40: 65-105. [ダイズシストセンチュウ抵抗性強。育成過程及び特性。照射材料はネマシラズ。]

昭和46年 (1971)

1. 安部 浩：ボタンに寄生したキタネグサレセンチュウの被害とその防除に関する2、3の知見。応動昆大会講要 昭46: 32. [講要]
2. 青木淳一：方法のちがいによる土壤動物検出数の差。Edaphologia 5: 5-8. [志賀高原IBP特別調査地域の調査結果。Tullgren装置、Baermann装置、O'Conner装置、実体顕微鏡により平方メートル当たりの推定個体数の比較。線虫を含む。]
3. 有田昌雄：砂丘地帯の畑かんの展開。畑地農業 150: 21-24. [D-D剤のナガイモへの葉害に言及。]
4. 近岡一郎：イチゴに加害するネグサレセンチュウの種類と防除。農及園 46(12) 1707-1711. [発生分布および種類、被害・症状、苗の線虫寄生、寄主植物、本圃における発生消長、防除方法(苗、本圃：D-D、EDB、DBCP剤)。]
5. 近岡一郎：大根のキタネグサレセンチュウ防除の最近の知見。今月の農業 15巻9: 70-72. [マリーゴールドの利用(品種比較試験)、有機質肥料の効果。]
6. 近岡一郎・大林延夫・推名清治：三浦ダイコンを加害するキタネグサレセンチュウの総合防除に関する研究。神奈川農共研報 2: 1-50. [沿革、被害の現況、病徴、収量、各種作物の被害(カンラン、ジャガイモ、スイカ、トマト、インゲン)、寄主植物、薬剤防除(D-D、EDB、DBCP、NCS剤他)、処理方法(ビニル被覆、処理前耕起、注入の深さ、間隔)、効果の持続、品質・収量への影響、葉害、堆肥・有機質資材施用、マリーゴールドの利用、上記の防除法の組合わせ(総合防除)。]
7. 藤川 隆・富来 務・佐藤俊次：キュウリ根こぶ線虫病の薬剤防除(1)。九州農業研究 33: 105. [D-D、カヤエース、テラクアP粒剤が高い効果。]
8. 藤本 清：籾消毒後のイネシガラセンチュウの活動性と増殖について。応動昆中国支報 13: 11-13. [防除効果の要因として活動力の低下が大、次いで死亡率・増殖率が変化。]
9. 藤本 清：消毒籾から遊出したイネネモグリセンチュウの活動性と増殖について。応動昆大会講要 昭46: 30. [講要]
10. 藤本 清・足立年一：カルタップ剤(バゲン)の土壤線虫に対する効果。関西病虫研報 13: 67-68. [講要。DBCP剤に劣るが、ネコブセンチュウに対し実用化を期待。]
11. 藤下章男：林業苗畑における土壤線虫防除試験。静岡林試研究調査資料 6: 2 + 30 pp. [線虫相、発生消長、防除試験(D-D、EDB、DBCP、カーバム、NCS、ダイシストン、テラクアP剤、有機質肥料)。]
12. 深沢永光：農作物の病害虫防除 [11]。4. 花の病害虫防除(3)。農及園 46(2) 426-430. [キクのハガレセンチュウの防除を含む。]
13. 深沢永光・小林義明：ハガレセンチュウ(*Aphelenchoides ritzemabosi*)による夏ギク異常症状の薬剤防除。関東病虫研報 18: 126. [ランネット粒剤の仮植床処理が高い効果。]
14. 後藤 昭：阿蘇九重地区の高原草地のネコブセンチュウ。九病虫研会報 17: 78-80. [キタネコブセンチュウのみ検出。]
15. 後藤 昭：阿蘇地区の自然草地、人工草地における線虫の分布密度比較調査例。応動昆大会講要 昭46: 31. [講要]
16. 後藤 昭・岡田忠虎・佐野善一：阿蘇九重高原地区の大規模草地で警戒を要する害虫。九州農試年報 昭45: 45-47. [自然草地・人口草地における植物寄生性線虫の検出頻度を示す。]
17. 後藤 昭・佐野善一：殺線虫剤の室内検定法としての密閉容器内くん蒸法の検討。

- 九病虫研会報 17: 81-84. [サツマイモネコブセンチュウに対するEDB、EDB・EDC剤のベルマン法分離幼虫数抑制率とゴール指数抑制を検討、採集時期・寄主の違いによるEDB感受性、上記線虫とミナミネグサレセンチュウのEDB感受性を比較。]
18. 後藤三千代: 庄内地方に於けるイネネモグリセンチュウの発消長について、応動昆大会講要 昭46: 29. [講要]
19. 原沢辰常: 東北地方における豆類生産の動向と地域性. In: 東北地方豆類生産事情 (第1部), 日本豆類基金協会、東京、p. 33-96. [連作による線虫害が問題となり、数県ではシストセンチュウ抵抗性大豆品種が奨励品種となる。同書 p.269-340, 341-367 に抵抗性品種の普及状況等。]
20. 早坂義雄・小原憲由: 土壤線虫の防除に関する試験. 宮城林試業務成績 昭45: 53-55. [マリーゴールド跡地のスギのネグサレセンチュウ。EDB剤の効果と比較。単播、点播が線虫検出数少ない。]
21. 林 勇・西沢 務・大島康臣: 温室バラのセンチュウに関する試験 第1報 寄生性センチュウの実態調査. 関東病虫研報 18: 124-125. [クルミネグサレ、キタネコブ、ピン、オオガタハリ、ワ、ユミハリ、ラセンセンチュウを検出。]
22. 平野 暁: 忌 (いや) 地現象とその研究動向 [1] 忌地除去に関する文献学的考察. 農及園 46(2) 321-326. [連作害除去を目的とした実験例を整理。]
23. 平野 暁: 忌 (いや) 地現象とその研究動向 [2] 忌地除去に関する文献学的考察. 農及園 46(3) 456-460. [前報の続き。]
24. 平野和弥: トマトにおける萎ちょう病菌とネグサレセンチュウとによる感染初期の経過. 日植病報 37(2) 172-173. [講要]
25. 平野和弥・河村貞之助: サツマイモネコブセンチュウとの混合感染における *Fusarium* spp. の寄生性の転換. 千葉大園学報 19: 29-38. [5植物に対する線虫と3菌種の接種。いずれも菌の寄生性と根の組織に変化。]
26. 平田明由: 桑園の植物寄生性線虫の分布と発消長について. 群馬蚕試報 44: 1-12. [ネコブ、ピン、ニセシスト、ワ、ラセン、オオガタハリ、ユミナリ、ナガハリセンチュウの分離法 (ベルマン、篩別ベルマン、遠心浮遊法) の検出率の比較、垂直分布、発消長。]
27. 平田明由: クワモザイク病土壌処理と発病との関係. 日蚕関東講要 22:21. [講要]
28. 平田明由: 前橋付近桑園における線虫の分布. 日蚕講要 41: 10. [講要]
29. 平田明由・小島 暁: 桑園の土壤線虫に関する研究: DBCP粒剤の処理時期と処理量について. 日蚕関東講要 22: 19. [講要]
30. 平田明由・小島 暁: 桑園土壤線虫防除試験. 群馬蚕試年報 昭45: 20. [線虫相、垂直分布、発消長、防除。]
31. 広間勝己・御子柴公人・杉山信太郎: ダイズシストセンチュウの生理的系統について. 応動昆大会講要 昭46: 28. [講要]
32. 堀 正侃: 植物防疫行政進展の概況. 植物防疫 25(6) 231-234. [昭和34-38年: 線虫検診事業、昭39から果樹線虫対策、昭25: D-D剤の輸入。]
33. 細田隆治: マツノマダラカミキリより分離したマツノザイセンチュウ幼虫のマツ苗への接種試験. 日林関西支講 22: 135-137. [接種苗は総て枯死。]
34. 一戸 稔: 土壌病害虫防除技術の発展: 土壤線虫. In: 植物防疫この二十年. 植物防疫事業二十周年記念会、東京、p. 78-81. [種類の確定、耕種的・生物的・物理的防除・化学的防除・関連病害の研究の略史と現状。]
35. 一戸 稔: 作物の線虫被害およびその防除. In: 植物防疫この二十年. 植物防疫事業二十周年記念会、東京、p. 190-195. [作物別 (野菜、イモ、マメ類、特用作物、花

- 卉、牧草、果樹、チャ、クワ、林業苗、イネ)の線虫防除技術とその効果。]
36. 一戸 稔・岡本好一・三井 康・中園和年:ミカン園の線虫類について。応動昆大会講要 昭46: 29. [講要]
37. 稲垣春郎:湛水による土壌病害虫防除の可能性。北農 38巻9: 35-43. [総説。ネコブ、ネグサレセンチュウに関するデータを含む。]
38. 稲垣春郎:イチゴの線虫に対するメソミル剤、エチルチオメトン剤の効果。日植病報 37(5) 407. [講要]
39. 稲垣春郎・堤 正明: Survival of the soybean cyst nematode, *Heterodera glycines* Ichinohe (Tylenchida: Heteroderidae) under certain storing conditions. Appl. Ent. Zool. 6(4) 156-162. [風乾土壌の中で9年、湿った状態の大豆の根で7年間生存。]
40. 稲生 稔: イネシガラセンチュウの水媒感染について 第3報 多発地における雑草寄生とは場発病。関東病虫研報 18: 123. [畦畔のヌカキビ、ヒエ、メヒシバから検出。]
41. 石橋信義・村岡 実: ダイズシストセンチュウの卵のうならびにシストの加害性比較試験。応動昆大会講要 昭46: 30. [講要]
42. 石川昌男・松田 明・浅野伸幸: 連作障害の軽減対策。農及園 46(3) 477-481. [総説。病害虫対策(線虫を含む)、施肥および土壌改良、水による対策、その他。]
43. 石川元一: 菊のネグサレセンチュウ被害とその防除。今月の農薬 15巻11: 35-37. [NCS、ドジョウピクリン、EDB、テラクアP、ソイルメート剤の効果。]
44. 伊戸泰博: Predation by manure-inhabiting mesostigmatids (Acarian: Mesostigmata) on some free-living nematodes. Appl. Ent. Zool. 6(2) 51-56. [中気門類の3種ダニによる *Rhabditis elongata*, *R. teres*, *Panagrellus redivivus*, *Aphelenchoides composticola*, *Aphelenchus avenae* の捕食。]
45. 伊藤一男: 材線虫によるマツ類の枯損について: まつくい虫の被害との関連。山林 1046: 35-42. [材線虫の発見から接種試験等その後の研究経過。]
46. 伊藤喜隆: ヤツデなどに寄生するネコブセンチュウについて。応動昆大会講要 昭46: 27. [講要]
47. 岩木満朗: スイセンから分離されたウイルス 第6報 *Arabis mosaic virus* について。日植病報 37(5) 402. [講要]
48. 岩木満朗: 数種球根類に発生するウイルスの種類と性質。植物防疫 25(5) 180-183. [TRV (線虫伝搬) 等の解説。]
49. 岩木満朗・小室康雄: スイセンから分離されたウイルス 第2報 *Tomato ring-spot virus* とその *Xiphinema americanum* による伝播。日植病報 37(2) 108-116. [線虫による伝播を確認。]
50. 岩木満朗・小室康雄: *Tomato ringspot virus* の *Xiphinema americanum* による伝播の様態。日植病報 37(3) 198-199. [講要]
51. 笠野秀雄: ハッカ育種の現状と今後の課題。育雑 21(5) 296-298. [ピンセンチュウ抵抗性の強化にふれる。]
52. 柏尾具俊・近藤栄造・横尾多美男: 桑園土壌から検出されたピンネマの生態についての2、3の知見。九病虫研会報 17: 144. [講要]
53. 柏尾具俊・横尾多美男: 桑園土壌で検出されるピンセンチュウ (*Paratylenchus* spp.) に関する2、3の知見。応動昆大会講要 昭46: 30. [講要]
54. 桂 瑋一: 根コブセンチュウに誘発されるダイコン黒腐病。京都府大農付農場報 4: 1-6. [発生と発病、感染機構(線虫接種との関係、線虫の体内保菌)、防除試験

- (エチル塩化水銀、EPN、EDB剤。]
55. 河村貞之助：花類病害の研究の現状と問題点。植物防疫 25(5) 177-179. [線虫による病害を含む。]
 56. Khurana, S. M. P. & Singh, S. : Interrelationship of a fungus, *Curvularia lunata* with root-knot nematode, *Meloidogyne javanica* in sugarcane seedling blight. 日植病報 37(4) 313-315. [サトウキビ立枯病におけるネコブセンチュウとの協合。]
 57. 菊池 実：桑園の土壤線虫。蚕糸科学と技術 10巻10: 79-81, 3 pls. [ネコブセンチュウの形態、生態、被害。]
 58. 桐谷圭治・中筋房夫：害虫の総合防除：システムズ・アナリシスによるアプローチ。農業技術 26(3) 105-110. [被害解析の項でSeinhorst の理論として、モデル式を解説。]
 59. 清原友也：マツノザイセンチュウの接種試験。林試九州支場年報 13 (昭45) 12-15. [健全木への接種により病原性を確認。病徴の進展過程を調査。]
 60. 清原友也・徳重陽山：マツの生立木に対する線虫 *Bursaphelenchus* sp. の接種試験。日林誌 53(7) 210-218. [接種線虫数とマツの異常および枯死、線虫を接種したマツの個別経過、試験別、時期別、樹種別、品種別の線虫接種結果。]
 61. 小林富士雄・細田隆治・奥田素男・竹内昭彦：各種穿孔虫からのマツ材線虫の分離。日林関西支講 22: 137-139. [マツアナアキゾウムシからも線虫の幼虫(マツノザイセンチュウとは別種?)を分離。]
 62. 小林義明：秋ギクにおけるハガレセンチュウ (*Aphelenchoides ritzemabosi*) の薬剤防除効果。関東病虫研報 18: 127. [サリチオン乳剤、ランネート乳剤、同粒剤が有効。]
 63. 小林義明：夏菊、秋菊のハガレセンチュウの防ぎ方。今月の農薬 15巻7: 47-50. [症状、発生生態、伝播、防除(ダイアジノン、ディブテレックス、キルバール、メオバール、パラチオン、サリチオン、ランネート)。]
 64. 小林義明・深沢永光・佐藤 清：ネグサレセンチュウ (*Pratylenchus* sp.) によるニンジンの黒斑症状とその防除。応動昆大会講要 昭46: 33. [講要]
 65. 小林義明・庄司和雄・深沢永光・古木市重郎・船越桂市：ハガレセンチュウ *Aphelenchoides ritzemabosi* (Schwartz) Steiner によるキクのい縮症状。静岡農試研報 16: 71-82. [病徴ならびに発生状況、線虫の形態、線虫の寄生状況、葉位との関係、接種試験、薬剤防除(ランネートの仮植床処理)、葉組織の観察。]
 66. 駒井功一郎・佐藤庄太郎：殺線虫剤によるジャガイモの褐変現象に関する研究 第1報 褐変機構について。農化 45(11) 483-488. [D-D、EDB、DBC P剤。塊根組織に殺線虫剤が浸透し、組織を破壊。ポリフェノール類が酸化され褐変。]
 67. 栗山尚志・国安克人・菅原裕幸：ネコブセンチュウ抵抗性検定における接種用ふ化幼虫の多量採集法。農及園 46(11) 1609-1610. [卵嚢が形成されている根をガラスシリンドー中で20°Cに保って通気する。]
 68. 桑原雅彦：桑園の土壤線虫検出法の検討。日蚕東北講要 25: 29-30. [講要]
 69. 真宮靖治：Effect of temperature on the life cycle of *Pratylenchus penetrans* on *Cryptomeria* seedlings and observation on its reproduction. Nematologica 17(1) 82-92. [異なる温度条件のスギ苗でのキタネグサレセンチュウの発育と産卵数。]
 70. 真宮靖治・清原友也・徳重陽山：マツの材組織中にみられる *Bursaphelenchus* 属線虫の1新種、マツノザイセンチュウ(仮称)。応動昆大会講要 昭46: 28. [講要]

71. 増田康哉：「D-D」剤による桑紫紋羽病防除について。九州蚕糸 2: 49. [クロルピクリンと同程度の効果。]
72. 松田 明・下長根 鴻・尾崎克己：作物の連輪作とフザリウム病発生との関係（第2報）各種作物栽培がキュウリつる割病および病原菌の変動に及ぼす2、3の要因について。日植病報 37(3) 173-174. [講要]
73. 松田 明・下長根 鴻・尾崎克己・渡辺文吉郎：農薬による畑水稻連作障害の軽減効果。日植病報 37(3) 191-192. [講要]
74. 松井弘之：ネコブセンチュウによるゴール肥大とエチレンとの関係について。応動昆大会講要 昭46: 31. [講要]
75. 三井 康：Aphelenchus の寄生性 1. 植物根への侵入について。応動昆大会講要 昭46: 33. [講要]
76. 宮川経邦：徳島県下に発生したミカンの根ぐされ衰弱病（仮称）。植物防疫 25(2) 70-74. [チャネグサレセンチュウを検出。土壌の蒸気、D-D、DBCP剤（生育中）による消毒と効果。]
77. 宮良高忠：沖縄の病害虫をめぐる諸問題。植物防疫 25(11) 429-432. [殺線虫剤は本土の倍量必要。]
78. 三善重信・山田俊雄・吉鹿正三：さといも連作障害に関する研究 第1報 連作障害の発生と田畑輪換効果。福岡農試研報 9: 45-48. [2作目より減収。水田化2年で連作害解消。]
79. 三善重信・小宮正寛・吉田桂輔・吉村大三郎・仲 冽：さといも連作障害に関する研究 第2報 さといも連作障害と薬剤防除効果。福岡農試研報 9: 49-54. [クロルピクリン、D-D剤による土壌消毒の効果範囲。]
80. 三善重信・小宮正寛・吉田桂輔・吉村大三郎・仲 冽：サトイモの連作障害に関する研究：発生実態と防除について。九病虫研会報 17: 98-101. [2作目から障害発生、クロルピクリン、D-D剤が高い効果。]
81. 水本順敏：蒸気土壌消毒とマンガン過剰症。農業技術研究 25巻4: 16-18. [線虫記述なし。蒸気消毒の副次的効果とその対策。]
82. 百田洋二・大島康臣：Criconeoides 属の分類学的研究。応動昆大会講要 昭46: 27. [講要]
83. 森本 桂・岩崎 厚：マツノザイセンチュウ伝播者としてのマツノマダラカミキリの役割。日林九支論 25: 165-166. [耐久型幼虫を体に付けて伝播することを確認。]
84. 森田 儔：キクの主な病害とその防除。植物防疫 25(5) 200-203. [連作障害の原因としてのネグサレセンチュウ、夏菊の異常症状（ハガレセンチュウ）とその防除法を含む。]
85. 村岡 実・石橋信義・横尾多美男：ダイズシストセンチュウ (Heterodera glycines) の卵のう産生と加害性について。九病虫研会報 17: 144. [講要]
86. 村岡 実・石橋信義・横尾多美男：ダイズシストセンチュウの发育・産卵におよぼす生育状態の影響。応動昆大会講要 昭46: 31. [講要]
87. 中西 勇・上林 譲・天野 隆：黒変米（仮称）に関する研究 第1報 症状ならびに実態調査。関西病虫研報 13: 73-74. [講要。イネシンガレセンチュウが関与。]
88. 中國和年・山本敏夫・近藤鶴彦：連作障害発生ミカン園における主要寄生線虫の季節的発生消長。応動昆大会講要 昭46: 29. [講要]
89. 西山康浩：農薬の魚毒性分類表について。植物防疫 25(7) 279-280. [No. 67-168を改定。]
90. 西山喜一・高橋登美雄：バナナの生態に関する研究 第7報 線虫寄生と生育につ

- いて、熱帯農業 15(2) 86-90. [厚木市の温室内における調査。線虫寄生状況、土壌中の垂直分布、被害と生育及び収量。]
- 9 1. 西山喜一・高橋登美雄：中南米産ナス科植物の農作物利用に関する研究。熱帯農業 15(3) 169-173. [シルベバ (Jirveber) 又はこれを台木としたトマト、ナスはネコブセンチュウの寄生なし。]
- 9 2. 西沢 務・大島康臣・伊藤喜隆：黒変症が発生するナガイモ畑の線虫について。応動昆大会講要 昭46: 28. [講要]
- 9 3. 西沢 務・大島康臣・栗原 浩：連作および輪作実験ほ場における線虫相。関東病虫研報 18: 121-122. [陸稻、サツマイモ、ラッカセイ、サトイモ、陸稻連作跡サトイモ、サトイモ・ラッカセイ輪作区。]
- 9 4. 岡 克：最近の黄色種新品種の解説。葉たばこ研究 56: 20-26. [線虫抵抗性品種を含む。]
- 9 5. 岡田利承：The hatching response of the soybean cyst nematode, *Heterodera glycines* Ichinohe (Tylenchia: Heteroderidae). Appl. Ent. Zool. 6(2) 91-93. [ダイズ、インゲンの根滲出液の濃度とダイズシストセンチュウの孵化の関係。]
- 9 6. 岡田利承：ダイズシストセンチュウ卵の前処理と根浸出液のふ化促進効果の関係。応動昆 15(4) 215-221. [根浸出液に入れる前に水中に浸漬したシストからの孵化が多い。前処理時の水温・時間を検討。]
- 9 7. 岡田利承：ダイズシストセンチュウのふ化におよぼす寄主植物根の滲出液の作用の安定性。農業検報 11: 118-121. [加温・蒸留濃縮した液の作用は5℃保存で半年から1年3ヵ月間不変。]
- 9 8. 岡田利承：ダイズシストセンチュウのシスト内ふ化抑制物質。応動昆大会講要 昭46: 31. [講要]
- 9 9. 大羽克明・弥富喜三：浸透性殺線虫剤に関する研究。関西病虫研報 13: 69-70. [講要。Temik, Lannateの効果、葉害等。]
- 1 0 0. 大林延夫・近岡一郎：キタネグサレセンチュウの防除と密度復元抑制に関する試験。応動昆大会講要 昭46: 32. [講要]
- 1 0 1. 大橋雄司：タバコのネコブセンチュウ抵抗性。日本専売公社宇都宮たばこ試験場、宇都宮、1 + 12 pp. [謄写。抵抗性品種の育種・抵抗性の研究結果概要。線虫談話会資料。]
- 1 0 2. 大川 清・三枝敏郎：ウチダカノコユリの連作障害。昭47園芸学会春研究要旨：310-311. [講要。ネグサレセンチュウ。]
- 1 0 3. 大島康臣・西沢 務・平田明由・岡部光波：クワ園の線虫相について。応動昆大会講要 昭46: 33. [講要]
- 1 0 4. 大山浪雄・斉藤 明：マツノザイセンチュウ接種木じん皮汁液のマツ芽ばえ枯損作用。林試九州支場年報 13(昭45) 16-17. [クロマツはアカマツに比して枯れるものが多い。前者の生存率と汁液中のタンニン濃度間に高い相関。]
- 1 0 5. 三枝敏郎：ランに寄生する線虫。えびね会誌 1: 37-42. [未見]
- 1 0 6. 三枝敏郎・山本洋祐：輸出ユリ球根に寄生する *Xiphinema insigne* Loos の分布と寄主植物。植防研報 9: 27-38. [線虫の形態、ユリ球根産地における分布、ヘルマン法における浸漬時間と検出数、圃場ヤマユリ株における寄生部位、線虫の時期的消長 (ウチダカノコユリ、ヤマユリ、寄主植物)。]
- 1 0 7. 三枝敏郎・山本洋祐：ユリ球根産地における *Xiphinema insigne* Loos の分布と寄主植物。応動昆大会講要 昭46: 28. [講要]
- 1 0 8. 斉藤 明：マツノザイセンチュウ接種木のフェノール性物質含有量の接種後の推

- 移. 林試九州支年報 13(昭45): 18. [カテコールタンニン含有量の少ない木が枯死。]
109. 齊藤 明: 健全木、異常木のフェノール性物質含有量. 林試九州支年報 13(昭45): 19-23. [樹体の健全度とカテコールタンニン含有量の間に密接な関係。]
110. 桜井 清: 転換作物としての大豆の地位. 農薬 18巻2: 19-23. [線虫に言及。]
111. 作山 健: 本県の林業苗畑における土壌線虫の被害の実態と防除. 岩手林試成果報 3: 1-11. [6種の線虫を記録. 検出頻度、前作との関係、被害、防除。]
112. 佐野逸夫・樋田幸夫: DBCP剤高濃度液の土壌処理による桑園の線虫防除効果. 日蚕関東講要 22: 19. [講要]
113. 佐野善一・後藤 昭: 密閉容器内線虫土壌くん蒸法よりみた数種殺線虫剤の有効度. 応動昆大会講要 昭46: 33. [講要]
114. 佐藤仁彦: EDBの土壌による吸着測定を試み. 応動昆大会講要 昭46: 18. [講要]
115. Seinhorst, J. W. & 国安克人: Interaction of *Pratylenchus penetrans* and *Fusarium oxysporum* forma *pisi* race 2 and of *Rotylenchulus reniformis* and *F. oxysporum* f. *pisi* race 1 on peas. *Nematologica* 17(3) 444-452. [線虫の初期密度 500頭/土壌500g以上でキタネグサレセンチュウと菌によるエンドウの立枯れが発生。]
116. 清水 啓: イネシストセンチュウの寄生が水稻の収量におよぼす影響. 応動昆大会講要 昭46: 32. [講要]
117. 下川利之: 林業苗畑の根ぐされ病防除試験(II). 岡山林試報 11(昭45): 231-252. [増写. スギ苗のキタネグサレセンチュウ. 薬剤防除効果、生息密度別被害解析、フザリウム菌との複合被害度の解析。]
118. 進藤 登・中島 昇・三鍋輝男・高橋弘毅・大坪 巖: D-Dの製造に関する研究(第1報)塩素反応の検討. 農薬生産技術 24: 16-22. [塩素化したプロピレンの反応条件及び反応装置の検討。]
119. 進藤 登・林 真守・三鍋輝男・中島 昇・高橋弘毅・大坪 巖: D-Dの製造に関する研究(第2報)主として生物試験. 農薬生産技術 26: 37-45. [有効成分の含量増加と、薬害成分の生成抑制の必要。]
120. 庄司次男: 東北地方国有林苗畑における植物寄生線虫の分布. 林試研報 241: 19-29. [キタネグサレセンチュウ、ユミハリセンチュウが多い。樹種別の線虫検出頻度、土壌環境条件(土性、pH、前後作)と線虫の生息密度。]
121. 庄司次男・佐藤邦彦: 秋まきスギ苗のネグサレセンチュウの薬剤防除試験. 日林東北支誌 22: 129-132. [キタネグサレ、ユミハリセンチュウにNCS、DBCP、5121粒剤。]
122. 杉 泰昭: とりあげ法(Hand sorting)との比較によるベルマン装置の抽出効率について. *Edaphologia* 5: 1-4. [線虫の種類別の抽出効率及び推定法. *Hoplolaimidae*科で $7.7 \pm 3.0\%$ 、*Criconea* 属で 1.1 ± 3.2 、*Xiphinema* 属で 4.5 ± 5.7 、*Mononchidae*で 17.2 ± 55.8 、*Rhabditis* で 3.8 ± 0.4 、*Cephalobidae*で 2.9 ± 0.7 。]
123. 鈴木春夫・小林義明・古木市重郎・森 喜作: 蒸気土壌消毒と病害虫. 静岡農試特報 10: 16-24. [温室メロンの蒸気消毒の一部. ネコブセンチュウに対する効果を含む。]
124. 鈴木 実: 淡水産ミクロ動物のColonizationに関する研究 I. 富士五湖湖畔におけるColonizationの動態. 動雑 80(6) 191-201. [線虫(未同定)を含む。]
125. 多川 閃: 土壌中におけるクロルピクリンの分解と消毒畑における塩素の消長. 葉たばこ研究 58: 84-88. [線虫記述なし。]

126. 高木一夫：浸透性殺線虫剤のチャネグサレセンチュウに対する効果。応動昆大会講要 昭46: 32. [講要]
127. 高橋芳雄：落花生の連作障害に関する研究。千葉農試研報 11: 1-12. [連作によりキタネコブセンチュウ、黒渋病、褐斑病の発生が増加。これらは相互に作用。深耕・増肥・早播き・密植より薬剤防除（EDB剤）の効果が大きい。]
128. 田村弘忠：線虫捕食菌 *Arthrobotrys oligospora* の捕捉器官形成におよぼす線虫の影響。応動昆 15(4) 264-266. [*Aphelenchus avenae*, *Rhabditis* sp. の両種又は、一方の生存虫、熱殺個体の添加時の器官形成。]
129. 田村弘忠：捕食菌 *Arthrobotrys oligospora* のring形成。応動昆大会講要 昭46: 27. [講要]
130. 田中彰一：ブドウのウイルス病（1）。農及園 46(2) 口絵及び解説。[ファンリーフの病徴のカラー写真と解説。]
131. 寺中理明・宮原義雄：九州における豆類の病害虫。In: 九州豆類生産事情（上）。日本豆類基金協会、東京、p. 269-300. [九州の大豆から検出される線虫、被害、抵抗性品種、線虫密度と収量の関係、p. 294-8.]
132. 照屋林宏：沖縄における有害線虫。植物防疫 25(11) 458-460. [種類、被害、発生、生態、防除。]
133. 樋田幸夫：ネコブセンチュウによるクワの被害解析（1）線虫接種当年のクワの苗の生育。応動昆大会講要 昭46: 30. [講要]
134. 樋田幸夫：桑園の植物寄生線虫の種類について（予報）。日蚕講要 41:10. [講要]
135. 樋田幸夫：*Tagetes minuta*の線虫防除効果について（予報）。日蚕関東講要 22: 18. [講要]
136. 徳重陽山：松くい虫と材線虫そしてマツの枯損。林業技術 357: 8-11. [研究の動向、被害樹の症状経過、衰弱枯損に関わる諸要因、材線虫のあらまし。]
137. 徳重陽山：松くい虫と材線虫。植物防疫 25(12) 480-484. [松くい虫とその周辺（種類、症状、経過、水分異常）、材線虫（発見、形態、所属、生態、地理的分布、寄生性、加害性、接種木の生理的变化）。]
138. 富来 務・藤川 隆・佐藤俊次：イネ心枯線虫病に関する研究（第4報）本病に対する各種薬剤の防除効果。九病虫研会報 17: 42-44. [ランネートの種子粉衣、播種直前発芽直後の播床散布、カヤエースの種子粉衣の効果を認めた。]
139. 富田 勲・田辺仁志：桑園土壌線虫の生態と防除について。愛知農試研報 D（蚕業）2: 39-46. [季節的消長（ピン、ラセン、ネコブセンチュウ等）、垂直・水平分布、薬剤防除（NCS、DCIP、DBCP剤）。]
140. 土崎常雄・日比野啓行・斎藤康夫：輪紋症状のクワから分離されたクワ輪紋ウイルス。日植病報 37(4) 266-271, 2 pls. [ウイルスの形態、感染症状。線虫記述なし。]
141. 堤 正明：インゲン根浸出液の土壌施用によるダイズシストセンチュウのふ化促進効果 I. 土壌温度の差異とふ化促進効果。北日本病虫研報 22: 63. [20-25 °Cで比較的短期間に孵化促進。]
142. 内山正昭・佐藤六郎・越中俊夫・西沢 務：殺線虫剤。In: 現代農薬講座 III. 朝倉書店、東京、p. 151-166. [9種薬剤の物理的・化学的特性、対象病害虫、使用法、使用上の注意。]
143. 宇田川隆敏・弥富喜三：キタネグサレセンチュウとキュウリつる割病菌のキュウリ幼苗における複合病。関西病虫研報 13: 68-69. [菌と線虫は協力的に発病させる。]
144. 上林 譲・天野 隆・中西 勇：イネシנגアレセンチュウの防除法。愛知農試報 25: 50-70. [種子粉衣（サッセンプラス乳剤、スミチオン、バイジット、ダイアジ

- ノン、バダン、ランネート他)、苗代期防除(カヤエース、PSP-204、テラクアーP他)、本田防除(スミチオン、バイジット他)。
145. 上林 譲・天野 隆・中西 勇: 黒点米に関する研究 第1報 症状と発生実態、愛知農試研報 A 3: 46-54, 1 pl. [黒点米含有率と寄生線虫数(イネシンガレセンチュウ)の間に正の相関。]
146. 牛山欽司: ミカン園の線虫: 被害の実態と対策(園芸シリーズ ミカン No.14). 神奈川園試, 15 pp. [各種線虫の被害及び防除法。]
147. 八木田秀幸・小室康雄: クワ輪紋ウイルスの土壌線虫(*Longidorus martini*)による伝播, 日植病報 37(3) 199. [講要]
148. 八木田秀幸・小室康雄: クワ・モザイク病の発生桑園における線虫の分布状況と同ウイルスの*Longidorus maritini*による伝播, 日蚕講要 41: 12. [講要]
149. 山本公志・今村和夫: イネクロカメムシに寄生する糸片虫とその生活及び習性, 福井農試報 8: 139-151. [形態、県内の分布、寄生状況、寄主からの脱出時刻、土中越冬深度および活動時期。]
150. 山本公志・奈須田和彦: 立枯症クリから検出される線虫*Pseudalenchus* sp. 応動昆虫大会講要 昭46: 27. [講要]
151. 家城洋之: PCNB-DBCP混合剤の白紋羽病防除効果, 蚕糸研究 79: 79-84. [土壌10g当たり20gで殺菌効果。]
152. 家城洋之: DBCP剤の白紋羽病防除効果, 蚕糸科学と技術 10巻11: 48-51. [効果および経費。]
153. 家城洋之・糸井節美: DBCP剤の白紋羽病防除効果, 蚕糸研究 79: 71-78. [土壌10g当たり20%粒剤10gで殺菌効果。]
154. 横尾多美男: 植物のセンチュウ(1)生態と防除の基礎, 誠文堂新光社、東京、201 pp. [線虫学の教科書。第2巻は1972年刊(No. 72-154を参照), 第1巻の内容は下記の通り。1. センチュウはどんな動物か、2. センチュウ類の生息域、3. 土壌センチュウの形態、4. センチュウ類の繁殖、5. センチュウ類の生活環境、6. センチュウ類の行動と刺激、7. センチュウ類の栄養生理、8. センチュウ病、9. 植物寄生種と対抗植物・抵抗性品種、10. センチュウの天敵、11. 防除。]
155. 横尾多美男: 線虫捕食糸状菌*Arthrobotrys*菌の胞子を添加した土壌調整剤の水田施用効果, 佐賀大農学 31: 65-70. [植物寄生種が個体数・構成比率ともに低下。]
156. 横尾多美男: ネコブセンチュウのことなど, Delphax 14: 3-4. [講要]
157. 吉田桂輔・吉村大三郎・横山佐太正: カルタップ水溶剤によるイネ心枯線虫病の種糸消毒効果, 九病虫研会報 17: 44-46. [1000倍液24時間浸漬で効果。葉害なし。]
158. 葭原敏夫: 接種時期の違いとダイズシストセンチュウの繁殖, 応動昆虫大会講要 昭46: 29. [講要]
159. 葭原敏夫: ダイズシストセンチュウの侵入時期と寄生数ならびに跡地シスト数, 十勝病害虫研会報 5: 4. [講要]
160. 湯原 巖: てん菜寄生キタネコブセンチュウの密度に及ぼす有機物粉末施用の影響, てん研報 補13: 201-205. [クロタリヤ・スペクタビリス、マリーゴールド野生種の根・茎葉の施用後の期間が長くなるにつれて線虫密度低下。]
161. 湯原 巖: クロタリヤおよびマリーゴールドの根・茎葉粉末の施用がキタネコブセンチュウの密度に及ぼす影響, 北日本病虫研報 22: 62. [No. 72-160を参照。]
162. 湯原 巖・桜井 清: ダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究(第3報)大豆品種抵抗性の地域差について, 北海道農試彙報 99: 89-96. [接種試験によるraceの存在、各地の幼虫の計測値。]

163. Anon. (農林水産技術会議事務局): 畑作物の新品種, 農林水産研究情報 9: 41-42. [テコナ(らっかせい農林2号)キタネコブセンチュウ抵抗性.]

昭和47年 (1972)

1. 安部 浩・池田嘉英: ボタン苗木に寄生したキタネグサレセンチュウの温湯浸法による駆除について, 応動昆中国支報 14: 28-31. [46°C30分、48°C30-60分、50°C10-20分処理が実用化可能.]
2. 千葉 修: 病害と松くい虫被害: マツノザイセンチュウとツチクラゲを中心として, 森林防疫 21(6) 113-118. [それぞれの解説.]
3. 千葉滋男: JIBP東南アジア計画: PT-土壤動物調査状況報告, Edaphologia 6: 17-20. [謄写。マレーシアの原生多雨林の調査結果。線虫を含む。]
4. 近岡一郎: 三浦ダイコンのキタネグサレセンチュウの総合防除, 今月の農薬 16巻10: 69-72. [薬剤、マリーゴールド、有機質肥料、それらの組合わせ。]
5. 堂園安生・清原友也: 菌糸培養法におけるマツノザイセンチュウの増殖温度, 日林九支研論 25: 160-161. [Botrytis菌と25°Cの温度で大量増殖。]
6. 遠田暢男: マツノザイセンチュウの媒介昆虫と保持数, 日林関東支講要集 24: 31. [講要]
7. 遠田暢男: マツノマダラカミキリからのマツノザイセンチュウの離脱経過, 日林関東支講要集 24: 32. [講要]
8. 遠田暢男・真宮靖治: マツノマダラカミキリの後食がマツの枯損に及ぼす影響, 83回日林大会講要: 112; 83回日林論: 320-322. [線虫をもつカミキリの後食から15日-1ヵ月で樹脂分泌量の低下、及び高率の枯死。]
9. 遠田暢男・真宮靖治・野淵 輝・山根明臣: 関東北部におけるマツノザイセンチュウの分布, 83回日林大会講要: 111; 83回日林論: 318-319. [1971年当時。静岡、神奈川、東京、千葉、茨城、石川県。]
10. 遠田暢男・野淵 輝・山根明臣・小田久五: マツ類の穿孔虫に関する研究: 被害発生型の比較とマツノザイセンチュウの調査, 83回日林大会講要: 112-113; 83回日林論: 322-323. [アカマツ・クロマツ、年次、時期別の比較。]
11. 藤本 清: イネネモグリセンチュウの低温・高温および乾燥に対する耐久性について, 関西病虫研報 14: 73. [講要。-7°Cで1日、46°C20分、48°C10分で死滅。水分含量14.6%以下の水稻根からは検出されず。]
12. 藤本 清・山口福男: 兵庫県におけるイネシガラセンチュウの発生分布とその生態及び防除, 兵庫農試研報 19: 33-38. [県内発生分布、水稻品種別寄生性、被害程度、薬剤による防除(種籾浸漬、粉衣、粒剤の苗床施用)。]
13. 福留信明: 九州たばこ産地における線虫の分布, 葉たばこ研究 60: 84-92. [サツマイモ、ジャワネコブ、ミナミネグサレセンチュウ他を検出。併発病害名をあげる。]
14. 福留信明・酒瀬川義一: ネコブセンチュウと他の病害との関係 2, ネコブセンチュウが立枯病の発病におよぼす影響, 九病虫研会報 18: 100-102. [菌単独より混合接種で高い発病率。線虫接種後3週間目の菌接種では激発。]
15. 後藤 昭: 植物寄生性線虫の種類相、分布, 日線虫研誌 1: 9-13. [地理的分布に関する総説。海外、近隣諸国、日本における調査研究および基本的問題。]
16. 後藤 昭: 各種生息環境におけるネグサレセンチュウの分布, 日線虫研誌 1: 34-35. [文献のとりまとめが主。]

17. 後藤 昭：九州における里山土壌の線虫調査例。日線虫研誌 2: 23-24. [7 属線虫の植生別の検出例。]
18. 後藤 昭：開墾地におけるミナミネグサレセンチュウの発生調査例。日線虫研誌 2: 25-26. [7 ヲ所の調査例。]
19. 後藤 昭：ベルマン法の分離効率について（附：その他の方法におけるデータ）。Edaphologia 6: 1-7. [謄写。主にミナミネグサレセンチュウのベルマン法、ふるい分け法の分離率。]
20. 後藤 昭：九州の自然草地から検出された *Radopholoides* sp. 16回応動昆大会講要：118. [講要]
21. 後藤三千代：イネネモグリセンチュウの水稻根への侵入機構について。16回応動昆大会講要：116. [講要]
22. 橋本平一・清原友也・堂園安生：マツノザイセンチュウの樹体内生息と移動。83回日林大会講要：114-115；83回日林論：329-331. [枝先より基部への移動が多。]
23. 橋本健一・井上 巖：ハリガネムシ一種 (*Chordodes fukuii*) の生活史の特殊性ならびに越冬条件について。動雑 81(4) 422-423. [講要]
24. 早坂義雄・小原憲由：土壌線虫の防除に関する試験。宮城林試業務成績 昭46: 90-97. [マリゴールド、薬剤 (DBCP、ネマモール、NCS 剤) のネグサレセンチュウ抑制効果。]
- 24a. 林 勇：温室バラの線虫に関する試験 第2報 検出頭数の年間消長。関東病虫研報 19: 143-144. [ネグサレ、ネコブ、ピン、ワセンチュウを調査。]
25. 万豆剛一：電照ギクの連作障害を防ぐために：志太地区の実態調査成績を中心にして。農業技術研究 26巻5: 122. [ハウス密閉湛水 (地温30度15日間) でほとんどネグサレセンチュウ死滅。]
26. 平野和弥・河村貞之助：トマト幼苗における *Pratylenchus* 属線虫と萎ちょう病菌とによる複合病の発現。千葉大園学報 20: 37-43. [発病の程度はミナミネグサレセンチュウ区がキタネグサレセンチュウ区より激しく、短期間で発病。]
27. 平田明由：群馬県における桑園の線虫について。日線虫研誌 2: 20-22. [8 属の線虫を検出。検出率、密度、クワモザイク病発生桑園の線虫調査。]
28. 平田明由：桑園の土壌線虫に関する研究：DBCP 粒剤の殺線虫効果と持続性について。日蚕関東講要 23: 11. [講要]
29. 平田明由・小島 暁：DBCP 粒剤による桑園の土壌線虫防除について。群馬蚕試報 45: 21-30. [20kg/10 a 4 月処理が適当。ユミハリ、オオガタハリ、ナガハリセンチュウには効果なし。効果持続期間も推定。]
30. 細田隆治：マツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリにつく時期。23回日林関西支講要集：193-194. [謄写。蛹の時期。]
31. 一戸 稔：Nematode diseases of rice. In: Economic Nematology (Webster, J. M., ed.), Academic Press, London & New York, pp. 127-144. [イネに寄生する線虫の種類、被害、防除の総説。]
32. 一戸 稔：農薬の特性と効力：殺線虫剤。In: 農薬の科学と応用。日本植物防疫協会、東京、pp. 268-276. [殺線虫剤の種類、作用機構、効力、特性、適用範囲、製剤形態、注意事項。]
33. 一戸 稔：線虫類。In: 谷津・内田 動物分類名辞典 (内田 亨編)、中山書店、東京、pp. 205-223. [線虫 (動物寄生を含む) の分類体系の概説。代表的な属又は種については生態・形態等の短い記事を付す。]
34. 一戸 稔：北海道に発生したジャガイモシストセンチュウ。今月の農業 16巻12:

- 30-35. [和名、形態、分布、寄主植物、生活史、北海道での発生状況、防除法、法令による規制、アメリカ合衆国農務省による防除計画、問題の解析と今後の課題。]
35. 一戸 稔: 線虫学談話会てん末記, 日線虫研ニュース 1:4-5. [謄写. 昭和34~46.]
36. 池田 豊・荒武義信: 桑園における土壤線虫の発生消長とDBCP剤の施用効果. 九病虫研会報 18: 6-8. [地表下100 cmまで生息。薬剤の効果は線虫密度は1年半、桑の生育は2年目まで。]
37. 池田 豊・荒武義信: DBCP剤の連続施用と土壤線虫の発生消長および桑の生育. 九州蚕糸 3: 54. [ピンセンチュウ減少。]
38. 稲垣春郎・古山三郎・笠野秀雄・桜井 清: はっかの線虫に関する研究 第1報 はっかは場における線虫の発生と被害、ならびに生態. 北海道農芸彙報 100: 48-57. [線虫相、はっかの生育に及ぼす線虫の影響。ピンセンチュウ (*Paratylenchus curvatus*)・キタネグサレセンチュウの季節的消長、垂直分布、寄主範囲。]
39. 井上 巖: アフリカの線形虫類概観ならびにエチオピア産一種について. 動雑 81 (4) 422. [講要]
40. 井上 巖: The fauna of the lava caves around Mt. Fuji-san: VIII. Gordiacea. 科博研報 15(1) 167-169 [富士山の溶岩洞からカマドウマを寄主とすると推測されるハリガネムシの新種 *Gordius cavernarum* を記載。]
41. 石橋信義・近藤栄造・柏尾具俊: ネコブセンチュウ雌成虫蛋白の分離抽出に関する2、3の検討. 16回応動昆虫大会講要: 113. [講要]
42. 伊藤一雄: 特別研究「まつくいむしによるマツ類の枯損防止に関する研究」を終えて. 森林防疫 21(6) 109-112. [昭和43年から46年。研究の概観。この号は「松くい虫特別研究特集号」。]
43. 伊藤一雄: 材線虫によるマツ類の枯損: まつくい虫から線虫へ. 農林水産研究情報 16: 13-18. [研究の記録。材線虫発見からこの時点までの研究の概観、今後の問題点。]
44. 伊藤一雄: 恐るべきマツ類の材線虫病. グリーンエイジ 22巻2: 39-45. [材線虫、被害、マツノマダラカミキリの解説。]
45. 伊藤一雄: 最近問題になっているマツ類の材線虫について. 農業研究 19巻2: 36-41. [枯損の研究史、材線虫の発見、接種試験、媒介者、防止方法。]
46. 弥富喜三: 殺線虫剤の残留について. 日線虫研誌 2: 1-5. [総説。殺線虫剤の理化学的性質と毒性、臭素化合物・塩素化合物・その他の殺線虫剤の分解・残留。]
47. 要 司・青野信男・児玉政宏・相原次男・森 史郎: ハウス土壌に対するメチルブプロマイドの全面くん蒸効果について. 関東病虫研報 19: 53-54. [m²当たり50-75 g でネコブセンチュウとTMVに効果。]
48. 柏尾具俊・横尾多美男: Studies on the nemico-fauna of the mulberry plant field in Kyushu. III. On the life-history of pin nematode, *Paratylenchus aciculus* Brown, 1959. 佐賀大農彙 32: 57-61. [発育ステージ別の計測値。]
49. 柏尾具俊・横尾多美男: Studies on the nemico-fauna of the mulberry plant field in Kyushu. IV. On the host plant of pin nematode, *Paratylenchus aciculus* Brown, 1959. 佐賀大農彙 32: 63-66. [ダイズ、クワ、インゲン、アカクロバ、ニンジンで増殖。]
50. 加藤利之: ジャガイモシストセンチュウ「北海道」に新発生. 植物防疫 26(11) 442. [昭和47年7月に確認。北海道虻田郡真狩村及び留寿都村。]
51. 河瀬憲次: Resistance of peach rootstocks to the root-knot nematode (*Meloidogyne incognita* acrita (Chitwood) in Japan. 園試報 D 7: 1-11. [長野県の実生樹、寿星桃、米国で選抜された台木5品種に抵抗性。]

52. 川島嘉内：薬用人参におけるキタネグサレセンチュウの被害について。16回応動昆虫大会講要：117。〔講要〕
53. 岸 洋一・神永翔六：春季マツ枯損木から検出されたマツノザイセンチュウ。24日林関東支講要集：35。〔講要〕
54. 小林義明：キク連作にともなう生育障害の線虫学的研究 I。産地における発生実態と高温下湛水によるネグサレセンチュウの防除。16回応動昆虫大会講要：121。〔講要〕
55. 小林義明：連作障害はこの手で：線虫対策：キク連作の場合。農業技術研究 26巻5：45-46。〔ハウス密閉湛水の試験結果。〕
56. 小林義明・深沢永光・佐藤 清：ネグサレセンチュウ (*Pratylenchus fallax* Seinhorst, 1968)によるニンジンの黒変症状とその防除。静岡農試研報 17：21-30。
〔主要栽培地における線虫の発生状況、線虫の発消長、薬剤防除 (NCS、D-D、ネマホルン、クロルピクリン剤他)、耕種防除 (苦土石灰、CDU燐加安、FTE、キノックス、燐施用)。〕
57. 小玉孝司・中西喜徳・芳岡昭夫・田和綱司：イチゴ萎黄病に関する研究 第2報 イチゴ萎黄病防除に関する一考察。関西病虫研報 14：83-84。〔講要。有機物施用16処理。クロルピクリン、D-D施用が好成績。〕
58. 小木曾重文・弥富喜三・宗像 桂：植物成分の殺線虫作用について。16回応動昆虫大会講要：121。〔講要〕
59. 駒井功一郎・佐藤庄太郎：殺線虫剤DBCPによるジャガイモ塊茎の産地間差異 (殺線虫剤によるジャガイモ塊茎の褐変に関する研究 第2報)。農化 46(12) 607-612。〔北海道産は奈良、京都、福井産より褐変が弱く、緩慢。メークインはダンシャクより弱い褐変。ポリフェノールオキシダーゼ、セルラーゼの活性を比較。〕
60. 小室康雄：土壌センチュウで媒介されるウイルス病について。今月の農薬 16巻4：71-74。〔国内発生の病害の解説。〕
61. 近藤秀明・神永翔六・岸 洋一・斎藤勝清：県内におけるマツノザイセンチュウの分布。茨城林試業報 昭46：78-80。〔1971年夏から秋の調査。〕
62. 近藤鶴彦：サツマイモの品種がサツマイモネコブセンチュウの増殖に及ぼす影響。日線虫研誌 2：16-19。〔根こぶ指数の高い品種ほど線虫の発育が順調。〕
63. 近藤鶴彦：京都の原生林での土壌線虫相。日線虫研ニュース 1：5-6。〔増写。京都大学演習林 (京都府北桑田郡美山町芦生) のブナ林。〕
64. 近藤鶴彦・林 勇・穴沢 茂・山崎龍男・山本和多留・三枝敏郎：サツマイモにおけるサツマイモネコブセンチュウ寄生度の品種間差異。日線虫研誌 1：14-17。〔1943-53年の試験結果。ゴール指数による品種の階級分け。〕
65. 栗山尚志：トマト耐病性育種の現状と今後の方向 [1]。農及園 47(5) 713-716。
〔ネコブセンチュウ抵抗性を含む。〕
66. 真宮靖治：マツノザイセンチュウの接種によるクロマツおよびアカマツ幼令木の萎凋症状の進展と枯死。日線虫研誌 2：40-44。〔線虫接種に伴うマツの外見的、生理的変化、線虫数の変動。〕
67. 真宮靖治：マツノザイセンチュウ接種をうけたアカマツ、クロマツの異常と樹体内における線虫の分布。16回応動昆虫大会講要：118。〔講要〕
68. 真宮靖治：マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリ蟻室周辺における集中。24日林関東支講要集：30。〔講要〕
69. 真宮靖治：Pine wood nematode, *Bursaphelenchus lignicolus* Mamiya and Kiyohara, as a causal agent of pine wilting disease. Rev. Plant Protect. Res. 5：46-60。〔マツノザイセンチュウによるマツ枯損に関する研究レビュー。病徴、分布、接

種、伝播、寄生。]

70. 真宮靖治・遠田暢男: Transmission of *Bursaphelenchus lignicolus* (Nematoda: Aphelenchoididae) by *Monochamus alternatus* (Coleoptera: Cerambycidae). *Nematologica* 18(2) 159-162. [マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリによる伝播。カミキリ1頭当たり15,000頭の線虫耐久型幼虫をもつ。]
71. 真宮靖治・清原友也: Description of *Bursaphelenchus lignicolus* n.sp. (Nematoda: Aphelenchoididae) from pine wood and histopathology of nematode-infested trees. *Nematologica* 18(1) 120-124. [マツノザイセンチュウの新種記載。病原性にもふれる。本種は後に *B. xylophilus* (Steiner & Buher, 1934) Nickle, 1970のシノニムとされた (No. 81-109)。]
72. 真宮靖治・陳野好之・遠田暢男・小林亨夫・佐々木克彦: マツノザイセンチュウの接種によるアカマツ生立木の枯死。83回日林大会講要: 110-111. [講要]
73. 正宗 直: 大豆シストセンチュウのふ化促進物質について。化学 27(5) 452-453. [研究の端緒及び進展具合。]
74. 増田安弘: そ菜の生理に及ぼすネマトーダの影響 第3報 地温および土壤水分の組合せと寄生および被害について。農及園 47(9) 1329-1330. [キュウリのサツマイモネコブセンチュウ。]
75. 増田安弘: そ菜の生理に及ぼすネマトーダの影響 (第4報) 温度と寄生性について。園芸学会昭47春研究要旨: 218-219. [講要]
76. 増田安弘・知路勝久: そ菜の生理に及ぼすネマトーダの影響 第4報 温度と寄生性について。園学雑 41(3) 265-271. [46種の蔬菜を供試し、3温度段階でのキタネコブ、サツマイモネコブセンチュウの寄生性を見る。]
77. 松田正治: 苗木の根腐れ被害防除試験。愛媛林試業報 昭46: 71-98. [スギのネグサレセンチュウ、イシユクセンチュウへのNCS剤および堆肥施用効果。]
78. 松井弘之: ゴール肥大に伴うオーキシンおよびサイトカイニン様物質の活性化について。16回応動昆虫大会講要: 113. [講要]
79. 皆川 望・後藤 昭: 牧野等本邦未耕地の *Hemicriconemoides* 属線虫。16回応動昆虫大会講要: 119. [講要]
80. 峰尾一彦: 和歌山県南部のマツの異常とマツノザイセンチュウ。83回日林大会講要: 113; 83回日林論: 324-326. [枯損木からの線虫分離、線虫の接種試験、樹体内の線虫分布。]
81. 峰尾一彦・紺谷修治: 宮崎国有林におけるマツノザイセンチュウ調査。23回日林関西支講: 194-196. [講要。県全体に分布。]
82. 三井 康: 線虫捕食菌に及ぼす殺線虫剤の殺菌効果。日線虫研誌 1: 25-29. [殺菌又は抑制作用は $DBCP \approx EDB \approx \text{メチルプロマイド} < D-D < \text{クロルピクリン} \approx NCS$ の順に高くなる。処理後の捕食菌の活性を試験。]
83. 森本 桂: マツノマダラカミキリとマツノザイセンチュウの相互作用およびマツの枯損。32回昆虫学会講要: 5. [講要]
84. 森本 桂: マツの枯れる原因: 虫から線虫へ研究の発展。インセクトリウム 9(12) 280-283. [一般向解説。]
85. 森本 桂・岩崎 厚: マツノザイセンチュウ伝播者としてのマツノマダラカミキリの役割。日林誌 54(6) 177-183. [線虫伝播者の探索、マツノマダラカミキリの線虫保持率と保持数、耐久型幼虫のカミキリからの離脱、マツへの侵入経路。]
86. 森本 桂・岩崎 厚: マツノマダラカミキリによるマツノザイセンチュウの伝播。日林九支研論 25: 165-166. [No. 72-87を参照。]

87. 森本 桂・岩崎 厚：マツノザイセンチュウ伝播者の探索とマツ樹体内への侵入経路。83回日林大会講要：114； 83回日林論：326-327。[マツノザイセンチュウの伝播者の探索、保持線虫数、耐久型幼虫の虫体からの離脱、樹体内への侵入の経路。]
88. 森本勇馬・江崎昌弘・長瀬照彦：岐阜県下におけるポット苗根ぐされ被害実態調査。森林防疫 21(9) 190-194。[被害と寄生線虫との間に直接的な関連は見られず。]
89. 中西喜徳：タケ類に寄生する線虫 第1報。関西病虫研報 14: 106-107。[*Helicotylenchus californicus*, *Paratylenchus besollicianus*, *Rotylenchus* sp. の計測値・形態。]
90. 中國和年：Developmental retardation and morphological abnormalities observed in moulting larvae of the reniform nematode, *Rotylenchulus reniformis*. Appl. Ent. Zool. 7(4) 243-245。[近紫外線によるニセフクロセンチュウの脱皮・發育の阻害。]
91. 中國和年：ニセフクロセンチュウ幼虫の脱皮・發育に及ぼす可視光線の影響。16回応動昆虫大会講要：115。[講要]
92. 中國和年・山本敏夫・近藤鶴彦：温州ミカンの連作障害発現園における植物寄生線虫の季節的消長。日線虫研誌 2: 33-39。[トゲワ、オオガタハリ、チャネグサレ、ミカンネセンチュウの季節的密度変化及び令構成変化。ミカン樹の根の被害状況。]
93. 西沢 務：農薬の使用法：線虫。In: 農薬の科学と応用。日本植物防疫協会、東京、pp.728-737。[ネコブ、シスト、ネグサレ、その他の線虫（イネシンガレ、イチゴ、イチゴメセンチュウ）の種類と発生生態、薬剤防除の解説。]
94. 西沢 務・中西喜徳：収穫期の水稻根圏におけるイネネモグリセンチュウの分布。関東病虫研報 19: 141-142。[地表下80cmまでの分布。]
95. 西沢 務・大島康臣：4種作物の連・輪作圃場における線虫相の年次変化。16回応動昆虫大会講要：120。[講要]
96. 西沢 務・清水 啓・長島利仁：畑水稻におけるイネシストセンチュウの防除試験ならびにイネ根磨砕液のふ化促進作用。日線虫研誌 2: 27-32。[殺線虫剤（D-D、E DB、ランネート）、輪作（イネ、ダイズ、カンショ）による防除。根磨砕液のふ化への影響。]
97. 野淵 輝：マツノマダラカミキリ体内のマツノザイセンチュウ。83回日林大会講要：113； 83回日林論：323-324。[カミキリの線虫保持率 100%。保持部位を調査。]
98. 野崎光夫：大豆品種のダイズシストセンチュウに対する抵抗性と地域差。東北農業研究 13: 140-142。[宮城県色麻村と秋田県刈和野の線虫は、P I 90763 とネマシラズに対する寄生性に差。]
99. 小芦健良：ミナミネグサレセンチュウによるサトイモの被害。Delphax 16:2。[講要]
100. 越智鬼志夫・五十嵐 豊：マツノマダラカミキリの後食とマツの枯損の関係 I。各地の枯損木より脱出した成虫による後食実験。23回日林関西支講：183-185。[講要]
101. 小河誠司・蓮尾久光：マツの材線虫に関する試験 I。県内分布と接種試験。日林九支研論 25: 161-164。[福岡県内分布。線虫数を違えた接種試験。]
102. 荻原英雄：大豆育種。育種 22(1) 55-56。[育種情報。シストセンチュウ抵抗性に言及。]
103. 岡田利承：Hatching inhibitory factor in the cyst contents of the soybean cyst nematode, *Heterodera glycines* Ichinohe (Tylenchida: Heteroderidae). Appl. Ent. Zool. 7(3) 99-102。[シスト内の孵化阻害物質の存在を確認。]
104. 岡田利承：Hatching stimulant in the egg of the soybean cyst nematode, *Heterodera glycines* Ichinohe (Tylenchida: Heteroderidae). Appl. Ent. Zool.

- 7(4) 234-237. [卵内の孵化促進物質の物理的・化学的性質を検討。]
105. 岡田利承: ダイズシストセンチュウのふ化におよぼすフラビアン酸の影響. 農薬検報 12: 93-95. [0.2-3.0 M水溶液中で高い孵化率。ダイズ根の滲出液には劣る。]
106. 岡田利承: ダイズシストセンチュウのふ化におよぼす水素イオン濃度の影響. 16回応動昆虫大会講要: 115. [講要]
107. 岡田利承: 線虫防除剤一覧. 日線虫研誌 1: 36-42. [24薬剤の剤形、有効成分含量、適用線虫名、適用作物名、使用法又は希釈倍率、使用方法の一覧。]
108. 岡本好一・一戸 稔: モモ園の線虫相について. 16回応動昆虫大会講要: 119. [講要]
109. 大橋雄司・石川一清・前田初枝: 関東・甲信越地方のタバコ畑におけるネコブセンチュウの種類と分布調査. 葉たばこ研究 60: 80-84. [サツマイモネコブ、キタネコブ、ジャワネコブセンチュウを検出。分布を論ず。]
110. 大川 清・三枝敏郎: アカカノコユリの連作障害に関する研究 I. ネグサレセンチュウによる被害と防除法. 神奈川園試研報 20: 103-107. [キタネグサレ、クルマネグサレセンチュウ。D-D、クロロピクリン処理効果は1作だけ。サトイモ、ラッカセイによる密度低下。]
111. 大川 清・三枝敏郎: アカカノコユリの連作障害に関する研究: ネグサレセンチュウによる被害について. 園芸学会昭47春研究要旨: 310-311. [講要]
112. 大島康臣: 学名の構成法. 日線虫研誌 1: 30-35. [解説記事。]
113. 三枝敏郎: クキセンチュウのスイセンにおける寄生部位、ならびに、ベールマン法による検出法. 16回応動昆虫大会講要: 117. [講要]
114. 三枝敏郎・気賀沢和男・湯原 巖・堤 正明・稲垣春郎・桜井義郎・山田英一・高倉重義・一戸 稔: 北海道真狩・留寿都地区におけるジャガイモシストセンチュウの発生分布調査: 1972年8月の植物検診による調査. 日線虫研誌 2: 45-46. [調査圃場の内10.9%に発生。]
115. 三枝敏郎・山本洋祐・葭原敏夫: 盛夏におけるスイセンのセンチュウ *Ditylenchus dipsaci* (Kuhn) Filipjev の低温処理による検出. 植防研報 10: 1-7. [試料の湿度34.4% 5°Cで2-3週間の保存により、かなりの線虫検出が可能。]
116. 三枝敏郎・白井 正・南 国衛・矢島 馨・飯島尚道・水田隼人: 北海道後志支庁管内4町村にジャガイモシストセンチュウ発生. 横浜植防ニュース 445: 1-4. [発見の経緯、防疫所と道による現地調査、発生確認の地域、応急の対策、発生確認後の主な会議。この号は「ジャガイモシストセンチュウ特集」。他に二編。井上 亨: ジャガイモシストセンチュウに対する対策決定をめぐって p.5; 三枝敏郎: ジャガイモシストセンチュウ類別にあたっての知識 p. 6-7。]
117. 斎藤正隆: Breeding of soybean in Japan. Trop. Agr. Res. Ser., 6: 43-54. [シストセンチュウ抵抗性育種を含む。]
118. 坂本与市・菊池正己・長井 勉: 牧草地における土壌動物相. 北日本病虫研報 23: 139. [草種別、土質別、施肥別の線虫、ミミズ、昆虫類の検出数の比較。]
119. 佐野善一・後藤 昭: 線虫の薬剤感受性. 日線虫研誌 2: 6-11. [総説。実験法(密閉容器内線虫土壌燻蒸法、密閉容器内線虫燻蒸法、薬液浸漬法、卵態の実験法)、線虫の種類・发育ステージ、生理的状态と感受性、殺線虫剤の作用機構。]
120. 佐野善一・後藤 昭: 線虫の薬剤感受性実験法としての薬液浸漬法の検討. 九病虫研会報 18: 1-6. [Mojeの方法を応用。フィルターでの線虫透過性、濃度・殺虫率関係及びその再現性、浸漬温度・時間と殺虫率。サツマイモネコブセンチュウとEDB剤を供試。]

121. 佐々木 寛・佐藤豊八：桐を加害する土壤線虫の防除試験：桐栽培地における実態調査の一例。福島林試報 4: 69-75. [ネグサレ、ネコブ、ユミハリセンチュウの深度別検出数。]
122. 司馬直文・吉野治男・小沢慎吾：ネコブセン虫防除と熔成燐肥施用による桑園能率向上試験。東京蚕糸指要報 6: 29-35. [謄写。DBC P剤、熔燐の施用により植付初年目の総糸長は無処理の 1.9倍。]
123. 清水 啓：イネシストセンチュウ接種時期の違いが水稻の生育ならびに収量に及ぼす影響。16回応動昆虫大会講要：114. [講要]
124. 下川利之：林業苗木根ぐされ病防除試験。岡山林試報 12: 229-251. [スギ、ヒノキ苗木のキタネグサレセンチュウ。線虫の寄生密度別被害解析、薬剤防除（NCS、クロルピクリン、ピオメート、テラクラP）にともなう2年生の山行得苗。]
125. 鈴木省三・佐藤豊八：苗木根腐れ被害防除試験。福島林試報 4: 76-80. [NCS、DC剤施用と施肥によるネグサレセンチュウ防除。]
126. 鈴木達彦：畑作物の連作障害と無菌栽培の将来 [2]。農及園 47(6) 835-840. [連作障害と土壤微生物に関する研究のまとめ。第1報は毒素説関係。]
127. 鈴木達彦：畑作物の連作障害と無菌栽培の将来 [3]。農及園 47(7) 972-978. [前報の続き。]
128. 忠政 亨：マツノザイセンチュウの調査（予備調査）。岡山林試報 12: 291-293. [県内の検出状況。]
129. 高木一夫：改植時のチャネグサレセンチュウの簡易検診法。日線虫研ニュース 1: 6. [謄写。要防除水準の生物検定法。]
130. 高木信一：線虫個体群生態抄論。日線虫研誌 1: 1-8. [総説。土壤中（根などを含む）の所在、線虫個体群の動態論、線虫の個体数の変動要因（主として線虫そのものによる変動、生物的要因、無生物的要因）。]
131. 高倉重義：イネネモグリセンチュウの生態と被害について。北農 39巻4: 29-45. [北海道における分布、耐寒性、土壤条件と線虫密度、発消生長、寄主植物、品種間差異、被害。]
132. 竹股知久・坂井健吉：ニュージーランドからの導入かんしょの特性概要。育種 22(6) 346-347. [育種通信。ネコブセンチュウ抵抗性は強から弱まで。]
133. 竹島隆二：滋賀県における温室バラの栽培と技術上の問題点。農業技術 27(7) 304-307. [連作障害対策として線虫防除にふれる。]
134. 龍野得三：大型ハウス栽培：とくに培地に関する覚書：ハウス環境の制御を考える。畑地農業 161: 29-33. [連作障害対策の必要性。]
135. 樋田幸夫：メキシカンマリーゴールドのクワ寄生線虫殺虫効果。日線虫研誌 1: 18-21. [ネコブ、ピン、オオガタハリセンチュウを供試。植物体磨砕液中での線虫生存率、クワ実生との混植による線虫個体数への影響。]
136. 樋田幸夫：クワ寄生線虫のメキシカンマリーゴールド (*Tagetes minuta*) 利用による防除の検討。16回応動昆虫大会講要：122. [講要]
137. 徳重陽山：松くい虫研究の脱皮：解決の糸口がみつかった松くい虫問題。暖帯林 308: 37-45. [諸説の紹介、材線虫の解説。]
138. 都丸敬一：Pesticides to control diseases and insect pests of tobacco. Jap. Pesticide Inform. 13: 27-31. [土壤燻蒸剤及び殺線虫剤の適用病害虫・使用状況の解説を含む。]
139. 都丸敬一・平林征四郎：病害虫発生実体調査結果について（その1）病害集計結果。葉たばこ研究 58: 86-92. [線虫病を含む。]

140. 都丸敬一・宇田川 晃：わが国のタバコに発生するウイルスの種類・系統と判別法。植物防疫 26(6) 251-256, 1 pl. [*Trichodorus minor* によって伝播されるタバコ茎えそウイルス (TRV) を含む。]
141. 堤 正明：インゲン根浸出液の土壌施用によるダイズシストセンチュウの密度減少について。16回応動昆大会講要：122。[講要]
142. 上林 譲・天野 隆・中西 勇：黒点米に関する研究 第2報 発生環境。愛知農総試研報 A 4: 94-104。[気象条件 (高温、遮光で含有率上昇)、土壌の乾湿、栄養条件 (多肥で多発)。]
143. 上林 譲・天野 隆・中西 勇：黒点米に関する研究 第3報 発生環境。16回応動昆大会講要：114。[講要]
144. 上林 譲・今村四郎：イネシガラセンチュウの本田における発生例。日線虫研誌 1: 22-24。[本田における伝播の顕著な事例。]
145. 上住 泰・中西喜徳：イチゴ萎黄病に研究研究 第1報 イチゴに寄生する *Tylenchorhynchus* sp. について。関西病虫研報 14: 81-83。[講要。本病に関与している可能性大。]
146. 後木利三・犬塚 正：品種および育苗方法に関する試験 II。菜豆。北海道十勝農試資料 4: 52-63。[ダイズシストセンチュウにより被害 (品種間差異) を含む。]
147. 八木田秀幸：桑園の *Longidorus martini* の卵・幼虫各ステージの形態ならびに雄成虫について。日蚕開東講要 23: 9。[講要]
148. 八木田秀幸・小室康雄：クワ輪紋ウイルスの *Longidorus martini* Merny による伝播。日植病報 38(4) 275-283。[線虫による伝播を確認。]
149. 山田英一・高倉重義・手塚 浩：On the occurrence of the potato cyst nematode, *Heterodera rostochiensis* Wollenweber in Hokkaido, Japan. 日線虫研誌 2: 12-15。[発生地の概要、被害、線虫の形態。]
150. 山川邦夫：イギリス、フランスおよびオランダにおける野菜の耐病性育種。育雑 22(5) 299-301。[育種通信。トマトのジャガイモシストセンチュウ (イギリス)、ネコブセンチュウ (フランス) 抵抗性を含む。]
151. 山本公志・奈須田和彦：クリ立枯症 (仮称) の治療の試み。16回応動昆大会講要：120。[講要]
152. 山本敏夫・中野 直・中野 岳：三重県におけるキクのネグサレセンチュウ発生実態と対策について。関西病虫研報 14: 106。[*Pratylenchus fallax*。発生実態、防除 (湛水、薬剤)。]
153. 安永秀樹・近藤栄造・横尾多美男：佐賀地方における捕食性の線虫類について。九病虫研会報 18: 144。[講要]
154. 横尾多美男：植物のセンチュウ類 (2) 防除の実際。誠文堂新光社、東京、195 pp。[第1章 園芸植物の種類とおもな寄生センチュウ類。第2章 園芸植物に寄生するおもなセンチュウ類の概要。第3章 園芸植物に寄生するおもな種類。線虫の種類別に形態、生態を記述。]
155. 横尾多美男・白浜二生・今泉正己：イネネモグリセンチュウ類に対する殺線虫剤 (DBCP、DCIP) の施用効果について。佐賀大農彙 32: 1-7。[両薬剤の効果に差なし。]
156. 葭原敏夫：シストを多量に得るための一分離法。十勝病害虫研会報 6: 3-4。[講要]
157. 吉村大三郎・吉田桂輔・横山佐太正：イネ稚苗移植栽培の育苗箱における心枯線虫病防除法について。九病虫研会報 18: 130-132。[ダイアジノン粒剤 (3%)、播種直後

- の箱当たり 2 g 施用に実用性。]
158. 湯原 巖: ダイズシストセンチュウ卵の超音波および電気刺激に対するふ化反応. 応動昆 16(3): 156-157. [両方とも高い孵化促進効果。]
 159. 湯原 巖: 2、3の物理的疎激がダイズシストセンチュウ卵に及ぼす影響. 16回応動昆大会講要: 116. [講要]
 160. 湯原 巖: てん菜寄生キタネコブセンチュウの密度に及ぼす2、3有機物粉末施用の影響. てん研報 補13: 201-205. [クロタリリア・スペクタピリス、マリーゴールド野生種、ケンタッキーブルーグラス、魚類臓器の乾燥粉末。施用後の期間が長くなると線虫密度減少。]
 161. 陳野好之・五十嵐 豊: 四国の国有林苗畑における植物寄生線虫の分布. 林試研報 246: 11-20. [スギ、ヒノキ、クロマツの苗畑からミナミネグサレ、キタネグサレ、ユミハリ、ラセンセンチュウ等を検出。線虫の種類と生息密度、樹種。]
 162. Anon. (農林省九州農試編): かんしょの品種ならびに系統の特性. 九州農試研究資料 43: 205 pp. [ネグサレセンチュウ抵抗性程度 p. 148-152. ネコブセンチュウ抵抗性程度 p. 153-155.]
 163. Anon. (北海道農試作物第二部特用作物第2研究室): 洋種はっかの品質向上に関する研究: ペパーミント種の連作障害. 北海道農試年報 昭45: 69-71. [ピン、ネグサレセンチュウは多発しないが、ネコブセンチュウが4年目から急増。]
 164. Anon. (横浜植防): 北海道後志支庁管内4町村にジャガイモシストセンチュウ発生. 横浜植防ニュース 445: 1-4. [発生の経緯、現地調査の概要及びその結果、対策。]

昭和48年 (1973)

1. 安部 浩: キタネグサレセンチュウを主としたボタン根寄生線虫の生態と防除に関する研究. 島根農試研報 11: 74-99. [被害(苗木生育状況と線虫密度、部位別線虫数と被害症状発現)、寄生線虫の種類(8種)、生態(発生地、圃場内分布、発消消長)、防除(圃場の薬剤処理、苗木の生育中処理、苗木の温湯処理)。]
2. 安部 浩: 島根県の砂丘地ブドウに寄生する数種線虫の密度消長について. 17回応動昆大会講要: 140. [講要]
3. 青木淳一: 土壤動物学: 分類・生態・環境との関係を中心として. 北隆館、東京、13+814 pp. [土壤動物学の教科書。線虫綱(土壤動物各群の解説) p. 85-98. 他に生態学的記述中に線虫関連事項。]
4. 青木幸夫: 堆肥施用と桑園土壌線虫相の関係. 日蚕関東講要 24: 10. [講要]
5. 浅野明文・山下信一・石橋信義・横尾多美男: イチゴメセンチュウの生態と防除 2. 数種殺虫剤の防除効果. 九病虫研会報 19: 130-131. [ランナーの薬液浸漬、苗床・定植後の薬剤散布。]
6. 近岡一郎: 最近各地で話題となっているイチゴの「すくみ」とネグサレセンチュウとの関係. 今月の農業 17巻10: 62-65. [被害、症状、防除(DBCP剤)。]
7. 千代西尾伊彦・奥田純一郎: 砂丘畑のナガイモにおける黒あざの発生におよぼす殺線虫剤の影響について. 鳥取農試研報 13: 29-52. [クロルピクリン、DCIP、NCS、D-D、EDB、DBCP剤では黒あざ増加。テラクアーP、N3-Gは増加せず。]
8. 堂園安生・清原友也・橋本平一: マツ種類別にみたマツノザイセンチュウの樹体内移動. 日林九支研論 26: 183. [線虫感受性のマツは抵抗性に比べ移動大。]

9. 遠田暢男：マツノマダラカミキリの後食がマツの枯死におよぼす影響 II. 9年生および20年生クロマツの摂食試験. 84回日林大会講要: 106; 84回日林論: 319-321.
[線虫を保持するカミキリだけがマツを枯らす。]
10. 遠田暢男：マツノマダラカミキリ成虫の部位別線虫保有数. 25日林関東支講要集: 16. [講要]
11. 遠田暢男：マツノマダラカミキリ成虫体からのマツノザイセンチュウの離脱経路. 昆虫学会関東支講要: [未見. 講要。]
12. 藤本 清：水田線虫特殊調査成績. 農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 105-109. [兵庫県. イネネモグリセンチュウの発消長、水稻以外の作物への寄生性、温度・乾燥に対する適応性、県内分布、水稻の収量におよぼす影響、殺線虫剤による防除。]
13. Goswami, B. K. & Raychaudhuri, S. P. : Host-parasite relationship of tobacco and root-knot nematode, *Meloidogyne javanica* (Treub) Chitwood, influenced by tobacco mosaic virus infection. 日植病報 39(2) 99-102. [タバコのTMV感染によりジャワネコブセンチュウの寄生増加。]
14. 後藤 昭：各種立地環境における植物寄生性線虫属の分布. Edaphologia 8:10-16. [謄写. 属別の検出例を主とする。]
15. 後藤 昭・佐野善一・皆川 望：有効積算温度によるサツマイモネコブセンチュウの侵入時期別発生予察. 九病虫研会報 19: 124-127. [発育零点を12°C、1世代所要有効積算温度を410日度と推定。]
16. 後藤三千代：イネネモグリセンチュウの生態学的研究 I. 水稻節位根と線虫寄生様式との関係について. 北日本病虫研報 24: 1-5. [*H. imamuri*の令期別の寄生部位、稲根中の還元糖含量の節位及び生育時期別の変化。]
17. 後藤三千代：庄内地方におけるイネネモグリセンチュウ *Hirschmanniella imamuri* S.A.Sherと *H. oryzae* S.A.Sherの生態学的研究 第3報 稲根からの線虫分離要因について. 山形農林学会報 30: 20-27. [兩種のベルマン法による分離時の温度、時間、分離前の根の切断処理の有無等を比較。]
18. 後藤三千代：イネネモグリセンチュウ (*H. imamuri*) の水稻根への侵入について. 17回応動昆大会講要: 128. [講要]
19. 萩原幸弘：マツ類の材線虫病によるマツ立枯予防：適期を予察する場合の留意点. 84回日林大会講要: 112; 84回日林論: 336-338. [カミキリの羽化時期の調査。]
20. 萩原幸弘・中島康博・小河誠司：マツ類の材線虫病によるマツ立枯れ防除. 福岡林試研究資料 2: 45-69. [MPP、MEP散布に防除効果を認めた。p. 60-63にマツ枯損関係の文献集(140編)。]
21. 橋本平一：マツノザイセンチュウの樹体内移行(II). 日林九支研論 26:187-188. [「まず接種枝付近の幹が異常となり、その後線虫が先行して分散し、地際付近に集中した時点で全身に異常がおこる」]
22. 橋本平一・堂園安生：マツ丸太中における材線虫の増殖. 日林九支研論 26: 185-186. [条件によっては低密度でも速やかに増殖。]
23. 橋本平一・清原友也：マツノザイセンチュウの樹体内移行(III). 84回日林大会講要: 110; 84回日林論: 330-332. [高密度の接種時に大きな移動。]
24. 橋本平一・清原友也・堂園安生：マツの健全木中における材線虫生息の可能性. 日林九支研論 26: 189-190. [線虫の検出されない異常木もあった。]
25. 早坂義雄・小原憲由：土壌線虫の防除に関する試験. 宮城林試業務報 昭47: 80-92. [スギのネグサレセンチュウにマリーゴールド・薬剤。]
26. 林 勇：温室バラのセンチュウに関する試験 第3報 殺線虫剤の立毛中処理とそ

- の効果. 関東病虫研報 20: 157-158. [ネグサレ、ネコブセンチュウにDBCP剤。]
27. 林 勇・森 君彦・神山克己: 温室カーネーション、バラの土壌消毒栽培における施肥法改善試験. 神奈川園試研報 21: 103-111. [主に窒素施肥の改善。土壌消毒前後の線虫調査を含む。]
28. 日岡登治・大谷広之: イネネモグリセンチュウに関する調査成績, 農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 76-92. [滋賀県。県内の分布、発消消長、被害解析。]
29. 平野和弥: 線虫と他の病原微生物とによる複合病の諸問題. 日線虫研誌 3: 1-8. [総説。複合病と関連病害、既往の研究(線虫と菌類病・細菌病・ウイルス病)、複合病における混合感染の問題点。]
30. 平野和弥: キュウリ苗立枯病に対するネコブセンチュウの関連. 日植病報 39(3) 198. [講要]
31. 平野和弥: キュウリ立枯病とネコブセンチュウ. 今月の農薬 17巻9: 54-58. [線虫の関連機構、ベノミル、DAPA、PCNB、メソミル、DBCP、D-D、NCS、クロルピクリン剤施用の防除効果。]
32. 平田明由: DBCP粒剤の桑園土壌線虫への選択的影響. 17回応動昆大会講要: 144. [講要]
33. 星野三男: 水田線虫特殊調査結果の概要. 農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 36-39. [栃木県における水田線虫の種類別分布、発消消長、冬期間の水田土壌管理条件・水田の休耕・転作と線虫の密度変動。]
34. 細田隆治: マツノザイセンチュウとその近縁種 (*Bursaphelenchus* sp. No.5) の比較試験. 24日林関西支講: 177-180. [接種試験。]
35. 一戸 稔: ジャガイモシストセンチュウの生態. 植物防疫 27(2) 73-76. [形態、分布、生態(シストの形成、寄主範囲、生活史、症状、検診法、孵化促進物質)、発生動態、抵抗性ジャガイモ品種とバソタイプ。]
36. 一戸 稔: Nematodes and their control in Japan. Jap. Pesticide Inform. 14: 11-18. [日本の線虫および線虫問題のレビュー。]
37. 一戸 稔: ジャガイモシストセンチュウの発生と予防. 技術と普及 10巻12: 93. [農業技術情報。]
38. 一戸 稔・三井 康・岡本好一・関谷宏三・鈴木勝征・横沢菱三: モモ根圏土壌における数種線虫の立体的分布. 17回応動昆大会講要: 139. [講要]
39. 池永和夫: 水田線虫の検診方法確立に関する特殊調査. 農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 127-146. [長崎県。県内分布、水稻主要品種に対する寄生性、発消消長、冬季休閑期における発消消長。]
40. 稲垣春郎: ハッカ地下茎黒腐病の発病におよぼすピンセンチュウと土壌温度の影響. 日植病報 39(2) 149. [講要]
41. 稲垣春郎・気賀沢和男: Discovery of the potato cyst nematode, *Heterodera rostochiensis* Wollenweber, 1932, (Tylenchida: Heteroderidae) from Peru guano. Appl. Ent. Zool. 8(2) 97-102. [日本に輸入されたペルーグアノからジャガイモシストセンチュウの生きたシストを発見。計測値、接種試験結果を示す。北海道農試場報 9: 1-3, 1973 にこの問題に関する紹介記事。]
42. 稲垣春郎・気賀沢和男・堀 正明: 圃場におけるジャガイモシストセンチュウの寄生によるジャガイモの被害とその症状. 日線虫研誌 3: 25-29. [症状の進展過程、根辺土壌中のシスト密度とジャガイモの生育・収量の関係(負の相関)。]
43. 稲垣春郎・桜井 清・古山三郎・笠野秀雄: はっかの線虫に関する研究 第2報 はっかの線虫ならびに地下茎黒腐病の防除. 北海道農試研報 104: 131-148. [ピンセン

- チュウの関連性、種根処理による線虫の防除（水洗、DBCP、VC-13水溶液浸漬）、土壌燻蒸（D-D、EDB、DBCP、クロルピクリン、D-D・PCNB、PCNB）、はっか品種の線虫抵抗性。]
44. 稲垣春郎・堤 正明・気賀沢和男：ジャガイモシストセンチュウに関する研究：ふ化、侵入、繁殖におよぼす温度の影響。17回応動昆虫大会講要：133。[講要]
45. 稲生 稔：イネシガラセンチュウの多発田と田植期の感染。茨城農試研報 14：47-58。[発生調査（年次別発生、灌漑水中・水路・水田での線虫寄生、雑草・野外越冬調査）、水による感染（田植後における線虫の寄生、罹病苗からの線虫の游出、圃場内における感染、水中における生存期間）、目黒米発生（線虫寄生と目黒米発生）、防除（畑苗代・植付時の粒剤散布）。]
46. 稲生 稔：茨城県における斑点米の発生について。関東病虫研報 20：107。[目黒米は平坦地に多い。籾内からイネシガラセンチュウを分離。生息密度も高い。]
47. 井上 平：春秋二期作ジャガイモにおける連作に伴うネコブセンチュウの増殖と減収。17回応動昆虫大会講要：135。[講要]
48. 井上 平：春秋二期作ジャガイモのネコブセンチュウの被害 II。Delphax 17：3。[講要]
49. 井上 巖：ハリガネムシの生活。インセクトリウム 10(4) 76-80。[*Chordodes japonensis*, *C. fukuui* の生活史。]
50. 石橋信義・柏尾具俊・横尾多美男：ピンセンチュウ (*Gracilacus aciculus*) における口針の退化と再形成 2。寄主植物根分泌物の脱皮促進効果。17回応動昆虫大会講要：151。[講要]
51. 石橋信義・近藤栄造・村岡 実・横尾多美男：Ecological significance of dormancy in plant parasitic nematodes. I. Ecological difference between eggs in gelatinous matrix and cyst of *Heterodera glycines* Ichinohe (Tylenchida: Heteroderidae). Appl. Ent. Zool. 8(2) 53-63。[EDB剤、温度 (-10 ~ +25 °C) 処理をした褐色シスト・黄白色シスト・卵嚢からの游出幼虫の植物体への侵入の比較。]
52. 石川元一・黒田恭久：ハウス内キュウリのネコブセンチュウ防除。関東病虫研報 20：152。[D-D、EDB、ネマブロン、ソイルメート剤処理。]
53. 伊戸泰博：The effects of nematode feeding on the predatory efficiency for house fly eggs and reproduction rate of *Macrocheles muscaedomesticae* (Acarina: Mesostigmata)。衛動 23(3) 209-213。[ハエ飼育培地中での、ハエダニによるイエバエ卵（若令幼虫を含む）捕食効果に、線虫 *Rhabditis* sp. の給餌量が影響。]
54. 伊藤一雄：新特別研究「マツ類の材線虫防除に関する研究」の発足にあたって。森林防疫 22(6) 131-132。[研究計画の概要。]
55. 伊藤喜隆・西沢 務：ゴボウにおけるネグサレセンチュウ防除効果。関東病虫研報 20：154-156。[ネマクロベン、クロルピクリン、EDB剤を推奨。]
56. 岩橋哲彦：水田線虫特殊調査成績。農作物有害動物発生予察特別報告 25：147-165。[宮崎県におけるイネネモグリセンチュウ2種の県内分布、発生消長、作付体系別圃場における発生消長、水及び肥培管理と線虫寄生、線虫寄生と地上部病害との関連。]
57. 岩木満朗・小室康雄：スイセンから分離された *Arabidopsis mosaic virus* の *Xiphinema bakeri* による伝搬。日植病報 39(3) 215。[講要]
58. 岩瀬 恵・小阪和彦・小野 洋：殺線虫剤の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ駆除試験（予報）。24日林関西支講：181-183。[HLB 0.1% 油剤。]
59. 神納 浄・坂本信一・後藤 宣・山根伸夫・西田典行：ハクサイ根くびれ病の発生と防除（第2報）。関西病虫研報 15：92-96。[殺線虫剤が間接的に発病を助長。]

60. 神永翔六・岸 洋一：水戸周辺のマツノマツノタマバエとマツノザイセンチュウによる集団枯損。森林防疫 22(2) 61-63. [材線虫は茨城県内では水戸市周辺のみで検出。]
61. 金子晃三・大林延夫・戸塚 武・近岡一郎：ダイコンのキタネグサレセンチュウに対するマリーゴールドの効果、とくにスイカ間作としての導入法。関東病虫研報 20: 153. [マリーゴールドの栽植間隔・品種と線虫密度低下効果。]
62. 柏尾具俊・石橋信義・横尾多美男：ピンセンチュウ(*Gracilacus aciculus* (Brown, 1959) Raski, 1962)における口針の退化と再形成 1. 形態学的観察。17回応動昆虫大会講要: 150. [講要]
63. 勝野留雄：大型ハウスでの土壌消毒：その消毒方法をさぐってみると。農業技術研究 27巻8: 52-54. [線虫記述なし。薬剤・蒸気消毒の方法。]
64. 川端源一郎・今村和夫：水田線虫の検診方法に関する特殊調査(44~46年総括)。農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 46-56. [福島県におけるイネネモグリセンチュウ2種の発消長、寄生と被害、寄主植物、県内の発生分布。]
65. 川島嘉内：イネネモグリセンチュウの検診法の確立に関する試験。農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 27-36. [福島県。幼虫期の令期、発消長、被害解析。]
66. 気賀沢和男・稲垣春郎・堤 正明：ジャガイモシストセンチュウに関する研究：シストの密度分布と被害。17回応動昆虫大会講要: 134. [講要]
67. 岸 洋一・海老根翔六：マツノザイセンチュウの県内分布調査。茨城林試業報 昭47: 46-48. [昭和47年4月から48年3月の調査。]
68. 北沢右三：土壌動物生態学(生態学講座 14)。共立出版、東京、5+154+12 pp. [土壌動物の生態全般を扱う。IBPの成果の引用中等に線虫関連記事。]
69. 北沢右三：米国北西部の針葉樹林の土壌動物調査。Edaphologia 8: 49-51. [講要。線虫を含む。]
70. 清原友也：マツノザイセンチュウを接種したクロマツ苗の発病におよぼす温度の影響。84回日林大会講要: 111; 84回日林論: 334-335. [30, 25°Cでは発病・枯死。20, 15°Cでは線虫の増殖・枯死は少。]
71. 清原友也：マツノザイセンチュウを接種クロマツ苗の樹脂量および蒸散量の変化。日林九支研論 26: 195-196. [両方とも低下。]
72. 清原友也・堂園安生・橋本平一・小野 馨：マツノザイセンチュウの接種密度と加害力。日林九支研論 26: 191-192. [低密度でも加害能力を持つ。]
73. 清原友也・橋本平一・堂園安生・小野 馨：マツノザイセンチュウの垂直分布：雲仙岳と阿蘇・九重山系での調査。日林九支研論 26: 193-194. [前者では標高720 m以下、後者では280 m以下で検出。*Cryptaphelenchus*属も検出。]
74. 小林亨夫・佐々木克彦・真宮靖治：マツノザイセンチュウの生活環と関連する糸状菌とその培養上での線虫の増殖。84回日林大会講要: 111. [講要]
75. 小林義明：水田における*Hirschmanniella*属線虫の生態ならびにイネの被害に関する研究(第1報) 発育令期の判別ならびに季節的発消長。静岡農試研報 18: 10-18. [2種の令期判別法と令期別の発消長。]
76. 小林義明：水田地帯ハウス土壌の湛水処理と土壌センチュウ防除効果。今月の農業 17巻12: 36-39. [ネグサレ、ネコブセンチュウに対する効果。温度、日数との関係。]
77. 小林義明：キクの連作障害に関与するネグサレセンチュウに関する研究 I. 静岡県内のキク産地における、連作に伴う生育障害およびネグサレセンチュウの発生実態。日線虫研誌 3: 19-24. [線虫密度とキクの生育、症状、湛水と線虫密度変化。]
78. 小林義明：高温下の湛水によるネコブセンチュウ*Meloidogyne* sp. の防除。17回応動昆虫大会講要: 149. [講要]

79. 小林義明：ハガレセンチュウによるキクのい縮症状と対策。植物防疫 27(4) 135-138. [病徴、発生状況、線虫の形態、発生原因、病原性、寄生部位、防除法（サリチオン、メソミル散布）。]
80. 小林義明：苗床における線虫の防除。農業技術研究 27巻12: 116. [薬剤防除。]
81. 小林義明・杉野多万司：水田線虫に関する特殊調査成績。農作物有害動物発生予察特別報告 25: 57-75. [静岡県。イネネモグリセンチュウ2種の種別・令期別の判別法、発生消長、*H. oryzae* に寄生する胞子虫、被害、調査方法。]
82. 児島司忠：ジャガイモシストセンチュウの発生と防除対策。植物防疫 27(2) 69-72. [発生確認の経過、緊急発生調査、今後の防除対策。]
83. 近藤栄造・石橋信義・横尾多美男：ダイズシストセンチュウのシスト壁・卵殻および幼虫皮膚の構造。17回応動昆虫大会講要: 131. [講要]
84. 真部辰夫：除草剤の森林生態系におよぼす影響とその調査方法。農林水産研究情報 29: 27-28. [線虫類の個体数変動は除草剤処理の有無と無関係。]
85. 真宮靖治：マツを枯らす線虫マツノザイセンチュウ。林業技術 378: 1-4. [第12回藤岡光長賞受賞業績紹介。]
86. 真宮靖治：マツノザイセンチュウの生活史。17回応動昆虫大会講要: 146. [講要]
87. 真宮靖治・遠田暢男：マツノザイセンチュウの近似種、ニセマツノザイセンチュウ（仮称）。84回日林大会講要: 109-110; 84回日林論: 328-330. [形態・加害性の比較、伝播。]
88. 真宮靖治・小林亨夫・陳野好之・遠田暢男・佐々木克彦：マツノザイセンチュウによるアカマツの自然感染、発病の経過。84回日林大会講要: 110-111; 84回日林論: 332-334. [野外における異常木・枯死木の発生経過、樹体内の線虫数等。]
89. 真野 豊：昭和48年の発生にかんがみ注意すべき病害虫。北農 41巻4: 12-20. [トマト、キュウリ（ハウス栽培）にサツマイモネコブセンチュウが北海道で新発生。]
90. 増田安弘：そ菜の生理におよぼすネマトーダの影響（第5報）寄生と有機物（堆肥）との関係における介在的支配要因。園芸学会昭48春研究要旨: 246-247. [講要]
91. 松田 明・下長根 鴻・尾崎克彦・渡辺文吉郎：畑水稻および陸稲の連作害と対策に関する研究 第1報 連作害の症状と発生条件に関する研究。茨城農試研報 14: 1-19. [シストセンチュウ、*Fusarium*菌の単独より、同時感染時に症状が出やすい。]
92. 松井弘之・中川昌一：ネコブセンチュウによるゴール形成機構に関する研究（第1報）サツマイモネコブセンチュウの接種によりホーセンカの茎に形成されたゴールの形態学的研究。園学雑 42(3) 221-227. [接種後の組織学的変化。]
93. 松本久二：除草剤散布と森林土壌中の線虫。Edaphologia 7: 1-8. [謄写。塩素酸ソーダ散布後のベルマン法による分離線虫数の変化。除草剤の土壌線虫への影響は不明。]
94. 松本益美・吉岡幸治郎・隅田俊三・近藤武由・高橋 晋・南条治彦・真鍋義夫：愛媛県内主産地におけるサトイモ連作障害の発生実態。四国植防 8: 57-63. [症状、被害、収量と連・輪作との関係。]
95. 松浦 誠：知っておきたい果樹の病害虫：線虫。和歌山の果樹 24巻3: 38-42. [果樹の線虫の種類、被害、連作障害、線虫の寿命、生活史、天敵、防除。]
96. 御子柴 穆：水田における土壌燻蒸剤処理の土壌肥料的効果とその注意点。農及園 48(7) 931-934. [燻蒸剤の種類と処理方法、水稻の生育収量に及ぼす効果、土壌中の有機態窒素の無機化促進と硝化抑制に及ぼす影響、土壌の理化学性に及ぼす効果、燻蒸処理の残効果。]
97. 皆川 望：土壌中における線虫の微細分布。17回応動昆虫大会講要: 152. [講要]
98. 峰尾一彦：マツノザイセンチュウに関する研究：マツノザイセンチュウの増殖にお

- よぼす温度の影響。24日林関西支講：167-169。[25, 30°Cでよく増殖。]
99. 峰尾一彦・紺谷修治：マツノザイセンチュウによるフランスカイガンショウの被害。森林防疫 22(10) 227-229。[林業試験場関西支場の見本林。]
100. 峰尾一彦・和田信也：マツノザイセンチュウに関する研究：マツノザイセンチュウ検出と温度との関係。24日林関西支講：170-172。[20°Cで最も多。]
101. 三井 康：線虫捕食菌の生態：検出方法および分布。土と微生物 14: 26-36。
[地理的分布、モモ園土壌とミカン園の比較、菌糸伸長速度、分離培地、温度と検出頻度、土壌湿度、有機物へのコロナイゼーション、検出頻度と線虫密度。]
102. 三井 康・岡本好一：キタネコブセンチュウに寄生する胞子虫。17回応動昆虫大会講要：148。[講要]
103. 三浦宏一郎：Three entomophthoralean parasites of nematodes collected from Japan. 菌類研報 10: 517-522。[ハエカビ目に属する日本産線虫寄生菌3種を記録。*Gonimochaeta horridula* Drechsler, *Meristacrum asterospermum* Drechsler, *Zygonemonuces echinulatus* (新属新種)の図示及び記載。]
104. 百田洋二・大島康臣：陸稲連作ほ場から検出されたワセンチュウ。17回応動昆虫大会講要：129。[講要]
105. 森本 桂：マツノザイセンチュウとまつくい虫をめぐる諸問題。植物防疫 27(5) 175-179。[樹皮下を食害するという加害様式、マツの衰弱原因と材線虫の発見、マツノザイセンチュウの伝搬経路、カミキリと材線虫の相互作用、カミキリ・材線虫の関係からみたマツ枯損問題。]
106. 森本 桂：マツノザイセンチュウによるマツ類枯損の防止法。今月の農薬 17巻 12: 40-43。[薬剤、その他の方法の考え方。]
107. 森本 桂・岩崎 厚：マツノマダラカミキリに関する研究 IV。蛹室をめぐるカミキリと材線虫の生態。日林九支研論 26: 199-200。[蛹室への線虫の集中、耐久型幼虫のカミキリ体への移行時期。]
108. 森本勇馬：殺線虫剤処理効果と後のスギ苗木の生長。森林防疫 22(6) 140-144。[テラクア-P、NCS、ドロクロール処理等。NCS処理苗は完全に活着。]
109. 森本勇馬：岐阜県下におけるポット苗根ぐされ被害実態調査。日林中部支講要集 21: 236-240。[用土の過湿と線虫が原因。]
110. 中村好男：除草剤と土壌動物に関する報告について。Edaphologia 7: 15-21。
[謄写。線虫を含め、従来の研究データをあげる。]
111. 中西喜徳・上住 泰：キク生育期におけるネグサレセンチュウの動態について。関西病虫研報 15:129。[講要。キタネグサレセンチュウの季節的発生消長と堆肥施用。]
112. 中國和年：Studies on post-embryonic development of the reniform nematode, *Rotylenchulus reniformis* Linford and Oliveira (Nematoda: Rotylenchulidae). I. Morphological changes of the molting larvae of a parthenogenetic population. Appl. Ent. Zool. 8(2) 83-96。[生育にともなう形態的变化及び脱皮過程の観察。]
113. 中國和年：ニセフクロセンチュウの2系統間における生態的比較：温度と发育速度。17回応動昆虫大会講要：149。[講要]
114. 中國和年：マリーゴールドの栽培とニセフクロセンチュウ (*Rotylenchulus reniformis*) の個体数変化との関係。日線虫研誌 3: 38-41。[マリーゴールドの品種による線虫密度の増加又は減少。]
115. 中里肇二：水田線虫特殊調査結果の概要。農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 40-45。[群馬県。被害解析、発生消長、県内分布、田畑輪換栽培・水田転換田にお

ける線虫密度の変動。]

116. 成河智明：大豆。In: 総合野菜・畑作技術事典 I. 畑作物編（農林省農林水産技術会議事務局編）。農業技術協会、東京、p. 100-116. [シストセンチュウ対策（輪作）および抵抗性品種育種を含む。]
117. 成河智明：小豆。同上 東京、p. 117-123. [輪作による線虫防除にふれる。]
118. 西沢 務：Pathogenicity of *Trichodorus porosus* to Chinese yam. 日線虫研誌 3: 33-37. [ナガイモの黒変症状の原因はユミハリセンチュウと確認。]
119. 西沢 務：接種試験によるナガイモ黒変障害要因の解析。17回応動昆大会講要：136. [講要]
120. 西沢 務：作物の線虫害とその評価。植物防疫 27(11) 451-458, 1 pl. [線虫害とその発現、被害の評価と予測。]
121. 西沢 務：虫害の経済的レベルをめぐる：土壌線虫について。17回応動昆大会講要：256-257. [シンポジウム講要]
122. 西沢 務（編）：水田線虫の検診方法の確立に関する特殊調査。農作物有害動植物発生予察特別報告 No.25, 175 pp. [収録報文は下記を参照：73-12, 28, 33, 39, 56, 64, 65, 81, 115, 123, 146, 147, 158, 170, 177; p. 166-175 に総括（西沢）。]
123. 野口義弘：水田線虫検診方法の確立に関する特殊調査成績。農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 110-119. [徳島県。発消消長、生態（令構成の変化）、根からの分離法、被害、県内分布。]
124. 小芦健良：ミナミネグサレセンチュウによるサトイモの被害について。九州農業研究 35: 103-104. [種いも消毒（有機水銀剤浸漬、DSP 粉衣）、土壌消毒（クロルピクリン、EDB 剤他）。]
125. 小河誠司・中島康博・萩原幸弘：マツノザイセンチュウの分布と生態。福岡林試研究資料 2: 3-27. [福岡県内分布、線虫の病原性、生態（蛹室付近の線虫の分布、密度、後食後の切枝からの線虫分離、スジマダラモモブトカミキリの保持線虫数）。]
126. 岡本好一・三井 康・一戸 稔：ハウス内におけるサツマイモネコブセンチュウのトマト抵抗性品種加害事例。17回応動昆大会講要：132. [講要]
127. 大庭喜八郎：マツノザイセンチュウ抵抗性育種。林木の育種 81: 10-12. [抵抗性育種の進め方、九州林木育種場におけるマツノザイセンチュウ抵抗性育種の現況。]
128. 大林延夫：線虫害対策としてのマリーゴールドの利用。植物防疫 27(9) 367-371, 1 pl. [マリーゴールドの殺線虫作用、種類と効果、利用法、防除効果の持続。ビニールと農園芸 14 巻4（通巻73号）30-31, 1973; 園芸通信 23巻17（通巻328号）26-28, 1973 に同じ著者による同様記事。]
129. 大林延夫・近岡一郎：マリーゴールド利用によるキタネグサレセンチュウの防除法について。17回応動昆大会講要：138. [講要]
130. 大林延夫・近岡一郎：マリーゴールド利用によるキタネグサレセンチュウの防除法に関する研究。神奈川園試研報 21: 91-102. [マリーゴールドの品種比較と効果持続期間、栽培日数と線虫密度、粉末の施用効果、栽植方法、スイカとの混植の効果、混植時の栽植距離、スイカ収量への影響、品種と施肥量がスイカの収量におよぼす影響、堆肥の施用効果。]
131. 大木孝之・佐藤紀男・要 司：促成イチゴの“すくみ症”に関する研究（第2報）“すくみ症”と土壌病害虫およびウイルス感染との関係。園芸学会昭48秋研究要旨：134-135. [講要]
132. 大木孝之・佐藤紀男・要 司：促成イチゴの“すくみ症”に関する研究（第3報）土壌消毒の効果。園芸学会昭48秋研究要旨：136-137. [講要]

133. 大島康臣: 線虫の分類表. 日線虫研誌 3: 42-44. [Tylenchida目のほぼ全部, Dorylaimida 目の一部の属までのリスト。]
134. 大島康臣・西沢 務: 日本産キタネグサレセンチュウグループの形態学的検討. 17回応動昆大会講要: 137. [講要]
135. 大山浪雄: マツノザイセンチュウに対するアカマツ、クロマツ、スラッシュマツ、テグマツの抵抗性. 林木育種情報 17: 4. [樹種により抵抗性に差。]
136. 大山浪雄・齊藤 明: マツノザイセンチュウ接種木の枝曲り病. 日林九支研論 26: 197-198. [多頭接種処理の生残木に多く発生。]
137. 三枝敏郎: ついに日本に発生したゴールデンネマトーダ: Golden nematode 北海道で発生. 農薬研究 19巻3: 19-23. [生活史、病徴、寄主、検出法、見分け方。]
138. 三枝敏郎: 地球の土を支える線虫. 科学朝日 33巻2: 87-92. [植物寄生線虫を中心にした平易な解説。]
139. 三枝敏郎・安藤幸夫: ジャガイモシストセンチュウ *Heterodera rostochiensis* Wollenweber の篩別検出にあたっての1、2の知見. 植防研報 11: 48-52. [シストの大きさと篩の目の大きさの関係. 分離時の注意事項。]
140. 三枝敏郎・安藤幸夫: ドイツスズランに寄生するスズランネグサレセンチュウの生態と防除に関する1、2の知見. 17回応動昆大会講要: 145. [講要]
141. 三枝敏郎・安藤幸夫・山本洋祐・星野 尹: ドイツスズランのスズランネグサレセンチュウ *Pratylenchus convallariae* Seinhorst の生態と温湯消毒. 植防研報 11: 36-47. [新潟県北魚沼郡生産の米国向け輸出苗. 発消消長、寄生加害、寄主植物、スズランに寄生する他のネグサレセンチュウ (キタ、ノコギリネグサレ)、それ以外の寄生線虫 (オオカタハリ、*Heterodera* sp.?), 温湯浸漬 (47°C30分以上)。]
142. 齊藤正隆・砂田喜与志・酒井真次: 北海道におけるダイズシストセンチュウ抵抗性大豆品種の育成. 農及園 48(10) 1337-1342. [抵抗性育種 (黒英三本木系、下田不知系、PI系から抵抗性導入)、抵抗性検定法。]
143. 坂井健吉: かんしょ. In: 総合野菜・畑作技術事典 I. 畑作物編 (農林省農林水産技術会議事務局編). 農業技術協会、東京、p. 75-87. [主要品種の特性 (線虫抵抗性を含む)。]
144. 酒井真次・齊藤正隆: 大豆におけるダイズシストセンチュウ抵抗性検定方法について: 雑種初期世代の簡易検定方法について. 育種 (別1) 142-143. [講要]
145. 桜井 清・稲垣春郎・湯原 巖・堤 正明: リンゴネコブセンチュウ (*Meloidogyne mali* Itoh, Ohshima and Ichinohe, 1969) によるリンゴの被害と防除. 北海道農試研報 105: 9-22. [生態 (発消消長、土壤中の水平・垂直分布)、防除 (苗木のDBCP、5121粒剤処理、幼木のD-D、EDB、DBCP剤処理)。]
146. 佐藤昭美・阿部 楨: 水田線虫の検診法に関する特殊調査. 農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 16-19. [岩手県における水田線虫の種類と分布、発消消長、分離法の検討、被害。]
147. 清家義明・高山昭夫: 水田線虫の発消消長に関する調査. 農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 120-126. [愛媛県. 発消消長 (土壌及び根について)]
148. 司馬直文・小沢慎吾: ネコブセン虫防除と燐施用による桑園能率向上試験 (第2報). 東京蚕糸試験要報 7: 8-9. [附写. DBCP剤の効果は2年目でも高い。]
149. 清水 啓: イネのは種期の違いがイネシストセンチュウの季節的消長におよぼす影響. 17回応動昆大会講要: 130. [講要]
150. 白浜賢一: Cultivation of cruciferous crops and pest control in Japan. Jap. Pesticide Inform. 15: 5-10. [ウリ科作物のネコブ、キタネグサレセンチュウ防

除を含む。]

151. 庄司次男・瀬川幸三：ネコブセンチュウの一種 *Meloidogyne mali* によるウダイカンバの被害。森林防疫 22(2) 59-61. [林業試験場東北支場構内(岩手県盛岡市)。]
152. 周藤靖雄：島根県の林業苗畑における主要病害とその薬剤防除。林業と薬剤 44: 8-11. [土壌線虫病(スギ苗のネグサレセンチュウ)にNCS、クロルピクリン剤。]
153. 周藤靖雄：苗木の根腐れ被害防除試験。島根林試研報 23: 1-50. [主にスギ苗のネグサレセンチュウ防除。NCS、アイオピクリン、ドロクロールが苗の生育を良好にした。]
154. 菅原寿一・臼井 豊・堤 平・杉本利哉：伊達地方のそう根病に対するD-D処理の効果について。てん研報 補13: 195-200. [410/10 a 処理では不完全。]
155. 忠政 亨：マツノザイセンチュウ (*Bursaphelenchus lignicolus* Mamiya et Kiyohara) の実態調査。岡山林試報 13: 159-164. [謄写]
156. 忠政 亨：まつくいむし駆除剤によるマツノザイセンチュウの殺線虫効果の検討。岡山林試報 13: 176-177. [謄写]
157. 高木一夫：赤外カラー写真による茶樹の健康診断。植物防疫 27(4) 159-162, 1 col. pl. [チャネグサレセンチュウの被害を含む。]
158. 高倉重義：イネネモグリセンチュウの検診方法の確立に関する特殊調査。農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 1-15. [北海道における分布と耐寒性の関係、土壌のグライ化の程度と線虫密度、北海道における主要品種に対する寄生性、発生消長、被害解析。]
159. 高倉重義・手塚 浩・山田英一：ジャガイモシストセンチュウの本邦における初発生について。北日本病虫研報 24: 91. [発見の経緯、初発見の状況。]
160. 高杉光雄・小林喜六・姉帯正樹・上野正司・勝井信勝・正宗 直：9, 10, 13-trihydroxyoctadecanoic acid, a new fatty acid in the roots of kidney bean (*Phaseolus vulgaris* L., "Beni-kintoki"). Chem. Let. 1973(5) 445-446. [インゲン根から抽出された脂肪酸。1 ppb でダイズシストセンチュウの卵の孵化を促進。]
161. 武田丈夫・井戸規雄：和歌山県におけるマツノザイセンチュウの分布。24回日林関西支講: 163-166. [講要]
162. 田村浩志：森林の土壌動物。In: 土壌動物の生態と観察(渡辺弘之監修)。築地書館、東京、p. 74-104. [線虫関係 p.93-94.]
163. 田村弘忠：線虫捕食菌研究の現状。日線虫研誌 3: 9-18. [総説。捕捉器官の形態と捕捉機能、線虫捕食菌の線虫誘引と致死作用、捕捉器官の形成要因、生長と環境要因、捕捉効果と環境要因、線虫捕食菌の分布、土壌中の変動と生存、拮抗菌と静菌作用、生物防除への応用、2, 3の研究上の課題。]
164. 田村弘忠・真宮靖治：マツノザイセンチュウ (*Bursaphelenchus lignicolus*) の無菌化。日線虫研誌 3: 30-32. [抗生物質等による表面殺菌は失敗。抗生物質加用PDA培地で増殖させた*Botrytis cinerea*による培養で無菌的線虫を得る。]
165. 田邊市郎・北山登喜男・草水 崇：主要畑作物の連作障害に関する研究 I。畑作水稻の連作障害について。鹿児島農試鹿屋支研報 10: 17-30. [ネコブ、ミナミネグサレ、ニセフクロセンチュウを検出。線虫を含む生物的要因の交互または相乗的作用と結論。]
166. 田中 勇：病虫害防除の今後の方向：害虫総合防除を中心として。葉たばこ研究 62: 66-72. [線虫抵抗性品種にふれる。]
167. 田中 潔：マツノザイセンチュウに対するマツ属植物の種間抵抗性に関する考察：フランスカイガンショウ被害林の発見にちなんで。森林防疫 22(11) 254-258. [マツ

類の分類学上の類縁関係と線虫感受性の関係を論じる。]

168. 樋田幸夫: ネコブセンチュウによるクワの被害解析 II. 線虫接種1年後および2年後のクワの生育. 17回応動昆虫大会講要: 142. [講要]
169. 樋田幸夫: 桑園のネコブセンチュウおよびピンセンチュウの発消長. 日蚕関東講要 24: 15. [講要]
170. 東海林久雄: イネネモグリセンチュウに関する調査. 農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 20-26. [山形県. 発消長、線虫の寄生量と水稻の収量、県内の分布。]
171. 富永時任: 黒しよく(蝕)米の病因について. 植物防疫 27(9) 379-383. [アメヒゲホソミドリメクラガメと *Enterobacter agglomerans* の混合感染. イネシンガレセンチュウも同菌と共に原因となる。]
172. 角田 博: 殺線虫剤の現状と使用上の問題点 [1]. 農及園 48(6) 837-842. [殺線虫剤による土壌線虫防除の歴史と背景、種類別の消長、地方別の使用状況、特性、適用範囲および使用方法 (D-D、EDB、EDB・EDC、DBCP、DCIP剤)。]
173. 角田 博: 殺線虫剤の現状と使用上の問題点 [2]. 農及園 48(7) 957-962. [殺線虫剤の使用上の基本的注意事項 (物理化学的性質、作物への薬害)、使用上の問題点 (線虫の種類、土壌消毒機、薬剤費、毒性・残留)。]
174. 都築 仁・上林 譲: ベノミル剤のイネ心枯線虫病に対する効果. 日植病報 39(2) 169-170. [講要]
175. 上林 譲・天野 隆・中西 勇: 黒点米に関する研究 第3報 発生生態. 愛知農総試研報 A 5: 63-69. [黒点米の発生位置 (穂内)、穂の大きさと黒点米の発生量、品種間差、発生時期、貯蔵中の発生変動。]
176. 上住 泰: イチゴに対する *Tylenchorhynchus* sp. の寄生性について. 奈良農試研報 5: 76-80. [上記種及びキタネグサレセンチュウは寄生、*Rotylenchus pine* は非寄生。]
177. 上住 泰・中西喜徳: 水田線虫特殊調査成績. 農作物有害動植物発生予察特別報告 25: 93-104. [奈良県における分布、水稻根圏における分布。]
178. 八木田秀幸: 桑園における *Longidorus martini* の産卵時期ならびに時期別令構成について. 17回応動昆虫大会講要: 143. [講要]
179. 八木田秀幸: 桑園における *Longidorus martini* の生活史とくに産卵の時期について. 日蚕関東講要 24: 13. [講要]
180. 山田栄一・周藤靖雄: 島根県におけるマツノザイセンチュウの被害 (予報). 24回日林関西支講: 160-162. [講要]
181. 山本公志・一戸 稔・奈須田和彦: クリ立枯病 (仮称) の根から検出される *Pseudhalenchus* sp. について. 17回応動昆虫大会講要: 141. [講要]
182. 山中勝次・村田武彦・天野孝之: マツノザイセンチュウのアカマツ樹体内における移動と各部組織の解剖学的考察. 24回日林関西支講: 173-176. [根系・地際部に多く移動。]
183. 山下信一・浅野明文・石橋信義・横尾多美男: イチゴメセンチュウの生態と防除 1. 年間発消長と伝播様式. 九病虫研会報 19: 130. [講要]
184. 山崎秀一・伊藤弘康・丸山 卓: 土壌線虫防除試験 II. 主にネグサレセンチュウ *Pratylenchus* spp. に対する薬剤効果. 新潟林試報 16: 99-117. [NCS、ドロクロール、テラクアーP、EDB、TD-10の効果. 立枯病防除、殺線虫力、施肥との関係 (徒長防止)。]
185. 横尾多美男・安永秀樹・横尾武敏: 線虫捕食性線虫 *Clarkus* sp. の生活史について. 九病虫研会報 19: 131. [講要]
186. 横尾多美男・近藤栄造・外園博人: 九州における桑園土壌の線虫相に関する調査

- 研究 第5報 佐賀市北部桑園における外部寄生性線虫ピンセンチュウならびにラセンセンチュウの発生の季節的消長. 佐賀大農学 35: 7-13. [*Paratylenchus aciculus* (= *Gracilacus yokooi* Toida et al., 1983)、*Helicotylenchus dihystra* の季節的消長、食性別・深さ別線虫相の変動。]
187. 米倉耕一: スギまき付における殺線虫剤の時期別使用試験について. 林業技術研究集録(青森営林局) 1971: 110-112. [DBC P剤のネグサレ、ユミハリセンチュウに対する効果。]
188. 吉田正義・橋本光司: イチゴの萎黄病の発生生態と防除に関する2、3の知見. 日植病報 39(3) 199. [講要]
189. 湯原 巖: 土性調査用保存土壌からのジャガイモシストセンチュウの発見. 応動昆 17(3) 162-163. [1964-65 年には既に我が国へ侵入していたことを、上記土壌サンプルからシストを発見したことにより実証。]
190. Anon.: 昭和48年農作物新品種. 農林水産研究情報 25: 26-27. [雷電(とまと農林交11号): サツマイモネコブセンチュウにきわめて強い。]
191. Anon. (北海道農試作物第2部特用作物第2研究室): はつか「わせなみ」の育成. 同試年報 昭47: 46-49. [ピンセンチュウに強い。]
192. Anon. (北海道農試畑作部畑虫害研究室): ダイズシストセンチュウの寄生繁殖ならびに被害に関する研究: 土壌条件とダイズシストセンチュウの繁殖を中心に. 同試年報 昭47: 61-63. [土壌型と線虫密度、分布、繁殖差異、土壌水分と線虫の活動。]
193. Anon. (北海道農試病理昆虫部虫害第2研究室): ダイズシストセンチュウ抵抗性に関する研究: 大豆品種の地域差異. 同試年報 昭47: 81-83. [寄生性・形態的差異、卵の孵化差異。]
194. Anon. (農事試虫害第2研究室): 連作障害に関連する2、3の線虫問題. 同試年報 昭46: 58-63. [オカボ、ラッカセイ、サトイモ、サツマイモの連輪作圃場の検出線虫。ナガイモの連作障害。]
195. Anon. (香川県林業指導所): マツ類の枯損防止に関する試験研究報告. 試験研究成果報告 4: 1-26. [謄写。マツノザイセンチュウの地理的分布に関する調査を含む p. 1-10。]
196. Anon. (全国林業改良普及協会): マツノザイセンチュウ: マツの枯損原因をさぐる. 林業技術シリーズ(60) [カラスライド50駒。]

昭和49年 (1974)

1. 安部 浩: 施設栽培のイチゴに多発生が予想される害虫とその防除法. 島根植防 14巻3: 8-21. [イチゴセンチュウ、イチゴメセンチュウによる症状・被害、線虫の形態・検診法・生態・防除を含む。]
2. 安部 浩: イネシガラセンチュウによる黒点米の発生原因とその対策. 島根植防 15巻1: 10-26. [島根県における黒点米発見の経過とその発生実態並びにイネシガラセンチュウ・黒点米に関する総説。]
3. 秋野浩二・松本幹男: オクラを害するネコブセンチュウ類の防除例. 関東病虫研報 21: 146. [EDB、DBC P、ランネート剤処理、マリーゴールド混作。前2薬剤のみ効果を認める。]
4. 馬場徹代・赤井 純: 海外における寒冷地畑作の病害防除. 植物防疫 28(11) 456-458. [ニューヨークのゴールドデンネマ対策を含む。]

5. 千原賢次・堀田 隆：マツノザイセン虫の県内分布調査。大分林試報 16: 81-84。
[標高600 m 以下の地域。]
6. 堂園安生：各種糸状菌類におけるマツノザイセンチュウの増殖。日林九支研論 27:
161。[*Botrytis cinerea*が最適。]
7. 堂園安生：マツの各部位における材線虫の有傷、無傷接種と侵入経路。日林九支研論
27: 163-164。[無傷条件のマツ生立木樹体内への侵入は不可能。]
8. 堂園安生・橋本平一：マツ切枝（試片）の含水率と材線虫の増殖。日林九支研論 27:
165-166。[60%以下では増殖しない。]
9. 堂園安生・吉田成章：*Botrytis cinerea*菌上におけるマツノザイセンチュウの増殖に
対するロジスチック曲線の適用。日林誌 56(4) 146-148。[15, 20, 25, 30°Cにおける
増殖データのモデルへのあてはめ。]
10. 遠田暢男：マツノマダラカミキリの生殖器に寄生する線虫。森林防疫 23(2) 21。
[写真とその解説。*Neotylenchoidea* 上科の線虫と思われる。]
11. 遠田暢男・山根明臣・野淵 輝：関東地方におけるマツノマダラカミキリの羽化消
長および線虫保有数。85回日林大会講要: 83。[講要]
12. 福留信明・荒木幹男：ネコブセンチュウがタバコ腰折病におよぼす影響。日植病報
40(3) 130。[講要]
13. 二井一禎：松を枯らす小さな生物・線虫。Nature Study 20(10) 101-104。[生活
史を中心に記述。]
14. 我如古光男：沖縄本島に侵入したマツノザイセンチュウ。森林防疫 23(3) 42-44。
[九州本土からの移入材が発生源。]
15. 五味美知男・中里筆二：イネシנגレセンチュウとその防除。農薬研究 21巻3:
14-19。[形態、生態、伝播経路、被害、防除（温湯、薬液浸漬・散布）、黒点米との関
係。]
16. 後藤 昭：本邦におけるネグサレセンチュウ*Pratylenchus* spp. の地理的分布。九
州農試報告 17(2) 139-224。[ネグサレセンチュウの種類（16種）とその形態、検出記録
（種類・地域・環境・検出地・植性別のリスト）、地域別にみた種の分布、寄主からみ
た種の分布・伝播、種別にみた分布のとりまとめ、分布型、分布要因。]
17. 後藤 昭・佐野善一：殺線虫剤の効力および線虫の薬剤感受性。九州農試年報 昭
47: 37-40。[サツマイモネコブセンチュウに対する6薬剤のLD-50。季節・寄主を異
にする前記線虫のEDB感受性。ミナミネグサレセンチュウのEDB感受性。]
18. 浜 武人・小沢孝弘・森本勇馬：岐阜県瑞浪市周辺に発生している松くい虫（マツ
ノザイセンチュウ）による被害について。森林防疫 23(10) 188-189。[内陸部における
発生状況。]
19. 針谷信義・松井武彦・大和田敏夫：ネマホルンによるヒロウドコガネ幼虫の防除に
ついて。関東病虫研報 21: 98。[効果を認める。]
20. 橋本平一：マツの成立場所と材線虫接種木の異常枯損経過。日林九支研論 27: 155
-156。[「林分内の優勢木が強く、劣勢木は弱い。孤立木は強い傾向」]
21. 橋本平一・清原友也・堂園安生・滝沢幸雄・宮崎 徹・川畑克己・勝 善綱・谷口
明：マツノザイセンチュウおよびマツノマダラカミキリの標高別分布と被害発生との関
係。85回日林大会講要: 90; 85回日林論: 253-256。[標高別のマツ枯損の被害型及び被
害度、カミキリの材線虫保持数、産卵痕、後食数。]
22. 橋本平一・讃井義孝：マツ樹体内における材線虫の行動とマツの異常経過。85回日
林大会講要: 88; 85回日林論: 251-253。[接種密度と樹脂の異常、接種後の線虫の樹体
内移動。]

23. 万豆剛一：キクの連作障害の原因と対策。農業技術研究 28巻6: 78. [ネグサレセンチュウ対策を含む。]
24. 引地直至：マリーゴールド利用によるモモの土壌線虫類防除について。18回応動昆虫大会講要: 366. [講要]
25. 引地直至：マリーゴールド利用によるモモの土壌線虫防除の試み。落葉果樹 22巻7: [未見]
26. 平野和弥：野菜病害の発生とネコブセンチュウ。今月の農薬 18巻2: 37-40. [トマト、キュウリ、スイカ、キャベツ、エンドウの病原菌と線虫の関係。]
27. 平野和弥・飯田 滋・飯田 格：トマトにおけるサツマイモネコブセンチュウとT.M.V.との相互作用。18回応動昆虫大会講要: 351. [講要]
28. 細田隆治：マツノマダラカミキリ成虫の大きさと材線虫保持数。25回日林関西支講: 306-309. [両者は無関係。]
29. 細田隆治・奥田素男・竹谷昭彦・小林一三：激害終期マツ林の枯損木から羽化したマツノマダラカミキリの材線虫保持数。85回日林大会講要: 83; 85回日林論: 231-233. [カミキリ1頭ごと、羽化脱出時期による保持線虫数の変化。]
30. 市原伊助・千本木市夫・深沢永光・稲生 稔：サビヒョウタンゾウムシとトビイロヒョウタンゾウムシの生態と防除。関東病虫研報 21: 183-187. [土壌中の越冬成虫に対するEDB、D-D、ネマホルン施用は効果なし。]
31. 一戸 稔・岡本好一・気賀沢和男・稲垣春郎：ジャガイモシストセンチュウの寄生型。18回応動昆虫大会講要: 357. [講要]
32. 飯田 滋・平野和弥・飯田 格：トマトにおけるタバコモザイクウイルスの感染におよぼすネコブセンチュウの影響。日植病報 40(3) 203. [講要]
33. 池上雍春：わが国の植物検疫制度と検疫技術 [4] 植物検疫の検査技術。農及園 49(8) 991-995. [No. 74-42の続篇。線虫の検診技術、消毒方法を含む。]
34. 稲垣春郎：ジャガイモシストセンチュウのシスト内卵・幼虫の致死温度。18回応動昆虫大会講要: 360. [講要]
35. 稲垣春郎：ジャガイモシストセンチュウのジャガイモ塊茎への寄生。日線虫研誌 4: 11-12. [寄生例をカラー写真で図示。]
36. 稲垣春郎：ジャガイモシストセンチュウの生態 (II)。18回応動昆虫大会講要: 9. [日本線虫研究会大会講要]
37. 稲垣春郎・気賀沢和男：ジャガイモシストセンチュウの伝播経路。日植病報 40(2) 121. [講要]
38. 稲垣春郎・気賀沢和男：圃場におけるジャガイモシストセンチュウ産卵シストの土壌中垂直分布。日線虫研誌 4: 57-58. [深さ50cmまで分布。大部分は地下25cmまで、最高密度は10-15 cmの層。]
39. 井上 平：ジャガイモのネコブセンチュウに対するDCIP粒剤の効果。九病虫研会報 20: 48-49. [防除効果を発揮されることは困難。]
40. 井上 平：春秋二期作ジャガイモのネコブセンチュウ被害 (2) こぶ塊茎の発生。九州農業研究 36: 131. [根こぶ指数とこぶ塊茎発生の関係。前者の50%で発生。]
41. 井上 巖：A new species of the genus *Chordodes* (Gordiaceae) from Ethiopia. Annot. Zool. Japon. 47(2) 107-109. [新種*C. aethiopicus*を記載。寄主はカマキリ。]
42. 井上 亨：わが国の植物検疫制度と検疫技術 [1]。農及園 49(5) 627-632. [輸入が禁止されている植物の明細の中にミカンネモグリセンチュウ、イネクキセンチュウに関する事項を含む。No. 74-33も参照。]
43. 石橋信義・近藤栄造：線虫類の発育ステージと不良環境耐性。日線虫研誌 4: 1-10.

- [総説。發育ステージと耐性(卵、卵内または孵化後の2期幼虫、3期幼虫、4期幼虫または未熟成虫)、Infective ステージ・運動性・生殖器の発達と耐性。用語の定義・分類等を付す。]
44. 石橋信義・近藤栄造: 線虫類の dauer ステージについての一考察, 九病虫研会報 20: 142. [講要]
45. 石川元一: 水田転換畑の線虫について, 関東病虫研報 21: 145. [地下水位の高低とネコブセンチュウ(キュウリ、ヤマノイモ)の分離虫数と寄生指数。]
46. 石川元一・熊倉喜八郎: 落花生の連作におけるキタネコブセンチュウ被害と防除, 埼玉農試研報 35: 69-81. [写真。被害、連作落花生に対する施肥効果、防除(殺線虫剤の施用量・方法・効果、輪作、深耕、施肥、ポリマルチ栽培、堆肥施用)。]
47. 伊藤一雄: マツ類の材線虫とその防除: 松くい虫被害の原因解明および枯損防止法の再検討, 資源 188: 25-34. [被害量の推移と被害型被害、原因に対する疑義、マツノザイセンチュウの発見、線虫の媒介・伝播者・地理的分布、カミキリとの関係、枯損防止法の再検討。]
48. 岩木満朗・小室康雄: スイセンから分離されたウイルス 第5報 *Arabidopsis mosaic virus* について, 日植病報 40(4) 344-353. [病徴、接種、ウイルスの特性(形態)、*Xiphinema bakeri*による伝播。]
49. 岩木満朗・小室康雄: Tomato ringspot virus の *Xiphinema americanum* による伝搬の様態, 日線虫研誌 4: 27-31. [風乾処理・冷蔵(4-10°C) 処理のウイルス伝搬性、線虫の成虫・幼虫のウイルス伝搬力、伝搬力保持期間、ブドウ・ミカン周辺土壌の上記線虫による伝搬。]
50. 岩崎 厚: まつくいむし試験地の樹脂量と枯損: 植木試験地の例, 日林九支研論 27: 157-158. [小径木の夏型枯死は少なく、大径木の枯死は全て夏型(8-9月)。]
51. 岩崎 厚・森本 桂: マツノマダラカミキリの後食予防によるマツ類枯損防止試験Ⅲ, カミキリの保線虫数からみた後食予防必要期間の推定, 日林九支研論 27: 193. [線虫数は7月に減、7月25日以降は極少。]
52. 岩瀬 恵・小阪和彦・小野 洋: 殺線虫剤の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ駆除試験 2報, 25回日林関西支講: 240-242. [H.B.L. 0.1%剤。]
53. 嘉藤省吾: 富山県におけるフキの害虫類について, 北陸病虫研報 22: 96-98. [キタネグサレセンチュウ及びその放射線照射による防除(実用上不可能)を含む。]
54. 川部 康: 野津先生と桑線虫の思い出, In: 米寿と回想, 野津六衛兵先生米寿記念刊行会, 松江, p. 153-155. [随想。]
55. 川里 宏: 夏きゅうりの急性萎ちよう症状の防止対策, In: 総合野菜・畑作技術事典 II, 野菜編(農林省農林水産技術会議事務局編), 農林技術協会, 東京, p. 260-261. [ネコブ、ネグサレセンチュウも一因とする。]
56. 気賀沢和男: ダイズシストセンチュウに対するダイズの耐性品種の利用, 植物防疫 28(10) 409-412. [耐性品種の育種、耐性機構の解析、利用と今後の問題点。]
57. 気賀沢和男・葭原敏夫: 土壌型とダイズシストセンチュウの繁殖, 18回応動昆大会講要: 365. [講要]
58. 清原友也: 除去法によるマツノザイセンチュウの個体数の推定, 日林九支研論 27: 167-168. [ベルマン法による線虫分離条件及び結果の考察。]
59. 小林富士雄・細田隆司: マツノマダラカミキリからマツノザイセンチュウを分離する方法に関する検討, 森林防疫 23(6) 100-101. [30°Cでは12時間、25°Cでは最低24時間。]
60. 小林政明: 注目のブラジル大豆作, 農業技術 29(12) 542-545. [シストセンチュウ

を天地返しで防除。]

61. 小林亨夫・佐々木克彦・真宮靖治：マツノザイセンチュウの生活環に関連する糸状菌 (I)，日林誌 56(4) 136-145. [マツの樹体内の糸状菌の季節・部位別の種類相、カミキリの成虫体からの検出菌、検出菌による線虫の増殖試験。]
62. 小林亨夫・佐々木克彦・真宮靖治：マツノザイセンチュウの生活環に関連する糸状菌とその培養上での線虫の増殖，85回日林大会講要：89. [講要]
63. 小林義明：高温・たん水処理によるネコブセンチュウの防除，静岡農試研報 19: 44-51. [湛水条件 (温度、Eh、pH の変化、期間) とその効果の検討。]
64. 小林義明：各種マリーゴールドの栽培によるネグサレセンチュウおよびネコブセンチュウの密度変化，関東病虫研報 21: 147-148. [19品種を供試。Pratylenchus fallax に対してはキタネグサレセンチュウより効果劣る。ネコブセンチュウへの効果は少。]
65. 小林義明：ネグサレ、ネコブ各センチュウに対するマリーゴールド栽培の影響，今月の農業 18巻7: 25-28. [ネコブセンチュウに対しては実用化無理。]
66. 小林義明：キクの連作障害について：特にネグサレセンチュウとの関連，農業技術研究 28巻9: 90. [症状、対策。]
67. 小林義明・佐藤允通：キクの連作障害に関与するネグサレセンチュウに関する研究 第2報 線虫寄生によるキクの耐水性の低下，18回応動昆大会講要：346. [講要]
68. 小林義明・佐藤允通・万豆剛一：キクの連作障害に関与するネグサレセンチュウに関する研究 II，キクの生育ならびに耐湿性に及ぼす線虫の影響，日線虫研誌 4: 13-19. [発生経過、土壤菌類接種結果等。大雨後の萎凋は湿害、線虫は湿害の誘因。]
69. 小島 暁：デイトラベックス油剤およびD-Dによる紋羽病跡地の土壤消毒，日蚕関東講要 25: 4. [講要]
70. 駒田 旦：最近問題となった野菜の土壤病害，農及園 49(7) 900-904. [トマト近縁野生種 (*L. hirsutum*) によるネコブセンチュウ等への抵抗性導入にふれる。]
71. 駒井功一郎・佐藤庄太郎：殺線虫剤DBCPによるジャガイモrishitin形成および蓄積の誘導，農化 48(11) 599-604. [Rishitinの確認、生成とその部位、生成に及ぼす温度の影響、生成の時間的変化。]
72. 駒井功一郎・佐藤庄太郎：殺線虫剤によるジャガイモ塊茎の褐変に関する研究 第3報 DBCP剤の処理により形成される褐変色素について，近畿大農紀要 7: 41-48. [粉末黒色色素と粘濁性暗褐色色素を分離。性質を分析。]
73. 今 友親・上野賢司・山田英一・高倉重義：ジャガイモシストセンチュウに関する研究：抵抗性、耐性ジャガイモ品種の検索，18回応動昆大会講要：361. [講要]
74. 近藤栄造・石橋信義・横尾多美男：イチゴメセンチュウ *Nothotylenchus acris* の表皮構造，Delphax 18: 2. [講要]
75. 紺谷修治：マツノマダラカミキリの材線虫保持状況，25回日林関西支講：310-311. [6月12日以降の脱出とその後20日までの脱出カミキリの線虫保持数は異なる傾向 (あとが多)。]
76. 小阪和彦・岩瀬 恵：モノフタル酢酸アミドによるマツノザイセンチュウ防除，25回応動昆大会講要：355. [講要]
77. 小菅悦男：とまと品種 'あずま' の育成，In: 総合野菜・畑作技術事典 II，野菜編 (農林省農林水産技術会議事務局編)，農林技術協会、東京、p. 12-13. [サツマイモネコブ、ジャワネコブセンチュウに対し強抵抗性、キタネコブセンチュウには抵抗性なし。抵抗性因子は単因子優性。]
78. 久保田 勝：畑水稻の連作障害について，土と微生物 15/16: 1-11. [水稻の生育推移、土壤の線虫・微生物 (非根圏・根圏土壤、根面) を調査。新潟は糸状菌、茨城は

- 糸状菌と線虫、鹿児島は線虫が主要因と推定。]
79. 久保田 勝・鈴木達彦：畑水稻の連作障害に関する研究 第3報 連作障害要因の判定法について。新潟農試研報 23: 37-49. [連作障害要因の簡易な判定法としての暗所栽培法についての検討。]
 80. 国安克人：トマトにおける病害抵抗性品種とその利用。植物防疫 28(10) 399-403. [ネコブセンチュウ抵抗性を含む。]
 81. 国吉清保：マツノザイセンチュウによる被害沖縄県に発生。森林防疫 23(3)40-42. [九州からのクロマツ、アカマツ材と共に侵入。リュウキュウマツにも被害。]
 82. クラール他(編)：(梅村芳樹・稲垣春郎訳)：ジャガイモシストセンチュウ防除に関する全ソビエト連邦シンポジウム資料、北海道農試病昆虫部資料 1, 38 pp. [1973年に行われたシンポジウムの記録。26篇の報告を含む。]
 83. 牧野秋雄：目黒米。今月の農薬 18巻2: 24-28. [病徴、被害、伝染試験、防除(種子消毒、出穂期薬剤散布)、分離細菌の病原性の検討。]
 84. 真宮靖治：マツノザイセンチュウとその被害。応動昆 18(1) 39. [講要]
 85. 真宮靖治：マツノザイセンチュウのアカマツ、クロマツ苗木体内における増殖の経過。85回日林大会講要: 88; 85回日林論: 249-251. [部位別、苗木の幹の含水率との関係。]
 86. 真宮靖治：樹木と線虫。In: 森—そのしくみとはたらき(只木良也・赤井龍男編)。共立出版、東京、p. 115-138. [線虫とは、まつくい虫、その被害、実体、マツノザイセンチュウの発見、加害性、伝播・生活史。]
 87. 真宮靖治・田村弘忠：マツノザイセンチュウを接種したアカマツ苗の蒸散量の変化。85回日林大会講要: 89. [講要]
 88. 正宗 直：ダイズシストセンチュウのふ化促進物質。18回応動昆大会講要: 7. [日本線虫研究会大会講要。インゲン根からの抽出、構造決定。]
 89. 松原 功：千葉県におけるマツノザイセンチュウの分布。千葉林試報 7: 49-52. [北東部を除く全域に分布。]
 90. 松田達郎：南極のソンドラ生態系。Edaphologia 7: 22-23. [謄写。線虫の生息にふれる。]
 91. 松本益美・吉岡幸治郎・隅田俊三・近藤武由・丹原一寛・栗原 肇：サトイモ畑におけるミナミネグサレセンチュウの周年消長。四国植防 9: 41-47. [症状、被害、発生消長、越冬。]
 92. 松本重男：大豆(東北地方における水稻および大豆の生産の現況と育種の対応)。育種 24(2) 112-113. [昭和30年からシストセンチュウ抵抗性育種開始。]
 93. 松本重男：Resistance to soybean cyst nematode by soybean variety. JARQ 8(4) 189-193. [線虫被害、線虫抵抗性検定法、育種。]
 94. 松本重男・飯塚典男・長沢次男：東北地方におけるダイズウイルス病への対応研究：育種と病理研究の展開。農業技術 29(5) 215-219. [シストセンチュウ抵抗性を含む。]
 95. 松本重男・石川正示・国分喜治郎・宮原萬芳・今野善一郎・小山フミ・村上昭一・小山隆光・長沢次男・松本定夫・中村茂樹：ダイズ新品種「オクシロメ」の育成。東北農試研報 48: 1-30. [育成過程及び特性。ダイズシストセンチュウ抵抗性最強。]
 96. 松浦邦昭：マツノザイセンチュウの防除薬剤スクリーニング試験。85回日林大会講要: 90; 85回日林論: 256-258. [ポットではテラクア-P、ダイシストン、NTN7732、バイジットが好結果。]
 97. 御子柴公人：畑作物の主要品種一覧：大豆。In: 総合野菜・畑作技術事典 III。共通技術編・資料編(農林省農林水産技術会議事務局編)。農林技術協会、東京、p.

- 334-343. [ダイズシストセンチュウ抵抗性程度を記述。]
98. 御子柴公人:大豆育種の17年, 農林水産研究情報 34: 11-15. [シストセンチュウ抵抗性育種を含む。]
99. 皆川 望:甘藷畑におけるサツマイモネコブセンチュウ個体群の季節的変動, 18回応動昆虫大会講要: 349. [講要]
100. 峰尾一彦:外国産マツに対するマツノザイセンチュウ接種試験, 25回日林関西支講: 312-313. [供試7種とも程度の差はあるが枯損。線虫は増殖。]
101. 三井 康:カルス培養線虫の無菌分離法, 日線虫研誌 4: 58. [方法及び装置。]
102. 三井 康・岡本好一:キタネコブセンチュウに寄生する胞子虫, 18回応動昆虫大会講要: 353. [講要]
103. 宮崎 信:マツノザイセンチュウ防除の研究に参加して:化学成分の立場から思うこと, 山林 1081: 12-18. [生化学的見地から見た研究に残された問題点等をあげる。]
104. 三善重信:さといもの連作障害防止対策, In: 総合野菜・畑作技術事典 II, 野菜編 (農林省農林水産技術会議事務局編), 農林技術協会、東京、p. 278-279. [ネコブ、ミナミネグサレセンチュウとRhizoctonia 菌の混合感染が原因。]
105. 百田洋二・大島康臣: *Crossonema octozonale* n.sp. on Japanese cedar from Japan. 日線虫研誌 4: 47-50. [福島県のスギ根辺土壌から採集したトゲワセンチュウの新種を記載。現在は *Sriespinula octozonale* (Momota & Ohshima, 1974) Khan, Chawla & Saha, 1976 とされている (Khan et al. (1976) Indian J. Nematol. 5, 70-100)。]
106. 百田洋二・大島康臣:トゲワセンチュウ3種の検討, 18回応動昆虫大会講要: 343. [講要]
107. 森本 桂・岩崎 厚・真宮靖治:マツノザイセンチュウおよびマツノマダラカミキリに関する一連の研究, 応動昆虫 18(3) 154. [昭和49年度学会賞受賞者記念講演要旨]
108. 百足幸一郎:耐病虫性育種, In: 総合野菜・畑作技術事典 III, 共通技術編・資料編 (農林省農林水産技術会議事務局編), 農林技術協会、東京、p. 267-268. [選抜法。]
109. 村岡 実・横尾多美男:土壌生息性ダニの線虫捕食について, 18回応動昆虫大会講要: 319. [講要]
110. 村岡 実・横尾多美男:土壌生息性ダニの線虫捕食について (予報), 九病虫研会報 20: 142. [講要]
111. 長井雄治:長期栽培の実際:病害虫防除, In: ハウストマトの長期栽培 (荻原佐太郎編), 誠文堂新光社、東京、p. 127-144. [ネコブセンチュウは土壌病害多発の原因。土壌消毒: NCS、D-D、EDB、メチルプロマイド。]
112. 永沢正敏:畑作物の主要品種一覧:たばこ, In: 総合野菜・畑作技術事典 III 共通技術編・資料編 (農林省農林水産技術会議事務局編), 農林技術協会、東京、p. 352-355. [線虫抵抗性程度の記述。]
113. 中西 勇・加藤喜重郎:愛知県におけるイネ・野菜病害虫の発生動向, 関西病虫研報 16: 91-97. [黒点米、ネコブセンチュウ (ナス、キュウリ、ニンジン)、ネグサレセンチュウ (イチゴ、ダイコン、ニンジン、フキ)、メセンチュウ (イチゴ)。]
114. 中西 勇・上林 譲:米の品質と植物防疫, 今月の農薬 18巻2: 14-17. [イネシンガレセンチュウの発生、被害、防除法 (バイジットの散布時期)。]
115. 中野満夫・堺 武士・三枝敏郎:輸出植物検疫で発見された植物寄生性線虫 (1958-1973), 植防研報 12: 69-73. [線虫と植物名のリスト。]
116. 中國和年:ニセフクロセンチュウの孵化および脱皮に対するpHの影響, 18回応動昆虫大会講要: 344. [講要]
117. 中國和年・山本敏夫・岡本好一・一戸 稔:ミカン連作障害園における改植幼木

- の生育に及ぼすDBCP剤処理の効果。日線虫研誌 4: 43-46. [チャネグサレ、トゲワ、ミカンネセンチュウに対する効果。ミカン樹の生育調査。]
118. 西沢 務: 胞子虫利用によるサツマイモネコブセンチュウ防除の試み。18回応動昆大会講要: 352. [講要]
119. 西沢 務: 抵抗性サツマイモ品種に寄生増殖するサツマイモネコブセンチュウの一系統と系統識別のための2、3の試み。日線虫研誌 4: 37-42. [形態(perineal pattern)、寄生性、系統判別法(赤外線吸収スペクトル、ディスク電気泳動、免疫沈降反応)。]
120. 西沢 務: ナガイモの黒変障害について。今月の農薬 18巻10: 54-60. [症状、病原線虫 (*Trichodorus porosus*) とその生態、防除(クロルピクリン、D-D、EDB、DBCP剤等)。]
121. 西沢 務: 連作障害の原因と対策 4. 線虫。In: 総合野菜・畑作技術事典 III 共通技術編・資料編(農林省農林水産技術会議事務局編)。農林技術協会、東京、p. 69 [概説。同書に他の著者による微生物、毒素、要素欠乏、病害の事例の解説 p. 66-69。]
122. 西沢 務: 線虫と防除法。同上、p. 172-173. [防除 技術の簡単な解説。]
123. 野津六兵衛: 自叙伝。In: 米寿と回想。野津六兵衛先生米寿記念刊行会、松江、p. 1-113. [桑線虫が本省指定試験になる経緯 p. 60-62。]
124. 小畑琢志: 名古屋植物防疫所だより。関西病虫研報 16: 64-65. [ジャガイモシストセンチュウ対応にふれる。]
125. 荻原佐太郎: ハウストマトの作型と長期栽培の特徴。In: ハウストマトの長期栽培(荻原佐太郎編)。誠文堂新光社、東京、p. 34-49. [連作問題を含む。]
126. 岡田利承: ダイズシストセンチュウの卵内孵化刺激因子の作用。18回応動昆大会講要: 364. [講要]
127. 岡田利承: Effects of hatching stimulants obtained from the cyst contents of *Heterodera* species (Tylenchida: Heteroderidae) on the hatching of other species. Appl. Ent. Zool. 9(1) 49-51. [ダイズシスト、ジャガイモシスト、イネシストセンチュウの卵及びそれら線虫の寄主植物の根の滲出液に由来する孵化促進物質の効果の比較。本来の寄主由来のもの以外では孵化低率。]
128. 岡本好一・三井 康: トマト抵抗性品種に寄生するサツマイモネコブセンチュウ (*Meloidogyne incognita*)。日線虫研誌 4: 32-36. [千葉県大網町産。トマト、タバコ、サツマイモの線虫抵抗性・感受性品種に対する幼虫侵入数と侵入後の発育。抵抗性タバコ、サツマイモには寄生せず。]
129. 岡本好一・三井 康: トマトの抵抗性を破るサツマイモネコブセンチュウ新個体群のタバコおよびサツマイモ抵抗性品種に対する寄生性。18回応動昆大会講要: 350. [講要]
130. 大羽克明・藤田祐輔: Di-trapex の土壤中における動向。18回応動昆大会講要: 368. [講要]
131. 大林延夫: だいこんキタネグサレセンチュウの耕種的防除。In: 総合野菜・畑作技術事典 II. 野菜編(農林省農林水産技術会議事務局編)。農林技術協会、東京、p. 296-297. [殺線虫剤と堆肥の組合せ、マリーゴールドの利用。]
132. 大林延夫: 野菜のセンチュウ害が堆肥で減らせるか。現代農業 53巻4: 158-161. [殺線虫剤と堆肥の併用は、それぞれの単独処理に比べてダイコンの線虫害の増加割合が著しく減少。]
133. 大畑貫一: 非水銀剤による種もみ消毒に関する四国地域連絡試験結果の要約。四国植防 9: 127-132. [イネシガラセンチュウに対し、ベンレート T20の200-400 倍液

- の24時間浸漬、0.5 %粉衣は高い防除効果。]
134. 大木孝之・佐藤紀男・要 司：促成イチゴの 'すくみ症' に関する研究：症状および発生要因についての調査。神奈川園試研報 22: 85-91. [ネコブ、ネグサレセンチュウを検出。]
 135. 大木孝之・佐藤紀男・要 司：促成イチゴの 'すくみ症'：発生要因と対策。農及園 49(3) 429-433. [症状、発生要因、対策（ウイルス、病害虫：ネグサレセンチュウのDBCP剤処理）、栽培管理と施肥・気象条件。]
 136. 大島康臣：*Heterodera elachista* n. sp., an upland rice cyst nematode from Japan. 日線虫研誌 4: 51-56. [陸稲の連作障害の原因となるイネシストセンチュウを新種として記載。模式産地は埼玉県鴻巣市。*H. oryzae* の近似種。両種の違いに関するコメントが出されている (Luc, M. & Taylor, D.P., C.I.H. Descr. Pl.-para. Nema., Set 7, No.91, 3 pp., 1974).]
 137. 大竹四平：ハウストマトの長期栽培事例：千葉県千代田市の連棟ハウスにおけるトマトの長段どり栽培。In: ハウストマトの長期栽培（萩原佐太郎編），誠文堂新光社、東京、p. 165-180. [クロルピクリンまたはサンヒューム、D-D等による交互の土壌消毒。1週間毎に2回ガス抜き。]
 138. 大山浪雄・川辻公弘・斎藤 明：マツノザイセンチュウ加害に対する、アカマツ、クロマツ、テーダマツ、スタッシュマツの抵抗性。日林九支研論 27: 77-78. [テーダは抵抗性強、スラッシュが次、他は感受性。]
 139. 三枝敏郎：ジャガイモシストセンチュウのほ場検診についての1・2の検討。18回応動大会講要：356. [講要]
 140. 三枝敏郎：輸入植物検疫(1958-1973) で発見された線虫。植防研報 12: 63-68. [線虫名と検出植物のリスト。]
 141. 三枝敏郎・一丸政雄・池田正幸：ジャガイモシストセンチュウの植物および土壌両検診方法の比較、とくに開花期における調査。植防研報 12: 56-62. [2種検診方法の時期別比較。ジャガイモ開花期の抜き取り観察と土壌中のシスト検診。]
 142. 更科孝夫：線虫の波形トラックに関する数量的解析。北海道立農試報 23: 1-48. [主に動物寄生線虫の運動の解析。]
 143. 佐藤紀男・要 司・大木孝之：促成イチゴの 'すくみ症' に関する研究（第2報）土壌消毒およびウイルスフリー株の利用による防除効果。神奈川園試研報 22: 99-100. [DBCP剤単用またはクロルピクリンとの併用効果を含む。]
 144. 芹沢暢明：とまと複合耐病性品種の育成。In: 総合野菜・畑作技術事典 II. 野菜編（農林省農林水産技術会議事務局編），農林技術協会、東京、p. 14-15. [ネコブセンチュウ抵抗性を含む。]
 145. 芹沢暢明・大谷英夫・小林忠和・藤森基弘・牛流清志：トマト「つかま」「はっぼう」「たのも」「雷電」の育成過程と特性について。長野農試報 38: 45-56. [萎凋病、TMV、ハカビ病、ネコブセンチュウ複合抵抗性を目標とした。]
 146. 四手井綱英：マツノザイセンチュウに対する五つの疑問。林業技術 383: 1-5. [徳重陽山が回答。No. 74-169 を参照。]
 147. 清水 啓：畑水稻圃場におけるイネシストセンチュウの密度と水稻の収量。18回応動大会講要：363. [講要]
 148. 下長根 鴻：フザリウム菌と線虫との関係の圃場における実態。7回土壌伝染病談話会資料：45-50. [未見]
 149. 白浜賢一：薬剤不足下における土壌病害虫防除対策。今月の農薬 18巻4: 48-50. [D-D、EDB剤の代替薬剤にふれる。]

150. 菅田重雄・高橋洋二・堀江博道・栗原茂次・新井 茂・井田昭典：軟弱野菜の病害虫発生状況（連・輪作）。関東病虫研報 21: 51-52. [ネコブセンチュウ（サラダナ、シュギク、コマツナ、ホウレンソウ）を含む。]
151. 忠政 亨：マツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの実態調査。岡山林試報 14: 77-88. [県内分布、気温と分布、ニセマツノザイセンチュウの分布、カミキリの線虫保持数。]
152. 高田昌稔：第9回東南アジア太平洋地域植物防疫委員会に出席して。植物防疫 28(6) 247-248. [ジャガイモシストセンチュウの分布（日本、ニュージーランド、インド）にふれる。]
153. 高田宗男：大型ビニールハウスの省力管理方式。農業技術 29(3) 127-133. [昭和48年度農業技術功労賞受賞記。土壌の蒸気消毒を含む。]
154. 高橋正和・斎藤一三：高尾山一水系におけるブユ幼虫、蛹の季節的消長と寄生線虫。衛動 25(3) 273-277. [3種のブユ幼虫の腹腔から線虫を検出。季節的消長を含む。]
155. 高橋昌隆・西又文喜：マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリの実態調査（第1報）。徳島林試研報 12: 41-53. [県内の分布、枯損木からの線虫検出率、数。]
155. 高倉重義・山田英一・上野賢司・今 友親：ジャガイモシストセンチュウに関する研究：殺線虫剤の春処理による効果と問題点。18回応動昆大会講要：362. [講要]
156. 高杉光雄・姉帯正樹・正宗 直：9, 10, 13-trihydroxy-11, 15-octadecadienoic acid and related fatty acids in the roots of kidney bean (*Phaseolus vulgaris* L., "Beni-kintoki"). Chem. Let. 1974(8) 947-950. [インゲン根のダイズシストセンチュウ孵化刺激物質を抽出し、構造を決定。上記と4-hydroxy-1, 12-dodecadienoic acid γ -lactone, 9, 10, 13-trihydroxy-11- and 15-octadecanoic acidsが孵化物質。]
157. 武田丈夫・井戸規雄：マツノザイセンチュウの分布とマツ枯損の拡散。25回日林関西支講：263-266. [和歌山県。]
158. 竹股和久：畑作物の主要品種一覧：かんしょ。In: 総合野菜・畑作技術事典 III, 共通技術編・資料編（農林省農林水産技術会議事務局編）。農林技術協会、東京、p. 328-333. [ネコブ、ネグサレセンチュウ抵抗性程度を記述。]
159. 竹下敬司：マツ立枯れの分布概況と気候。日林九支研論 27: 153-154. [気温、降水量との関係を考察。]
160. 竹谷昭彦・奥田素男・細田隆治・井戸規雄・武田丈夫：マツノマダラカミキリ羽化脱出時期別ならびに飼育経過日数による保線虫数。25回日林関西支講：267-270. [5、6月の羽化脱出虫は保線虫率・保線虫数ともに高い。]
161. 滝沢幸男・宮崎 徹：長崎県におけるマツノザイセンチュウの分布。日林九支研論 27: 159. [離島も含め広く分布。]
162. 田村弘忠・真宮靖治：マツノザイセンチュウの高等植物に対する摂食行動ならびに繁殖。18回応動昆大会講要：354. [講要]
163. 田中 潔：マツノザイセンチュウの菌糸摂食行動。85回日林大会講要：87; 85回日林論：247-249. [行動を図示。]
164. 多良間恵栄・松原芳久：沖縄県下における輸出ユリ栽培圃場の有害線虫。那覇植防情報 11: 75. [未見]
165. 照屋林宏：リュウキュウイシユクセンチュウの生態と防除に関する研究 I。リュウキュウイシユクセンチュウによるサトウキビの被害。18回応動昆大会講要：345. [講要]
166. 樋田幸夫：ネコブセンチュウによるクワの被害解析 III。線虫接種クワ成木にお

- ける初期の被害調査。18回応動昆虫大会講要: 347. [講要]
167. 樋田幸夫: 桑株周辺におけるネコブセンチュウおよびピンセンチュウの分布。日蚕糸講要 44: 101. [講要]
168. 東海林久雄・三浦春夫: イネネモグリセンチュウの関する研究。山形農試研報 8: 118-125. [発生消長、線虫寄生量と水稻の収量、線虫の性比、県内分布。]
169. 徳重陽山: マツノザイセンチュウ五つの疑問に答えて。林業技術 385: 1-5. [四手井の問い (No. 60-146 を参照) に対する回答。]
170. 徳重陽山: 松くい虫研究の明暗と感傷。冬虫夏草 9: 12-25. [昭和37~38年以降の研究史。昭和43年11月の材線虫の初めての検出から、44年10月の接種試験による枯損確認、46年5月の媒介者の確定、その後の研究についてドキュメント風に記述。]
171. 角田 博: 土壌燻蒸剤の現状と問題点: 臭化メチル剤およびクロロピクリン剤を中心に。農及園 49(6) 787-792. [需要の推移、適用病害虫、使用方法、施用効果、使用上の注意・問題点。]
172. 堤 正明: ジャガイモシストセンチュウの孵化におよぼす2・3の要因。18回応動昆虫大会講要: 359. [講要]
173. 上林 譲・天野 隆・中西 勇: 黒点米に関する研究 (第4報) 組織観察。愛知農試研報 A 6: 77-82. [黒点米・斑点米・針 (人工加傷) による障害を比較。]
174. 上林 譲・都築 仁・中西 勇: ペノミル及びその類縁化合物の心枯線虫病に対する効果。日植病報 40(3) 228. [講要]
175. 上田 進: イネ心枯線虫病に関する研究 第4報 発病と被害 (収量) との関係。日植病報 40(2) 134. [講要]
176. 上田 進・別宮岩義: 新種子消毒剤とMEP剤等の混用によるイネごま葉枯病ならびに心枯線虫に対する効果 (予報)。農及園 49(7) 925-926. [ベンレートT、ホーマイ、スミチオン、パダンとの混用。]
177. 上原 等: 非水銀剤、とくにベンレートT水和剤20による種もみ消毒について。四国植防 9: 109-117. [心枯線虫病には200-400 倍液24時間浸漬、0.5 %粉衣。]
178. 上野賢司・今 友親・山田英一・高倉重義: ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 高密度ほ場におけるジャガイモの生育。18回応動昆虫大会講要: 358. [講要]
179. 八木田秀幸: オオガタハリセンチュウ (*Xiphinema bakeri*) の形態計測ならびに桑における発育経過について。日蚕講要 44: 100. [講要]
180. 八木田秀幸: *Longidorus maritini* Merny の胚子発生についての観察。日蚕関東講要 25: 5. [講要]
181. 山田英一・周藤靖雄: 島根県におけるマツノマダラカミキリの羽化脱出時期および線虫保持状況。25回日林関西支講: 287-290. [羽化脱出は5、6月に多い。マツノザイセンチュウ以外の線虫も検出。]
182. 山田英一・高倉重義: 北海道のハウス栽培トマト・キュウリで発見されたサツマイモネコブセンチュウ。18回応動昆虫大会講要: 348. [講要]
183. 山田英一・高倉重義・上野賢司・今 友親: ジャガイモシストセンチュウの生態 (I)。18回応動昆虫大会講要: 8. [日本線虫研究会大会講要。発生消長等。]
184. 山口久夫: ハウストマトの長期栽培事例: 愛知県におけるファーストの長期栽培事例。In: ハウストマトの長期栽培 (荻原佐太郎編)。誠文堂新光社、東京、p. 193-200. [クロロピクリン、D-Dともに40ℓ/10 a を灌注。]
185. 山本公志: クリの立枯症 (仮称) とその根から検出される *Pseudhalenchus anchilisposomus* Tarjan. 日線虫研誌 4: 20-26. [症状、線虫の分布・密度、立枯症と他の病害虫、線虫の種名と形態、線虫の培養、湿熱に対する致死温度。]

186. 山本敏夫・中野 直・近藤鶴彦：ランネート水和剤による植物寄生性線虫の防除。関西病虫研報 16: 139-140. [講要。キク、イチゴのネグサレセンチュウ、キュウリのネコブセンチュウ。]
187. 山中勝次・柴田毅次：マツノザイセンチュウのアカマツ樹体内における移動と樹体の組織学的考察。25回日林関西支講: 314-317. [樹体の異常にともなう線虫も移動。]
188. 吉田雅夫・清家金嗣・京谷英寿：モモネコブセンチュウ抵抗性の遺伝。園芸学会昭49春研究要旨: 116-117. [講要]
189. 葭原敏夫・気賀沢和男：土壌水分のダイズシストセンチュウの寄生性に及ぼす影響 第2報 十勝乾性型火山灰土壌の表土および下層土におけるダイズの生育と線虫寄生。北海道農試研報 109: 19-26. [線虫の侵入及び寄主作物の生育は表土、特に多湿条件下で最も旺盛。]
190. 湯原 巖：赤外カラー写真およびマルチスペクトル写真によるシストセンチュウの被害判読。18回応動昆大会講要: 367. [講要]
191. 柚木利夫：病害虫抵抗性品種の利用。In: 総合野菜・畑作技術事典 III. 共通技術編・資料編（農林省農林水産技術会議事務局編）。農林技術協会、東京、p.175-176. [ダイズシストセンチュウとそのレースにふれる。]
192. Anon. (香川県林業指導所)：マツノザイセンチュウの関係するマツ類の枯損防止に関する試験研究報告。試験研究成果報 6: 1-104. [謄写。マツノザイセンチュウの地理的分布 p. 1-12; 五色台周辺におけるマツノザイセンチュウの地理的分布に関する調査 p.13-18; マツノザイセンチュウの地理的分布に関する調査（昭和47年度調査参考再掲） p. 19-30; 殺線虫剤の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ木所試験 p. 78-99; マツノザイセンチュウに対する抵抗性品種の選抜試験 p. 100-104.]

昭和50年 (1975)

1. 阿久津喜作：鱗翅目害虫に寄生する線虫 *Hexameris* sp. 関東病虫研報 22: 137. [種名、寄生性、ヨトウ類への寄生、寄生数。]
2. Alam, M. M., Khan, A. M. & Saxena, S. K.: Efficacy of "Vydate" oxamyl for the control of root-knot nematode, *Meloidogyne incognita* (Kofoid & White, 1919) Chitwood, 1949, attacking tomato. 防虫科学 40(4) 159-161. [1200 ppm液に苗根の30分浸漬、移植後毎週1回5週間の茎葉噴霧で著効。]
3. 天野 隆・上林 譲・中西 勇：薬剤の育苗箱処理によるイネシガラセンチュウ防除。関西病虫研報 17: 82-83. [講要。ダイアジノン、カルタップ、エチルチオメトン粉剤の効果。]
4. 雨宮若橘・萩屋 薫：殺菌剤による球根アイリスのセンチュウ防除。園芸学会昭50春研究要旨: 296-297. [講要]
5. 青木宏史：ショウガの品種と栽培。農及園 50(1) 172-176. [ネコブセンチュウ防除を含む。]
6. 近岡一郎・竹沢秀夫：キタネグサレセンチュウの雑草における寄生。関東病虫研報 22: 136. [28科69種を供試。全く寄生を認めなかったのはハマスゲのみ。]
7. 段林弘一・国分義彦：マツ枯損木からのマツノザイセンチュウ検出結果についての2・3の考察。26回日林関西支講: 263-266. [MEP (10%)・EDB乳剤およびMPP (50%)・EDB乳剤の0.5 ~1.0%希釈液を春期に被害木面積 1㎡当たり600cc 散布すれば駆除効果がある。]

8. 遠田暢男: マツノマダラカミキリ (*Monochamus alternatus* Hope) の生殖器に寄生する線虫. 森林防疫 24(10) 188. [Neotylenchidae科線虫の写真. 本号は松くい虫特別研究特別号. 線虫 4 篇 (No. 75-23, 60, 80, 148)、カミキリ関係 5 篇を収録。]
9. 遠田暢男: マツノマダラカミキリ体表面の糸状菌と線虫保持数及び死亡率. 86回日林大会講要: 96; 86回日林論: 325-326. [カミキリの糸状菌保持量と線虫保持数は正の関係. またカミキリの死亡率も高い。]
10. 藤原俊広・長島茂雄: 山口県におけるマツノザイセンチュウの地理的分布と環境. 26回日林関西支講: 267-270. [年平均気温14℃以上の地域で検出。]
11. 藤下章男・鳥居春己: マツ類の急激枯損防止に関する研究 (1) マツノザイセンチュウおよびマツノマダラカミキリの実態調査. 静岡林試研報 7: 31-44. [マツクイムシ被害の推移(1955-1974, 静岡県)、マツノザイセンチュウの水平分布と蔓延原因、垂直分布とマツノマダラカミキリの寄生、検出と林木の被害、ニセマツノザイセンチュウの分布。]
12. 福留信明: ミナミネグサレセンチュウ *Pratylenchus coffeae* のタバコに対する寄生加害と発育. 19回応動昆虫大会講要: 436. [講要]
13. 福留信明: ネコブセンチュウ (*Meloidogyne incognita*) がタバコ舞病 (*Pythium aphanidermatum*) の発病におよぼす影響. 日植病報 41(1) 112-113. [講要]
14. 五味美知男・中里筆二: イネシガラセンチュウとその防除. 農薬研究 21巻3: 14-19. [線虫の形態、生態、伝染経路、被害、防除、黒点米との関係。]
15. 後藤 昭: 南西諸島の農作物の害虫及び有害動物. 九州農試研究資料 50: 47-68. [サトウキビ、パインアップル、水稻、サツマイモ、野菜、ミカン類の害虫・有害動物 (線虫を含む) の種類、分布、被害、生態、防除、問題点。]
16. 後藤 昭: 植物寄生性線虫の地理的分布: ネグサレセンチュウ (属) を例として. *Edaphologia* 12: 5-9. [No. 74-16の要約。]
17. 後藤 昭: ネグサレセンチュウの種類別分布と防除上の注意. 今月の農薬 19巻5: 14-17. [分布の特徴、主要種の問題点、抵抗性品種等。]
18. 萩原幸弘・小河誠司: マツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウに対するダイシストン粒剤の施用効果. 九病虫研会報 21: 55-56. [4年生クロマツに対し土壌施用で効果。]
19. 萩原幸弘・小河誠司・中島康博: マツノマダラカミキリ誘引剤への飛来経過と保持線虫数. 日林九支研論 28: 147-148. [ホドロン誘引性と時期別の捕捉カミキリの保持線虫数。]
20. 萩原幸弘・小河誠司・竹下晴彦: マツ類材線虫被害の伝播範囲. 日林九支研論 28: 153-155. [筑後平野における被害地域の拡大経過。]
21. 萩谷俊一: ネグサレセンチュウによるセンリョウの被害とDBCP粒剤の防除効果. 関東病虫研報 22: 135. [キタネグサレセンチュウ. 連作障害は線虫以外の原因の可能性あり。]
22. 針谷信義・松井武彦: 殺線虫剤によるアカヒロウドコガネ幼虫の防除. 関東病虫研 22: 100. [EDB、ネマホルン剤の効果、施用時期・回数。]
23. 橋本平一: マツノザイセンチュウその後の研究: 感染から発病までの線虫とマツの相互関係をめぐって. 森林防疫 24(10) 189-192. [線虫の増殖と食物源及び加害性、樹体内での線虫の動態とマツの反応、線虫の加害力とマツの抵抗性、加害性発現の条件。]
24. 橋本平一・堂園安生: 感受性および抵抗性マツの樹体内での材線虫の移動と増殖. 86回日林大会講要: 89; 86回日林論: 301-302. [クロ、アカ、デーダマツの比較。]
25. 橋本平一・清原友也: マツノザイセンチュウ接種木におけるいわゆる「持ち越し」

- について、日林九支研論 28: 169-170. [接種線虫の樹体内での越冬は認めず。]
26. 林 勇: ヨーロッパの切花バラ生産と研究 [2]. 農及園 50(8) 983-988. [クルミネグサレセンチュウの薬剤防除を含む。]
27. 平野和弥: Interrelationships between plant parasitic nematodes and other plant pathogenic organisms. Rev. Pl. Protect. Res. 9: 55-68. [線虫と病原菌の関連病害に関する日本の研究を中心にした総説。]
28. 堀田 隆・千原賢次・増田隆哉・河野 登: マツクイムシに関する研究: 温度条件の変化とマツノザイセンチュウの動態及び加害性との関係. 大分林試報 17: 31-36. [28、35°Cの時強い加害性。18-28 °C変温時の増殖、加害性 (枯損)。]
29. 堀田 隆・増田隆哉・橋本平一: 温度条件の変化とマツノザイセンチュウの加害性との関係. 86回日林大会講要: 90; 86回日林論: 303-304. [18, 28, 35°Cにおける線虫の樹体内の移動、増殖と枯損の関係。]
30. 一戸 稔: Infestation of black pepper vines by the root-knot nematode, *Meloidogyne incognita*, at Tome-acu, Para, Brazil. 日線虫研誌 5: 36-40. [ブラジル・パラ州トメアスーのコショウ栽培におけるサツマイモネコブセンチュウの寄生。圃場・地域・樹令・土性別の線虫寄生度。]
31. 一戸 稔: 線虫とその防除. 農薬研究 22巻2: 1-9. [連作障害と線虫、線虫とその生活、生物的防除、耕種的防除、化学的防除。]
32. 一戸 稔: 線虫実験法. In: 土壤微生物実験法 (土壤微生物研究会編). 養賢堂、東京、p. 137-173. [試料の採集と線虫の分離、取り扱い・保存、同定、密度の査定、培養、捕食菌の分離と保存。]
33. 一戸 稔・岡本好一・気賀沢和男・稲垣春郎: ジャガイモシストセンチュウの寄生型 (II). 19回応動昆大会講要: 439. [講要]
34. 稲垣春郎・宮谷内留行・気賀沢和男: ブタの摂食によるジャガイモシストセンチュウの生死. 19回応動昆大会講要: 440. [講要]
35. 井上 平: ジャガイモの連作に伴うネコブセンチュウの被害と防除、とくに土壤害発生防止との関連. 長崎農試研報 (農業部門) 3: 48-59. [クロルピクリン剤施用、連作による線虫密度の変化、薬剤施用時期、被害、減収、青枯病・そうか病発生との関連。]
36. 井上忠男: 土壤伝染ウイルス病の防除. 農及園 50(3) 368-372. [線虫伝搬ウイルスの防除を含む。]
37. 石橋信義・近藤栄造・柏尾具俊: The induced molting of 4th-stage larvae of pin nematode, *Paratylenchus aciculus* Brown (Nematoda: Paratylenchidae), by root exudate of host plant. Appl. Ent. Zool. 10(4) 275-283. [土壤中保存第4期幼虫に対するクワの根の滲出液の脱皮促進効果と同幼虫の生存能力の生態学的意味。]
38. 石橋信義・近藤栄造・吉永憲一・横尾多美男: マツノザイセンチュウの形態的变化と耐久性 1. 培養条件下における分散型幼虫の出現と耐久性. 19回応動昆大会講要: 432. [講要]
39. 石橋信義・村岡 実・近藤栄造・横尾多美男: ミカン園における除草剤の施用が土壤中型動物相におよぼす影響 (予報). 九病虫研会報 21: 152-153. [講要]
40. 石川元一: 水田転換畑におけるダイズシストセンチュウの発生. 関東病虫研報 22: 131. [3年目から発生。]
41. 石川元一・藤田耕郎: イネシガラセンチュウと黒点米の防除. 関東病虫研報 22: 129. [発生分布、線虫と黒点米との関係、出穂期における防除。]
42. 伊藤一雄: Forest disease and insect conditions in Japan. In: Second FAO IUFRO Symp. Forest Dis. Ins., New Delhi, India, 7-12 Apr., 1975. Rome, Italy;

- FAO. 3 pp. [マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリの生態、防除。]
43. 伊藤一雄：松くい虫の謎を解く：材線虫と土水母。農林出版、東京、13+162 pp.
[松枯損に関する研究の歴史的進展、マツノザイセンチュウの研究の現状、枯損防止技術の変遷を扱った一般向読み物。]
44. 岩崎 厚・森本 桂：マツノマダラカミキリに関する研究 X II. 誘引剤による捕虫効果と保線虫数。日林九支研論 28: 195-196. [ホドロンEによる誘引。]
45. 弥富喜三・大野秀樹：マツノザイセンチュウ病の化学療法。19回応動昆大会講要：431. [講要]
46. 兼堀富次郎・安井公一・小野清六：いわゆる“まつくい虫”の生態および防除に関する研究（第1報）材線虫およびまつくい虫幼虫の材中における時期別消長。岡山大農学報 46: 72-78. [カミキリ、ゾウムシ、キクイムシ、マツノザイセンチュウの検出例。]
47. 柏尾具俊・石橋信義・横尾多美男：Morphology of larval molting in the pin nematode, *Paratylenchus aciculus* Brown (Nematoda: Paratylenchidae) with the emphasis on stylet regeneration. Appl. Ent. Zol. 10(2) 96-102. [ピンセンチュウの幼虫期の脱皮と口針の形成を令期を追って観察。]
48. 川田惣平・稻生 稔：イネシンガレセンチュウの出穂期防除。関東病虫研報 22: 130. [有機燐剤の散布で黒点米の発生減少。]
49. 川辻公弘：マツノザイセンチュウに対するエチルチオメトン粒剤施用の効果。日林九支研論 28: 173-174. [線虫の侵入1月以前の施用で効果。]
50. 粥見惇一・広尾順三：昭和49年三重県に発生した黒しよく粒。関西病虫研報 17: 87. [講要。出穂期・品種・カメムシの発生・イネシンガレセンチュウとの関係。]
51. 岸 国平：ブラジルの畑作物害虫。今月の農薬 19巻7: 82-85. [コショウのネコブセンチュウと *Phytophthora palmivora* との混合感染を含む。]
52. 岸 洋一：マツノマダラカミキリに対する有機リン単剤と有機リン剤・EDB混合剤の殺虫力の比較（1）成虫に対する経口毒性と接触毒性。日林誌 75(10) 334-338.
[両者の効果に顕著な差は認められず。]
53. 岸 洋一：高周波によるマツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウの殺虫。応動昆 19(4) 290-291. [カミキリは3分30秒以上、材線虫は5分以上の照射で100%死亡。]
54. 北沢右三：殺菌剤を散布した土壤中の土壤動物の数の変化。Edaphologia 11: 3-5.
[講要。γ-BHC散布時の線虫個体数の変化にふれる。]
55. 鬼頭研二：Preliminary report on the phytal animals in the *Sarugassum confusum* region in Oshoro Bay, Hokkaido. J. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. VI. Zool. 20(1) 141-158. [北海道の忍路湾のコンブ生息地の底生生物（線虫を含む）の季節的消長の調査。]
56. 清原友也・鈴木和夫：マツ樹体内におけるマツノザイセンチュウの季節的消長。86回日林大会講要：88；86回日林論：296-298. [個体数及び令構成の変化。]
57. 清原友也・鈴木和夫：マツノザイセンチュウの樹体内分散。日林九支研論 28: 171-172. [樹脂の異常発現に先だって、線虫は樹幹全体に分散。]
58. 清原友也・鈴木和夫・橋本平一：接種初期のマツノザイセンチュウの動態。86回日林大会講要：89；86回日林論：299-300. [発病の早晚と線虫増殖過程の関係。]
59. 小林一三・竹谷昭彦・奥田素男・細田隆治・武田丈夫・井戸規雄：マツノマダラカミキリ成虫の材線虫保持数：和歌山県潮岬における1974年の結果。86回日林大会講要：98；86回日林論：333-334. [脱出直後・定着後食期・産卵期の保持線虫数の変化。]
60. 小林亨夫：線虫とカビとカミキリと。森林防疫 24(10) 199-202. [マツ樹体内における三者の関係を解説。]

61. 小林亨夫・佐々木克彦・真宮靖治：マツノザイセンチュウの生活環に関連する糸状菌(2)。日林誌 57(6) 184-193。[健全木・枯死木の菌相の変化。それら菌類による材線虫の増殖。]
62. 小林義明：マリーゴールドで線虫防除。農業技術研究 29巻1: 19-21。[原理、対象線虫、効果の解説。]
63. 小林義明・美濃部 進：ネコブセンチュウに対するマリーゴールドの密度抑制機作について。19回応動昆大会講要: 444。[講要]
64. 小林義明・三井 康：施設栽培土壌における線虫捕食菌の分布と線虫密度。静岡農試研報 20: 41-47。[捕食菌の種類と分布、線虫数と捕食菌密度、分離培地上での捕食菌の消長。]
65. 小林義明・菅沼正光・金指平二・石塚 健：マリーゴールドによる秋ギクのネグサレセンチュウの防除。関東病虫研報 22: 133-134。[混作・前作の効果。クロルピクリン剤処理と同程度の効果。]
66. 古賀成司：水利用による土壌線虫防除に関する研究(1) ネコブセンチュウに対するたん水および有機物の施用効果。Delphax 19: 3。[講要]
67. 小泉三千代・井上 巖：ハリガネムシ(Gordiaceae)のクチクラ内感覚器と思われる構造について。動雑 84(4) 474。[講要]
68. 小久保 醇：第9回森林動物シンポジウム：マツノザイセンチュウをめぐる諸問題。日林誌 57(10) 361-364。[以下の講演の要旨を紹介。マツノマダラカミキリの生態(森本 桂)、マツノザイセンチュウに関する研究の現状(橋本平一)、抵抗性育種の可能性(大山浪雄)、マツ林の被害と森林立地(竹下敬司)、鹿児島における防除を中心として(川畑克巳)、討論。]
69. 近藤栄造・石橋信義：Ultrastructural changes associated with the tanning process in the cyst wall of the soybean cyst nematode, *Heterodera glycines* Ichinohe. Appl. Ent. Zool. 10(4) 247-253。[ダイズシストセンチュウのシスト壁のtanningに伴う形態の変化を電子顕微鏡で観察。]
70. 近藤栄造・石橋信義・横尾多美男：センチュウ表皮に及ぼす温度処理の影響。九病虫研会報 21: 153。[講要]
71. 近藤栄造・石橋信義・横尾多美男：マツノザイセンチュウの形態変化と耐久性 2。発育ならびに耐久性発現にともなう微細構造の変化。19回応動昆大会講要: 433。[講要]
72. 近藤秀明・斎藤勝清・岸 洋一・海老根翔六：茨城県における松くい虫(マツノザイセンチュウ)の被害実態と空中散布。森林防疫 24(7) 139-143。[県内分布、枯損の時期別経過とマツノマダラカミキリの羽化時期、防除事業(防除の経過、効果、昆虫相・野鳥への影響、残効)。]
73. 紺谷修治・峰尾一彦：マツノザイセンチュウによるマツ類枯損の被害発生状況について。日植病報 41(4) 92。[講要]
74. 紺谷修治・峰尾一彦・田中 潔：マツの材線虫病の薬剤防除 1。樹幹注入による枯損防止。26回日林関西支講: 285-288。[キルゾールP注入の効果。]
75. 小山良之助：マツノザイセンチュウから検出されたクラミディア類似の微生物。日林誌 57(2) 61-63。[食道腺核周辺部の細胞質中。]
76. 真宮靖治：マツノザイセンチュウの発育と生活史。日線虫研誌 5: 16-25。[卵の発育、幼虫の発育(令期別の計測値)、生活史(30, 33°Cでは生育障害、発育限界温度は9.5°C)]
77. 真宮靖治：マツノザイセンチュウの生態に関する2・3の知見。86回日林大会講要: 85-86。[講要]

78. 真宮靖治: 感染初期におけるマツ類樹体内でのマツノザイセンチュウの動態. 86回日林大会講要: 86; 86回日林論: 285-286. [マツ樹体の組織解剖学的変化と線虫の動態.]
79. 真宮靖治: マツノザイセンチュウのベルマン法による抽出効率. 森林防疫 24(6) 115-119. [経過時間と累積抽出虫数の関係. モデル式による総個体数の推定値は過小評価となった.]
80. 真宮靖治: マツ樹体内におけるマツノザイセンチュウ個体群の消長. 森林防疫 24(10) 192-196. [マツノザイセンチュウの発育と生活史. 線虫個体群のマツ樹体内での消長. 線虫と媒介者とのかわりあい.]
81. 真宮靖治: マツノザイセンチュウをめぐって. 化学と生物 13(4) 235-238. [一般向けの平易な解説.]
82. 真宮靖治: Pine lethal wilting disease caused by the pine wood nematode, *Bursaphelenchus lignicolus*. Second World Technical Consultation of Forest Diseases and Insects, New Delhi, India, 7-12 Apr., 1975; Special Paper, FAO No.15, 7 pp. [症状、分布、伝播、寄生、防除の解説.]
83. 正宗 直・谷内田洋一・姉帯正樹・高杉光雄・気賀沢和男: アスパラガス (*Asparagus officinalis* L.) の根の殺線虫成分. 19回応動昆虫大会講要: 445. [講要]
84. 松原 功: (続) 千葉県におけるマツノザイセンチュウの分布について. 千葉林試報 8: 15-23. [市原市北部と茂原市北部を結ぶ線以南に集中.]
85. 松田 明・下長根 鴻・尾崎克己: ネコブセンチュウの寄生がキュウリつる割病発生に及ぼす影響. 茨城農試研報 16: 83-94. [圃場における根圏の病原菌と微生物相の変動. 根の活性及び根の表皮細胞の浸透圧の変化. 体内成分の変化および根の分泌物の変化. つる割病菌分生孢子発芽に及ぼす影響.]
86. 松田正治: マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリの実態調査. 愛媛林試研報 1: 35-62. [謄写. 民有林まつくい虫被害量 (1946-1974). マツノザイセンチュウの分布調査. マツノマダラカミキリの羽化消長と保持線虫数. 被害材内穿入・脱出調査.]
87. 松枝 章: 石川県におけるマツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリの実態と動向. 石川林試研報 6: 43-62. [マツ類の枯損原因. マツノマダラカミキリの地理的分布. 発消消長. 生態. マツノザイセンチュウの地理的分布. マツノマダラカミキリのマツノザイセンチュウ保有と天敵.]
88. 松本 庵・松尾義男: 水田土壌に対するクロルピクリンの処理効果. 兵庫農試研報 24: 17-19. [イネネモグリセンチュウ密度の変化. 稲の生育等.]
89. 松本益美・吉岡幸治郎・近藤武由・隅田俊三・栗原 肇・丹原一寛: サトイモの連作障害の発生と連作年限および土壌消毒処理との関係. 愛媛農試研報 17: 25-26. [クロルピクリン. D-D. DBCP剤の施用効果.]
90. 松浦邦昭: 薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究 (II) 樹幹注入したdisulfoton, fensulfothionのマツ樹体内における行動. 86回日林大会講要: 92; 86回日林論: 311-314. [移動. 分布. 存在形態.]
91. 松浦邦昭: 薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究 (III) 数種薬剤のポット植栽苗木に対する土壌施用効果. 86回日林大会講要: 92; 86回日林論: 315-316. [ダイシストン. テラクアーPに明らかな効果.]
92. 松浦邦昭・藤下章男・岸 洋一: 薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究 (I) 数種薬剤の生立木に対する樹幹注入施用効果. 86回日林大会講要: 91-92; 86回日林論: 309-310. [fensulfothion, disulfoton, thionazinは効果あり.]
93. 三原一優・江藤守総: 殺虫性サリゲニン環状りん酸エステルの研究 (13) フェニルチオノホスホン酸エステル類の殺線虫活性. 九大農芸誌 30(3) 105-108. [イネシ

- ンガレセンチュウに対する効果。2-*p*-トリル-4H-1, 3, 2-ベンゾチオキサホスホリン-2-スルフィドが最も強い作用。]
94. 皆川 望: 甘藷畑におけるサツマイモネコブセンチュウ個体群の季節的変動 II. 第2期幼虫の圃場内分布。19回応動昆虫大会講要: 446. [講要]
95. 皆川 望・後藤 昭・佐野善一: サツマイモネコブセンチュウの発生時期の予測および季節的消長。九州農試年報 昭49: 42-44. [一世代所要有効積算温度およびカンシヨ圃場における個体群の季節的消長。]
96. 峰尾一彦: マツノマダラカミキリからマツノザイセンチュウの離脱と樹体侵入。26回日林関西支講: 275-278. [羽化後7-15日の間。]
97. 峰尾一彦・紺谷修治: マツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリから離脱して伝播する時期。86回日林大会講要: 91; 86回日林論: 307-308. [カミキリの羽化後約1週間以降。]
98. 峰尾一彦・紺谷修治: 接種したマツノザイセンチュウの樹体内の垂直移動について。日植病報 41(1) 92. [講要]
99. 三井 康: 線虫捕食菌と線虫。化学と生物 13(9) 571-577. [総説。捕捉器官の形態・機能・形成要因、生育と捕食活性、分布、土壤中の活性、生物的防除。]
100. 三井 康・岡本好一・一戸 稔・小林義明: カルスで増殖した数種のネグサレセンチュウの寄主範囲と加害性。19回応動昆虫大会講要: 437. [講要]
101. 三井 康・横沢菱三・一戸 稔: Effect of temperature and pH on the propagation of *Pratylenchus* culturing with alfalfa callus tissues. 日線虫研誌 5: 48-55. [培地のpH (2.9-8.1)、培養温度 (15-34 °C)、7種22群のネグサレセンチュウのアルファルファカルスによる増殖。]
102. 宮園輝夫・浅井甲子男・佐々木幹男・福田睦男・林 松雄: 土壤燻蒸剤深層注入機の開発。鹿児島たばこ試報 19: 45-56. [機械の構造及びクロロピクリン剤施用結果。]
103. 宮崎 信: 材線虫によるマツ類の枯損と化学成分。25回木材学会研究発表要旨集: 304-305. [シンポジウム講要。マツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウの行動に關与する物質の解説。]
104. 望月正己: イネシンガレセンチュウと黒蝕粒について。北陸病虫研報 23: 115-116. [実態調査。]
105. 森本 桂: 材線虫によるマツ類の枯損。25回木材学会研究発表要旨集: 302-303. [シンポジウム講要。マツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウの相互關係。]
106. 村井高伯・山田哲也・大橋雄司・清水佳久: 複合病害抵抗性黄色種F209の育成。磐田たばこ試報 7: 1-17, 1 pl. [線虫病抵抗性の分離、検定結果を含む。]
107. 村井高伯・山田哲也・清水佳久・岡 克・大橋雄司・松井俊夫・大島栄二・山本義忠・北野 博・谷本仁也・前原為矩: 複合病害抵抗性黄色種F209、Coker 254の検定試験結果。磐田たばこ試報 7: 49-70. [前者は線虫病にも抵抗性。]
108. 長島茂雄・林 洋二・藤原 均: 山口県におけるニセマツノザイセンチュウの分布と被害実態。26回日林関西支講: 271-274. [地理的分布、検出木の種類、病徴、マツノマダラカミキリとの關係、マツノザイセンチュウとの混在。]
109. 中村薩雄: 乗用トラクタによる土壤消毒・畦立・被覆1行程作業方式の考案について。葉たばこ研究 69: 125-127. [トラクタの改良例。]
110. 中根 勲: 2回越冬幼虫の状況とマツノザイセンチュウ保持状況。26回日林関西支講: 228-231. [マツノマダラカミキリ: 2回越冬虫で25%、1回越冬では82%が保持。]
111. 中園和年: 産地を異にする単為生殖型ニセフクロセンチュウの系統間における發育速度の比較。19回応動昆虫大会講要: 19: 435. [講要]

112. 中里肇二・原 栄一：群馬県における黒点米の発生と2、3の知見。関東病虫研報 22: 128. [発生分布、イネシガラセンチュウとの関係、品種・栽培法との関係。]
113. 西口親雄：病虫害伝播現象のなぞ。林業技術 400: 8-12. [マツクイムシ問題を含む。]
114. 西沢 務：Paratrichodorus (Atlantadorus) porosusの形態および生態に関する知見。日線虫研誌 5: 26-31. [雌成虫のventro-median pore数の個体変異、単為生殖の可能性、土壌温度と線虫の増殖 (20>25>30°C)、寄主範囲 (43種中35種の植物で増殖)。]
115. 西沢 務：ナガイモユミハリセンチュウ (仮称) の形態および生態に研究2、3の知見。19回応動昆虫大会講要: 447. [講要]
116. 西沢 務：天敵 (胞子虫) 利用による線虫防除法の開発。研究のひろば (農事試験場報) 17: 9-12. [線虫と線虫害、線虫防除法の点検、天敵、胞子虫利用の可能性。]
117. 小河誠司：マツノザイセンチュウに関する試験 (1) スラッシュマツ樹体内でのマツノザイセンチュウの生存期間。日林九支研論 28: 149. [接種75日後でも生存している箇所があった。]
118. 小河誠司：マツノザイセンチュウに関する試験 (2) HBL油剤の樹体内拡散と殺線虫力。日林九支研論 28: 151-152. [薬剤の浸透範囲 (1.5m) からは線虫検出されず。]
119. 小河誠司・萩原幸弘：マツノザイセンチュウによるスラッシュマツの枯損。森林防疫 24(8) 161-163. [福岡県の事例。他にショートリーフマツ、ハクショウ、テーダマツで線虫検出。]
120. 岡田利承：シストセンチュウの孵化刺激物質。日線虫研誌 5: 1-9. [総説。材料の採集方法と検定方法、天然・合成孵化刺激物質の研究。]
121. 岡田利承：ダイズシストセンチュウの卵内ふ化刺激要因の化学的性質。19回応動昆虫大会講要: 442. [講要]
122. 岡田利承：線虫防除薬剤一覧表 (1975年6月1日現在。線虫を対象に登録されている農薬)。日線虫研誌 5: 56-59. [薬剤 (18種) の種類名、代表的商品名、剤形、有効成分含有量、適用作物名又は場所、適用線虫名、使用時期、使用方法、使用薬量、希釈倍率、使用回数。]
123. 奥田素男：マツノマダラカミキリの羽化脱出部位と材線虫保持数。26回日林関西支講: 216-219. [脱出部位による違いなし。]
124. 小野邦明・大関和彦・中村 裕・三輪 強：東北地方のたばこ産地に発生したネグサレセンチュウについて。葉たばこ研究 68: 71-74. [被害、分布、防除 (耕種的、土壌消毒：クロロピクリン、カーバム、D-D、EDB、DCIP剤)。]
125. 大林延夫：マリーゴールドによるキタネグサレセンチュウの防除。In: 農業技術体系：野菜編 9 (ダイコン、ニンジン、カブ、ゴボウ)。農山漁村文化協会、東京、p. 111-119. [品種比較、栽植日数、栽植方法、スイカ収量への影響、防除効果持続期間、普及上の問題点。]
126. 大川 清・三枝敏郎：線虫抵抗性切花用バラ台木の検索。園芸学会昭50研究要旨: 294-295. [講要]
127. 大木孝之：イチゴの "すくみ症" 対策のあれこれ。農業技術研究 29巻5: 20-22. [クルミネグサレセンチュウとの関係を含む。]
128. 大山浪雄：マリーゴールド汁液のマツノザイセンチュウに対する殺線虫効果。植物防疫 29(4) 150-152. [線虫浸漬試験では有効、樹体内注入では無効。]
129. 三枝敏郎：ユリ類の球根養成におけるネグサレ線虫の寄生様態。19回応動昆虫大会講要: 438. [講要]
130. 酒井真次：半根法によるダイズシストセンチュウ抵抗性個体の選抜方法について

- ・日育北談報 15: 16. [未見。講要。]
131. 酒井真次・斎藤正隆・砂田喜与志：大豆のダイズシストセンチュウ抵抗性個体選抜の—方法：半根法。北海道立農試集報 32: 18-24. [半根法の調査法・調査時期、採種量への影響、抵抗性判定の—致度、雑種初期世代におけるシスト着生指数個体頻度、半根法による抵抗性判定個体の後代検定。]
 132. 佐野善一：土壤中の生線虫分離法としてのふるいわけベルマン法の一変法。日線虫研誌 5: 41-47. [サツマイモネコブとラセンセンチュウ。改変ベルマン法との比較。]
 133. 清水 啓：トレーサー法によるイネシストセンチュウの發育ステージ別摂食量測定。日線虫研誌 5: 32-35. [P、Cの放射性同位元素の植物体投与と線虫への移行。]
 134. 清水 啓：イネシストセンチュウの發育期間における燐吸収量の変化。19回応動昆虫大会講要: 441. [講要]
 135. 塩原右治・山口忠義：キンモクセイのネコブセンチュウによる被害。森林防疫 24(5) 107-108. [群馬県伊勢崎市。]
 136. 鈴木和夫・清原友也：マツノザイセンチュウ接種後のクロマツの蒸散量及び樹脂滲出量の変化と材中の線虫数。86回日林大会講要: 88; 86回日林論: 293-295. [両方とも著しく低下。]
 137. 忠政 亨：マツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの実態調査(II)。岡山林試報 15: 56-66. [地域区分と分布の実態、春枯型・秋枯型枯損とマツノザイセンチュウの検出。]
 138. 高橋幸吉：Chemical control of mulberry diseases in Japan. Jap. Pesticide Inform. 25: 27-31. [モザイク病対策としてのDBC P剤によるLongidorus martini 防除。白紋羽病に対する同剤施用効果を含む。]
 139. 高橋昌隆・吉永忠義：マツノザイセンチュウ・マツノマダラカミキリ実態調査(第2報)。徳島林試研報 13: 12-22. [地理的分布、年平均気温との関係。]
 140. 高井隆次：イチゴのウイルス病と耐病性育種：わが国におけるイチゴのウイルス病について。育種学最近の進歩 15: 107-115. [アブラムシ防除とウイルス病減少の関係及びメセンチュウ防除との関連を含む。]
 141. 高杉光雄・谷内田洋一・姉帯正樹・正宗 直・気賀沢和男：Identification of asparagusic acid as nematocide occurring naturally in the roots of asparagus. Chem. Lett. 1975(1) 43-44. [アスパラガスのアスパラガス酸を分離、構造を確認。ジャガイモシスト、ダイズシストセンチュウ等6種線虫に対する殺線虫力を試験。]
 142. 武田丈夫・井戸規雄：県下におけるマツノマダラカミキリ・マツノザイセンチュウの拡散と気温の関係。26回日林関西支講: 209-212. [和歌山県。両者の分布は温度指数35°Cの等温線と一致。]
 143. 竹下敬司・萩原幸弘：マツの集団枯損と環境。林業技術 404: 6-9. [気温(マツノマダラカミキリの行動可能日数)、雨量との関係。]
 144. 竹下敬司・萩原幸弘・小河誠司：西日本におけるマツの立枯れと環境。福岡林試時報 24: 1-45. [マツの立枯れと気候環境、地形・地質・土壌・植生環境とマツの立枯れ、マツノマダラカミキリの發育と行動に関する要因(気温、10mm以上の降雨日数)、マツの健康度に関する要因(降雨量、気温、風速等)。]
 145. 竹下 努：鳥取県におけるマツノザイセンチュウの分布と被害。86回日林大会講要: 85; 86回日林論: 283-284. [標高、土壌別分布と被害。]
 146. 滝田泰章・高橋三郎(担当者)：イチゴの高冷地育苗ほ及びユウガオの土壌線虫に対するマリーゴールドの利用。栃木農試集報 12: 109-110. [謄写。輪作、混作で利用可能。]

147. 田村弘忠:線虫と糸状菌との関連, *Edaphologia* 11: 25-38. [嚙写。総説。糸状菌食性線虫と任意寄生、糸状菌に対する選択性、繁殖と生活環、生態、分布。]
148. 田村弘忠:マツノザイセンチュウの高等植物組織による繁殖:アルファルファの場合, *森林防疫* 24(10) 196-199. [カルス組織によるマツノザイセンチュウの繁殖・培地間移植と酵母エキス添加の効果、実生根による線虫の繁殖、カルス組織によるニセマツノザイセンチュウの繁殖。]
149. 田村弘忠・真宮靖治: *Reproduction of Bursaphelenchus lignicolus on alfalfa callus tissues*, *Nematologica* 21(4) 449-454. [アルファルファカルスによるマツノザイセンチュウの増殖、培地組成の影響。]
150. 田村弘忠・真宮靖治:マツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウのアルファルファカルスによる増殖, 86回日林大会講要: 90; 86回日林論: 305-306. [両種とも増殖可能。培地によって線虫増殖に差。]
151. 田中 潔:ベノミル剤のマツの材線虫病に対する防除効果(予報), *日植病報* 41(1) 92-93. [講要]
152. 田中 潔:マツの材線虫病の発生に及ぼすSO₂の影響, 86回日林大会講要: 86-87; 86回日林論: 287-289. [亜硫酸ガス燻煙によって症状発現が早まる。ニセマツノザイセンチュウ、マツノザイセンチュウで比較。]
153. 田中 潔:病害虫と大気汚染との関係, *農及園* 50(10) 口絵及び解説. [クロマツに対するマツノザイセンチュウと亜硫酸ガスの関連を含む。]
154. 田中行久・三宅三恵子・赤沢淑紀・山中道勇・賛田博躬:土壌病害のたん水による防除, *土と微生物* 17: 17-28. [タバコの立枯病菌、疫病菌、黒根病菌、白絹病菌、TMV、ネコブセンチュウの消長を調査。]
155. 寺下隆喜代:まつくいむし被害材の含水率、その材中のマツノザイセンチュウ数、およびその材から羽化したマツノマダラカミキリの保持線虫数の関係, 26回日林関西支講: 279-281. [含水率60-100%の被害材に多くの線虫、同40-100%からのカミキリに線虫が多。]
156. 寺下隆喜代・森 格良:マツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウの交配, 26回日林関西支講: 282-284. [交配可能。戻し交配では子孫は得られず。]
157. 照屋林宏:サトウキビ畑におけるリュウキュウイシユクセンチュウの立体的分布, 19回応動昆大会講要: 448. [講要]
158. 樋田幸夫:ネコブセンチュウに対する抵抗性クワ品種の検索 I. クワ品種別線虫寄生状況の調査, 19回応動昆大会講要: 443. [講要]
159. 樋田幸夫:植物寄生線虫分離法に関する2、3の検討, *日蚕講要* 45:19. [講要]
160. 土岐知久:アレチウリ (*Sicyos angulatus* L.)の台木としての特性, *園芸学会昭50秋研究要旨*: 160-161. [講要。ネコブセンチュウのゴール指数は低い。]
161. 富来 務・藤川 隆・佐藤俊次・安藤俊二:イネ心枯線虫病に関する研究 第5報 本病に対する各種殺菌剤の効果について, *九病虫研会報* 21: 149-151. [ベンレト、同T、ホーマイ、ホルサイジンTの各水和剤の0.5-1%の播種直前の湿粉衣が好成績。]
162. 鳥居西蔵:Feasibility of using the entomophilic nematode, DD-136, as a biotic insecticide against rice stem-borers. In: *Approaches to Biological Control* (安松京三・森 樊須編), 東京大学出版会、東京、p. 87-88. [室内実験で昆虫寄生性線虫DD-136のニカメイチュウ幼虫に対する殺虫効果を確認。]
163. 堤 正明:ジャガイモシストセンチュウ卵ふ化におよぼす根浸出液の採取方法の影響, *北日本病虫研報* 26: 93. [ジャガイモ栽培土壌浸出液および根除去土壌浸出液の孵化刺激効果が最高。]

164. 上林 譲: イネシנגレセンチュウと黒点米. 植物防疫 29(7) 268-272. [症状、発生の沿革・分布・原因(線虫・病原菌類との関係)・時期・条件・品種との関係、貯蔵時の変化、起因、対策。]
165. 上林 譲: イネシングレセンチュウの防除. 農業研究 21巻4: 6-12. [被害、抵抗性品種・線虫防除(種籾消毒、育苗期・本田期の防除)。]
166. 上林 譲・都築 仁: ベンゾイミダゾール系殺菌剤のイネシングレセンチュウ、キクハガレセンチュウ、マツノザイセンチュウに対する効果. 19回応動昆虫大会講要: 434. [講要]
167. 上田 進・松本益美: イネ心枯線虫病に関する研究(第4報) 発病と減収被害との関係. 農及園 50(5) 683-684. [収量及びその構成要素への影響、葉位別の葉先白変症状の発生状況。]
168. 植栗恭友・松本基一・西垣誠二: 水稻品種「セトホマレ」の稲心枯線虫抵抗性と類似葉先枯症状について. 大阪農技セ研報 12: 1-3. [穂から線虫を検出、症状部位からは無検出。]
169. 上野賢司・今 友親・山田英一・高倉重義: ジャガイモシストセンチュウによるばれいしょの被害について. 日育北談報 15: 15. [未見。講要。]
170. 八木田秀幸: クワノナガハリセンチュウ (*Longidorus martini*) の生活史ならびに生態に関する研究 I. 形態的特徴と发育経過. 日線虫研誌 5: 10-15. [幼虫の令期(3期)、幼虫・雄・雌成虫の形態的特徴、发育過程(1世代4ヵ月弱)。]
171. 八木田秀幸: クワ輪紋ウイルスの*Longidorus martini*による伝播の様態 (第1報) 線虫の生活史と病原性保持期間. 日植病報 41(2) 292. [講要]
172. 山田英一・高倉重義: 北海道のハウス栽培トマト、キュウリで発見されたサツマイモネコブセンチュウ. 北海道立農試集報 31: 43-49. [虻田町。発生の経過及び被害状況、線虫の形態、寄主植物。本州からの持ち込み。]
173. 山中昭雄: 平地における切花用リンドウの根株養成. 農及園 50(11) 1395-1398. [線虫類の防除(苗の温湯・薬剤処理、本圃の薬剤処理)を含む。]
174. 山中昭雄: リンドウの土壌病害虫防除試験 第1報 寄生センチュウに対する温湯処理試験. 栃木農試業績報 12: 121-124. [ネグサレセンチュウを対象。]
175. 山根明臣・小田久五: The pine bark and wood-boring beetles are secondary, then what is primary? A brief reviews of the studies of the cause of heavy mortality of pines in Japan. In: Second FAO/IUFRO Symposium on forest diseases and insects, New Delhi, India, 7-12 April, 1975. Rome, Italy: FAO, 6 pp. [マツ枯損の原因及び防止策を解説。]
176. 山根明臣・小林亨夫・真宮靖治・田村弘忠・佐々木克彦・吉田幸敏: マツ枯死木中の昆虫、線虫、菌類に対するマイクロ波照射の効果. 86回日林大会講要: 93; 86回日林論: 317-318. [マツノマダラカミキリには45秒位で、マツノザイセンチュウには2分位でかなりの効果。]
177. 山根幹世・斎藤 哲: テッポウユリの連作障害に関する研究. 園芸学会昭50秋研究要旨: 334-335. [講要。線虫、フェノール物質、フザリウムと他の土壌病害が複合的に関連。]
178. 横川登代司: 埼玉県におけるマツノザイセンチュウ被害と分布. 27日林関東支講要集: 23-24. [講要]
179. 吉田雅夫: モモのネコブセンチュウ抵抗性台木. 果実日本 30巻12: 48-52. [連作障害とネマトード、抵抗性台木の種類、改良、利用、普及。実生苗に対する注意。]
180. 吉田雅夫: モモネコブセンチュウ抵抗性台木の育成と選抜. 園芸学会昭50春研究

要旨: 60-61. [講要]

181. 吉田陸敏・北村平次郎・小林義明: 静岡県に発生したネグサレセンチュウによるダイコンの被害とその防除. 関東病虫研報 22: 132. [マリーゴールド、D-D、NC Sによる防除。]
182. 湯原 巖: 赤外カラー写真およびマルチスペクトル方式によるシストセンチュウの被害探査. 北海道農試研報 111: 91-101. [写真撮影用のフィルター、フィルムを検討。]
183. 湯原 巖: 自然草地における線虫の発生動態. 19回応動昆大会講要: 449. [講要]
184. 陳野好之: 緑化樹木で被害が多い土壌病害とその防除. 植物防疫 29(8) 330-333. [ネグサレ、ネコブセンチュウの被害を含む。]
185. Anon. (香川県林業指導所): マツノザイセンチュウの關係するマツ類の枯損防止に関する試験研究報告. 試験研究成果報 8: 1-69. [謄写. マツノザイセンチュウの地理的分布に関する調査 p.1-12、マツノマダラカミキリのマツノザイセンチュウ保持状況調査 p.25-31、マツノザイセンチュウ防除薬剤試験 (殺線虫剤の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ駆除試験) p.39-43、殺線虫剤の樹幹注入によるマツノザイセンチュウ駆除試験 p.44-45、モノフルオル酢酸アミドによるマツノザイセンチュウ防除 p.46-47、エチルチオメトン粒剤によるマツノザイセンチュウ駆除試験 p.48-50]

昭和51年 (1976)

1. 安部 浩: 島根県におけるイチゴ芽寄生線虫の種類と防除. 応動昆中国支報 18: 58-61. [イチゴメセンチュウが最も多い。他にイチゴセンチュウ及び同属の一種。]
2. Bird, A. F.: Nematology in Japan. (Proc. 2nd Nat. Pl. Path. Conf., Brisbane, Australia, 12-14 May, 1976. Abstr.) Austral. Pl. Path. Soc. Newsletter 5 (1, Suppl.) Abs. 99. [未見]
3. 近岡一郎: ダイコンを加害するネグサレセンチュウに関する研究. 神奈川農総研報 116: 35-43. [ネグサレセンチュウの種類 (ミナミ、キタ、クルミ、ムギネグサレセンチュウ) とダイコンに対する加害、キタネグサレセンチュウによる被害とダイコンの作型、品種間差異、侵入と病徴発現。]
4. 近岡一郎: ダイコンを加害するネグサレセンチュウの種類と特徴. 農及園 51(6) 785-789. [4種のネグサレセンチュウの寄主作物、被害、防除。]
5. 近岡一郎: マリーゴールドによるネグサレ、ネコブ各センチュウの防除効果. 野菜園芸技術 3巻6: 6-8. [未見]
6. 堂園安生・清原友也: 培地上におけるマツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウの競争. 日林九支研論 29: 223-224. [25°C20日間の培養では競争はおきず。]
7. 堂園安生・清原友也: マツノザイセンチュウおよび近縁種のマツ生立木における動態. 87回日林大会講要: 77; 87回日林論: 231-232. [マツノザイセンチュウとニセマツノザイセンチュウの混合接種後の個体数・種類構成の変化。]
8. 江口恭三・福留信明・前原為矩・山口洋一: 沖縄における自生在来種の特性について. 葉たばこ研究 73: 67-74. [12系統のタバコ全部がジャワネコブセンチュウ抵抗性、サツマイモネコブセンチュウ感受性。]
9. 榎 幹雄・伊藤孝美: 大気汚染とマツノザイセンチュウ被害との関連. 27回日林関西支講: 248-251. [結論は得られず。]
10. 藤本 清・足立年一・河野 哲: イネシンガレセンチュウの防除について. 応動昆

- 中国支報 18: 42-47. [種々のMEP、MPP、カルタップ浸漬。出穂期のMEP、MPP散布と黒点米混入率の関係。]
- 1 1. 福留信明・山口洋一: ジャワネコブセンチュウ *Meloidogyne javanica* (Treub., 1855) Chitwood, 1949に対するタバコの抵抗性に関する研究 第1報 沖縄県下で採取した在来種タバコのネコブセンチュウ抵抗性について。鹿児島たばこ試報 20:135-144. [抵抗性の検定・機作。サツマイモネコブセンチュウ感受性で、ジャワネコブセンチュウ抵抗性の品種。宇都宮と沖縄のジャワネコブセンチュウ個体群で寄生性に違い。]
 - 1 2. 二井一禎: ザイセンチュウのマツ類に対する親和性について。87回日林大会講要: 78. [講要]
 - 1 3. 我如古光男: 森林病害虫防除に関する研究: マツノザイセンチュウ被害分布調査。沖縄林試研報 19: 7-20. [沖縄における分布の拡大過程。]
 - 1 4. 後藤 昭: 輪作による線虫防除上の参考。九病虫研会報 22: 123-126. [線虫別の寄主植物、線虫の混在例について述べる。]
 - 1 5. 後藤 昭: 日本の暖地・亜熱帯の植物寄生性線虫の概要。九州農試研究資料 54: 61 pp. [線虫の分布と地域性、線虫の解説・寄主・検出地・植生・被害等を概説。]
 - 1 6. 萩谷俊一・土岐知久: アレチウリに対するネコブセンチュウの寄生性。20回応動昆虫大会講要: 112. [講要]
 - 1 7. 羽田三男・下川利之: マツ類のマツノザイセンチュウに対する抵抗性品種選抜試験。岡山林試報 16: 43-46. [18クローンを供試。生存率に差。]
 - 1 8. 橋本平一: マツノザイセンチュウの寄生性に関する環境条件。森林防疫 25(11) 175-177. [標高と材線虫の分布、発病に及ぼす温度・土壌水分・亜硫酸ガス・その他の要因の影響。]
 - 1 9. 橋本平一: 灌水条件の異なるクロマツ苗におけるマツノザイセンチュウの動態とマツの病態反応。87回日林大会講要: 78; 87回日林論: 233-235. [無灌水が症状発現促進。]
 - 2 0. 橋本平一: マツノザイセンチュウの防除に関する研究 (I) メソミル剤の有効濃度、有効期間、葉害などについて。日林九支研論 29: 205-206. [薬液の樹幹注入は低濃度でも短期間有効、線虫接種前の土壌処理で枯損防止可能。]
 - 2 1. 橋本平一: マツノザイセンチュウの防除に関する研究 (II) メソミル剤の幼齡木、成木に対する施用効果。日林九支研論 29: 207-208. [樹幹注入、土壌施用の効果。]
 - 2 2. 橋本平一・千原賢次: 温度変化をあたえた条件下におけるマツノザイセンチュウ接種苗の加害性について。87回日林大会講要: 78; 87回日林論: 237-238. [温度を18°Cから30°C、又はその逆に変化させた場合の発病。]
 - 2 3. 橋本平一・堂園安生・清原友也・鈴木和夫: マツノザイセンチュウの密度別接種および分枝接種後の樹幹内の線虫密度。日林九支研論 29: 203-204. [接種後一時的に線虫密度低下、枝の接種1日後には幹に移動。]
 - 2 4. 橋本平一・田中義行・永峰光郎: マツノザイセンチュウの防除に関する研究 (III) 各種薬剤の施用効果。日林九支研論 29: 209-210. [フェンスルフォチオンの樹幹注入が最もすぐれた効果。]
 - 2 5. 早坂義雄・小原憲由・齊藤錦也・文屋勝衛・大友純一: 宮城県におけるマツの材線虫病等の実態調査。28回日林東北支講: 208-212. [マツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの分布及び発生消長。]
 - 2 6. 林 勇: 温室バラのセンチュウとその防除に関する研究。神奈川園試研報 23: 54-63. [発生実態(検出線虫の種類)、発生消長、垂直分布、ノイバラ・バツカラ自生苗への接種試験、殺線虫剤の立毛中処理(DBCP、DCIP)、線虫寄生台木への治療試験(DBCP剤、温湯浸漬)。]

27. 日野稔彦:ブラジルの稲作, 熱研資料 36: 43 pp. [線虫 p. 37. 陸稲: ジャワネコブセンチュウ, *Pratylenchus brachyurus*, モロコシネグサレセンチュウ. 水稲: イネシンガレセンチュウ.]
28. 平野和弥: キュウリ苗立枯病の発病におよぼすサツマイモネコブセンチュウの影響, 日線虫研誌 6: 39-46. [汚染土壌に対する殺菌・殺線虫剤処理の影響, 発病個体からの菌の分離, 病原性再現, 線虫接種と発病との関係等.]
29. 平野和弥: 線虫と関連のある植物病害, 植物防疫 30(3) 93-98. [線虫関連病の範囲, 研究の動向(菌類病, 細菌病, ウイルス病), 線虫とフザリウム菌との関連性.]
30. 外間数男・照屋林宏: バインアップルの連作障害に関する研究 1. 実態確認とその対策, 熱帯農業 19(3/4) 162-165. [根の褐変・腐敗は土壌のクロルピクリン又はEDB剤処理により改善.]
31. 堀野俊郎・野村 介・後藤 昭・大庭寅雄・近藤 信: 作付体系による土壌線虫の消長と防除法, 九州農業研究 38: 78-79. [各種の作付体系とサツマイモネコブ, キタネコブ, ミナミネグサレ, ニセフクロ, シストセンチュウの検出数の推移.]
32. 細田隆治・小林一三: マツノマダラカミキリからの線虫離脱経過, 27回日林関西支講: 255-258. [後食量と材線虫離脱の関係.]
33. 市村慎一郎: 山口県防府林業事務所管内におけるマツ類の枯損とマツノザイセンチュウの分布実態調査について, 森林防疫 25(5) 73-78. [マツ枯損被害の分布状況, マツノザイセンチュウの検出状況, 松くい虫の侵入状況.]
34. 一戸 稔: Nematodes and their control in Japan. In: Plant Protection in Japan, 1976. p. 305-310. [日本の線虫相, 線虫害, 防除に関するレビュー.]
35. 一戸 稔: Infestation of black peppers by the root-knot nematode in Brazil. JARQ 10(1) 17-20. [ブラジルのコショウのネコブセンチュウ. 地域・樹令・土性別の線虫寄生程度調査結果.]
36. 一戸 稔: 南米アマゾン・トメアス地区のピメンタの根腐れについて, 今月の農業 20巻3: 54-58. [研究史, 症状, 被害実態調査, ネコブセンチュウと根腐れの関係.]
37. 一戸 稔: Nematode problems of black-peppers in Bangka Island, Indonesia. 国際協力事業団・東京, 2 pp. [インドネシアのコショウ産地の現状. No.76-38と同.]
38. 一戸 稔: Nematode problems of black-peppers in Bangka Island, Indonesia. Nematol. Newslet. 22(3) 2. [ミカンネモグリは少なく, ネコブセンチュウが多.]
39. 一戸 稔: インドネシアのコショウ栽培とその病害対策に関する調査報告書, 国際協力事業団(移住部門)業務資料 393: 1-15. [ミカンネモグリセンチュウ, ネコブセンチュウを検出. DBCP, テラクア-P, ベーバム等による防除試験を行う.]
40. 池末 弥・武川恵子・竹田鉄哲: 大淀川水系下流域における底生動物目録, 宮崎大農報 23(2) 361-370. [未同定の線虫類を記録.]
41. 稲垣春郎: 線虫の総合防除, 植物防疫 30(3) 119-122. [総説. 被害, 防除手段とその組合せ.]
42. 稲垣春郎: ジャガイモシストセンチュウのわが国への伝播経路, 今月の農業 20巻3: 22-25. [北海道での発生状況と伝播の時期, 経路の推測. ヘルゲアノの調査.]
43. 稲垣春郎・気賀沢和男: Viability of encysted larvae and eggs of potato cyst nematode, *Heterodera rostochiensis* Woll., after being fed by hen or swine, and at their body temperatures. 日線虫研誌 6: 7-9. [ニワトリ・ブタに摂食されたジャガイモシストセンチュウのシスト内卵・幼虫の生死. 前者によるものは死滅, 後者では48時間以内に排出されたものは生存.]
44. 稲垣春郎・Scurrah Maria, M. de: The possibility of conta-

- mination of Peruvian guano by potato cyst nematode. 日線虫研誌 6: 96-97. [ペルーのグアノ産地における調査。Mazorca 島産グアノからシストを発見。運んできた鳥の種類を推測。]
45. 稲垣春郎・梅村芳樹: ジャガイモシストセンチュウ (*Heterodera rostochiensis*) 抵抗性品種の育成. 20回応動昆虫大会講要: 119. [講要]
46. 稲生 稔・上田康郎: 種子消毒によるイネシガラセンチュウと馬鹿苗病の防除法. 関東病虫研報 23: 118-119. [バイシット乳剤またはパダン水和剤の1000倍液に種粒を24時間浸漬。]
47. 井上 平: 連作に伴うジャガイモのネコブセンチュウ被害、とくに生育障害並びに青枯病の多発. 20回応動昆虫大会講要: 113. [講要]
48. 井上忠男: 土壌伝染性ウイルスの種類と研究の問題点. 植物防疫 30(5) 173-176. [線虫媒介にふれる。]
49. 石橋信義: 線虫によるゴールの形成. 植物防疫 30(3) 88-92. [形状、内部形態、性状、ゴール形成の機構。]
50. 石橋信義・近藤栄造: Considerations on the role of male adults of root-knot nematodes in the reproduction. 日線虫研誌 6: 35-38. [サツマイモネコブ、キタネコブセンチュウ。接種頭数を変えて (1-160 頭) 増殖を比較。両種とも単幼虫接種で継代飼育が可能。雄の役割は結論出ず。]
51. 石橋信義・近藤栄造・角 直紹: *Meloidogyne hapla* と *M. incognita* の低温感受性. 20回応動昆虫大会講要: 121. [講要]
52. 石川元一: イネシガラセンチュウに対する種子消毒の効果. 関東病虫研報 23: 120. [ベンレート、パダンの混合液に粒を浸漬。]
53. 石川元一: 黒点米とその防除法. 今月の農薬 20巻4: 28-31. [イネシガラセンチュウの生態及び黒点米の発生、種粒消毒 (薬液浸漬)、育苗期・出穂期の防除。]
54. 伊藤弘康・高野栄一・横溝康志・高久建一: 栃木県におけるマツノザイセンチュウ病の実態について. 28回日林関東支講演集: 34. [講要]
55. 伊藤一雄: 特別研究「マツ類の材線虫病に関する研究」を終えて. 森林防疫 25 (11) 162-166. [研究の目的、内容、担当場所、外部の協力、成果と残された問題。]
56. 岩橋哲彦: サトイモに寄生するネグサレセンチュウの防除について (1) 種いもの浸漬処理. Delphax 20: 3. [講要]
57. 岩木満朗: 我が国に存在する線虫伝搬性ウイルス. 植物防疫 30(5) 194-197. [NEPO群とNETU群ウイルス、我が国における線虫伝搬ウイルス (3 種)、伝搬の様態、伝搬する線虫の種類、防除法。]
58. 弥富喜三: Chemical control of pine wilting disease. XIII Internat. Nematol. Symp., Dublin, Sep. 5-10, 1976. [未見。講要。]
59. 兼堀富次郎・安井公一・小野清六: いわゆる "まつくい虫" の生態および防除に関する研究 (第2報) マツノマダラカミキリ羽化の消長とマツ枯損に対する薬剤散布効果. 岡山大農学報 48: 77-86. [カミキリの線虫保持数、枯損木からの時期別検出線虫数の調査を含む。]
60. 笠野秀雄・古山三郎・木村正義・稲垣春郎: はつか新品種「わせなみ」の育成. 北海道農試研報 113: 45-66. [育成過程及び特性、ピン、ネコブ、ネグサレセンチュウに対する抵抗性検定結果を含む。]
61. 川崎俊郎・松浦邦昭: 松類のマツノザイセンチュウによる被害とその防除. 農薬研究 23巻2: 30-34, 1 pl. [被害の実態、浸透性薬剤による防除: 土壌施用、樹幹注入。]
62. 川島嘉内: 福島県におけるイネシガラセンチュウの被害について. 北日本病虫研

- 報 27: 93. [線虫寄生と収量、黒点米の発生との関係。]
63. 気賀沢和男・稲垣春郎・堤 正明: ジャガイモシストセンチュウの圃場内分布と年次変動。20回応動昆虫大会講要: 118. [講要]
64. 鬼頭研二: Studies on the free-living marine nematodes from Hokkaido, I. J. Fac. Sci., Hokkaido Univ. Ser. VI, Zool. 20(3) 568-578. [北海道の海棲線虫。Enoplus anisospiculus Nelson et al., 1972, Acanthonchus (Seuratiella) tridentatus(新種), Draconema japonicum (新種), Araeolaimus elegans De Man, 1888 の記載、図示。]
65. 清原友也: マツノザイセンチュウの継代培養による病原性の低下。日線虫研誌 6: 56-59. [Botrytis cinerea菌そう上で継代培養 5-6年経過した個体群は病原性は著しく低下。増殖力にも顕著な差。]
66. 清原友也・鈴木和夫: マツノザイセンチュウの接種時期と接種後の個体数推移。87回日林大会講要: 76; 87日林論: 227-228. [9-3月接種では線虫はほとんど増殖しないと推定。]
67. 小林一三・奥田素男・細田隆治: マツ枯損木の乾燥程度、太さとマツノマダラカミキリの脱出、線虫保持数。87回日林大会講要: 79; 87回日林論: 239-240. [乾燥・高温となる場所では羽化脱出が早まり、線虫保持数は減少。]
68. 小林忠和: 野菜の耐病性検定法の現状と問題点: 国立・公立機関のナス科作物について。育種学最近の進歩 16: 84-88. [トマトのネコブセンチュウ抵抗性を含む。No. 76-178も参照。]
69. 小林亨夫: マツノザイセンチュウの地理的分布。森林防疫 25(11) 167-168. [国内の分布状況のまとめ。太平洋側は宮城県以南、日本海側は石川県以西に分布。]
70. 小林 尚・奥 俊夫・前田泰生・高橋幸吉・松本 正: 殺虫剤の土壌施用に関する研究 第9報 ダイズに対する殺虫剤の土壌施用の害虫及びウイルス病防除効果。東北農試研報 53: 15-28. [8種殺虫剤はダイズシストセンチュウには無効。]
71. 小林義明: イチゴにおけるイネシガラセンチュウの発生について。関西病虫研報 18: 105-106. [講要]
72. 小林義明: 施設栽培イチゴにおけるイネシガラセンチュウの発生と被害。日線虫研誌 6: 80-83. [線虫の形態、発生状況、症状と被害状況。]
73. 小林義明・立林盛明: イネシガラセンチュウの本田伝染に関する2、3の知見。関東病虫研報 23: 121-123. [時期別の稲体中の線虫数の比較、本田における伝染、有機燐剤による防除。]
74. 小玉孝司: 夏期のハウス密閉による土壌消毒。今月の農薬 20巻7: 80-83. [主にイチゴ萎黄病に対する効果。ネグサレセンチュウへの効果を含む。]
75. 小玉孝司・宮本重信・宮川逸平・志賀陽一: 夏期の温室密閉による土壌消毒法。農及園 51(7) 889-894. [主に菌類に対する効果。イチゴ、スイカのネグサレセンチュウを含む。地温の変化、石灰窒素・灌水等の併用例。]
76. 小玉孝司・中西喜徳・福井俊男・芳岡昭夫: イチゴ萎黄病に関する研究 第6報 ハウス密閉による本場の土壌消毒。日植病報 42(3) 347. [講要]
77. 小玉孝司・芳岡昭夫: イチゴ萎黄病に関する研究 第7報 D-D剤の防除効果について。関西病虫研報 18: 107-108. [講要。薬量とフザリウム菌数、発病株率の関係。]
78. 古賀成司: 水利用による土壌線虫防除に関する研究 第1報 ネコブセンチュウに対するたん水及び有機物の施用効果について。九州農業研究 38: 112. [脱水豚糞、緑肥添加と1-2月間の湛水処理が、湛水単独処理にまさる効果。]
79. 古賀成司: 水利用による土壌線虫防除に関する研究 第2報 有機物施用とたん水

- 処理後の線虫密度復元。九病虫研会報 22: 126-130. [ネコブセンチュウ。有機物施用併用時に高い防除効果。効果は処理後の1作のみ。]
80. 古賀成司: 水利用による土壌線虫防除に関する研究 第3報 有機物投入と湛水処理に伴う微生物相の変動について。Delphax 20: 3-4. [講要]
81. 小木曾重文・和田弘次郎・宗像 桂: Nematicidal polyacetylenes, 3Z, 11E- and 3E, 11E-trideca-1, 3, 11-triene 5, 7, 9-triynone from *Carthamus tinctorius* L. Tetrahed. Let. 1976(2) 109-110. [未見。ベニバナから殺線虫成分の単離と構造決定。]
82. 小木曾重文・和田弘次郎・宗像 桂: Isolation of nematicidal polyacetylenes from *Carthamus tinctorius* L. Agr. Biol. Chem. 40(10) 2085-2089. [ベニバナから殺線虫成分の単離と構造決定。イネシガラセンチュウに対し1 ppm で48時間処理により95%の死亡率。]
83. 小木曾重文・和田弘次郎・宗像 桂: Odoracin, a nematicidal constituent from *Daphne odora*. Agr. Biol. Chem. 40(10) 2119-2120. [シンショウゲから殺線虫成分を単離し、構造決定。イネシガラセンチュウに対する殺線虫力を検定。]
84. 小池 晃・川又靖信・中村弘男・郷間隆夫: 農家に発生した線虫病の観察。栃木蚕試要報 19: 55-64. [上熟時に発生。線虫の体長、体幅、体重の測定、クワノメイガ幼虫への寄生率。]
85. 小島秀治郎・矢野 清・小林正幸・宮崎秀也: 種々の薬剤消毒によるイネシガラセンチュウ防除について 第1報 MEP剤利用法の検討。関西病虫研報 18: 92-93. [講要。薬剤の種子消毒利用回数、処理方法(浸漬、粉衣)と防除効果。]
86. 小島秀治郎・渡辺健三: 滋賀県における水稻種子消毒の普及と問題点。関西病虫研報 18: 73. [イネシガラセンチュウ防除を含む。]
87. 駒井功一郎・佐藤庄太郎: ハロゲン化アルキル系化合物によるジャガイモ塊茎の褐変現象とrishitin誘導。農化 50(8) 357-362. [誘導に及ぼす16種化合物の影響、薬剤濃度の影響、蓄積量の時間的変化、温度の影響、部位と褐変組織との関係、2, 4DNP及びKCNの影響。]
88. 今 友親・上野賢司・山田英一・高倉重義: ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 施肥量と品種反応。20回応動昆虫大会講要: 120. [講要]
89. 近藤栄造・石橋信義: Thermal effects on the fine structure of the 2nd stage larvae of *Heterodera glycines* Ichinohe. 日線虫研誌 6: 27-34. [ダイズシストセンチュウ第2期幼虫の-20, +40~60°C処理後の表皮、脂肪顆粒、筋肉の微細構造の変化。]
90. 近藤栄造・石橋信義: 土壌線虫の表皮微細構造の比較。20回応動昆虫大会講要: 110. [講要]
91. 下松明雄: Tokution, a new organophosphorus insecticide with low mammalian toxicity. Jap. Pesticide Inform. 26: 14-17. [土壌施用によるサツマイモネコブセンチュウ防除効果なし。]
92. 熊本勝己・内田信義・行徳直己・平田保雄・横山佐太正: イネシガラセンチュウによる黒点米の発生と防除。九病虫研会報 22: 29-32. [黒点米混入粒数、収量と線虫寄生数の関係(前者は正の相関、後者は負の相関)。]
93. 栗原 毅: 蚊の寄生線虫 *Reesimermis nielsenii* の生態、とくに宿主への接近について。寄生虫誌 25(1) 8-16. [チカイエカに対する寄生効率と、寄主定着にいたる過程。]
94. 真宮靖治: マツノザイセンチュウの侵入個体数とマツ苗木の発病。87回日林大会講要: 76; 87回日林論: 225-226. [小数個体でも発病。接種24時間後に接種枝を除去しても苗木は発病。]
95. 真宮靖治: マツノザイセンチュウのその後の研究。植物防疫 30(3) 109-113. [マ

ツ枯損の発生経過、線虫の生活環、発病機構。]

96. 真宮靖治: Pine wilting disease caused by the pine wood nematode, *Bursaphelenchus lignicolus*, in Japan. JARQ 10(4) 206-211. [病気の進展と病徴、材線虫の伝搬、樹体内における個体群変動、防除。]
97. 真宮靖治: 数種脂肪酸のマツノザイセンチュウの増殖におよぼす影響。20回応動昆虫大会講要: 111. [講要]
98. 真宮靖治: マツノザイセンチュウの生態と防除。20回応動昆虫大会講要: 154. [日本線虫研究会大会講要。]
99. 真宮靖治: マツノザイセンチュウの生活環。今月の農薬 20巻3: 17-20. [伝搬と樹体への侵入、増殖、分散等。]
100. 真宮靖治: マツノザイセンチュウの寄生性及び萎凋枯死機構。森林防疫 25(11) 172-175. [自然感染、発病の経過、マツ樹体内での線虫動態。]
101. 真宮靖治・田村弘忠: マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(Ⅲ) 線虫による薬剤注入効果の生物検定。87回日林大会講要: 89; 87回日林論: 271-272. [テラクラP、ダイシストン、トップジンのうち、テラクラPのみ効果。時期別、部位別の線虫数を調査。]
102. 真宮靖治・田村弘忠: マツノマダラカミキリ蛹室周辺材から検出された線虫捕食菌の一種。森林防疫 25(10) 147-149. [*Dactylella leptospora*。千葉県君津市。ほぼ100%の頻度で検出。]
103. 増田隆哉: マツノザイセンチュウがクロマツの同化作用におよぼす影響について。日林九支研論 29: 217-218. [接種 8-9日後から低下。呼吸作用は増大。]
104. 増田安弘: 野菜の生理に及ぼすネマトーダの影響(第5報) 野菜のネコブセンチュウ被害に対するたい肥施用の影響とそれに関与する諸要因。園学雑 45(1) 24-32. [エダマメ、インゲンマメ、キュウリ、カボチャ、ハクサイへの堆肥施用と線虫害の関係。]
105. 増田安弘・三輪 晋: ヤマトイモ種芋の殺線虫法に関する研究(第1報) ネコブセンチュウの被害芋におけるエステル処理後の生育におよぼす影響。園芸学会昭51春研発表要旨: 244-245. [講要]
106. 松井弘之・中川昌一: ネコブセンチュウによるゴール形成に関する研究(第2報) ホウセンカの茎に形成されたゴールの呼吸量、炭水化物量および同化物質の取り込み量の変化。園学雑 45(3) 238-244. [正常組織に比べ、呼吸量は増加、各種炭水化物含量も高く、同化産物の取り込みも多。]
107. 松本重男: 大豆の生産振興と技術対策の要点。農及園 51(1) 206-210. [ダイズシストセンチュウ対策: 抵抗性品種の作付けが最良。]
108. 松本重男・石川正示・国分喜治郎・宮原萬芳・今野善一郎・小山フミ・村上昭一・小山隆光・長沢次男・松本定男・中村茂樹: ダイズ新品種「カルマイ」について。東北農試研報 52: 31-48. [育成過程及び特性。ダイズシストセンチュウ抵抗性強。]
109. 松浦邦昭・川崎俊郎・小林亨夫・陳野好之・真宮靖治・田村弘忠・佐々木克彦: マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(Ⅰ) クロマツ生立木に対する防除薬剤の施用効果。87回日林大会講要: 88; 87回日林論: 265-266. [Fensulfothion (テラクラP) が有効。]
110. 松浦邦昭: マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験(Ⅱ) 樹幹注入した fensulfothion, thiophanatemethyl のマツ樹体内における行動。87回日林大会講要: 88; 87回日林論: 267-269. [移動、分布、存在状態、濃度。]
111. 松浦邦昭: 薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究(V) 十数種薬剤のポット植栽苗木に対する効果。87回日林大会講要: 90; 87日林論: 275-276. [Nemacur, スミチ

- オン、NTN-17569, NTN-17721, テラクアP、ネマホスに効果を認める。]
112. 松浦邦昭・小林亨夫：マツ生立木に対する薬剤の樹幹注入及び土壌処理。森林防疫 25(12) 207-210。[室内・苗木による薬剤のスクリーニング。2 処理方法の防除効果、樹体内での薬剤の移動分布と生物効果。]
 113. 皆川 望：サツマイモネコブセンチュウによるカンショ農林1号の被害。九病虫研会報 22: 121-123。[株当たりいも数が有意に減少、平均いも重は不変。]
 114. 皆川 望：甘藷畑におけるサツマイモネコブセンチュウ個体群の季節的変動 III。防除畑における個体群変動。20回応動昆虫大会講要: 112。[講要]
 115. 峰尾一彦：マツの材線虫病の薬剤防除 2。土壌処理剤の検討。27回日林関西支講: 275-277。[テラクアP粒剤の効果。]
 116. 峰尾一彦：マツノザイセンチュウ寄生性発現に関与する土壌の乾燥条件。87回日林大会講要: 80; 87回日林論: 241-242。[土壌水分が低下すると枯死症状が早く発現。]
 117. 三井 康：ネグサレセンチュウのカルス培養における培地の組成と線虫の増殖。20回応動昆虫大会講要: 121。[講要]
 118. 三井 康：線虫を捕食する菌類。植物防疫 30(3) 99-103。[捕食菌の種類とその性質、培養、捕捉器官形成要因、活性、分布、防除への利用。]
 119. 三井 康・吉田 猛・岡本好一・石井良助：落花生連作圃場における線虫捕捉菌とキタネコブセンチュウとの関係。日線虫研誌 6: 47-55。[土壌添加物(落花生・稲わら・生おが屑堆肥・製鉄鉱さい・消石灰)の影響、捕捉菌と線虫密度の関係、両者と土壌pH、固相・液相率との関係。]
 120. 百田洋二：*Xiphinema bakeri*のクワ実生に対する病原性。関東病虫研報 23:124。[root-swelling 症状を起こす。]
 121. 百田洋二・大島康臣：シストセンチュウ4種の走査電顕観察。日線虫研誌 6: 14-23。[イネ、ムギ、ダイズ、ジャガイモシストセンチュウの第2期幼虫、雄成虫、および前3種の雌成虫、褐色シストの形態を比較。]
 122. 百田洋二・大島康臣：シストセンチュウの走査電顕観察。20回応動昆虫大会講要: 110。[講要]
 123. 森川国康：The effect of the soil-mesofauna by the scattering of the insecticide from the helicopter against the Japanese pine sawyer. Rev. Eco. Biol. Sol. 13(1) 43-46。[未見。松枯損防止のための殺虫剤の空中散布による土壌中型動物相(線虫を含む)への影響。]
 124. 村井高伯・加藤四郎・山田哲也・藤田茂隆：立枯病、疫病および線虫病抵抗性黄色種F210の育成。磐田たばこ試報 8: 11-24, pl.7-8。[育成過程及び特性。サツマイモネコブセンチュウ抵抗性。]
 125. 村松安男：トマト品種と耐病性。農業技術研究 30巻2: 47-50。[最近発表されている耐病性品種の表の中に線虫抵抗性品種。]
 126. 村岡 実・石橋信義：Nematode-feeding mites and their feeding behavior. Appl. Ent. Zool. 11(1) 1-7。[41種のダニの線虫捕食を調査。ダニの発育、ヒポブスの出現との関係も見る。]
 127. 村岡 実・石橋信義：土壌ダニ・トビムシに及ぼす薬剤施用、施肥の影響。20回応動昆虫大会講要: 125。[講要]
 128. 中村哲也：南九州の食用甘藷の生産集団と技術的課題。農及園 51(1) 236-240。[土壌消毒の所要労力を示す。]
 129. 中根 勲：マツノザイセンチュウ耐久型幼虫の虫体からの離脱状況。27回日林関西支講: 252-254。[カミキリ脱出1週間目は少、2週間目は最高、3週間目以降は漸減]

130. 中西喜徳・上住 泰: 本邦における *Ditylenchus destructor* (イモグサレセンチュウ) の発生と2、3の実態について, 20回応動昆大会講要: 113. [講要]
131. 中國和年: ニセフクロセンチュウ (*Rotylenchulus reniformis*) における両性生殖型および単為生殖型間の雌の性誘引の差異, 20回応動昆大会講要: 109. [講要]
132. 中國和年・桂 直樹: 短波長可視光線によるニセフクロセンチュウの脱皮・発育の阻害及び致死, 日線虫研誌 6: 84-88. [波長433-463nm 以下の青色光で8000erg/秒以上の照射が線虫に強い影響。]
133. 奈須田和彦: 着色米・変色米とその種類について, 北陸病虫研報 24: 40-45. [総説. 用語等を論じる。]
134. 西尾道徳: 陸稲の連作障害の原因をめぐって, 化学と生物 14(11) 718-721. [連作障害の特徴、陸稲における症状、生物的性格、病原性生物の集積、*Pyrenochaeta* sp. と連作障害、線虫と糸状菌の関係。]
135. 西山喜一: バナナの栽培および品質改善に関する研究, 熱帯農業 19(3/4) 166-167. [日本熱帯農業学会賞受賞特別講演要旨。線虫にふれる。]
136. 西沢 務: 黒点米の発生事例と発生機構, 日線虫研誌 6: 73-79. [多発圃場産粒の調査、イネシンガレセンチュウの接種試験、線虫・黄色細菌 (*Enterobacter agglomerans*) 接種試験。]
137. 西沢 務: 黒くさび米 (黒点米) の発生機構について, 20回応動昆大会講要: 152-153. [日本線虫研究会大会講要]
138. 西沢 務: *Bacillus penetrans* 類似種の利用によるネコブセンチュウ防除効果, 20回応動昆大会講要: 122. [講要]
139. 西沢 務: センチュウ類の生態と防除, 施設園芸 18巻7: 19-23. [線虫の種類と被害、ネコブセンチュウの種類と生態。]
140. 西沢 務: センチュウ類の生態と防除, 施設園芸 18巻8: 19-24. [ネコブセンチュウの被害と防除、それ以外の線虫についての解説。]
141. 野淵 輝: マツノマダラカミキリの材線虫伝播様式, 森林防疫 25(12) 186-188. [線虫保持率・保持数、脱出時期別・カミキリの大きさと線虫保持数、カミキリの材線虫の侵入離脱経過、カミキリの時期別の後食と枯損発生。]
142. 小芦健良・高倉 求・野口純隆: 湛水によるネコブセンチュウの防除について, Delphax 20: 3. [講要]
143. 小河誠司: マツノザイセンチュウに関する試験 (3) 標高別材線虫接種試験, 日林九支研論 29: 211-212. [福岡県では標高400-500mが被害発生の境界。]
144. 小河誠司・金子周平・大長光純: マツノザイセンチュウに関する試験 (4) テーダマツ樹体内での材線虫の生存期間とアカマツ丸太による材線虫増殖試験, 日林九支研論 29: 213-214. [テーダマツでは増殖できず、アカマツでは少数接種でも増殖可能。]
145. 小川義雄・永野道昭・樋口泰三・一戸 稔: 長崎県のジャガイモ栽培地帯で検出された本邦未記録のシストセンチュウ, 九病虫研会報 22: 118-120. [計測値等を既知種と比較。ヨモギに寄生する種類と後に判明 (No.83-119)。]
146. 岡 啓: 十勝の畑作と技術の歩み, 農業技術 31(9) 400-404. [輪作と線虫害の関係にふれる。]
147. 岡田利承・高杉光雄: 線虫の孵化促進及び抑制物質, 植物防疫 30(3) 83-87. [シストセンチュウの孵化に関与する物質 (寄主植物内、シスト内、孵化における各種要因の役割)、孵化促進物質の化学的研究。]
148. 岡本好一・一戸 稔: ジャガイモシストセンチュウの増殖とシストの接種時期, 日線虫研誌 6: 98. [いもの植付けと線虫接種を同時に行うと線虫の増殖を高める。]

149. 岡本好一・一戸 稔・三井 康・中國和年：北海道に発生するジャガイモシストセンチュウの寄生型 (pathotype). 20回応動昆虫大会講要: 120. [講要]
150. 大羽克明・藤田祐輔：ガス抜きの効果とDitraxの土壌内濃度変化. 20回応動昆虫大会講要: 123. [講要]
151. 大庭喜八郎：マツノザイセンチュウの抵抗性育種. 林木の育種 99: 1-6. [育種調査事業の概要、抵抗性育種の推進、育種事業の進め方。]
152. 大橋雄司：在来種のもつ病害抵抗性について. 葉たばこ研究 73: 56-66. [サツマイモネコブセンチュウに関しては検定した全品種が罹病性。]
153. 大久保隆弘：畑地における地力保全と輪作の考え方. 農及園 51(1) 187-192. [輪作の土壌微生物調節機能として線虫問題にふれる。]
154. 大久保隆弘：作物輪作技術論. 農山漁村文化協会、東京、291 pp. [多面的に輪作を扱った専門書。ヨーロッパ・熱帯・日本における輪作の種類・歴史・輪作の意義・特性・機能と効果、田畑輪換。線虫との関連 p.101-102, 125-126, 132-133, 138, 142, 207-216, 280-282。]
155. 大島康臣：線虫分類学の現状：分類表の試み. 植物防疫 30(3) 114-118. [主に植物寄生性線虫の属レベルまでの一覧表。]
156. 大竹昭郎・Somasundaram, P. M.・Abeykoon, M. B. : Studies on population of *Sogatella furcifera* Horvath and *Nilaparvata lugens* Stal (Hemiptera: Delphacidae) and their parasites in Sri Lanka. Appl. Ent. Zool. 11(4) 284-294. [スリランカのウンカの生態。天敵に未同定の線虫を含む。]
157. 大山浪雄：マツノザイセンチュウに対する抵抗性選抜育種. 森林防疫 25(12) 212-214. [抵抗性検定法、外国産、日本産マツ類の抵抗性、抵抗性発現に及ぼす土壌の影響。]
158. 大山浪雄・川辻公弘・鈴木和夫・末吉幸満：アカマツとクロマツのマツノザイセンチュウ感受性に及ぼす土壌乾燥の影響. 日林九支研論 29: 219-220. [アカマツはクロマツが全部枯損するような土壌乾燥条件下でも枯死しにくい。]
159. 尾崎 薫：わが国畑作の開発方向と技術的課題. 農及園 51(1) 170-171. [畑作物の線虫抵抗性品種の育種にふれる。]
160. 三分一 敬：北海道における主要農作物育種の現状 IV. 大豆. 北農 43巻3: 5-13. [ダイズシストセンチュウ抵抗性を含む。]
161. 三枝敏郎：*Ditylenchus destructor*による球根アイリスの被害地. 日線虫研誌 6: 99. [5県18市町をあげる。]
162. 三枝敏郎：日本におけるイモグサレセンチュウ*Ditylenchus destructor*の発生と被害. 20回応動昆虫大会講要: 155. [日本線虫研究会大会講要]
163. 三枝敏郎：ミカンネモグリセンチュウ*Radopholus similis* (Cobb) Thorneの寄主植物. 植防研報 13: 71-76. [寄主植物のリスト。]
164. 三枝敏郎・相原孝雄・中臣康範：ジャガイモイモグサレセンチュウ*Ditylenchus destructor*による球根アイリスの病害. 20回応動昆虫大会講要: 114. [講要]
165. 三枝敏郎・倉持仁厚：ジャガイモ開花期におけるシストの抜き取り観察と土壌中シストの検出. 植防研報 13: 11-18. [植物の抜き取り調査でも土壌検診に匹敵する精度の場合もある。]
166. 酒井真次・砂田喜与志：大豆のダイズシストセンチュウ抵抗性の系統選抜について. 育種 26(別2) 211-212. [講要]
167. 佐野善一：ネコブセンチュウ3種幼虫のEDB感受性. 日線虫研誌 6: 24-26. [サツマイモ、キタ、ジャワネコブセンチュウ。LC-50 は53-60ppmで種間差なし。]

168. 佐々木克彦・小林亨夫：マツノザイセンチュウ防除薬剤の樹幹注入試験 (IV) 生立木の糸状菌相に対する注入薬剤の影響。87回日林大会講要：89；87回日林講：273-274。[テラクアP、トップジンM。]
169. 清水 啓：イネシストセンチュウ (*Heterodera elachista*) による畑水稻の被害解析。日線虫研誌 6: 1-6。[接種密度・時期の違いと収量への影響、線虫の発生消長。]
170. 清水 啓：イネ品種間におけるイネシストセンチュウの増殖ならびに被害。20回応動昆虫大会講要：122。[講要]
171. 清水孝二・井上 巖：線形虫類 (ハリガネムシ類) の寄主特異性に関する研究 第一報。動雑 85(4) 514。[講要]
172. 塩川晴寿：四輪トラクタ用土壌消毒機の開発。農林水産研究情報 63: 39-40。[目的、構造、使用法、効果。]
173. 庄司次男・滝沢幸雄・五十嵐正俊・早坂義雄・小原憲由・高橋 勉：宮城県石巻市とその周辺におけるマツ類材線虫病の分布実態調査。森林防疫 25(4) 53-56。[マツノマダラカミキリ、マツノザイセンチュウ、ニセマツノザイセンチュウの分布。]
174. 須崎民雄・矢幡 久・佐々木重行：マツノザイセンチュウ接種クロマツ苗の水分通導抵抗。日林九支研論 29: 215-216。[抵抗が増大し、水の供給が減少。]
175. 鈴木和夫・清原友也：クロマツの水分状態と材線虫病発現の機作。日林九支研論 29: 221-222。[接種木における線虫密度の増加期には、樹体の水分状態の生理は正常。]
176. 鈴木和夫・清原友也：マツの水分状態と材線虫病の発現。87回日林大会講要：80。[講要]
- 176a. 鈴木 実：Microscopical marine animals scarcely known from Japan. I. Micro- and meio-fauna around Kasado Island in the Seto Inland Sea of Japan. 動物分類誌 12: 5-12。[未見。線虫を含む。]
177. 高橋昌隆・中野 子：樹幹注入によるマツノザイセンチュウの防除試験。徳島林試研報 14: 43-49。[略写。キルゾールP粒剤、ベンレート水和剤 500倍液の樹幹注入及び1本当たり1000cc土壌処理で線虫の侵入加害阻止可能。]
178. 高橋 治：野菜の耐病性検定法の現状と問題点：民間機関での現状と問題点。育種学最近の進歩 16: 89-93。[トマトのネコブセンチュウ抵抗性育種を含む。No. 76-68も参照。]
179. 高木信一：昆虫に寄生する線虫類。植物防疫 30(3) 104-108。[種類、線虫による昆虫個体群制御の要素。]
180. 高倉 求・野口純隆・窪田 廣：水利用による畑施設土壌の改善に関する研究 第2報 湛水かんがいによる土壌理化学性的変化およびネコブセンチュウの防除効果。九州農業研究 38: 132。[20-60日間湛水処理によりキュウリの根瘤指数が低下、増収。]
181. 高倉重義・山田英一・上野賢司・今 友親：ジャガイモシストセンチュウに関する研究：線虫密度とジャガイモの被害。20回応動昆虫大会講要：118。[講要]
182. 高島敬一・中國和年・萩谷俊一：福井市におけるハウス栽培と土壌線虫によるトマト、キュウリの被害状況。日線虫研誌 6: 99。[アレナリアネコブ、ジャワネコブセンチュウ近似種。]
183. 武田丈夫・井戸規雄：マツノザイセンチュウの土壌注入によるマツの枯損現象 (予報)。27回日林関西支講：263-266。[枯損が発生。根の傷から線虫侵入の可能性も。]
184. 武田丈夫・井戸規雄・小林一三：各地域ごとの羽化脱出したマツノマダラカミキリの材線虫保持数。87回日林大会講要：83；87回日林論：251-252。[地域により多少の差、被害程度との関係は不明。]
185. 竹下晴彦：まっくい虫予防薬剤の残効について。日林九支研論 29: 185-186。

- [バイエンタン乳剤 (バイジット + EDB) の航空防除。後食面積と材片中線虫の関係を含む。]
186. 竹下 努: 材線虫によるマツ枯損防止の研究(I) 鳥取県の材線虫の分布と被害。鳥取林試研報 19: 37-49. [分布と気温・降水量・海拔・土壌・林種・令級分布の関係。枯損時期の調査。]
 187. 竹下 努: 鳥取県におけるマツノマダラカミキリの線虫保持状況。87回日林大会講要: 83; 87回日林論: 249-250. [脱出時期別の線虫保持率・保持数。]
 188. 滝下国利: マツノマダラカミキリ・マツノザイセンチュウ等の分布と防除について。日林九支研論 29: 193-194. [地理的分布と年平均気温、年平均降水量の関係(熊本県)他。]
 189. 田村弘忠: 枯死木におけるマツノザイセンチュウの分布。日線虫研誌 6: 60-66. [樹幹の線虫の垂直・水平分布を中径木・大径木・小径木・枯死野積木で比較。]
 190. 田村弘忠: マツノザイセンチュウの生活史と行動。森林防疫 25(11) 169-172. [分散型幼虫の形態と行動、生活史、食性、増殖。]
 191. 田村弘忠: 流動パラフィン分注による培養線虫の保存。20回応動昆大会講要: 111. [講要]
 192. 田村弘忠・真宮靖治: アカマツとクロマツのカルス組織によるマツノザイセンチュウの繁殖。87回日林大会講要: 77; 87回日林論: 229-230. [増殖を確認。線虫接種されたスギのカルスは褐変死。]
 193. 田中福三郎: 榎での黒点米および斑点米の簡易識別法。応動昆 20(4) 173-176. [「榎を20-24 時間浸漬して吸水させ、灯の上においた白色プラスチック容器に入れて観察する」]
 194. 田中康夫: 筑波大学農林技術センター圃場用地の土壌センチュウ相についての一知見。総合農学 24(1/2) 27-30. [植物寄生種、自由生活種、捕食種の検出割合等。]
 195. 谷 芳明・松田 明・小林 誠: ユウガオ台スイカ萎凋症に対するクロルピクリンの防除効果。関東病虫研報 23: 39. [D-D剤処理によっても発病は若干減少。]
 196. 照屋林宏: パイナップルの連作障害について。今月の農薬 20巻2: 18-22. [発生の経過と症状、諸要因(ネコブセンチュウ他)、対策。]
 197. 樋田幸夫: 桑園における植物寄生線虫の種類について。日蚕講要 46: 25. [講要]
 198. 樋田幸夫・守山 弘: メキシカンマリーゴールド粗抽出物のクワ寄生線虫に対する殺線虫効果。20回応動昆大会講要: 123. [講要]
 199. 都丸敬一: 土壌伝染性ウイルスの防除法。植物防疫 30(5) 202-206. [線虫媒介ウイルスを含む。]
 200. 堤 正明: ジャガイモシストセンチュウの孵化、寄生におよぼす対抗植物、殺線虫剤の影響。北日本病虫研報 27: 103. [孵化抑制はアスパラガス栽培区、D-D処理区、寄生数減少はD-D、バイデート、CG-223粒剤、テミック処理区で認める。]
 201. 堤 正明: ジャガイモ根浸出液の採取時期がジャガイモシストセンチュウの孵化におよぼす影響。日線虫研誌 6: 10-13. [移植後 20-40日に採取した液で高い孵化率。根除去 100日の土壌からの液にも効果残存。]
 202. 都築 仁・上林 譲・浅山 哲・中西 勇: ベノミル剤による種子消毒方法とイネ心枯線虫病防除効果。関西病虫研報 18: 93-94. [講要]
 203. 都築 仁・上林 譲・中西 勇: ベノミル及びその類縁化合物によるイネ心枯線虫病防除効果。愛知農総試研報 A 8: 69-77. [種籾粉衣、浸漬。ベノミル50%水和剤、サイペンダゾール45%水和剤の 0.2%粉衣が優れた効果。]
 204. 上林 譲: 黒点米とイネシシガレセンチュウとの関係およびその発生生態。20回

- 応動昆虫大会講要: 152. [日本線虫研究会大会講要]
205. 上林 譲・天野 隆・中西 勇: 黒点米に関する研究 V. 発生機構. 日線虫研誌 6: 67-72. [黒点米の発生時期の推定とイネシガラセンチュウとの関係、発生位置、菌類との関係。]
206. 上田 進・別宮岩義: イネばか苗病および心枯線虫病に対する各種薬剤の種子消毒効果とホームイ、ベンレート水和剤20の使用法について. 四国植防 11: 87-91. [イネシガラセンチュウに対する後者の400倍24時間浸漬は効果不十分。]
207. 上野賢司・今 友親・山田英一・高倉重義: ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 導入抵抗性品種の栽培による線虫密度変動. 20回応動昆虫大会講要: 119. [講要]
208. 上住 泰: 球根アイリスにおけるイモグサセンチュウの発生. 植物防疫 30(1) 31-32. [被害、寄主植物、近似種 (*Ditylenchus dipsaci*) との区別点。]
209. 上住 泰: 球根類のイモグサセンチュウの発生と被害. 今月の農業 20巻5: 86-89. [被害と症状、ナミキキセンチュウとの区別点、防除法 (球根の温湯浸漬、ランネート水和剤溶液浸漬、臭化メチル燻蒸)。]
210. 宇賀正郎: マツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの実態調査. 高知林試研報 昭49: 15-61. [線虫の地理的分布、カミキリとの関連等。]
211. 八木田秀幸: クワノナガハリセンチュウ (*Longidorus martini*) の生活史ならびに生態に関する研究 II. 卵の発育と桑園における生活環. 日線虫研誌 6: 89-95. [卵の発育、卵巣の発育、寄主植物、桑園における密度・令構成の季節的消長、無寄主状態における生存期間。]
212. 八木田秀幸: クワ輪紋ウイルスの線虫による伝播. 植物防疫 30(5) 198-201. [線虫による伝播確認試験、病徴と病原、クワノナガハリセンチュウの形態・生活史、ウイルス伝播の様態 (ウイルス及び線虫の寄主植物、線虫体内でのウイルスの保有期間)。]
213. 八木田秀幸: クワ輪紋ウイルスの *Longidorus martini* による伝播の様態 (2) 線虫の寄主植物とウイルスの感染. 日植病報 42(1) 63. [講要]
214. 八木田秀幸: 桑のモザイク病とクワノナガハリセンチュウ. 今月の農業 20巻3: 12-16. [モザイク病の症状、線虫の形態・生態、防除 (クロロピクリンが効果、DBC P剤は効果なし)。]
215. 八木田秀幸: クワ輪紋ウイルスの *Longidorus martini* による伝播の様態 (第3報) 各発育ステージの伝播の比較. 日蚕講要 46: 21. [講要]
216. 山田栄一・周藤靖雄: 島根県におけるマツノザイセンチュウおよびマツノマダラカミキリの実態調査. 島根林試研報 26: 26-46. [マツノザイセンチュウの検出状態 (枯死型の種類別、樹種・樹齢別)、分布 (標高・温度との関係)、接種試験他。]
217. 山田英一・高倉重義・上野賢司・今 友親: ジャガイモシストセンチュウに関する研究: 2、3のジャガイモ品種における線虫の消長と作物の生育. 20回応動昆虫大会講要: 117. [講要]
218. 山口洋一・田中行久・小泉成徳・福留信明・林 松雄: 沖縄県で発生が認められたタバコの病害虫. 鹿児島たばこ試報 20.: 149-154. [線虫病を含む。]
219. 山川邦夫: Breeding for disease resistance of vegetable crops in Japan. JARQ 10(4) 187-192. [トマトのネコブセンチュウ抵抗性育種を含む。]
220. 山本辰夫・小阪和彦: イネシガラセンチュウの加害による黒点米の出現と香川における実態調査. 四国植防 11: 71-76. [品種比較、寄生数と黒点米率、寄生部位。]
221. 山中昭雄・木島利男: リンドウの土壌病害虫防除試験 第2報 植えつけ時の土壌処理が後年の生育に及ぼす影響. 栃木農試業績報 13: 128-131. [D-D剤施用、マリーゴールド栽植他。]

222. 山下優勝・広瀬敏晴：兵庫県における着色米の発生実態と要因解析。関西病虫研報 18: 88-89. [講要]
223. 山下優勝・広瀬敏晴：兵庫県における着色米の発生実態と要因解析。応動昆虫支報 18: 54-57. [県内に広く分布、地域による稲品種の違いが発生率に影響。]
224. 山崎 昭：昭和50年度における植物検疫の動向。関西病虫研報 18: 70-71. [イモグサレセンチュウ富山県に発生を確認。]
225. 柳沢昭功：東山地域の野菜作集団 [1] 長野県山形村上・中大池地区の事例。農及園 51(1) 217-220. [ナガイモの線虫害と対策を含む。]
226. 横川登代司：埼玉県におけるマツノザイセンチュウ被害の推移。28回日林関東支講要集: 33. [講要]
227. 吉田雅夫：北米における核果類の育種及び台木に関する調査：その1。農林水産研究情報 65: 16-19. [モモの耐線虫台木の育種を含む。]
228. 吉村彰治：田植機利用水稻栽培における病害虫の発生と研究課題。関東病虫研報 23: 1-5. [イネシガラセンチュウ多発傾向。]
239. 湯田坂正一・宮下巻好・伊藤昭二：リンドウのネコブセンチュウ類に対するネモモール乳剤の効果。関東病虫研報 23: 123. [m²当たり1000倍液4回処理が好成績。]
230. 湯原 巖：病害虫とりモートセンシング：線虫の被害探査を中心として。北海道農試研究資料 8: 59-67. [赤外線カラー写真・マルチスペクトル写真の利用、マルチスペクトル・スキャナー及び熱線の利用によるダイズシストセンチュウの被害判別。]
231. 湯原 巖：自然シバ草地及び人工草地における土壌線虫の生息動態。北海道農試研報 116: 55-62. [線虫相の比較、捕食性線虫の線虫捕食実験、土壌中での垂直分布。]
232. 陳野好之・真宮靖治：ネコブセンチュウによるナンキンハゼの被害。森林防疫 25: 128-131. [林試四国支場苗圃：サツマイモネコブセンチュウ、同九州支場：ジャワネコブセンチュウ。]
233. Anon. (香川県林業指導所)：マツノザイセンチュウに関するマツ類の枯損防止に関する試験研究報告。試験研究成果報 9: 1-97. [謄写。マツノマダラカミキリなどのマツノザイセンチュウ保持状況調査 p. 19-22, マツノザイセンチュウ薬剤試験 p. 81-93。]

昭和52年 (1977)

- 相沢徳尚・高瀬 巖・川崎俊郎・松浦邦昭・藤下章男・松原 功：マツノザイセンチュウ防除で土壌施用したダイシストンとテラクアーPの環境への影響。農業研究 23巻 3: 14-21, 1 pl. [土壌中での移動、地下水への溶脱、サワガニ・野生植物による吸収・蓄積。]
- 赤井重恭・河野又四：逸見武雄博士採集市場青果病害目録 (1932-1937, 1943-1945)。関西病虫研報 19: 52-60. [線虫病の記録：ジャガイモ(1944)、サトイモ(1943)、サツマイモ(1946)。]
- Alam, N. M., Khan, A. M. & Saxena, S. K. : Persistent action of oilcakes and nematicides on the population of nematodes in field. 防虫科学 42(3) 119-124. [4種の油粕、2種の殺線虫剤のトマト、ジャガイモ、アカカブの線虫に対する密度抑制効果。]
- Andrassy, I. : Die Gattungen Amphidelus Thorne, 1939, Paramphidelus n.gen. und Etamphidelus n.gen. (Nematoda: Alaimidae). Opus. Zool. 14(1/2) 3-

43. [未見。新属新種 *Stamphidelus japonicus* を長野県のYokodake (2,200 m) のモミ・ツガ・カンナ林の落葉層からの記録を含む。]
5. 近岡一郎: キタネグサレセンチュウ (*Pratylenchus penetrans*) の土壤中における生存。日線虫研誌 7: 45-48. [無寄主状態における生存期間。2-5 °Cで5年、15°Cで3年5ヵ月、25°Cで1年9ヵ月、野外2年9ヵ月。]
6. 近岡一郎: イチゴに寄生する線虫類。植物防疫 31(2) 64-68. [イチゴ栽培における線虫問題の特徴、芽寄生線虫(4種)、根部寄生線虫(ネコブ、ネグサレ、その他の線虫)、関連病害。]
7. 近岡一郎: 線虫対策に決め手はあるか。農業富民 49巻8: 108-111. [薬剤、対抗植物、抵抗性品種、有機物肥料、輪作、圃場衛生、ハウス密閉等の効果と注意点。]
8. 近岡一郎: マリーゴールドでセンチュウの防除ができる? 農業富民 49巻2: 78-80. [利用方法、効果。]
9. 堂園安生・鈴木和夫: *Botrytis cinerea* 菌そうにおけるマツノザイセンチュウの増殖試験: 糖類の影響。日林九支研論 30: 239-240. [1-8%の間では糖の濃度が高い程線虫密度が増大。]
10. 遠田暢男: 小笠原諸島におけるマツノザイセンチュウの分布。29回日林関東支講要集: 20. [講要]
11. 遠田暢男・田村弘忠: マツノザイセンチュウを捕食するダニ類(I)。88回日林大会講要: 101; 88 回日林論: 321-322. [ダニの種類、線虫保持数とダニ保持数。]
12. 遠田暢男・田村弘忠: マツノマダラカミキリ成虫から検出された線虫捕食性ダニ類。森林防疫 26(12) 188-190. [ダニの種類、線虫保持数とダニ付着数、ダニの生態。]
13. 藤本 清: イネシンガレセンチュウの防除。今月の農業 24巻3: 7-13. [バイジットを主とした種子消毒、出穂期散布。]
14. 藤下章男: 静岡県におけるマツクイムシの防除試験について。農業研究 23巻3: 1-4. [被害の現状、薬剤防除等。]
15. 藤田茂隆・村井高伯・加藤四郎・河又一雄・大橋雄司・松田俊夫・津崎和夫・中村明夫: 新補充原料品種の育種 第2報 LEC系統群の育成。磐田たばこ試報 9: 83-109, 2 pls. [サツマイモネコブセンチュウ抵抗性。]
16. 福留信明: 沖縄の自生在来種のジャワネコブセンチュウ抵抗性について。21回応動昆虫大会講要: 48. [講要]
17. 福留信明: 沖縄のタバコ産地における植物寄生性線虫の種類と分布。九病虫研会報 23: 173. [講要]
18. 我如古光男: マツノザイセンチュウ被害分布調査。沖縄林試研報 19: 7-20. [沖縄における昭和49-51年の被害の分布状況。]
19. 後藤 昭: わが国における畑主要センチュウの分布と輪作・防除上の注意。今月の農業 21巻2: 12-16. [ネコブ、ネグサレセンチュウの種類と寄主作物等。]
20. 後藤 昭: リュウキュウイシユクセンチュウ (*Paratrophurus* sp.) の形態等について。日線虫研誌 7: 80-81. [種名未定。計測値、形態の記載。]
21. 萩谷俊一: ラッカセイのマルチ栽培におけるDBCP粒剤の施用方法と葉害およびキタネコブセンチュウに対する防除効果。関東病虫研報 24: 139-140. [播種当日または10日前にマルチ内に10kg/10a、全面土壌混和。葉害なく、増収。]
22. 萩谷俊一・三井 康: 3種ネグサレセンチュウの接種頭数とニンジンの被害。日線虫研誌 7: 78-79. [キタネグサレセンチュウの寄生性(加害性)はクルマネグサレ、ミナミネグサレセンチュウに比べ高い。]
23. 羽田三男・下川利之: マツノザイセンチュウに対する抵抗性品種の選抜試

- 験(Ⅱ). 岡山林試報 17: 57-61. [野外で生存したクローンも人工気象室中では枯死。他に薬剤防除試験結果。]
24. 長谷川 仁: 自然の文化史: 昆虫編(19): 「質問応答録」と巡回教師。自然 32巻7: 18-19. [明治20年代の害虫研究史。コムギツブセンチュウにふれる。No.1884-2, 87-1 を参照。]
25. 長谷川 仁: 自然の文化史: 昆虫編(22): マーラットとワシントンの桜。自然 32巻10: 18-19. [明治42年(1909)東京市長から米国ワシントン市へ最初に贈った桜苗木の廃棄の経緯にふれる。ネコブセンチュウが発見された。No. 60-229 を参照。]
26. 橋本平一・鈴木和夫: 材線虫病異常木に対する亜鉛注入による樹液流動の追跡。日林九支研論 30: 245-246. [樹脂の滲出が低下した状態でも樹液は流動していた。]
27. 万豆剛一: キクの切花生産をめぐる諸問題[7]: 連作障害対策(1)。農及園 52(1) 85-88. [ネグサレセンチュウ (*Pratylenchus fallax*) の関与にふれる。]
28. 万豆剛一: キクの切花生産をめぐる諸問題[8]: 連作障害対策(2)。農及園 52(2) 341-344. [ネグサレセンチュウ対策(土壌薬剤処理、マリーゴールド利用、高温灌水、有機物施用)を含む。]
29. 平野 暁: 作物の連作障害: 原因・機構・対策の研究。農山漁村文化協会、東京、282 pp. [毒素原因説の視点から書かれた教科書。線虫の扱いは小さい。]
30. 細野隆次: *Nematoda Caenorhabditis elegans* の行動分析。動雑 86(4) 509. [講要]
31. 堀田 隆・高橋和博: 薬剤の樹幹注入法による材線虫病防除試験(Ⅱ) 生物検定による治療効果の判定。日林九支研論 30: 233-234. [樹脂分泌量が多少異常でもテラクアP油剤の注入効果あり。]
- 31a. 一戸 稔・Hadamda, M.・Yoshida, T.: Nonhost plants of *Meloidogyne incognita* on black peppers in the Amazonian region. J. Nematol. 9(4) 271-272. [講要]
32. 井戸規雄・武田丈夫: 和歌山県における松くい虫防除試験: マツノザイセンチュウの防除試験。農薬研究 23巻3: 5-9. [ダイシストン剤の土壌施用。]
33. 池田 弘・吉村大三郎・吉田桂輔: イネ心枯線虫病の育苗箱における感染及び発病について。九病虫研会報 23: 28-30. [感染・発病ともに多い。]
34. 今村昭二・萩原保身・浦野敏美・林 守男: ヘリコプター散布による液剤のイネカメムシ類防除効果。関東病虫研報 24: 96-97. [スミチオン、スミバツサ剤散布。イネシンガレセンチュウ被害米も減少。]
35. 稲垣春郎: Seasonal occurrence of the potato cyst nematode, *Globodera ros-tochiensis* (Woll.) Mulbey & Stone, in a potato field in Hokkaido, Japan. 日線虫研誌 7: 33-38. [現地圃場におけるジャガイモシストセンチュウ第2期幼虫、雌成虫、シストの年間発生消長。]
36. 稲垣春郎: Soybean nematodes. Tech. Bull. ASPAC 31: 1-17. [研究史、生活史、寄生・症状、他の病原との関係、被害、防除(薬剤、輪作、抵抗性品種、総合防除)。]
37. 稲生 稔: イネシンガレセンチュウの防除。今月の農薬 21巻2: 18-21. [感染経路、種子消毒法(バイジット、バダグ、ベンレート剤処理)。]
38. 稲生 稔・上田康郎: イネシンガレセンチュウに対する冬期種子消毒の効果。関東病虫研報 24: 133. [バダグ、バイジット及びそれらとベンレートT剤の混用の比較。]
39. 井上 平: 連作によるネコブセンチュウ汚染圃場でみられたジャガイモの諸障害。日線虫研誌 7: 66-69. [ジャガイモの不萌芽率・茎長・根こぶ指数・青枯病発生率・収量を連作とEDB剤処理間で比較。]

40. 井上 平：ネコブセンチュウの発生圃場で栽培した春作産ジャガイモの腐敗。21回応動昆虫大会講要：46。〔講要〕
41. 石橋信義：土壌無脊椎動物相に及ぼす農薬の影響。In: "人間の生存にかかわる自然環境に関する基礎的研究" 研究報告集録。〔トヒムシ、ダニに対する殺線虫剤(DICP、D-D、EDB剤)の影響、土壌線虫に対する除草剤の影響等を解説。〕
42. 石橋信義・近藤栄造：Occurrence and survival of the dispersal forms of pine wood nematode, *Bursaphelenchus lignicolus* Mamiya and Kiyohara. Appl. Ent. Zool. 12(4) 293-302。〔マツノザイセンチュウの分散型幼虫の出現と生存を各種条件下で試験。〕
43. 石橋信義・近藤栄造：水田線虫相調査方法に関する2、3の問題点。九病虫研会報 23: 173-174。〔講要〕
44. 石橋信義・近藤栄造：線虫を使った老化の研究。動雑 86(4) 548。〔シンポジウム「老化の機構：実験材料をめぐる」講要〕
45. 石橋信義・近藤栄造・佐本和男：数種培養線虫の乾燥・低温・凍結に対する反応。21回応動昆虫大会講要：45。〔講要〕
46. 石川元一：イネシガラセンチュウの野外越冬。関東病虫研報 24: 134。〔野外の糞・糞殻中での越冬は見られず。〕
47. 伊藤一雄：マツの材線虫病防除と自然保護。林業技術 422: 12-15。〔殺虫剤空中散布の使用薬剤・量・残留・他生物への影響等。〕
48. 岩橋哲彦：サトイモに寄生するミナミネグサレセンチュウの防除について 第1報 種いもの浸漬処理。九州農業研究 39: 81。〔カルタップ水溶剤、CG-233乳剤の200-500倍、30分-1時間処理が好成績。〕
49. 岩橋哲彦：サトイモに寄生するネグサレセンチュウの防除。今月の農薬 21巻8: 106-109。〔発生被害の実態、種イモ葉液浸漬処理、粒剤の土壌混和。〕
50. 岩橋哲彦・川越 仁：サトイモに寄生するネグサレセンチュウの防除について 第2報 粒剤による土壌混和处理。九病虫研会報 23: 148-149。〔CG-223、エチルチオメント、ダイアジノン、カルタップ、バイデート、アセフェート、DCIP粒剤ともに効果不十分。〕
51. 岩切 徹・中原美智男・甲斐秀昭・小野 忠・石橋信義・近藤栄造：除草剤連用ウンシュウミカン園土壌の生物相について。土肥誌 48(7/8) 329-331。〔線虫については総個体数は顕著な差はないが、種の多様性は低下。ミカンネセンチュウ、Aphelenchoididae科、Cephalobidae科等が多くなる。〕
52. 角谷直人・外口允孝・福留信明：タバコのジャワネコブ線虫抵抗性に関する遺伝的研究 I. 自生在来種中縄12の抵抗性の遺伝について。育雑 27(別2) 234-235。〔講要〕
53. 梶本 明・柿本茂樹・中原浩二：甘しょ"ミナミユタカ"の地域適応性と施肥反応について。九州農業研究 39: 41-42。〔ネグサレセンチュウによるとと思われる著しい減収例があった。〕
54. 要 司：イチゴのすくみ症の発生原因に関する知見。植物防疫 31(4) 151-154。〔症状と発生消長、原因について(土壌病原菌、線虫、ウイルス、育苗方法及び施肥の影響)。原因は単一でないとする。〕
55. 加藤龍一・本多已紀夫：激害型マツの枯損とその防除体制：愛知県豊橋市の場合。林業技術 422: 16-20。〔被害の経緯、環境、激害型枯損への移行、防除事業の実施と効果等。〕
56. 加藤龍一・奥平虎雄：愛知県におけるマツノザイセンチュウの被害経緯に関する調査。25回日林中部支講要集：159-164。〔昭和45-50年度の被害林の拡大。〕

57. 加藤龍一・奥平虎雄：愛知県におけるマツノザイセンチュウの被害経緯に関する調査。愛知林試報 13: 128-133. [昭和45年頃から顕著になる。被害は年約4kmくらいで拡大。枯損と環境の関係を含む。]
58. 川井一之：連作障害と合理的輪作技術の再評価：地域農業システム論 [5]。農及園 52(7) 843-846. [忌地問題・連作障害対策としての線虫防除を含む。産地移動の原因として線虫をあげる（ダイコン、カブ、カンラン、サントウナ、スイカ、ニンジン、ゴボウ、イチゴ、トロロアオイ）。]
59. 川崎 勉：世界の珍草奇木：植物にみる生命の神秘。内田老鶴圃新社、東京、1+4+4+199+3+13 pp., 1 pl. [対抗植物、捕食性糸状菌と土壌線虫 p.106-112.]
60. 萱野博久：昭和52年度松くい虫防除事業について。林業技術 429: 7-10. [実施準備、実施状況、影響調査等。]
61. 萱野博久：松くい虫防除の新体制：松くい虫防除特別処置法の制定。林業技術 422: 8-11. [法の目的、基本方針、実施計画等。]
62. 萱野博久：松くい虫の新しい防除体制。森林計画研会報 226: 1-5. [松くい虫防除特別処置法の概要。林業と薬剤 61: 1-5にも同じ著者による同様記事。]
63. 気賀沢和男：ジャガイモシストセンチュウの生態・被害・防除。今月の農薬 21巻 12: 17-20. [発生消長、分布の広がり、被害、防除。]
64. 気賀沢和男・堤 正明・稲垣春郎・山田英一・高倉重義・坪井和男・黒沢 強・井上 寿：北海道斜網東部地区におけるジャガイモシストセンチュウの発生。日線虫研誌 7: 82-83. [網走支庁清里町、斜里町、小清水町に新たに発生した状況。]
65. 岸 洋一：マツノザイセンチュウ分布北限地域におけるマツ枯損時期とマツノマダラカミキリ発生数。88回日林大会講要: 89; 88回日林論: 291-292. [茨城県。月別のマツ枯損とマツノマダラカミキリ発生数。]
66. 鬼頭研二：日本産Chromadora属（海産自由生活性線虫）、特に、*Ch. nudicapitata*の形態的変異について。動雑 86(4) 531. [講要]
67. 鬼頭研二：Studies on the free-living nematodes from Hokkaido, II. 動物分類誌 13: 17-23. [未見]
68. 清原友也：マツノザイセンチュウ系統間の増殖および病原性の比較。日林九支研論 30: 241-242. [9個体群を比較。地域間で差がありそう。]
69. 清原友也・橋本平一・大庭喜八郎・西村慶二：アカマツおよびクロマツ精英樹の母樹別系統に対するマツノザイセンチュウ4系統の病原性。88回日林大会講要: 104; 88回日林論: 329-330. [線虫系統間にアカマツ精英樹の系統に対する病原性に顕著な差異。]
70. 清原友也・鈴木和夫：クロマツ樹体内におけるマツノザイセンチュウの季節的消長（II）。日林九支研論 30: 243-244. [線虫密度・令構成・マツノマダラカミキリ保持線虫数を調査。]
71. 小林義明：ネグサレセンチュウによるイチゴの急性的被害。関西病虫研報 19: 140. [講要。定植前の線虫数と収穫末期の被害度。生育中湛水の防除効果。]
72. 小林義明：キクの切花生産をめぐる諸問題 [11] キクの主要害虫と防除対策。農及園 52(5) 698-702. [線虫（ネグサレ、ハガレセンチュウ）の生態、被害、防除を含む。]
73. 小林義明：園芸作物施設栽培における高温を利用したネコブセンチュウの防除。今月の農薬 21巻12: 21-26. [湛水处理および密閉ハウスの湛水处理、密閉ハウス・マルチによる防除、地温の上昇に関与する要因、殺線虫のメカニズム、高温・湛水处理の可能性と問題点。]
74. 小林義明・深沢永光：園芸作物施設栽培における高温処理によるネコブセンチュウの防除。関東病虫研報 24: 137-138. [深さ30cmでは線虫減少はみられず（処理34日）。]

75. 小林義明・杉山朝一：田植機栽培におけるイネシガラセンチュウの増殖と伝播。日線虫研誌 7: 74-77. [育苗期における線虫の侵入・増殖（箱育苗で両方とも高率）、本田期における線虫の伝播（稚苗機械移植は成苗手植に比べ多）。]
76. 小林義明・杉山朝一：田植機栽培におけるイネシガラセンチュウの伝播。21回応動昆虫大会講要：38. [講要]
77. 小玉孝司・福井俊男・芳岡昭夫：イチゴ萎黄病の薬剤防除について。奈良農試研報 8: 57-65. [線虫が存在しなくてもD-Dが効果。病原菌 (*Fusarium*) に対する効果ではなく、副次的影響。]
78. 古賀成司：水利用による土壌線虫防除に関する試験 第3報 有機物投入とたん水処理に伴う微生物相の変動について。九州農業研究 39: 84-85. [細菌・放線菌・糸状菌数を調査。]
79. 古賀成司：土壌線虫の耕種的防除法に関する研究 第4報 有機物施用、土壌水分および地温が線虫密度に及ぼす影響。九病虫研会報 23: 145-148. [ネコブセンチュウ。湛水状態で乾燥豚糞施用時に25°C以上の地温があると安定した防除効果。本報から第1報に遡ってシリーズ名が変わった（当資料中では元のままとした）。]
80. 古賀成司：湛水処理と有機物投入によるネコブセンチュウの防除。In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編（農林省農林水産技術会議事務局編）。農林統計協会、東京、p.326-327. [処理後2作目からは防除効果低下。]
81. 鯉淵 登：野菜との組合せによる落花生栽培。同上、p. 232-233. [輪作によるキタネコブセンチュウ防除を含む。]
82. 近藤栄造・石橋信義：Seasonal occurrence, dissemination, and survival of the strawberry bud nematode, *Nothotylenchus acris*. 日線虫研誌 7: 39-44. [イチゴメセンチュウの発消長、伝播様式、ステージ別生存比較。]
83. 近藤栄造・石橋信義：ピンセンチュウ第4期幼虫の不良環境耐性。21回応動昆虫大会講要：40. [講要]
84. 河野 哲・藤本 清・山口福男：イネシガラセンチュウの種子消毒に伴う薬剤成分の消失と防除効果、とくにMEP剤とMPP剤について。近畿中国農業研究 54: 19-22. [反復使用による有効成分の減少と防除効果減退の関係。]
85. 小菅悦男・飯島 勉・井田昭典：トマト半身萎ちょう病抵抗性育種に関する試験：“NFVR” 固定系および“VR” 固定系の育成過程。東京農試研報 10: 3-29. [サツマイモネコブセンチュウに抵抗性。]
86. 小菅喜久弥：モモの花落ちおよび枝枯れ障害の発生について。関東病虫研報 24: 75. [ザイセンチュウを検出。]
87. 湖山利篤・榊井照夫：稲苗箱におけるイネシガラセンチュウの発消長とダイアジノン粒剤施用の効果。関東病虫研報 24: 135-136. [箱中で棚外に多数の線虫が游出。]
88. 窪 吉永：野菜の輪作栽培：実際家の野菜づくり。農山漁村文化協会、東京、231 pp. [実用書。所々で線虫にふれる。]
89. 黒島 忠：松くい虫被害激地域域の更新問題について。森林防疫 26(2) 21-24. [背景と問題点、考え方、検討事項等。]
90. 真宮靖治：フィリピンにおける森林病害虫問題の現状。森林防疫 26(12) 191-195. [キクイムシから*Parasitorhabditis* sp., *Cryptaphelenchus* sp. を発見。]
91. 真宮靖治・古川 誠：Fecundity and reproductive rate of *Bursaphelenchus lignicolus*. 日線虫研誌 7: 6-9. [マツノザイセンチュウの産卵活動と増殖、産卵数及びその関数、それらから求めた個体数増加の理論的曲線。]
92. 真宮靖治・田村弘忠：マツノザイセンチュウの接種をうけたアカマツ苗の蒸散量の

- 変化。日林誌 59(2) 59-63. [線虫接種後 20-35日目から減少、その5-10日後に停止。]
93. 真下洋二・久保田篤男：コガネムシ類に対するDBCP剤の防除効果。関東病虫研報 24: 109. [サツマイモの生育期処理、幼虫に対し高い防除効果。]
94. 松原 功：マツノザイセンチュウの分布域の拡大と温度条件 (I) MB指数と平均気温。千葉林試報 11: 47-49. [両者の関係と千葉県における分布を論ず。]
95. 松原 功：マツノザイセンチュウ抵抗性の探索 (I) 基礎試験。千葉林試報 11: 53-54. [*Botrytis cinerea*による線虫の培養試験。]
96. 松井弘之・中川昌一：ネコブセンチュウによるゴール形成に関する研究 (第3報) ゴール肥大に伴う内生植物ホルモンの活性変化と生長調節物質によるハウセンカ茎のゴール肥大について。園学雑 45(4) 342-348. [オーキシン、サイトカイニン、エチレンの活性が正常組織より高い。各種の植物生長調節物質のゴール処理とその効果。]
97. 松浦邦昭・藤下章男：薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究 (VI) アカマツ大径木樹幹中における合成色素の上向移動パターンについて。88回日林大会講要: 90; 88回日林論: 293-295. [木部移動パターンを調査。]
98. 松浦邦昭・藤下章男：薬剤によるマツ材線虫の防除に関する研究 (VII) ポット植栽クロマツ苗木試験における薬剤の化学構造と生物効果の関係についての2、3の知見。88回日林大会講要: ; 88回日林論: 297-298. [樹幹注入ではスルフィニルフェニル基を有するチオリン酸エステルが効果。]
99. 御子柴公人：畑作物の立地：大豆。In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編 (農林省農林水産技術会議事務局編)。農林統計協会、東京、p.18-21. [生産阻害要因の一としてダイズシストセンチュウ (関東以北)、ネコブセンチュウ (九州と関東の一部) をあげる。]
100. 皆川 望：ベルマン法および二層遠沈浮遊法による線虫分離効率。21回応動昆大会講要: 44. [講要]
101. 峰尾一彦：マツの材線虫病の薬剤土壌処理による予備的防除試験。88回日林大会講要: 91; 88回日林論: 299-300. [テラクラP、ダイシストン粒剤の施用薬量を検討。]
102. 三井 康：ネグサレセンチュウの増殖に及ぼすカルス培地組成の比較。日線虫研誌 7: 28-32. [3種の培地のアルファルファカルス上での8種のネグサレセンチュウ、ニセネグサレ、イモグサレセンチュウの増殖。培地間の比較及び添加物の影響。]
103. 三井 康：作物別による線虫被害。In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編 (農林省農林水産技術会議事務局編)。農林統計協会、東京、p.327-325. [作物別の有害線虫とその被害、防除法。]
104. 宮崎 信・尾田勝夫・山口 彰：マツノザイセンチュウの不飽和脂肪酸に対する行動。木材学会誌 23(5) 255-261. [Palmitoleic acid, oleic acid, linoleic acid は線虫の行動を刺激。]
105. 宮崎 信・尾田勝夫・山口 彰：マツノマダラカミキリ蟻室における脂肪酸の蓄積。木材誌 23(6) 307-311. [蟻室とそれ以外の材の比較。palmitoleic acidは蟻室のみ、oleic acid, linoleic acid は蟻室に多。これらはカミキリ幼虫の排泄物に存在。]
106. 百田洋二・大島康臣・清水 啓：ムギシストセンチュウの形態について。21回応動昆大会講要: 42. [講要]
107. 森本 桂・真宮靖治：マツ属の材線虫病とその防除。わかりやすい林業研究解説シリーズ 58, 65 pp. [技術者向け解説書。まつくい虫の被害、マツノザイセンチュウの発見、マツノザイセンチュウによるマツの自然感染と発病の経過、マツノザイセンチュウの生活環・分布・発病と環境条件。マツノマダラカミキリとは、生活史、個体数変動要因、防除法。]

108. 森下徳衛:ネコブセンチュウ退治はハブソウで、農業富民 49巻12: 75-77. [後にキタネコブセンチュウのみに有効と判明 (No. 79-98を参照).]
109. 村本正博:鹿児島県におけるマツクイムシの防除試験について、農業研究 23巻3: 10-13. [ダイシストンの土壌処理、同剤、テラクアP剤の樹幹注入。]
110. 中込暉雄・加藤喜重郎:キクの品種とハガレセンチュウの被害について、愛知農総試研報 B 9: 86-91. [発生消長、品種間差異 (63品種中14が被害少).]
111. 中込暉雄・加藤喜重郎:キクの品種とハガレセンチュウの被害について、関西病虫研報 19: 139. [講要]
112. 中國和年:両性生殖系統ニセフクロセンチュウ雌成虫の土壌中における雄成虫誘引数、応動昆 21(1) 49-50. [1雌当たり最高15頭の雄を誘引。]
113. 中國和年:Sexual attraction of *Rotylenchulus reniformis* females and some differences in the attractiveness between amphimictic and parthenogenetic populations (Nematoda: Nacobbiidae). Appl. Ent. Zool. 12(2) 154-161. [ニセフクロセンチュウの性誘引を両性生殖、単為生殖それぞれ3個体群間で比較。]
114. 中里筆二:稲心枯線虫類似症の発生について、今月の農業 21巻7: 64-66. [症状、発生実態、発生原因、防除。]
115. 中里筆二・須永文雄・西沢 務:イネシンガレセンチュウ病類似症状の発生、関東病虫研報 24: 131-132. [white tip と外見上区別できないが、線虫は検出されず。]
116. 西村慶二・大庭喜八郎・立仙雄彦・松永健一郎・今村政秀:マツノザイセンチュウ抵抗性育種のための人工接種方法の開発、日林九支研論 30: 61-62. [7種の比較。ドリル接種法、筆塗布法、先端割り注入法(2年生主幹)が良い。]
117. 西沢 務:野菜のセンチュウと対策、今月の農業 21巻4: 132-135. [未見]
118. 西沢 務・岡本好一・稲垣春郎・賀賀沢和男:ジャガイモシストセンチュウのバソタイプ判別国際方式の検討、21回応動昆大会講要: 43. [講要]
119. 小芦健良:鹿児島県におけるイネ心枯線虫病の発生について 第1報 品種ならびに育苗との関係、九病虫研会報 23: 28-30. [農林18号、センダイ、ヒヨクモチ等5品種は抵抗性。箱育苗は水苗代より高い発病率。]
120. 小芦健良・高倉 求・野口純隆:湛水によるネコブセンチュウの防除について、九州農業研究 39: 82-83. [60日以上湛水で実用効果。ビニル被覆・有機物添加等の併用の効果を検討。]
121. 小河誠司:マツノザイセンチュウに関する研究(5) 高標高地生育のマツ樹体内における材線虫の生存期間と材線虫病治療試験、日林九支研論 30: 235-236. [高標高地の天然アカマツは枯死の可能性は低い。テラクアPが防除に効果。]
122. 小川 勉・坂本敏嗣:イチゴ根腐萎ちょう病防止に関する研究 第1報 土壌消毒効果、九州農業研究 39: 248-249. [クロルピクリン処理。クルミネグサレセンチュウへの効果を含む。]
123. 岡部 融:新しい桑園作業機、In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編 (農林省農林水産技術会議事務局編)、農林統計協会、東京、p.170-171. [四輪トラクタ用土壌消毒機を含む。]
124. 岡田利承:ダイズシストセンチュウ (*Heterodera glycines* Ichinohe) の孵化要因に関する研究、日線虫研誌 6 (特別号) 1-52. [著者の1966年以降の研究のまとめ。シストの貯蔵と孵化能力の消長、諸環境要因の影響、寄主植物由来の孵化促進物質とその作用、合成化合物とその作用、線虫由来の孵化促進物質とその作用、シスト内の孵化抑制物質とその作用、孵化幼虫の行動と活性物質の影響。]
125. 岡田利承:ダイズシストセンチュウのふ化行動、21回応動昆大会講要: 40.

【講要】

126. 岡本好一・三井 康：サツマイモネコブセンチュウの寄生性に対する温度の影響。日線虫研誌 7: 10-14. [トマト、サツマイモ、タバコの感受性及び抵抗性品種に対する線虫寄生を、異なった温度条件で試験。高温条件下では抵抗性品種にも寄生。]
127. 岡本好一・三井 康：サツマイモネコブセンチュウの抵抗性品種における増殖と温度の関係。21回応動昆虫大会講要: 47. 【講要】
128. 小椋金一：千葉県長生郡市における松くい虫防除事業について。森林防疫 26(1) 13-15. [被害の現況、防除方法、効果、問題点、防除体制。]
129. 小野敏忠・丸峯正吉・山川 理・広崎昭太・坂本 敏・井手義人：かんしょ新品種 "ミナミユタカ" について。九州農試報 19(2) 133-150. [育成過程及び特性。ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ抵抗性強。]
130. 大羽克明・藤田祐輔：各種殺線虫剤に対する数種ネグサレセンチュウの感受性について。21回応動昆虫大会講要: 39. 【講要】
131. 大羽克明・藤田祐輔・妹背 醇・難波健吉：ディ・トラベックスの土壌内動向 I. 圃場における処理後の残留薬物の経時的変化。日線虫研誌 7: 21-27. [メチルイソチオシアネートは 1-3 週間の間に急速に減少。1,3-D は処理 1 週間後までに大半が消失、その後の減少は緩やか。ガス抜き効果も調査。]
132. 大庭喜八郎・戸田忠雄・西村慶二・岩下礼治・松永健一郎：マツノザイセンチュウの人工接種による系統別マツ苗の生存率。日林九支研論 30: 67-68. [系統により接種後の生存率に大きな差。]
133. 大庭喜八郎・西村慶二・戸田忠雄・立仙雄彦：マツノザイセンチュウの人工接種による母樹別マツ苗の生存率。日林九支研論 30: 69-70. [樹種間、アカマツの産地別集団間の平均生存率に 1% 水準の有意差。]
134. 大庭喜八郎・西村慶二・戸田忠雄・山手広太・大山浪雄：川内署まつくい虫抵抗性候補木（クロマツ）のつぎ木苗の人工接種検定。日林九支研論 30: 71-72. [若干の抵抗性候補個体を選抜。]
135. 大庭寅雄：作付体系による土壌線虫の防除法。In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編（農林省農林水産技術会議事務局編）。農林統計協会、東京、p.328-329. [作物の組合せと有害線虫個体数の変化を略述。]
136. 大林延夫：マリーゴールドを利用した線虫の防除：その殺線虫成分と総合防除への利用。化学と生物 15(5) 297-299. [一般向解説。]
137. 大橋雄司：タバコ属植物のジャワネコブセンチュウ抵抗性。日線虫研誌 7: 1-5. [44 種 58 系統を供試。高度抵抗性、中程度抵抗性、罹病性の 3 群に分類。]
138. 大橋雄司：タバコ属植物のサツマイモネコブセンチュウ抵抗性。育種 27(3) 193-200. [63 種 85 系統を供試。27、35°C で実験。高度抵抗性 (NC95、YB4 号) の抵抗性は高温下で低下、中程度抵抗性群は安定していた。]
139. 大川 清：バラのネマトーダとその防除 (1)。農及園 52(1) 66-70. [線虫相、被害、防除対策 (抵抗性台木)。]
140. 大川 清：バラのネマトーダとその防除 (2)。農及園 52(2) 323-326. [防除対策 (植付け前の苗木の処理：温湯浸漬・薬液浸漬、土壌処理、生育中の処理：土壌灌注・茎葉散布)。]
141. 大久保隆弘：畑地かんがい施設導入に伴う作付体系の改善。In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編（農林省農林水産技術会議事務局編）。農林統計協会、東京、p.98-99. [畑水稻は連作 3-4 年目からイネシストセンチュウによる被害が顕著。]
142. 大崎憲生・飯田定彦・永吉昭雄：植物の根の傷口物質のサツマイモネコブセンチ

- ユウに対する忌避作用。日線虫研誌 7: 70-73. [トマト、ニンジン、マリーゴールド、ダイコン、ラッカセイ、チョウセンアサガオ、ピーマン、タバコの切り取った根の先端部に対して最初の 0-3 時間は線虫の幼虫は忌避。]
143. 大崎憲生・飯田定彦・永吉昭雄: 植物の根の傷口物質のサツマイモネコブセンチュウに対する忌避作用。21 回応動昆虫大会講要: 47. [講要]
144. 佐保春芳・滝沢幸雄・庄司次男・五十嵐正俊: 東北地方における松の材線虫病。青森林友 346: 29-33. [マツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの分布拡大、東北地方の病徴の特徴。]
145. 佐保春芳・滝沢幸雄・庄司次男・五十嵐正俊: 東北地方における松の材線虫病。林業技術研究集録(青森営林局) 1976: 55-57. [生態、分布、症状、接種試験、今後の見通し。]
146. 三枝敏郎・相原孝雄: ユリ球根養成圃場におけるネグサレセンチュウの生態と被害回避法。日線虫研誌 7: 58-65. [関東地方及び新潟県の調査。キタ、クルミネグサレセンチュウが主。栽培様式と線虫寄生、季節的発生消長、令構成の変化、輪作による線虫密度変化、温湯浸漬試験(47°C 5 分がよい)。]
147. 三枝敏郎・相原孝雄: アカカノコユリ球根養成ほ場でのネグサレ線虫とその 1、2 の被害回避策。21 回応動昆虫大会講要: 39. [講要]
148. 三枝敏郎・相原孝雄・中臣康範: アイリスセンチュウ *Ditylenchus destructor* Thorne の形態及び生態と球根アイリスの温湯浸漬による防除。植防研報 14: 1-16. [発生の現状、線虫の形態、病徴、線虫の増殖と被害、寄生性ならびに寄主植物、圃場における季節的消長、温湯浸漬による防除。]
149. 斎藤一三・栗原 毅・大島智夫・林 滋生: ブユ幼虫寄生線虫の生態。衛動 28 (1) 14. [講要]
150. 佐野善一: サツマイモネコブセンチュウの卵および幼虫に対する DBCP と EDB の効力。九病虫研会報 23: 150-152. [幼虫に対する LC-50 は前者は 25 ppm、後者は 39 ppm。殺卵力は EDB が DBCP に大きくまさる。]
151. 佐野善一: サツマイモネコブセンチュウの個体数・活性の季節的変動 I. 生幼虫数、生幼虫率、活動力の季節的変動。21 回応動昆虫大会講要: 46. [講要]
152. 佐藤姚子・杉山 浩・江森 京: カイコに対する EDB の毒性について。日蚕関東講要 28: 40. [講要]
153. 清水 啓: イネシストセンチュウ (*Heterodera elachista*) の畑水稻圃場における発生消長と分布。日線虫研誌 7: 49-57. [1 作期に 4 回の幼虫発生。山。发育零点は 10.6°C、一世代所要有効積算温度は 445 日度。他に根圏内の幼虫とシストの分布。]
154. 清水 啓・大島康臣・百田洋二: ムギシストセンチュウの寄生型について。21 回応動昆虫大会講要: 41. [講要]
155. 下川利之: 林業苗畑の根ぐされ病、被害解析に関する研究。岡山林試研報 3: 1-20. [増写。キタネグサレセンチュウの寄生程度別被害解析(スギ、ヒノキ)、リゾクトニア、フザリウム菌との複合被害解析。]
156. 新須利則・小川義雄・樋口泰三: イチゴ根腐れ萎ちよう症に関する研究: 予報: 現地調査から得られた発生要因に関する 2、3 の知見。九病虫研会報 23: 43-47. [土壌病菌、ネグサレセンチュウが関与している可能性大。]
157. 矢田幸男・立花観二・大島康臣: 明治神宮における樹木の寄生線虫相。21 回応動昆虫大会講要: 44. [講要]
158. 周藤靖雄: 島根県の林業苗畑における土壌線虫の被害実態調査(II)。島根林試研報 27: 1-10. [スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツの線虫相、地域的分布、生息密度]

、被害。]

159. 周藤靖雄・原 幾雄・山田栄一：苗立枯病および土壌線虫防除のための土壌消毒試験：カーバム剤およびクロロピクリン剤の防除効果の再確認、カーバム剤の灌注法による防除効果の検討。森林防疫 26(8) 118-124。[スギ、ヒノキのネグサレセンチュウ防除。苗の生育にある程度影響。]
160. 推名清治：高度輪作露地野菜畑における土壌改良効果について。神奈川園試研報 24: 50-56。[ダイコンのキタネグサレセンチュウに対する効果を含む。]
161. 砂田喜与志：ダイズシストセンチュウ抵抗性的大豆品種。In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編 (農林省農林水産技術会議事務局編)。農林統計協会、東京、p.332-333。[育成された抵抗性品種、適用条件と留意事項。]
162. 鈴木和夫・伊藤進一郎：マツノザイセンチュウ接種後のマツの材成分変化。日林九支研論 30: 237-238。[sucrose, fructose, glucose, inositolの比率の変化。]
163. 高橋和博・堀田 隆：薬剤の樹幹注入法による材線虫病防除試験 (I) 生立木に対する治療効果。日林九支研論 30: 231-232。[テラクアP、スミチオンが有効。]
164. 高橋昌隆：樹幹注入によるマツノザイセンチュウの防除試験。徳島林総技七報 15: 35-46。[「最も防除効果の高いのはキルゾールP10とダイシストン粒剤」]
165. 高井康雄・北沢右三・梁 昌述・和田秀徳：合成農薬の土壌生物相に与える影響について (第1報) 現地調査。土肥誌 48(3) 74-78。[塩素系殺虫剤 (アルドリノ、BHC、DDT)、殺菌剤。線虫には影響を認めず。]
166. 高瀬 巖・相沢徳尚・川崎俊郎・松浦邦昭・藤下章男・松原 功：薬剤によるマツノザイセンチュウ防除の環境におよぼす影響。88回日林大会講要: 93; 88回日林論: 305-306。[ダイシストン、テラクアPの土壌・農業用水・サワガニ・クリ・フキ・ワラビへの残留。]
167. 高杉光雄・戸田久之・高杉百合子・正宗 直・気賀沢和男：アスバラガス酸関連化合物における構造と殺線虫活性の関連性。北海道農試研報 118: 105-111。[33種の化合物を用い、ダイズシストセンチュウ幼虫に対する効果を試験。]
168. 田中 清：野菜の施設栽培における害虫の生態と防除。農及園 52(1) 211-216。[線虫類の発生、分布、防除を含む。]
169. 戸田忠雄・立仙雄彦・山本 久：つぎ木苗によるマツノザイセンチュウ抵抗性の検定ならびに切枝の水ざしによる検定。日林九支研論 30: 65-66。[接木苗の検定は接木穂部分に接種。切枝は検定に不适当。]
170. 樋田幸夫・伊藤喜隆：桑園のネコブセンチュウの種類について。日蚕講要 47: 16。[講要]
171. 樋田幸夫・守山 弘：マリゴールドによる桑寄生線虫の防除 1. マリゴールド抽出物の殺線虫効果。蚕糸研究 101: 113-119。[メキシカン、フレンチ種からの抽出物のネコブ、オオガタハリセンチュウに対する効果。]
172. 富来 務：イネ心枯線虫病の防除法。農業研究 24巻2: 14-19。[各種薬剤の種子粉衣、浸漬、播種床散布効果。]
173. 堤 正明：ジャガイモシストセンチュウのふ化におよぼす畑栽培のジャガイモ根浸出液の影響。21回応動昆大会講要: 42。[講要]
174. 上野吉雄・弥富喜三・岡留恒丸：植物の根から浸出する殺線虫成分の検索。21回応動昆大会講要: 45。[講要]
175. 八重樫隆志：Hemicriconemoides 属のセンチュウ、H. brachyurus について。明大農研報 38: 43-53。[シバから検出。形態、計測値、産卵、卵の発育。]
176. 八木田秀幸：クワナガハリセンチュウ (Longidorus martini) の生活史ならびに

- 生態に関する影響 III. クワ輪紋ウイルスの伝染源植物ならびに線虫による伝搬の様態・日線虫研誌 7: 15-20. [MRSVおよび線虫の寄主植物、線虫によるMRSV伝搬性の保持、線虫の接種頭数並びに齢期別の伝搬試験。]
177. 山田英一: ジャガイモシストセンチュウの技術対策. In: 総合野菜・畑作技術事典 VI. 畑作技術編 (農林省農林水産技術会議事務局編). 農林統計協会、東京、p. 330-331. [レース、発生消長、防除 (輪作、殺線虫剤処理)。]
178. 山田英一・高桑 亮・高倉重義: ジャガイモシストセンチュウに対する極超短波照射の効果. 21回応動昆虫大会講要: 43. [講要]
179. 山口福男・藤本 清: スミチオンによるイネシガラセンチュウの防除. 農薬春秋 34: 20-21. [反復使用による有効成分の消失過程。]
180. 山口喜徳郎: キクの切花生産における諸問題 [15] 暖地における露地生産. 農及園 52(6) 827-831. [特に重要な病害虫として葉枯線虫をあげる。]
181. 山本敏夫・近藤鶴彦: 山野の植物寄生線虫 第1報 線虫の種類と寄主植物. 関西病虫研報 19: 141. [講要. 属レベルの同定. ネコブ、ラセンセンチュウが多。]
182. 山本義忠・佐藤昌良: ジャガイモYウイルス抵抗性黄色種F108およびF109の育成. 磐田たばこ試報 9: 31-42, 2 pls. [育成過程及び特性検定結果 (サツマイモネコブセンチュウ抵抗性)。]
183. 山手広太・大久保哲也: 苗木あたりのマツノザイセンチュウの接種点数と枯損の関係. 日林九支研論 30: 63-64. [接種点数を多くした方が枯損率高い. クロマツ、リギテダマツで比較。]
184. 吉村大三郎・池田 弘・吉田桂輔: 福岡県における主要水稻品種のイネ心枯線虫病に対する発病の差異について. 九病虫研会報 23: 25-27. [供試17品種は全部感受性。]
185. 吉武貞敏・大場支征: イチゴの根腐れ萎ちょう病発生防止に関する研究 第1報 クルミネグサレセンチュウの防除効果について. 九州農業研究 39: 250. [DBC P剤処理. 発病防止に一応の効果があつた。]
186. 湯原 巖: クローバーシストセンチュウ *Heterodera trifolii* の寄生によるクローバーの被害並びに品種間差異. 21回応動昆虫大会講要: 41. [講要]
187. Anon.: 線虫剤DBC Pと不妊症. 自然 32巻12: 25. [アメリカにおける製造中止の経緯 (New Scientist 誌77年9月1日号の記事の要約)。]
188. 線虫学用語委員会 (編): 線虫学関連学術用語集. 日本線虫研究会、東京、178 pp. [用語 (英-和、和-英)、日本産植物寄生性線虫およびその他の線虫の学名・和名、線虫による植物の症状・病名、殺線虫剤、線虫の形態図。]
189. 林業試験場 (編): マツ類材線虫の防除に関する研究. 研究成果 (農林水産技術会議事務局) 96: 1-156. [「マツクイ虫によるマツ類の枯損防止に関する研究」(昭和43-46年度実施農林省特別研究)のまとめ. p.1-6に研究の集約. p.6-14に研究発表された文献目録(272件). 内容は以下の通り (かっこ内は分担執筆者名)。第1章 マツノザイセンチュウの生態及び寄生性: 地理的分布 (庄司次男・真宮靖治・紺谷修治・寺下隆喜代・橋本平一・小林亨夫); 生活史と行動 (真宮靖治・小林亨夫・佐々木克彦・田村弘忠・橋本平一・峰尾一彦・堂園安生・田中 潔・宮崎 信・寺下隆喜代); マツノザイセンチュウの寄生性及び萎凋枯死機構 (真宮靖治・寺下隆喜代・橋本平一); マツノザイセンチュウの寄生性発現に関与する環境条件 (橋本平一・川畑克己・寺下隆喜代・清原友也・大山浪雄・峰尾一彦・田中 潔)。第2章 媒介昆虫マツノマダラカミキリの生理・生態: マツノマダラカミキリの生活史、マツノマダラカミキリの材線虫伝播様式 (遠田暢男・細田隆治・越智鬼志夫・井戸規雄・五十嵐 豊・峰尾一彦・森本桂・野淵 輝); マツノマダラカミキリの行動、マツノマダラカミキリの密度推定法、マツノ

- マダラカミキリの個体数変動の要因の解析。第3章 マツノザイセンチュウによるマツ類の枯損防止：マツ立木に対する予防散布（大久保良治・川畑克己）；マツ被害木に対する駆除散布（井戸規雄・川畑克己・田畑勝洋・松浦邦昭・田中 潔・大山浪雄・川崎俊郎・紺谷修治・橋本平一）；防除薬剤の残留及び毒性：防除薬剤の野生鳥獣におよぼす影響（鈴木一生・北原英治・阿部 学）；抵抗性選抜育種及び抵抗性要因の解析（大庭喜八郎・戸田忠雄・大山浪雄・峰尾一彦）。]
190. 農業技術研究所（編）：連作障害要因に関する研究。研究成果（農林水産技術会議事務局）98：1-204。[上記標題の農林省特別研究（昭和44-48年）のまとめ。作物別に土壌微生物・線虫・土壌の理化学性等を調査。内容は以下の通り（かっこ内はとりまとめ研究室名）。研究の集約 p. 1-9。第1章 連作障害の実態調査：畑作物（野菜を含む）の連作障害、果樹の連作障害（果樹試験津支場栽培研究室、同試栽培部第1研究室）、林木の連作障害。第2章 普通作物の連作障害とその要因解析：イネの連作障害（農事試畑土壌肥料研究室、同試虫害第2研究室、同試作付体系第2研究室、同試同第1研究室、農技研土壌微生物研究室）、その他の作物の連作障害（農事試虫害第2研究室、農技研土壌微生物研究室、農事試畑土壌肥料研究室）。第3章 果樹の連作障害とその要因分析：ミカンの連作障害、モモの連作障害（果樹試栽培第1研究室）、果樹の連作障害とその要因分析。第4章 林木の連作障害とその要因分析：林木苗の連作障害（林試土壌肥料研究室、同試樹病研究室、同試関西支場樹病研究室、同試抽出成分研究室、同試土壌第1研究室）。]
191. Anon.（北海道農試畑作部作付体系第1研）：小豆の連作障害回避に関する試験。同試年報 昭51：49-52。[ネコブセンチュウが原因。]
192. Anon.（北海道農試病理昆虫部虫害第2研）：ジャガイモシストセンチュウに関する研究。同試年報 昭51：72-74。[発生消長、発育・繁殖と温度、圃場内分布。]
193. Anon.（香川県林業指導所）：マツノザイセンチュウの関係するマツ類の枯損防止に関する試験研究報告。同所試験研究成果報 12：1-74。[マツノマダラカミキリのマツノザイセンチュウ保持状況調査 p. 8-14。マツノザイセンチュウ防除薬剤試験 p. 71-74。]

昭和53年（1978）

1. 安部 浩・田中重義・板垣紀夫・石井卓爾：島根県におけるくさび状着色米の発生事例について。22回応動昆大会講要：112。[講要]
2. 相原孝雄・湯原 巖：果樹ほ場の線虫相についての知見。22回応動昆大会講要：111。[講要]
3. Allen, M. W. & Noffsinger, E. M. : A revision of the marine nematodes of the superfamily Draconematoidea Filipjev, 1918 (Nematoda: Draconematina). Univ. Calif., Publ. Zool. 109, 8+133 pp. [*Draconema cephalatum* Cobb, 1913及び次の3新種を日本から記録。 *Paradraconema floridense*, *Dracograllus filipjevi*, *D. gerlachi*.]
4. 浅田幸男・上住 泰・杉浦哲也：ダイコンにおけるキスジノミハムシの発生経過とその予察法について。奈良農試研報 9：65-73。[D-D油剤処理によりハムシの害が増加。同剤にハムシ誘引作用。]
5. 浅見 宏・内藤 忠・小沢保治・露木敏雄・近岡一郎：イネシンガレセンチュウの水田における水媒伝染の発生事例。関東病虫研報 25：121-122。[灌漑水による伝播の顕

著な例を示す。]

6. 浅野勝司・田中浩一・佐藤元昭・西沢 務：DCP (1,3-dichloropropene)の殺線虫作用に関する研究 第1報 土壤中における拡散型、3回農業学会大会講要：[未見。講要。]
7. 近岡一郎・竹沢秀夫：有機物、特に鶏ふんのキタネグサレセンチュウに対する効果。関東病虫研報 25: 127. [鶏糞、牛糞、化成肥料施用時のインゲン、キャベツ、トマトの線虫密度。ポット試験。]
8. 千代西尾伊彦：水に浮遊するイネシガラセンチュウの斜管内沈降傾向について。応動昆中国支報 20: 49-52. [80度以上の勾配でよく沈降する。]
9. 遠田暢男：小笠原諸島におけるマツ枯損の実態調査。森林防疫 27(5) 79-81. [リュウキュウマツの被害の概況、線虫の分布、マツノマダラカミキリの線虫保持数。]
10. 藤本 清・足立年一：球根アイリスを加害するイモグサレセンチュウについて：球根の温湯および薬剤浸漬、菌類による人工増殖。応動昆中国支報 20: 18-27. [MEP、メソミル、CG223、ベノミル浸漬。温湯処理では47°C20分、50°C15分で死滅。湛水1ヵ月後には線虫検出されず。23種の菌のうち18種で線虫増殖。]
11. 藤下章男：静岡県におけるマツノザイセンチュウ病の被害。26回日林中部支講：193-198. [1947-76年の被害状況。マツノマダラカミキリの脱出消長、航空散布の効果。]
12. 福留信明：沖縄のタバコ産地で見出された植物寄生性線虫の種類。鹿児島たばこ試報 21: 43-62. [ネコブ、ネグサレ、ラセンセンチュウ等14種を記録。タバコ品種のネコブセンチュウ寄生調査を含む。]
13. 二井一禎：2種のザイセンチュウの個体数増加能力の比較。22回応動昆大会講要：114. [講要]
14. 二井一禎・古野東洲：マツ属のマツノザイセンチュウに対する抵抗性。89回日林大会講要：83; 89回日林論：297-299. [24種のマツを供試。五葉松類も高い感受性。]
15. 我如古光男：リュウキュウマツ成木による2系統マツノザイセンチュウを用いた頭数別接種試験。沖縄林試研報 20: 75-87. [沖縄産の線虫では枯死木は少ないが、生存木に針葉黄化・枝枯れ等の症状。]
16. 五味美知男：イネシガラセンチュウの防除を徹底しよう。今月の農業 22巻6: 102-106. [被害、黒点米との関係、防除、黒点米からの分離菌の検討。]
17. 後藤 昭：九州の草地における植物寄生性線虫の分布 第1報。日線虫研誌 8: 59-64. [ネコブ、ネグサレ、サヤワセンチュウ等の検出記録をまとめる。]
18. 後藤 昭：連作障害克服への取り組み：土壤線虫の場面から。研究のひろば(農事試場報) 27: 7-9. [線虫の分布、連輪作と線虫密度等。]
19. 後藤 昭：野菜の連作障害と土壤センチュウ対策。今月の農業 22巻4: 98-101. [線虫が原因の連作障害の事例、対策をまとめる。]
20. 萩原幸弘・後藤泰敬・河野克也・織田泰昌：マツノザイセンチュウ病の発生環境：大分県におけるMB指数からの解析。日林九支研論 31: 245-246. [温度との関係。]
21. 萩谷俊一：ニンジンの作型とキタネグサレセンチュウ(*P. penetrans*)の発生活長。22回応動昆大会講要：113. [講要]
22. 萩谷俊一：ニンジンのすづまり症：その原因と対策。野菜園芸技術 5: 13. [キタネグサレセンチュウ。D-D、デイトラベックス、ネマホルンの施用効果。]
23. 萩谷俊一・土岐知久：アレチウリ (*Sicyos angulatus* L.)の台木利用に関する研究 第2報 サツマイモネコブセンチュウに対する抵抗性。千葉農試研報 19: 25-30. [線虫寄生は非常に少、線虫密度は低下。]
24. 萩谷俊一・渡辺政夫・鶴沢 博：ニンジンのキタネグサレセンチュウに対するディ

- ・トラベックス油剤の防除効果。関東病虫研報 25: 128-129. [D-D、EDB・EDCとの比較。]
- 25. 羽田三男・下川利之: アカマツ精英樹のマツノザイセンチュウに対する抵抗性に関する試験。岡山林試報 18: 8-11. [接種試験(不成功)、薬剤防除試験結果。]
- 26. 橋本平一・堂園安生: マツノザイセンチュウの樹体内移動に伴う樹脂異常の変化。89回日林大会講要: 82. [講要]
- 27. 橋本鋼二: 中国の大豆作と大豆研究。農業技術 33(10) 433-437. [シストセンチュウは西部の砂質・アルカリ土地帯で発生。線虫研究・抵抗性育種は今後の問題。]
- 28. 橋爪文次: アメリカ見聞メモ。農業春秋 36: 55-60. [殺線虫剤のスクリーニング試験の写真を含む。]
- 29. 畑田清隆・斎藤功夫・伊藤祥太・浅野 隆・加藤忠弘・角田 茂: マリーゴールドに含まれる殺マツノザイセンチュウの成分検索。22回応動昆大会講要: 116. [講要]
- 30. 林 勇: 施設園芸における温湯土壌消毒法の開発試験(第1報) 温室バラ改植時における温湯土壌消毒法の実用化調査。農及園 53(8) 1051-1052. [ネコブ、ネグサレセンチュウに対する効果。]
- 31. 林 勇: 施設園芸における温湯土壌消毒法の開発試験(第2報) 消毒用送体の太さ、埋没方法ならびに被覆資材。農及園 53(9) 1167-1168. [地温の変化からパイプの太さ、埋没間隔等を検討。]
- 32. 細田隆治・小林一三: マツノマダラカミキリからの材線虫離脱経過(その2)。29回日林関西支講: 131-133. [離脱経過及び離脱率を調査。]
- 33. 細野隆次: 線虫 *Caenorhabditis elegans* の形態異常突然変異体。動雑 87(4) 344. [講要]
- 34. 細野隆次: Sinusoidal movement of *Caenorhabditis elegans* in liquid phase. 動雑 87(3) 191-195. [野生型と突然変異型(N2)の液中での動きを发育ステージの違い、温度・化学物質の影響を調査。]
- 35. 茨木親義・大庭喜八郎・西村慶二: 外国マツ類のつぎ木苗によるマツノザイセンチュウ抵抗性検定。日林九支研論 31: 63-64. [16種のマツを比較。]
- 36. 茨木親義・大庭喜八郎・立仙雄彦・西村慶二・戸田忠雄・大山浪雄・高木哲夫・川辻公弘: マツノザイセンチュウ抵抗性候補木のみしょう苗検定。日林九支研論 31: 61-62. [アカマツ、クロマツの中にも生存率の高いクローンが存在。]
- 37. 茨木親義・大庭喜八郎・立仙雄彦・西村慶二・戸田忠雄: マツノザイセンチュウ病原性の予備検定。日林九支研論 31: 65-66. [育種用接種源の効力検定試験。]
- 38. 茨木親義・大庭喜八郎・戸田忠雄・橋本平一・清原友也: マツノザイセンチュウ23系統のクロマツ苗木に対する病原性のちがい。日林九支研論 31: 211-212. [系統によりマツ枯損率に差を認める。]
- 39. 茨木親義・大庭喜八郎・山手広太・立仙雄彦・戸田忠雄・西村慶二・松永健一郎: マツノザイセンチュウ抵抗性候補木のつぎ木苗検定。日林九支研論 31: 59-60. [タイワンアカマツ、フクシュウマツがテーダマツ相当の抵抗性。アカマツ、クロマツの中に抵抗性の強いクローンがある。]
- 40. 市村紀郎: 露地野菜の連作障害と地力維持: 総合助成試験の課題から。農業技術 33(12) 537-542. [研究レビュー。線虫関係は熊本農試の成績を引用。]
- 41. 一戸 稔: コショウ根腐病防除のために。業務資料(国際協力事業団) 464, 55pp. [ブラジルのネコブセンチュウによるコショウの被害と防除。インドネシアのコショウ栽培の現状を含む。]
- 42. 井出甚一郎・小宮山政人・南沢 栄・有賀 武・山崎利典・伊藤昭二: キクの連作

- 障害に対するランネート水和剤の土壌灌注効果。関東病虫研報 25: 130. [ネグサレセンチュウ。臭化メチルと比較。]
43. 移住第1業務部長(国際協力事業団): 試験研究について一戸 稔専門家の農業技術者会議報告書。移住研究 15 (国際協力事業団業務資料 No.477): 117-121. [報告書の要約。ポリビアのワタ(ラッカセイまたはムクナブレッタとの輪栽)、セラード地帯・ブラジルのネコブセンチュウ対策(鶏糞が有効、ニンジン、レタス、コショウ)。]
44. 稲垣春郎: Decrease of *Globodera rostochiensis* population by resistant potato varieties and non-host crops in greenhouse trials. 日線虫研誌 8: 11-15. [抵抗性ジャガイモ品種、非寄主作物、D-D剤処理によるジャガイモシストセンチュウ密度の低下とそれらの組合せによる防除効果。]
45. 稲垣春郎: Research on the ecology and control of the potato cyst nematode, *Globodera rostochiensis* (Woll.) Mulvey and Stone, occurring in Hokkaido, Japan. Rev. Pl. Protect. Res. 11: 119-131. [研究のまとめ。分布、侵入経路、バソタイプ、生態、生理、被害、防除。]
46. 稲垣春郎: Apple root-knot nematode, *Meloidogyne mali*, its taxonomy, ecology, damage and control. Kasetart J. 12(1) 25-30. [リンゴネコブセンチュウの形態、発育、土壌中垂直・水平分布、被害。]
47. 稲生 稔・会沢京一: ナガイモの黒変障害防除について。関東病虫研報 25: 131. [D-D、クロロピクリン剤施用。*Trichodorus porosus* に対して後者が有効。]
48. 井上 平: 野菜の病害: ジャガイモ(一般)。今月の農薬 22巻4: 207-209. [青枯病はネコブセンチュウ防除を充分に行えば発生を防げる。]
49. 石橋信義: 線虫の生活(UPバイオロジー・シリーズ)。東京大学出版会、東京、7+129 pp. [植物寄生性線虫を中心に、自活性、昆虫寄生性、脊椎動物寄生種を含む、生活史を軸とする線虫の形態、生態、生理等に関する読み物。]
50. 石橋信義: 線虫類。遺伝 32巻11: 36-44. [森林の土壌動物特集の一。土壌生態系の中での役割、森林土壌の線虫相の特徴、線虫採集法の問題点。]
51. 石橋信義・青柳美智子・近藤栄造: Comparison of the gonad development between the propagative and dispersal forms of pine wood nematode, *Bursaphelenchus lignicolus* (Aphelenchoididae). 日線虫研誌 8: 28-31. [マツノザイセンチュウの分散型4期幼虫では生殖腺の発育は増殖型の約半分に抑制されている。]
52. 石橋信義・近藤栄造: 家畜糞尿の土壌施用が土壌線虫相に及ぼす影響。文部省科学研究費特別研究「環境科学」研究報告集 B15-R10-203046, p. 28-33. [未見]
53. 石橋信義・近藤栄造: 果樹園および水田の土壌無脊椎動物相に及ぼす除草剤連用の影響。22回応動大会講要: 96. [講要]
54. 石橋信義・村岡 実・近藤栄造・山崎 浩・甲斐秀昭・岩切 徹・中原美智男: 温州みかん園における除草剤の連用が線虫・ダニ・トビムシ等に及ぼす影響。佐賀大農学 44: 43-55. [線虫は自活種が減少、植物寄生性・捕食性線虫が増加。草生、敷きわら対照区は種多様性が高い。]
55. 石川元一: 畦畔生息土壌センチュウの水田転換畑への侵入対策。今月の農薬 22巻8: 76-80. [水田跡の線虫、畦畔に生息する線虫、水田転換畑への侵入と増殖、対策。]
56. 伊戸泰博: ヤドリダニ類の害虫捕食能に関する研究。農技研報 H 51: 1-93. [ダニによる線虫の捕食、餌としての選択性、ダニの増殖との関係を含む。]
57. 岩瀬 恵・片岡 稔・横井 宏: 殺虫剤と誘引剤併用によるマツノザイセンチュウ関与のマツの枯損防止試験。香川林指試研成果報 14: 50-67. [誘引されたマツノマダラカミキリの保持線虫数調査結果を含む。]

58. 岩瀬 恵・横井 宏・小阪和彦：マツノザイセンチュウ防除薬剤試験。香川林指試研究成果報 14: 68-78. [クロマツに4種薬剤を樹幹注入、エチルチオメトンの土壌施用。]
59. 岩下禮治：マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業。林木の育種 107: 5-8. [着手までの経緯、事業の実施方法、抵抗性品種の一般造林への適用。]
60. 城野 晋：イネシンガレセンチュウとツマグロヨコバイとの同時防除。和歌山農試研報 6: 39-42. [テラクアP粒剤の育苗箱施用により可能。]
61. 角谷直人・外口允孝・福留信明：タバコのジャワネコブ線虫抵抗性に関する遺伝学的研究 II. 沖縄とその他の沖縄を自生在来種系統の抵抗性遺伝子の異同について。育種 28(別2) 74-75. [講要]
62. 垣江竜雄：土壌消毒と減肥について。葉たばこ研究 79: 94-95. [D-D、EDB、クロロピクリン剤施用時の施肥についての注意。]
63. 片岡義雄・藤井嘉門・森本光次・田原 登・河村宗一郎：黒点米の発生原因に関する調査。山口農試研報 30: 21-24. [黒点米とイネシンガレセンチュウは山陽側地帯に広く分布、黒点米粒数と検出線虫数の間に高い相関。]
64. 加藤喜重郎：特産特殊野菜の病害虫と対策：フキ。農薬 25巻4: 20-23. [キタネグサレセンチュウ防除を含む。]
65. 加藤龍一：松くい虫防除試験：生立木に対する薬剤の樹幹注入効果。愛知林試報 14: 141-150. [テラキユアPの効果。]
66. 加藤保博・佐藤 清・牧 伸一・俣野修身・後藤真康：1, 2-Dibromo-3-Chloro-propane (DBCP)の雄ラットにおける動態。3回農薬学会大会講要：[未見。講要。]
67. 勝又広太郎：野菜の連作障害。農及園 53(10) 1203-1209. [要因（線虫を含む）と対策をまとめる。]
68. 気賀沢和男：シストセンチュウに対する薬剤の一検定法。日線虫研誌 8: 55-56. [シスト、幼虫に対する効果検定法。]
69. 気賀沢和男：シストセンチュウに対する薬剤の簡易検定法。22回応動昆大会講要：118. [講要]
70. 気賀沢和男：アズキ栽培における線虫対策。北農 45巻10: 13-17. [D-D剤のダイズシストセンチュウ、キタネコブセンチュウに対する効果、施肥量の削減。]
71. 岸 洋一：茨城県下のザイセンチュウ類によるマツ枯損、特にニセマツノザイセンチュウとの関係。89回日林大会講要：78; 89回日林論：281-282. [ニセマツノザイセンチュウによる大量枯損例及び2種ザイセンチュウの県内分布。]
72. 岸 洋一：マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリからマツ樹体内への侵入経過。日林誌 60(5) 179-182. [野外とガラス器具内で日を追ってのカミキリからマツへの線虫の侵入を比較。高い相関関係を認める。]
73. 岸 洋一：マツノザイセンチュウのマツノマダラカミキリからマツ樹体内への侵入経過。林業と薬剤 64: 5-8. [薬剤散布適期の把握のための線虫のマツ樹体内への侵入経過。]
74. 岸 洋一：マツノマダラカミキリのマツノザイセンチュウ保持数の年次変動。森林防疫 27(5) 81-82. [保持率・保持数ともに減少の傾向。]
75. 鬼頭研二：藻場の線虫類：ホンダワラ葉上の線虫類の群集構造について。動雑 87(4) 529. [講要]
76. 清原友也・鈴木和夫：Nematode population growth and disease development in the wilting disease. Eur. J. For. Path. 8(5/6) 285-292. [マツノザイセンチュウ個体群の移動、分散、増殖と病徴の関係。個体数の樹木、季節、年による違い。]
77. 小林富士雄：Pine bark beetle problem in Japan, referring to the discovery

- of the pine wood nematode, *Bursaphelenchus lignicolus* (Mamiya & Kiyohara). Anz. Schdigskde. Pflanzenschutz, Umweltschutz 51(5) 76-79. [研究史、材線虫の発見、生態、防除。]
78. 小林一三・細田隆治: マツノマダラカミキリの保持線虫数調査法に関する検討。日林誌 60(5) 191-192. [ベルマン法を用いる場合の前処理の比較。乳鉢によるすりつぶし法が最も抽出効率が高い。]
79. 小林一三・細田隆治: マツノマダラカミキリを生かしたまま保持線虫数を推定する方法。89回日林大会講要: 83; 89回日林論: 301-302. [体表の付着線虫数からの推定法を検討。]
80. 小玉孝司: 太陽熱利用による土壌消毒。今月の農薬 22巻4: 103-107. [夏季のハウス密閉処理によるイチゴの病気・線虫防除。]
81. 古賀成司: 土壌線虫の耕種的防除法に関する研究 第5報 ネコブセンチュウの生存に及ぼす酸素と温度の影響。九病虫研会報 24: 148-150. [卵・第2期幼虫を供試。]
82. 駒田 旦: 野菜の連作障害と土壌伝染性病害対策。今月の農薬 22巻4: 94-97. [線虫を含む。]
83. 小室康雄: 線虫による植物ウイルスの伝搬。日線虫研誌 8: 1-10. [総説。線虫によるウイルス伝搬の確認、ウイルスと媒介線虫の種類と間の特異性、線虫によるウイルス伝搬の特異性の解明とその伝搬機構、線虫によるウイルス伝搬の様態、線虫媒介ウイルスの種子伝染、我が国における研究状況。]
84. 近藤栄造・石橋信義: Ultrastructural differences between the propagative and dispersal forms in pine wood nematode, *Bursaphelenchus lignicolus*, with reference to the survival. Appl. Ent. Zool. 13(1) 1-11. [マツノザイセンチュウの増殖型・分散型の表皮と消化器を比較。生存能力との関わりを論じる。]
85. 近藤栄造・石橋信義: 汽水産線虫の表皮微細構造: 浸透圧調節機能と関連して。22回応動昆虫大会講要: 116. [講要]
86. 紺谷修治・峰尾一彦・田中 潔: 薬剤の樹幹注入および土壌施用による松の材線虫病防除試験。29回日林関西支講: 143-144. [テラキュアP、ネマホス、ランネート粒剤が効果。]
87. 小坂和彦: 稲心枯線虫病と黒点米。農薬研究 24巻3: 40-44. [最近の発生動向、品種・栽培様式と発病との関係、防除法(育苗箱処理)。]
88. 小菅喜久弥: ももの枝枯症の発生と被害について。農薬研究 24巻4: 8-12. [ザイセンチュウを検出。]
89. 栗原 毅: 蚊幼虫の寄生線虫 *Romanomermis culicivorax* 感染幼虫の生態。衛動 29(1) 8. [講要]
90. 真宮靖治: 土壌線虫病。In: 森林防疫制度史: 森林病虫獣害防除事業28年の歩み。全国森林病虫獣害防除協会、東京、p.208-214. [線虫とその防除の研究史並びに苗畑における線虫の種類と被害・防除。]
91. 真宮靖治: アカマツ稚苗に対するマツノザイセンチュウの接種と発病経過。89回日林大会講要: 81. [講要]
92. 松田 明: 土壌病害からみた有機物のほ場施用法。植物防疫 32(6) 231-237. [有機物連用とキュウリのネコブセンチュウ寄生度を含む。]
93. 松田 明: 特産特殊野菜の病害虫と対策: トウガラシ。農薬 25巻4: 16-20. [サツマイモネコブセンチュウ・ミナミネグサレセンチュウが発生。]
94. 松浦邦昭: 薬剤によるマツノザイセンチュウの防除に関する研究(VIII) ポット植栽苗木試験および2・3のその補助試験。89回日林大会講要: 76. [講要]

95. 松浦邦昭・川崎俊郎・小林亨夫・真宮靖治・田村弘忠：薬剤によるマツ大径木のマツノザイセンチュウ病防除。89回日林大会講要：76；89回日林論：277-279。[フェンスルフォチオンの樹幹注入。]
96. 皆川 望：サツマイモネコブセンチュウのは場における発生経過と密度推定法。植物防疫 32(6) 247-252。[圃場密度推定法、線虫分離法、発生経過、カンショの被害。]
97. 皆川 望：土壌中の線虫密度と寄主侵入虫数の関係。22回応動昆大会講要：114。[講要]
98. 峰尾一彦・津田知明・小林慎一・片山重俊・伊田貞雄：異なる温度条件におけるマツノザイセンチュウの接種試験。29回日林関西支講：137-139。[「30℃以上の時間が短く、25℃以下の時間が長い温度条件の場合、樹脂の異常、あるいは枯損に至らないことがある」]
99. 三井 康：数種ネグサレセンチュウの生存に及ぼす温度と溶液の影響。22回応動昆大会講要：117。[講要]
100. 満田 実・清田洋次：除草剤連用カンキツ園における土壌動物相に関する研究第3報 土壌線虫相に与える影響。九病虫研会報 24：168-171。[線虫相の変化は除草剤の殺線虫効果でなく、土壌環境の変化の結果。]
101. 三浦宏一郎：線虫寄生菌類。In: 菌類図鑑 (上) (宇田川俊一 外7名共著)。講談社、東京、p.74-79。[内部寄生菌、捕食菌の解説。]
102. 三浦宏一郎：動植物寄生菌類の採集・分離・観察：動物寄生菌類。In: 菌類図鑑 (上) (宇田川俊一 外7名共著)。講談社、東京、p.1213-1215。[線虫・昆虫寄生菌(捕食菌、内部寄生菌)を扱う。]
103. 宮崎 信・山口 彰・尾田勝夫：マツノザイセンチュウの炭酸ガスに対する行動。日林誌 60(6) 203-208。[線虫は炭酸ガスに反応し、発生源に向かって誘引される。]
104. 宮崎 信・山口 彰・尾田勝夫：マツノマダラカミキリ蛹の呼吸気に含まれる炭酸ガスとマツノザイセンチュウの行動。日林誌 60(7) 249-254。[マツノザイセンチュウ耐久型幼虫はカミキリの蛹の呼吸気に誘引され、その誘引刺激要因の一つは炭酸ガス。蛹期間の炭酸ガス生成の変化を調査。]
105. 望月英雄・山川邦夫：“*Solanum torvum*”の台木利用に研究研究(第1報)病害抵抗性とナス接木試験。園芸学会昭53春研発表要旨：188-189。[講要。ネコブセンチュウボール着生なし。]
106. 百田洋二：ネグサレセンチュウ4種正面像の種間差異。関東病虫研報 25：126。[*Pratylenchus coffeae*, *P. fallax*, *P. vulnus*, *P. penetrans*の走査電顕像。]
107. 村本正博：マツ樹体内における浸透性殺虫剤の残留について。日林九支研論 31：223。[ダイシストンについて。]
108. 村山大記：オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除対策(1)。農及園 53(11) 1349-1353。[本種の一般的性質・伝搬・被害・防除。]
109. 村山大記：オランダにおけるジャガイモシストセンチュウの防除対策(2)。農及園 53(12) 1463-1469。[同線虫の発生とその防除の規制に対する歴史的経過、防除法(土壌消毒、抵抗性品種の栽培、輪作)。]
110. 中西喜徳・上住 泰：球根アイリスに寄生するイモグサレセンチュウの防除。関西病虫研報 20。124。[講要。通風乾燥器を用いた試験。]
111. 中野昭信：特産特殊野菜の病害虫と対策：エンドウ。農薬 25巻3：3-7。[ネコブ・ネグサレセンチュウの薬剤及びハウスの夏期密閉処理を含む。]
112. 中國和年：ニセフクロセンチュウ(*Rotylenchulus reniformis*)の発育、繁殖率および性比に及ぼす土壌温度の影響：両性生殖系統と単為生殖系統の差異。日線虫研誌

- 8: 32-42. [発育・繁殖率は温度の影響を受けるが、性比は影響なし。]
113. 中園和年: Pequeno historico da pesquisa e alguns problemas nematologicos no Japon. III Reuniao de Nematologia, 19-35. [ポルトガル語による日本の線虫研究史、線虫相・線虫問題の特徴および防除についてのレビュー。]
114. 中里肇二: 稲心枯線虫病類似症の発生原因について、今月の農薬 22巻10: 40-43. [線虫が検出されない事例の報告。イネカラバエ第2世代の加害と推定。]
115. 奈須田和彦: 着色米・変色米の種類とその防止対策、農薬研究 25巻2: 1-5. [名称、症状の概要、原因の一覧表を含む。]
116. 賀田裕行: 特産特殊野菜の病害虫と対策: ニラ、農薬 25巻4: 3-5. [ネダニのD-D、EDB剤による防除を含む。]
117. 西尾道徳: 連作障害と地力、今月の農薬 22巻4: 60-63. [原因とその対策。]
118. 西尾道徳: 陸稲の連作障害の原因をめぐって、化学と生物 14(11) 718-721. [主に菌類の研究の紹介。線虫との関わりにもふれる。]
119. 西沢 務: Annual population changes of soil nematodes in the field of continuous cropping or rotation. Kasetsart J. 12(1) 3-13. [連輪作によるネコブ、シスト、ネグサレセンチュウ密度の変動。]
120. 西沢 務: 線虫問題と試験研究 1. 線虫研究発展の方向を求めて、22回応動昆虫大会: 自由シンポジウム: 22. [講要]
121. 西沢 務・松田幹男・佐藤尚雄: 畑作物の連・輪作試験圃場ならびに施肥試験圃場における線虫相、22回応動昆虫大会講要: 111. [講要]
122. 新田 肇: 神奈川県におけるマツノザイセンチュウの分布、神奈川林試研報 4: 27-31. [1946-75年の被害量の推移、県内の線虫検出地。]
123. 野平照雄・真柄 稔・栗野益卓: 岐阜県におけるマツ類の枯損分布について(第1報)、岐阜林試研報 6: 43-51. [分布状況、環境要因解析(気温、補正気温、降水量、海拔高)。]
124. 小芦健良: 鹿児島県の主要植物寄生性線虫について、Delphax 22: 4. [講要]
125. 小河誠司・中島康博: マツ枯損防止に関する研究資料(続)、マツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリの生態ならびにマツ類の材線虫病防除とその防除薬剤の残効に関する研究、福岡林試研究資料 4: 1-37. [線虫接種試験結果と気象要因の関係、薬剤の樹体注入・土壌施用、スミチオンの空中散布効果(残効他)。]
126. 岡本好一: 抵抗性を破るサツマイモネコブセンチュウ個体群の淘汰と形態比較、22回応動昆虫大会講要: 115. [講要]
127. 岡本好一: サツマイモネコブセンチュウにおける抵抗性打破系統の分化、関東病虫研報 25: 123. [トマト、サツマイモ、タバコの抵抗性品種寄生個体群。]
128. 小野勇一: Notes on animal biomass and secondary production in the Minamata Forest. Soil invertebrates. In: JIBP Synthesis, Vol.18. Biological Production in a Warm-Temperature Evergreen Forest of Japan (吉良竜夫・小野勇一・細川隆英編)、東京大学出版会、東京、p. 222-223. [熊本県水俣市の常緑樹林の動物相の現存量、二次生産量の研究。土壌線虫密度及び現存量の推定値を含む。]
129. 大羽克明・藤田祐輔: デイ・トラベックスのネコブセンチュウに対する有効防除範囲、日線虫研誌 8: 53-54. [D-Dより広い。]
130. 大羽克明・藤田祐輔: カルスで培養した数種ネグサレセンチュウの寄主植物による増殖性について、22回応動昆虫大会講要: 115. [講要]
131. 大羽克明・藤田祐輔: 土壌燻蒸剤ディトラベックスの土壌硝化作用におよぼす影響、土肥誌 49(5) 426-428. [クロルピクリンと比較。硝化作用には抑制的に、アン

モニア化成には促進的に働く。]

132. 大橋雄司・古田土良夫：我が国在来種タバコのジャワネコブセンチュウ抵抗性の品種間差異，宇都宮たばこ試報 16: 1-7. [120 品種を検定。平江たばこ、沖縄品種が抵抗性。]
133. 大久保隆弘：野菜栽培と輪作，今月の農薬 22巻4: 64-70. [輪作の機能について多方面から説く。]
134. 大島康臣・百田洋二：ダイズシストセンチュウの形態学的検討，22回応動昆大会講要: 110. [講要]
135. 太田 明：マツの材線虫病防除薬剤の樹幹内移動，29回日林関西支講: 148-150. [ネマフォス剤の動き。]
136. 大山浪雄・川辻公弘：乾燥条件下におけるマツノザイセンチュウ接種に対するクロマツ、アカマツ、テーダマツの抵抗性要因の違い，日林九支研論 31: 53-54. [アカマツが他の2種より生存率が高い。]
137. 三枝敏郎・相原孝雄：花木および庭木の苗木から検出された線虫，植防研報 15: 51-54. [26樹種から検出された線虫を表に示す。属または一部は種まで同定。]
138. 斎藤 正：特産特殊野菜の病害虫と対策：オクラ，農薬 25巻3: 16-19. [ハウスの夏期密閉・湛水による線虫防除にふれる。]
139. 佐野善一：サツマイモネコブセンチュウ幼虫の活動性に及ぼす低温の影響，九病虫研会報 24: 144-147. [2月と8月に卵・土壌から分離した第2期幼虫のフィルター透過率の比較。低温時には幼虫の活動力が低下している。]
140. 佐野善一：サツマイモネコブセンチュウの低温に対する耐性と順応，日線虫研誌 8: 43-47. [生存率は水中・土壌中保存の間で、同じ温度であれば差なし。予冷処理によって低温耐性強化。]
141. 佐野善一：サツマイモネコブセンチュウの活性・個体数の季節的变化 II. ステージ及び季節による耐低温性の違いと低温への順応，22回応動昆大会講要: 113. [講要]
142. 佐野善一・後藤 昭：サツマイモネコブセンチュウ第2期幼虫のEDB感受性に関する研究，九州農試年報 昭51: 39-43. [水中・土壌中に保存した孵化幼虫の感受性の変化、感受性の季節的変動、寄主植物・施肥条件の影響。]
143. 佐々木 研・古越隆信・佐々木常夫：マツ属10種のマツノザイセンチュウ抵抗性，林木の育種 特3: 35-38. [種により生存率に大きな差。種間雑種の和合性も調査。]
144. 千本木市夫・猿田正暁・石原喜三男・小松友次：ヤマノイモのネコブセンチュウに対するディ・トラベックス油剤の効果，関東病虫研報 25: 124-125. [D-Dと比較。根圏微生物相（細菌、放線菌、糸状菌）も調査。]
145. 清水寛二・沖嶋秀史・高士祥助：クリ立枯症に関する試験 第1報 クリ立枯樹から検出される線虫と糸状菌，関西病虫研報 20: 104. [講要。Pseudhalenchus anchilisposomus を検出。]
146. 清水 啓：傾瀉ふるい分け法と遠心浮遊法の併用によるイネシストセンチュウのシストの分離，日線虫研誌 8: 20-23. [フェンウィック法より高い回収率。]
147. 清水 啓・百田洋二・西沢 務：アミノ酸代謝拮抗物質処理がイネシシグレンセンチュウのアミノ酸代謝に及ぼす影響，22回応動昆大会講要: 117. [講要]
148. 下田美智子：チャ品種別にみた土壌消毒と各種線虫の密度変化，関東病虫研報 25: 132. [ネグサレ、ピン、ラセンセンチュウ。EDB、DBCP（立毛中）剤処理。4品種の比較。]
149. 白浜賢一：中華人民共和国の植保員手冊の紹介（6）：糧食：食用作物篇，今月の農薬 22巻12: 78-95. [小麦線虫病：発生状況（吉林省ではかつて被害多、近年は激

滅)、発生条件。]

150. 白石 進・川辻公弘:クロマツとリュウキュウマツおよびタイワンアカマツ雑種苗のマツノザイセンチュウ抵抗性. 日林九支研論 31: 55-56. [クロマツ×タイワンアカマツの組合わせの雑種の中に強い抵抗性。]
151. 白石 進・大山浪雄・高木哲夫・川辻公弘:マツ母樹別実生苗に対するマツノザイセンチュウ接種結果. 日林九支研論 31: 57-58. [7種17個体を供試。リギダマツ、テダマツ、ブンゲニスマツの生存率が高い。苗令を増すにつれ抵抗性を増す。]
152. 実田幸男:明治神宮より見出されたTrichodoridae 5種の分類学的検討. 22回応動昆大会講要: 110. [講要]
153. 須川豊伸:マツノザイセンチュウ接種木に認められた傷害樹脂道. 日林誌 60 (12) 460-463. [組織学的観察。枯損との関連を論じる。]
154. 須川豊伸・須藤彰司:マツノザイセンチュウ接種木にみられる傷害樹脂道の発生について. 89回日林大会講要: 82. [講要]
155. 菅原祐幸:野菜品種の動向と品種の選定. 今月の農業 22巻4: 36-42. [線虫抵抗性品種にふれる。]
156. 杉山 悟・平野和弥・飯田 格:根こぶ線虫感染トマトにおける萎ちょう病の発病と根圏微生物相について. 日植病報 44(1) 105. [講要]
157. 砂田喜与志・酒井真次:大豆シスト線虫抵抗性育種研究の現状と問題点. 日育北談報 18: 55-57. [未見]
158. 砂田喜与志・酒井真次:ダイズシストセンチュウ抵抗性育種研究の現状と問題点. 農及園 53(9) 1099-1105. [被害状況、育種素材(抵抗性品種)、育種の過程と現状、問題点。]
159. 鈴木和夫:材線虫病の進展に伴うクロロフィル含有量の変化. 89回日林大会講要: 89; 89回日林論: 319-320. [2-3年生針葉の変色はクロロフィルa、b比の変化。]
160. 鈴木和夫・清原友也: Influence of water stress on development of pine wilting disease caused by *Bursaphelenchus lignicolus*. Eur. J. For. Pathol. 8 (2) 97-107. [水分と樹脂滲出、線虫増殖の関係。]
161. 鈴木曄之・Hyodo, M.・石井直明・Moriyama, Y.: Properties of a strain of free-living nematode, Rhabditidae sp.: life cycle and age related mortality. Exper. Geront. 13(5) 323-333. [未見]
162. 高橋和彦:野菜における連作障害の現況. 野菜試研究資料 5, 89 pp. [全国にわたるアンケート調査。結果は地域別に次の項目に整理する。1)連作障害の程度; 2)過去に連作障害により産地が移動したり消滅した例; 3)連作障害の実態と対策; 4)連作障害の遠因; 5)10年近く連作をしていて障害の発生しない例; 6)連作障害対策のネックとなっているもの; 7)連作障害について日ごろ考えていること; 8)作物別連作障害の原因一覧。線虫に関するデータも多い。]
163. 高瀬 巖・相沢徳尚:マツノザイセンチュウ防除に施用した有機リン剤の環境への影響. 3回農業学会大会講要: [未見。講要。]
164. 竹下 努:マツノザイセンチュウ病の薬剤防除試験(1)テラキユアP液樹幹注入によるクロマツ小径木の防除効果. 29日林関東支講要集: 145-147. [効果あり。枯死木樹体内のマツノザイセンチュウ分布を調査。]
165. 竹内寛典・岡村政則・大黒 正・国沢豊純:マツノザイセンチュウの人工接種試験方法について. 林木の育種 特3: 33-35. [接種方法、頭数、濃度、時期の検討。]
166. 竹内昭士郎・萩原 広:ダイコン根部に発生する異常症状の類別:病害の立場より. 植物防疫 32(7) 289-293. [ネグサレセンチュウの害を含む。]

167. 竹沢秀夫：特産特殊野菜の病害虫と対策：ヤマノイモ。農薬 25巻3: 22-25。
[ネコブセンチュウ防除を含む。]
168. 滝沢幸雄・宮崎 徹：浸透性薬剤の土壌処理によるマツノザイセンチュウ防除試験。日林九支研論 31: 209-210。[エチルチオメトンが最も効果的。]
169. 田村弘忠：Maintaining of *Bursaphelenchus lignicolus* culture under sterile paraffin. 日線虫研誌 8: 24-27。[殺菌流動パラフィン分注によって1年間保存した線虫の繁殖力とマツに対する病原性は不変。]
170. 田村弘忠・遠田暢男：線虫捕食性ダニの飼育法。89回日林大会講要: 84。[講要]
171. 田中 潔：カラマツに対するマツノザイセンチュウ接種試験。89回日林大会講要: 81; 89回日林講: 293-295。[20-30 °Cの温度下の接種により高い枯損率。]
172. 田中 潔・峰尾一彦：摘葉されたマツに対するマツノザイセンチュウ接種試験。89回日林大会講要: 80; 89回日林論: 289-291。[内樹皮の褐変は急速に進展。材の含水率低下以前に樹脂停止の要因かはたらく。]
173. 田中 潔・峰尾一彦：摘葉されたマツに対するマツノザイセンチュウ接種試験 II。持ち越し枯れについて。29回日林関西支講: 140-142。[真の健全木における線虫の越冬の可能性は低い。]
174. 田中雅生・杉 泰昭・田中慎悟・三嶋吉彦・浜田竜一：Animal populations, and production: Soil invertebrates. In: JIBP Synthesis, Vol.18. Biological Production in a Warm-Temperature Evergreen Oak Forest of Japan (吉良竜夫・小野勇一・細川隆英編)。東京大学出版会、東京、p.147-163。[熊本県水俣市の常緑カシ林の土壌線虫調査結果を含む。食性別の線虫の季節的密度変化、垂直分布、現存量、呼吸量を示す。]
175. 田中行久：タバコ立枯病の品種抵抗性。植物防疫 32(5) 217-221。[同病及びサツマイモネコブセンチュウ抵抗性品種。]
176. 樋田幸夫：桑園土壌の線虫に関する2、3分離法の検討。日線虫研誌 8: 57-58。
[ベルマン法、クリスティ・ペリー法、遠心浮遊法、ザインホルスト法を4種線虫に用いて、それぞれの方法の特性を検討。]
177. 樋田幸夫・守山 弘：マリーゴールドによる桑寄生線虫の防除。蚕糸研究 105: 129-133。[ユーテル抽出物、生茎葉・根の細片の土壌混入、乾燥茎の土壌混入によって線虫密度が減少。]
178. 樋田幸夫・大島康臣・平田明由：桑園における植物寄生性線虫の種類とその形態的および生態的特徴。蚕試報 27(3) 369-396。[以下の11種を扱う。*Helicotylenchus dihystera*, *H. erythrinae*, *Longidorus martini*, *Meloidogyne mali*, *Paratrichodorus porosus*, *Paratylenchus elachistus*, *Variasquamata glacile*, *Xiphinema americanum*, *X. arcum*, *X. bakeri*, *X. insigne*。]
179. 樋田幸夫・大島康臣・平田明由：桑園の植物寄生性線虫相について。22回応動昆虫大会講要: 112。[講要]
180. 徳重陽山・藤崎正博・橋本平一：マツ生立木における材線虫の急激増殖を抑制する一要因。日林九支研論 31: 213-214。[マツ材中の水分、空気中の酸素の多少が線虫の増殖に影響。]
181. 遠山 明：特産特殊野菜の病害虫と対策：ラッキョウ。農薬 25巻3: 10-11。
[ネコブセンチュウのD-D剤による防除を含む。]
182. 堤 正明：圃場栽培ジャガイモ浸出液のジャガイモシストセンチュウ孵化促進効果。日線虫研誌 8: 16-19。[浸出液の採取時期、ジャガイモ品種の比較。]
183. 上野吉雄・弥富喜三：根から殺線虫物質を浸出する植物の探索(予報)。名城大

- 農学報 14: 7-18. [77科 239種の植物を供試。マツノザイセンチュウ、*Panagrellus redivivus* に対し10科32種が根の磨砕液に、5種が根浸出物に殺線虫効果を示した。]
184. 上住 泰: 果樹を害するセンチュウ類。今月の農薬 22巻1: 92-96. [線虫の種類、被害の実態、防除。]
185. 八木田秀幸: クワにおける*Xiphinema bakeri*の形態計測ならびに发育過程。埼玉蚕試報 50: 9-13. [发育ステージと形態、发育経過。]
186. 山田昌人: 黒点米症状米の斑点形成に及ぼす二・三の条件。日植病報 44(1) 83. [講要]
187. 山川邦夫: トマト・ナス青枯病の品種抵抗性。植物防疫 32(5) 197-200. [ネコブセンチュウ抵抗性ナス科植物として*Solanum torvum*, *S. toxicarium* を挙げる。]
188. 山川邦夫: 野菜: 抵抗性品種とその利用。全国農村教育協会、東京、136 pp. [概論として抵抗性の種類(機作)、遺伝、病原菌の変異性、品種の問題転。作物別の各論の中でトマト、ナス、キュウリのネコブセンチュウ抵抗性に言及。]
189. 山川邦夫: 野菜の耐病性品種の育成とその利用について。今月の農薬 22巻4: 43-47. [耐病性に関する総説。線虫抵抗性品種を含む。]
190. 山中昭雄: 低標高地におけるリンドウ根株養成と促成栽培に関する研究。栃木農試研報 24: 13-32. [生育障害の大きな原因はネコブセンチュウ。48°C20~30分の温湯処理で防除可能。土壌消毒、マリーゴールド栽培は持続効果なし。]
191. 山崎秀一・佐藤和彦: 新潟県に発生したマツノザイセンチュウの被害実態調査。森林防疫 27(5) 84-86. [県内分布、被害。]
192. 安江安宣: 松喰虫被害地の生気候学的考察。22回応動昆虫大会講要: 92. [講要]
193. 吉田雅夫・山口正己・京谷英寿: モモ台木品種のネコブセンチュウ抵抗性の検定。園芸学会昭53春研究要旨: 82-83. [講要]
194. 葭原敏夫: 野菜の害虫: センチュウ類。今月の農薬 22巻4: 291-295. [被害と防除、殺線虫剤の使用法の一覧表を示す。]
195. 吉永忠義・高橋昌隆: 樹幹注入によるマツノザイセンチュウ防除試験(第2報)。徳島林総技七報 16: 27-31. [キルゾールN40、テラクアP、ネマホス剤の樹幹注入、ランネットによる土壌処理。]
196. 吉野正義: 特産特殊野菜の病害虫と対策: セルリー。農薬 25巻4: 12-14. [サツマイモネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウの被害あり。]
197. 芳岡昭夫: 野菜の病害: イチゴ。今月の農薬 22巻4: 186-190. [萎黄病は線虫等が発生の誘因となる。]
198. 湯原 巖・相原孝雄・天野洋司: 神奈川県下の果樹2園圃場の土壌の理化学性と線虫相。日線虫研誌 8: 48-52. [ミザクラ及びクリ圃場。土壌の三相分布と線虫検出数の関係を調査。]
199. 柚木利之・長沢次男: ダイズのウイルス病と抵抗性品種。植物防疫 32(4) 163-168. [ダイズモザイクウイルス・ダイズ萎縮ウイルス抵抗性品種のダイズシストセンチュウ抵抗性にふれる。]
200. Anon. (農業技術研究所線虫研究室): わが国に侵入したジャガイモシストセンチュウ。農技研年報 昭52: 25-29. [重要性と伝播の経緯、侵入したパソタイプ。]
201. Anon. (林野庁造林課育種班): マツノザイセンチュウ抵抗性育種事業。山林 1129: 20-24. [着手までの経緯、実施方法、一般造林への適用。]